BUFFALO™

Wi-Fiルーター
WXR-11000XE12シリーズ

ユーザーマニュアル

3

https://www.buffalo.jp/

35022678-04
2025.07

本書について

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品(付属品等を含む)を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。
- 本書で記載している「記号」は、環境依存文字ではない下記の半角文字をあらわします。
  ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / 　: ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~　および半角スペース
  「¥(円マーク)」は、使用環境によって「\　(バックスラッシュ)」表示になる場合があります。

操作方法について

本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

目次

本書について 1
操作方法について 1

第１章　本製品の概要と使い方 9

本製品の特長 9
動作環境 10
電波の範囲を広げるには 11
Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合 11
メッシュネットワークを構築しない場合 20
機器をWi-Fi接続するには 33
WPA3で接続する方法 33
暗号化キーを使って接続する方法（手動設定） 34
QRコードを使って接続する方法（QRsetup） 35
AOSSで接続する方法 36
WPSで接続する方法 38

第２章　本製品の各種設定 39

本製品の設定を変更するには 39
スマートフォン・タブレットをお使いの場合 39
Windowsをお使いの場合 41
Macをお使いの場合 45
2.4 GHz/5 GHzのWPA2を無効にして、WPA3（Wi-Fiの新しい暗号化設定）だけを使用する 48
インターネットに接続する機器を脅威から守る（ネット脅威ブロッカー2） 50
ネット脅威ブロッカー2とは 50

スマートフォンやタブレットでライセンス認証する 51
パソコンでライセンス認証する 53
詳細な設定を行う 55
ライセンスを更新する 55
インターネットに接続できる時間を制限する（キッズタイマー） 56
機器の登録と基本的な設定を行う 56
機器の接続制限を一時的に解除する 58
管理パスワードを変更する 59
本製品のファームウェアバージョンを確認する 60
本製品のファームウェアを更新する 61
自動的に更新する場合 61
手動で更新する場合 62
スマートフォンから更新する場合 62
通信サービスの種類に応じて帯域幅を制御する（アドバンスドQoS） 63
来訪者向けWi-Fi設定を行う（ゲストポート設定） 65
来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合 65
ゲストポートの高度な設定を行う場合 66
Wi-Fiチャンネルを変更する 67
空いている帯域へ機器を誘導し、電波の混雑を回避する（バンドステアリング機能） 68
バンドステアリング機能を設定する 68
2.4 GHz/5 GHz/6 GHz共通SSIDを設定する 70
機器ごとに異なる設定を割り当てる 72
AOSS接続を解除する 74
ほかの機器から本製品を検索できなくする（ANY接続拒否設定） 75

アクセスできる機器を制限する（MACアクセス制限）.....76
機器同士のWi-Fi通信を禁止する（プライバシーセパレーター）79
ポートを開放する（ポート変換設定）.....80
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合.....80
利用するポート番号が不明な場合.....83
本製品のIPアドレスを変更する.....84
Windowsをお使いの場合.....84
Macをお使いの場合.....90
本製品にUSB機器を接続する.....94
USB端子に接続できるUSB機器.....94
USB端子に関する制限事項.....95
USBドライブをネットワークで共有して使用する方法.....97
節電機能を使って節電する.....104
フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）.106
ルーター機能を停止する.....109
本製品の設定を保存する・復元する.....110
設定の保存.....110
設定の復元.....110

第３章　設定画面の詳細情報..... 112

トップ画面.....112
無線LAN（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）.....114
AOSS/WPS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）.116
ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）117
アドバンスドQoS（ルーターモード時のみ）.....118
キッズタイマー.....119
デバイスコントロール（ルーターモード時のみ）.....122

EasyMesh/中継機能(WB) 125
中継機モードでWi-Fiルーターとの接続失敗時の表示 127
詳細設定画面 128
Internet 128
PPPoE 130
DDNS 132
VPNサーバー 133
アドレス変換 134
IPv6 135
LAN 137
DHCPリース 138
経路情報 139
2.4 GHz(11ax/n/g/b) 140
5 GHz(11ax/ac/n/a) 145
6 GHz(11ax) 150
バンドステアリング 153
EasyMesh/中継機能(WB) 157
WPS 163
AOSS 164
MACアクセス制限 165
マルチキャスト制御 166
ゲストポート 167
無線引っ越し機能 169
セキュリティー基本設定　コンテンツフィルターPlus 170
キッズタイマー 171
ファイアウォール 172
IPフィルター 174
IPv6フィルター 175
パススルー 176
ポート変換 177

DMZ 178
UPnP 178
ディスク管理 179
共有サービス 181
アドバンスドQoS 182
スケジュール 183
システム設定 185
ログ 187
設定管理/再起動 188
ファームウェア更新 189
システム 191
ログ 193
通信パケット 194
診断 195

第４章　VPNサーバー機能 196

VPNサーバー機能とは 196
外出先から接続するための準備をする 197
外出先で使用する機器の設定をする 199
iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合 199
Android機器をお使いの場合 201
外出先から自宅や会社のネットワークに接続する 203
iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合 203
Android機器をお使いの場合 204

第５章　困ったときは 206

IPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない 206

セットアップカード（付属品）を紛失した.....208
インターネットにつながらない.....209
Wi-Fi接続が切れる/不安定.....210
Wi-Fiでつながらない.....211
AOSSでWi-Fi接続できない.....212
設定画面が表示できない.....212
Wi-Fiでの通信が遅い.....213
IPv6サービスのサービスを受けられない.....213
設定を出荷時の状態に戻したい.....214
USBドライブにアクセスできないときは.....215
6 GHzのSSIDに接続できない.....215

付録.....216

製品仕様.....216
各部の名称とはたらき.....218
初期設定一覧.....222
壁面への取り付けについて.....228
取り付け時のご注意.....228
取り付け方.....229
参考情報　パソコンのIPアドレスを一時的に固定する.....230
Windows 11の場合の設定.....230
Windows 10の場合の設定.....231
Macの場合の設定.....231
電波に関する注意.....232
Wi-Fi（無線LAN）製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意.....233

免責事項 234
商標・登録商標 234

第１章　本製品の概要と使い方

本製品の特長

ネット脅威ブロッカー2 プレミアムに対応

「ネット脅威ブロッカー2」は、ご家庭のネット家電をサイバー攻撃から守るセキュリティー機能です。不正な遠隔操作やパソコン内のデータ、防犯カメラ映像など個人情報の外部流出を防ぎ、さらにご家庭の機器が踏み台にされて他者の機器をDoS攻撃することも防ぎます。また、プレミアム機能として、お子様に悪影響を与えるWebサイトへのアクセスをブロックするなど、より安全にインターネットを利用するための機能が搭載されています。

メモ:

- ネット脅威ブロッカー2についての詳細は、「インターネットに接続する機器を脅威から守る（ネット脅威ブロッカー2）」(P.50)を参照してください。
- すべての機能を使用する場合は、AirStationアプリ※（スマートフォン用アプリ）が必要です。

  ※バージョン3.0以降、アプリ名称を「StationRadar」から「AirStationアプリ」に変更しています。本書では、AirStationアプリを使用した例を説明しています。

Wi-Fi 6Eに対応

本製品は、Wi-Fi 6Eに対応したWi-Fiルーターです。複数の機器をWi-Fi でネットワークに接続できます。

Wi-Fi 6E とは:

2.4 GHz、5 GHz の帯域に加え、6 GHz の帯域を使用して混雑が少なく、より安定した通信ができるWi-Fi通信の規格です。

メモ: 機器側もWi-Fi 6Eに対応している必要があります。

EasyMeshに対応

EasyMesh対応のWi-FiルーターやWi-Fi中継機と組み合わせて、メッシュネットワークを構築できます。
メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行うコントローラとエージェントが連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、機器に切り替えを促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiをご利用いただけます。
詳しくは、「EasyMeshとは」(P.11)を参照してください。

日本の主要なIPv6サービスに対応

アクセス集中による影響が少ないIPv6高速インターネットをご利用いただけます。
動作確認済みサービスは、当社ホームページ（https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html）を参照してください。

TWT（Target Wake Time）に対応

TWT（Target Wake Time）は、本製品からWi-Fi機器へのデータ通信タイミングを調整し、信号受信待機の必要がないときに、Wi-Fi機器の通信機能をスリープ状態へ移行させることで消費電力を抑え、Wi-Fi機器のバッテリーを長持ちさせる機能です。

メモ:

- 本製品のTWTは常に有効に設定されています。無効にできません。
- Wi-Fi機器側もTWTに対応している必要があります。

ビームフォーミング/ビームフォーミングEXに対応

ビームフォーミング/ビームフォーミングEXは、機器にめがけて集中的に電波を送信する機能です。
機器の位置や距離を判別し、電波を適切に届けることができます。

メモ:

- ビームフォーミングは、常に有効に設定されています。無効にできません。
- ビームフォーミングEXは、6 GHzには対応していません。
- ビームフォーミングEXは、工場出荷時は有効に設定されています。通常はそのままご使用ください。
  Wi-Fi通信が途切れたり不安定になったりする場合は、無効にしてください。無効にする場合は、「2.4 GHz(11ax/n/g/b)」(P.140)または「5 GHz(11ax/ac/n/a)」(P.145)のビームフォーミングEXで、「使用する」のチェックを外してください。
- ビームフォーミングは、ビームフォーミングに対応した機器に対して使用できます。
  ビームフォーミングEXは、ビームフォーミングに対応していない機器に対しても使用できます。

802.11ax MU-MIMOに対応

MU-MIMOは、空間多重によってMU-MIMOに対応した複数の機器と同時に通信できる機能です。
本製品では、最大4台の機器が同時通信できます。

メモ: 工場出荷時は有効に設定されています。通常はそのままご使用ください。
通信速度が安定しなかったり、通信速度が低下したりする場合は、無効にしてください。無効にする場合は、「2.4 GHz(11ax/n/g/b)」(P.140)、「5 GHz(11ax/ac/n/a)」(P.145)、および「6 GHz(11ax)」(P.150)の802.11ax MU-MIMOで、「使用する」のチェックを外してください。機器側も802.11ax MU-MIMOに対応している必要があります。

動作環境

Wi-Fiルーター本体とWi-Fi接続するときの対応機器

Wi-Fi機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレット、ゲーム機など

Wi-Fiルーターを設定変更するときの対応機器・対応OS・対応ブラウザー

＜対応機器＞
パソコン、Mac、スマートフォン※1、タブレット※1
＜対応OS＞
Windows 11/10※2
macOS 11以降
iOS 15以降
iPadOS 17以降
Android 9以降
＜対応ブラウザー＞
Microsoft Edge、Chrome、Firefox、Safari

※1　標準搭載のブラウザーを使った初期設定(インターネット接続設定)のみ対応しています。
※2　64ビットと32ビットに対応しています。

本製品の設定・利用時に使用するソフトウェア

以下ダウンロードページの記載を確認してください。
https://86886.jp/wxr-11000xe12_s/

電波の範囲を広げるには

本製品は、別売の中継機や中継機能のあるWi-Fiルーターと組み合わせて使用することで、Wi-Fi接続できる電波の範囲を広げることができます。
電波の範囲を広げる方法には次の2種類があります。

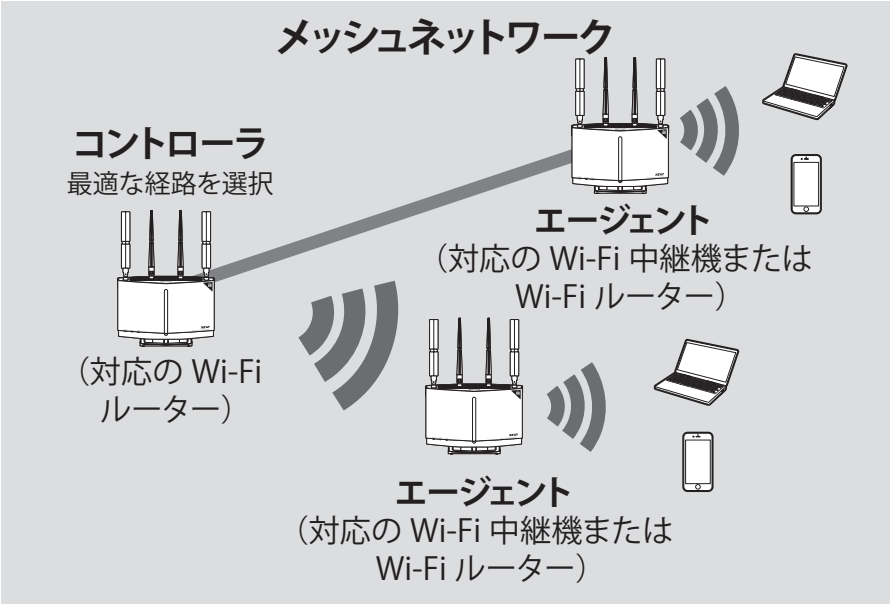
- 「Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合」(P.11)
- 「メッシュネットワークを構築しない場合」(P.20)

メモ: EasyMeshに対応していない中継機やWi-Fiルーターでは、メッシュネットワークを構築できません。EasyMeshに対応していないWi-Fi機器と組み合わせて使用する場合は、「メッシュネットワークを構築しない場合」(P.20)を参照してください。

Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合

EasyMeshとは

「Wi-Fi CERTIFIED EasyMesh®」とはWi-Fi Alliance の認定規格であり、EasyMeshに対応していれば異なるメーカー製品間でもメッシュネットワークを構築できます。
メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行う「コントローラ(対応のWi-Fiルーター)」と「エージェント(対応のWi-Fi中継機またはWi-Fiルーター)」が連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、機器に切り替えを促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiをご利用いただけます。



EasyMeshには、次の特長があります。

- 一度LANケーブルで接続するだけでコントローラ(対応のWi-Fiルーター)とエージェント(対応のWi-Fi中継機またはWi-Fiルーター)として使用できます。従来のAOSSボタンやWPSボタンを使用する方法よりもかんたんに中継設定できます。
- コントローラが経路を自動で最適化するので、接続や通信が安定して使用できます。

接続手順のながれ

手順のながれ	参照していただく取扱説明書	
	本製品をコントローラとして使用する場合	本製品をエージェントとして使用する場合
ステップ1　コントローラとエージェントを設定する	本書「本製品をコントローラとして使用する」(P.13)を参照	本書「本製品をエージェントとして使用する」(P.15)を参照
ステップ2　エージェントをコントローラに接続する	エージェントに付属の取扱説明書を参照	本書「ステップ2　エージェントをコントローラに接続する」(P.16)を参照
ステップ3　エージェントを設置する	エージェントに付属の取扱説明書を参照	本書「ステップ3　エージェントを設置する」(P.18)を参照
ステップ4　パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する	本書「ステップ4　パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する」(P.19)を参照	コントローラに付属の取扱説明書を参照

EasyMeshでの注意事項

- Buffalo製の6 GHz EasyMesh対応製品の場合、6 GHzでのEasyMesh接続も対応しております。
  他製品と6 GHzで電波の範囲を広げるときは、「メッシュネットワークを構築しない場合」(P.20)に記載の手順で設定してください。
- メッシュネットワークを利用するには、**コントローラおよびエージェントとして使用する「Wi-Fiルーター、Wi-Fi中継機」が、すべてEasyMeshに対応していること**が必要です。
  当社製品のEasyMesh対応の型番とファームウェアのバージョンは、下記Webページを参照してください。
  https://www.buffalo.jp/support/taiou/easymesh.html
- EasyMesh機能非対応のファームウェアバージョンから対応のバージョンにファームウェアを更新した製品では、**EasyMesh機能の設定が無効になっています。**
  ステップ1を実施する前に、設定画面から、[詳細設定]－[無線設定]－[EasyMesh]の[EasyMesh機能]で[使用する]を選択し、EasyMesh機能を有効にしてください。
- ネットワーク内にあるWi-Fi機器の1台が、コントローラとして設定されていること(コントローラは2台以上設置できません)
- ネットワーク内にあるWi-Fi機器が、エージェントとして設定されていること(エージェントは4台まで設置できます)
- 設定画面の[詳細設定]－[無線設定]－[EasyMesh]または[EasyMesh/中継機能(WB)]で[高速ローミング(11r)]の[使用する]にチェックが入っている場合、高速ローミングに対応していない機器が接続できなくなることがあります。このようなときは[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックすると改善する場合があります。
- 本製品がエージェントとして動作しコントローラと接続しているとき、本製品が送信するSSIDは接続しているコントローラのSSIDとなります。本製品がエージェントとして動作しコントローラと接続していないとき、本製品からSSIDは送信されません。

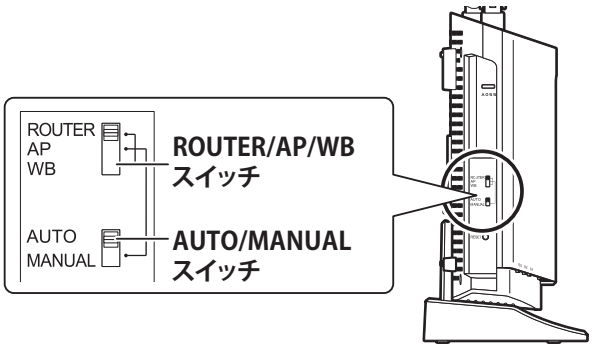
ステップ1　コントローラとエージェントを設定する

以下の手順を参照し、本製品をコントローラまたはエージェントに設定してください。

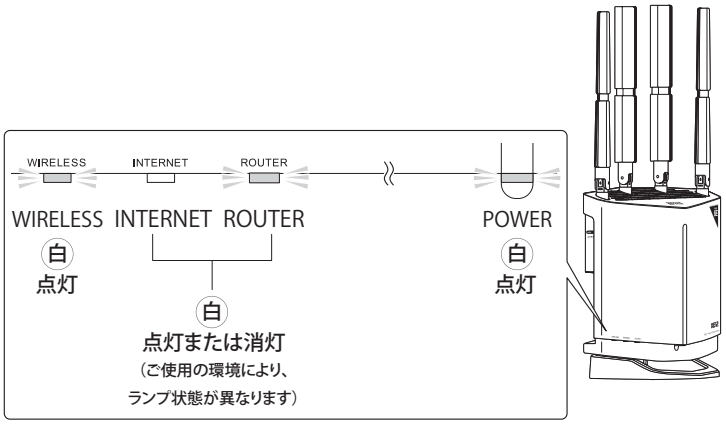
本製品をコントローラとして使用する

1 本製品のスイッチの設定が、下記のいずれかのパターンであることを確認して、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。

［**パターン1**］
AUTO/MANUALスイッチを「**AUTO**」に設定します。
ROUTER/AP/WBスイッチは、どの状態でも問題ありません。
［**パターン2**］
AUTO/MANUALスイッチを「**MANUAL**」に設定します。
ROUTER/AP/WBスイッチを「**ROUTER**」または「**AP**」に設定します。



2 電源をONにしてから約1分後、本製品前面のランプ（POWER、WIRELESS）が白色に点灯していることを確認します。



以上で、コントローラの設定は完了です。
続いて、**エージェントに付属の取扱説明書を参照し**、コントローラとエージェントを接続してください。

メモ: LANケーブルを使用せずに、AOSSボタンを使って本製品をコントローラとして設定するときは、次のように行います。

(1) 本製品のスイッチの設定が、下記のいずれかのパターンであることを確認して、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。
[パターン1]
AUTO/MANUALスイッチを「**AUTO**」にします。
ROUTER/AP/WBスイッチは、どの状態でも問題ありません。
[パターン2]
AUTO/MANUALスイッチを「**MANUAL**」に設定します。
ROUTER/AP/WBスイッチを「**ROUTER**」または「**AP**」に設定します。

(2) 電源をONにしてから約1分後、本製品前面のランプ(POWER、WIRELESS)が白色に点灯していることを確認します。

(3) エージェントのAOSSボタンまたはWPSボタンを押します(製品によって操作は異なります)。

(4) 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。

メモ: AOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(白)とROUTERランプ(橙)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引っ越し機能が動作します。このような状態になったときは、電源ボタンを押して電源をOFFにしてください。もう一度電源ボタンを押して電源をONにし、(2)からやり直してください。

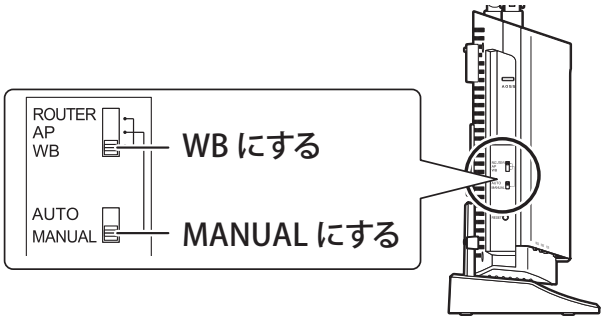


(5) 正常に接続できると、本製品のWIRELESSランプが白色に点灯します。
WIRELESSランプが白色に高速で連続点滅(0.1秒間隔)しているときは、正しく接続できていません。
(1)からもう一度やり直してください。

以上で設定は完了です。

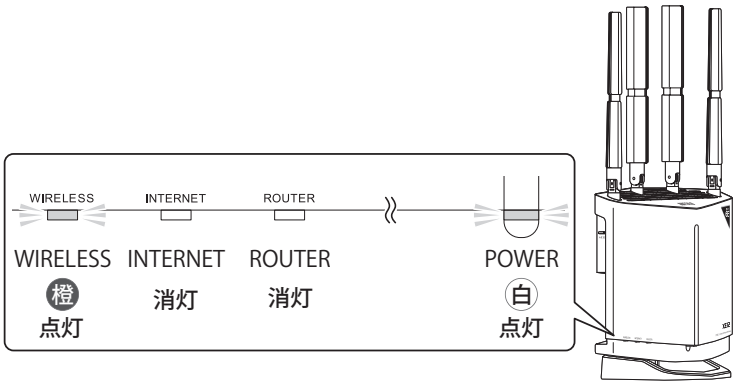
本製品をエージェントとして使用する

1 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に設定します。



2 コントローラの電源が入っているか確認し、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。

3 電源をONにしてから約1分後、本製品前面のランプの点灯を確認します。

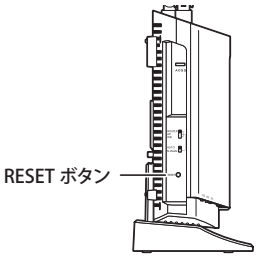


以上で、エージェントの設定は完了です。
続いて、「ステップ2　エージェントをコントローラに接続する」(P.16)を参照し、コントローラとエージェントの接続を実施してください。

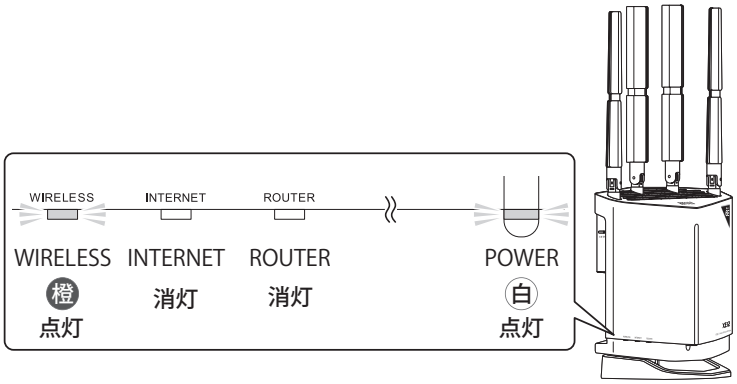
ステップ2　エージェントをコントローラに接続する

ここでは、本製品をエージェントとしてコントローラに接続する手順を記載しています。

1 本製品のRESETボタンを、POWERランプが白色に点滅するまで先の細いもの（つまようじなど）で約3秒間長押しして、本製品を初期化します。



2 初期化してから約2分後、本製品前面のランプが図のように点灯していることを確認します。



3 本製品のLAN端子と、コントローラのLAN端子をLANケーブルで接続します。

4 LANケーブルを接続してから約20秒後、本製品のWIRELESSランプが白色に点灯していれば、コントローラとの接続は完了です。

メモ: WIRELESSランプが橙色に高速で連続点滅（0.1秒間隔）しているときは、正しく接続できていません。手順1からもう一度やり直してください。

以上でコントローラと本製品（エージェント）の接続設定は完了です。
続いて、「ステップ3　エージェントを設置する」(P.18)を参照し、本製品を設置してください。

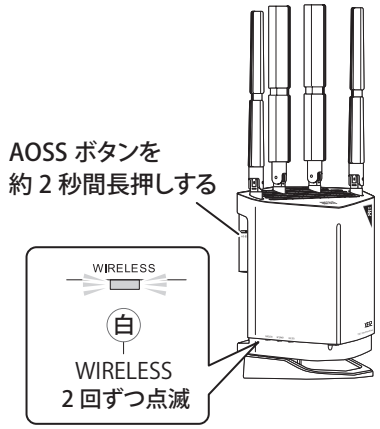
メモ: LANケーブルを使用せずに、AOSSボタンを使って本製品をエージェントとして設定するときは、次のように行います。

(1) 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「**MANUAL**」、ROUTER/AP/WBスイッチを「**WB**」に設定します。

(2) コントローラの電源が入っているか確認し、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。

(3) 電源をONにしてから約1分後、本製品前面のPOWERランプが白色、WIRELESSランプが橙色に点灯していることを確認します。

(4) 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。



(5) コントローラのAOSSボタンまたはWPSボタンを押します(製品によって操作は異なります)。

メモ: コントローラが当社製品の場合、コントローラのAOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(白)とROUTERランプ(橙)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引っ越し機能が動作します。このような状態になったときは、コントローラの電源をOFFにしてください。もう一度電源をONにし、(3)からやり直してください。

(6) 正常に接続できると、本製品のWIRELESSランプが白色に点灯します。
WIRELESSランプが白色に高速で連続点滅(0.1秒間隔)しているときは、正しく接続できていません。(1)からもう一度やり直してください。

以上で設定は完了です。

ステップ3　エージェントを設置する

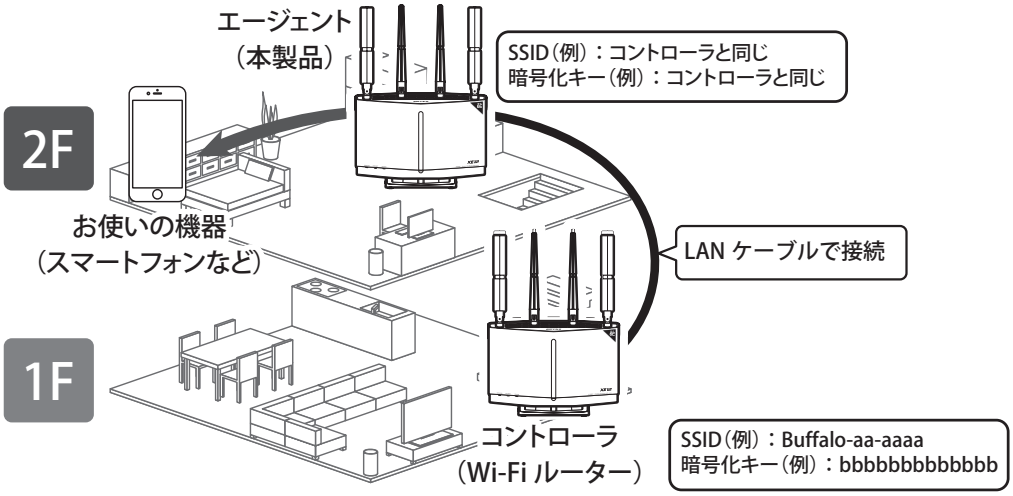
ステップ2でコントローラと接続した本製品を、設置する手順を記載します。
本製品を設置する場所へのLANケーブル配線のしやすさや、Wi-Fiの繋がりやすさを考慮し、コントローラとエージェントを『LANケーブル接続』で設置するのか、または『Wi-Fi接続』で設置するのかを判断してください。

エージェントをLANケーブル接続で使用する場合

1 本製品からLANケーブルとACアダプターを取り外します。

2 パソコンやスマートフォンを利用する場所の近くに本製品を置きます。

3 エージェント（本製品）とコントローラをLANケーブルで接続します。



※コントローラとエージェントを接続する LAN ケーブルは別途ご用意ください。
例）当社製 LAN ケーブル BSLS6SU100BK2 など

4 本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。

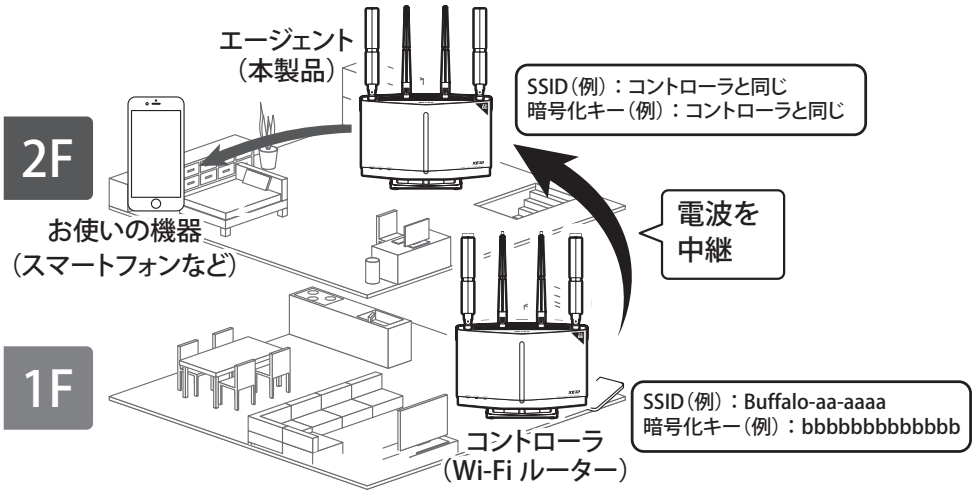
5 本製品のWIRELESSランプが白色に点灯していれば、設置完了です。

続いて、「ステップ4　パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する」(P.19)を参照し、ネットワークに接続してください。

エージェントをWi-Fi接続で使用する場合

1 **本製品からLANケーブルとACアダプターを取り外します。**

2 **コントローラの場所と、パソコンやスマートフォンを利用する場所の中間付近に本製品を置き、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。**



3 **電源をONにしてから約3分後、本製品のWIRELESSランプが白色に点灯していれば、設置完了です。**

メモ: WIRELESSランプが橙色と白色に交互に点滅しているときは、本製品がコントローラから離れすぎている可能性があります。本製品をコントローラに近い場所に移動させてお試しください。

以上で設定は完了です。
続いて、「ステップ4　パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する」(P.19)を参照し、ネットワークに接続してください。

ステップ4　パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する

メッシュネットワークは、コントローラのWi-Fi 設定（SSIDや暗号化キー）に統一されています。
パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する手順は、「機器をWi-Fi接続するには」(P.33)を参照してください。

メッシュネットワークを構築しない場合

中継機を本製品に接続する方法

中継機を本製品に接続する場合は、中継機の取扱説明書を参照して接続をしてください。

本製品を中継機として使用する方法

本製品を中継機として使用する方法は、以下の3つの方法があります。

- 「本体のボタンを押して設定する（AOSS/WPSプッシュボタン式）」(P.22)
- 「Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する（手動設定）」(P.23)※
- 「WPS（PINコード式）で設定する」(P.26)※

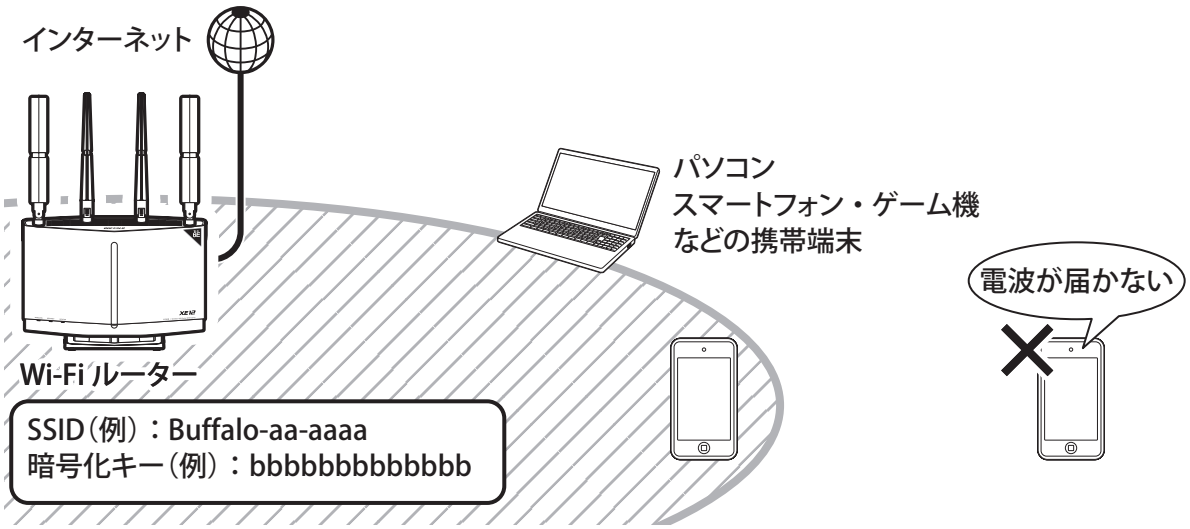
※本製品の設定画面を表示し、本製品の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

メモ:

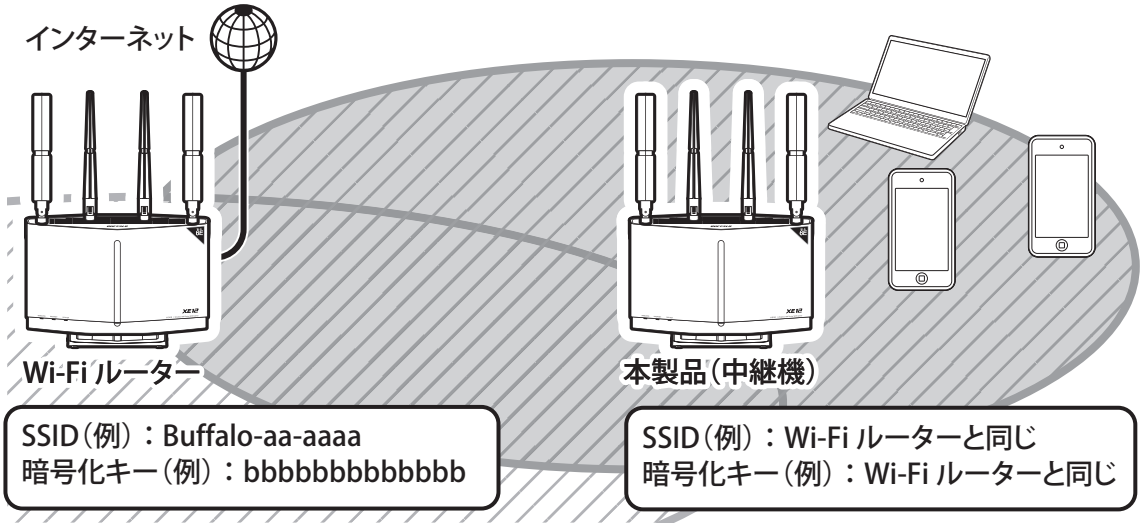
- **EasyMesh対応Wi-Fiルーターに対して、本製品を中継機として使用したい場合は、事前にWi-FiルーターのEasyMesh機能を使用しないに設定してください。**
  接続先Wi-Fiルーターが当社製の場合は、設定画面を開き、[詳細設定]－[無線設定]－[EasyMesh]の[EasyMesh機能]で[使用する]のチェックが入っていれば外し、EasyMesh機能を無効にしてください。
- **以下の条件の場合、Wi-Fiルーターの設定（SSIDや暗号化キー）を引き継ぐことはできません。**
  - WPSで接続している場合は、6 GHzの設定を引き継ぐことはできません。
  - 手動で接続している場合、Wi-Fiルーターと接続しているバンド以外の設定を引き継ぐことはできません。
  - Wi-Fiルーターで無効にしているバンドの設定は引き継ぐことができないことがあります。

ご利用イメージ

中継機導入前



本製品を中継機として導入後



- 上記の「本製品を中継機として導入後」の図において、パソコンやスマートフォンなどをWi-Fiルーターに近づけた場合、本製品からWi-Fiルーターへ接続を自動的に切り替え（ローミングを行い）ます。
- 本書に記載の手順で設定を行うと、本製品はWi-Fiルーターの設定（SSIDや暗号化キー）を引き継ぎますので、ご利用中のWi-Fi機器（パソコンやスマートフォンなど）の設定を変更することなくお使いいただけます。
- Wi-Fiルーターと本製品でSSIDや暗号化キーが異なる場合、それぞれのSSIDや暗号化キーをWi-Fi機器に設定することでローミングを行います。
- Wi-FiルーターにMACアクセス制限設定をしている場合は、「MACアクセス制限を使用している環境で本製品を中継機として使用する」（P.29）を参照して設定してください。

本体のボタンを押して設定する（AOSS/WPSプッシュボタン式）

ここでは、本体のボタンを押して設定する手順（AOSS/WPSプッシュボタン式）を説明します。

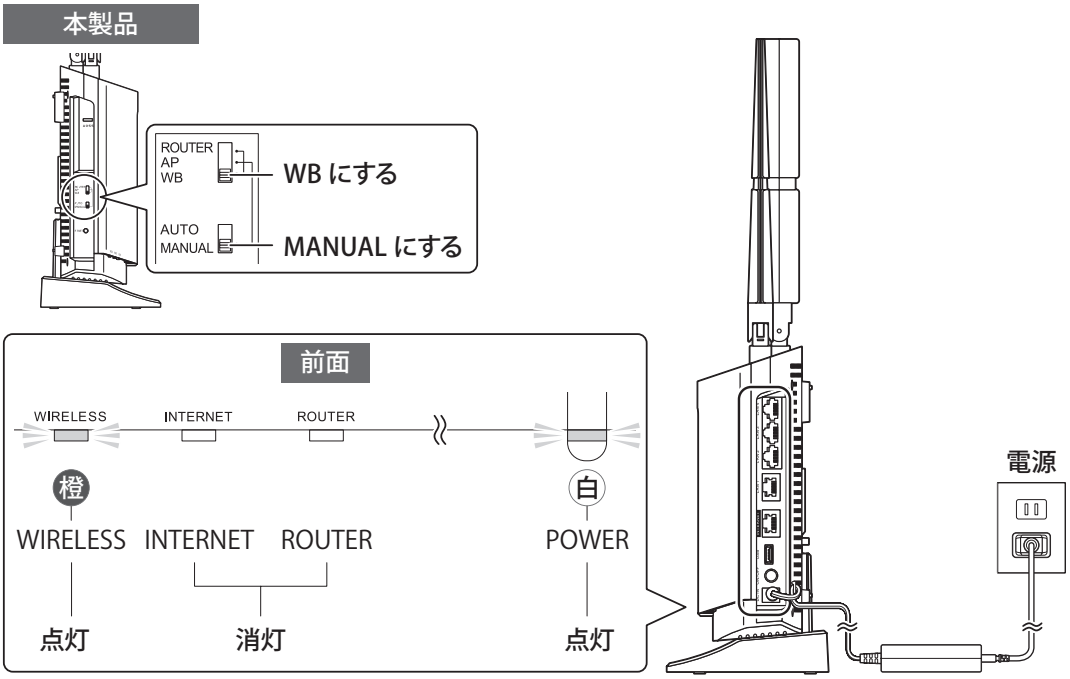
メモ: WPSでは、Wi-Fiルーターの仕様によって引き継ぐWi-Fiルーターの設定（SSIDや暗号化キー）が異なります。

1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いのWi-Fi機器（パソコンやスマートフォンなど）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に設定して、電源をONにします。

約1分後、本製品前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。
以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが白色に点滅するまで先の細いもの（つまようじなど）で約3秒間長押しして、本製品を初期化してください。



3 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで（約2秒間）長押しします。

2回ずつ連続点滅したら、ボタンから手を離します。

4 Wi-FiルーターのAOSS/WPSボタンを押して、AOSS/WPS接続を開始します。

ボタンを押す間隔は、お使いのWi-Fiルーターによって異なります。

メモ: Wi-Fiルーターが当社製品の場合、Wi-FiルーターのAOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ（橙）とINTERNETランプ（緑または白）とROUTERランプ（緑または橙）の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引っ越し機能が動作します。このような状態になったときは、Wi-FiルーターからACアダプターを取り外して、もう一度手順2からやり直してください。

5 約2分後、本製品のWIRELESSランプが白色に点灯していることを確認します。

メモ:

- 本製品のWIRELESSランプが橙色に点滅している場合、2分程度待ってからもう一度ランプの状態を確認してください。
- その後もWIRELESSランプの点滅が続いている場合は、手順3～4をもう一度行ってください。

以上で本製品の設定は完了です。

Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する（手動設定）

ここでは、Wi-Fiルーターに設定されている暗号化キーを使って設定する手順（手動設定）を説明します。

メモ:

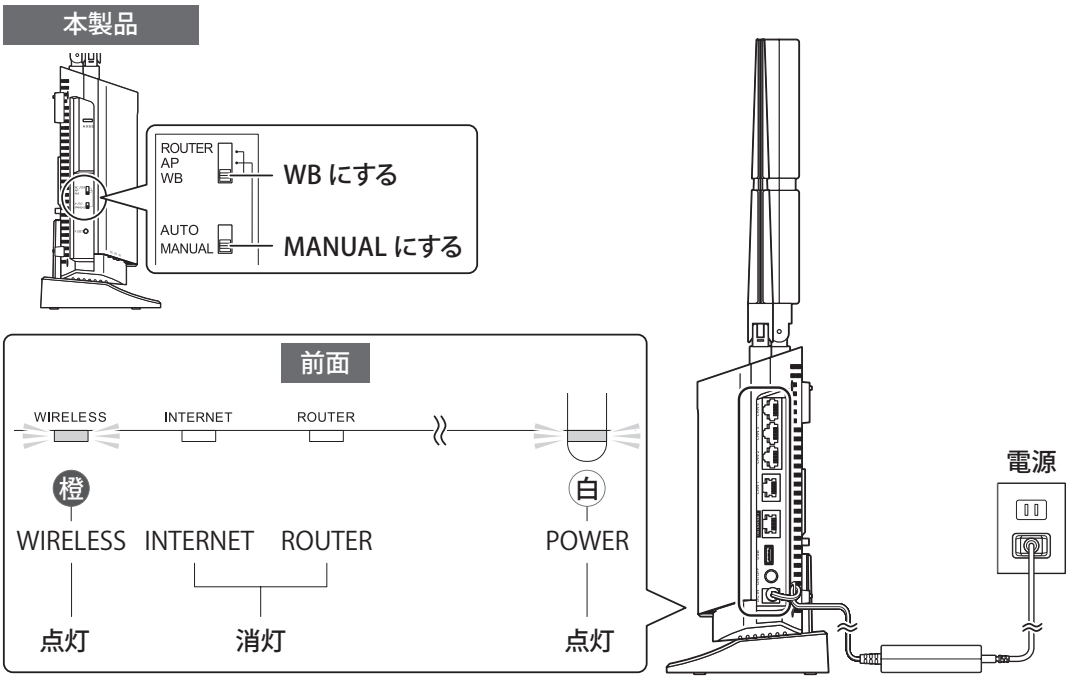
- 本製品の設定画面を表示し、本製品の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。
- Wi-Fiルーターと接続しているバンドのみWi-Fiルーターの設定（SSIDや暗号化キー）を引き継ぎます。

1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いのWi-Fi機器（パソコンやスマートフォンなど）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に設定して、電源をONにします。

約1分後、本製品前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。
以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが白色に点滅するまで先の細いもの（つまようじなど）で約3秒間長押しして、本製品を初期化してください。



3 「参考情報　パソコンのIPアドレスを一時的に固定する」（P.230）を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

メモ: 設定完了後にIPアドレスを元に戻せるように、変更前のIPアドレスはメモをすることをおすすめします。

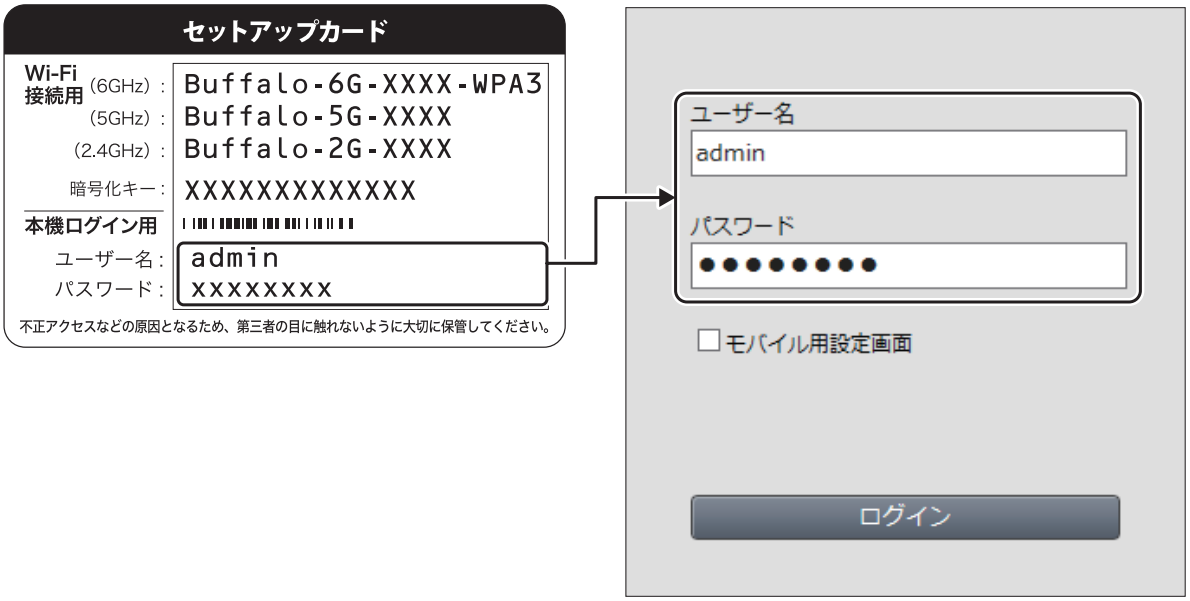
4 本製品と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.39）を参照してください。

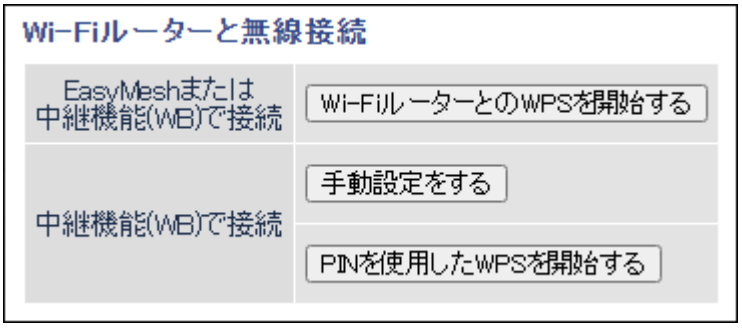
6 **本体ラベル･セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。**

メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。



7 **「詳細設定」－「無線設定」－「EasyMesh/中継機能(WB)」をクリックします。**

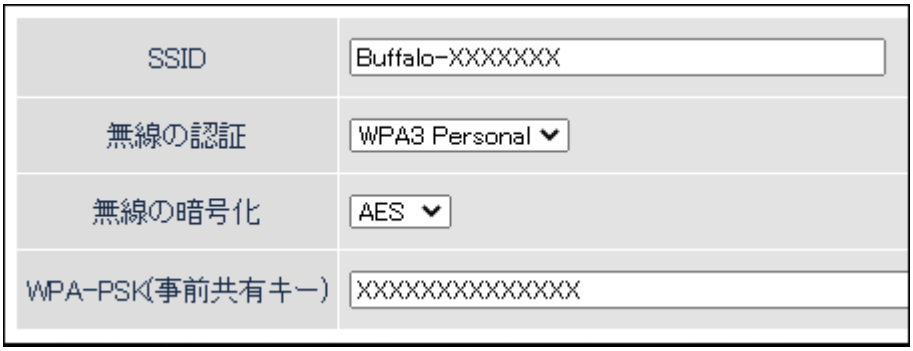
8 **「手動設定をする」をクリックします。**



9 **接続先のWi-Fiルーターを選択し、[選択]をクリックします。**



10 接続先のWi-FiルーターのWPA-PSK（事前共有キー）を入力し、[決定]をクリックします。



11 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを変更前の状態に戻します。

以上で本製品の設定は完了です。

WPS（PINコード式）で設定する

ここでは、PINコードを使って設定する手順を説明します。

メモ:

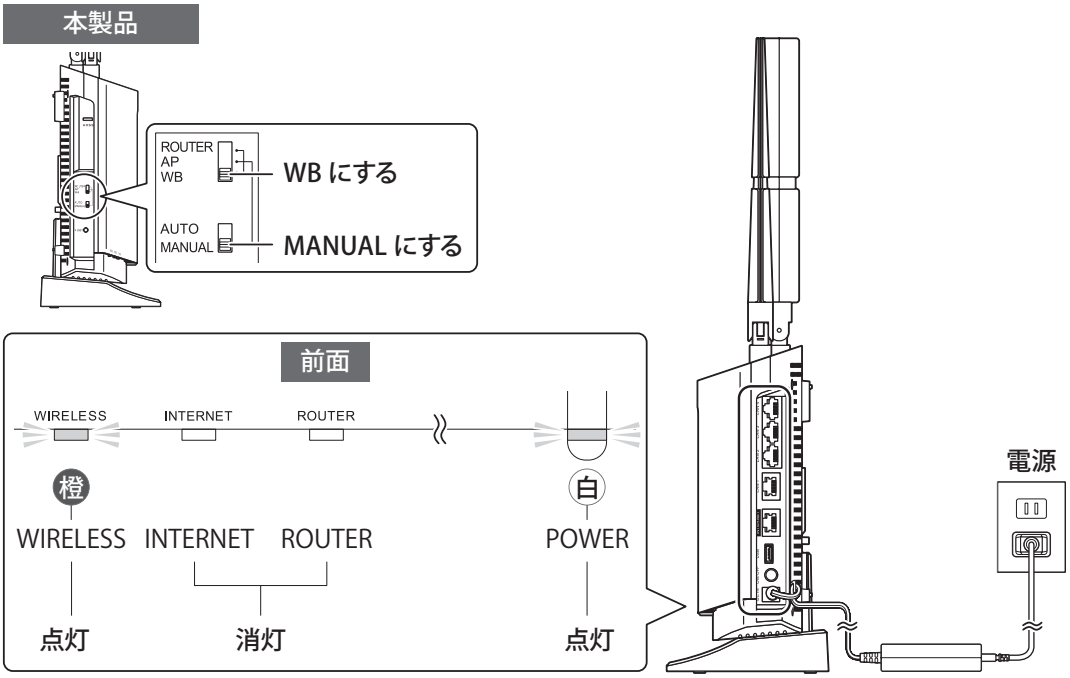
- Wi-Fiルーターと接続しているバンドのみ、Wi-Fiルーターの設定（SSIDや暗号化キー）を引き継ぎます。
- PINコードを使って設定するためには、パソコンが2台必要になります。
  - 接続先Wi-Fiルーターの設定画面を表示するパソコン
  - 本製品の設定画面を表示し、本製品の接続設定をする、LAN端子を持つパソコン

1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いのWi-Fi機器（パソコンやスマートフォンなど）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に設定して、電源をONにします。

約1分後、本製品前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。
以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが白色に点滅するまで先の細いもの（つまようじなど）で約3秒間長押しして、本製品を初期化してください。



3 「参考情報　パソコンのIPアドレスを一時的に固定する」（P.230）を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

メモ: 設定完了後にIPアドレスを元に戻せるように、変更前のIPアドレスはメモをすることをおすすめします。

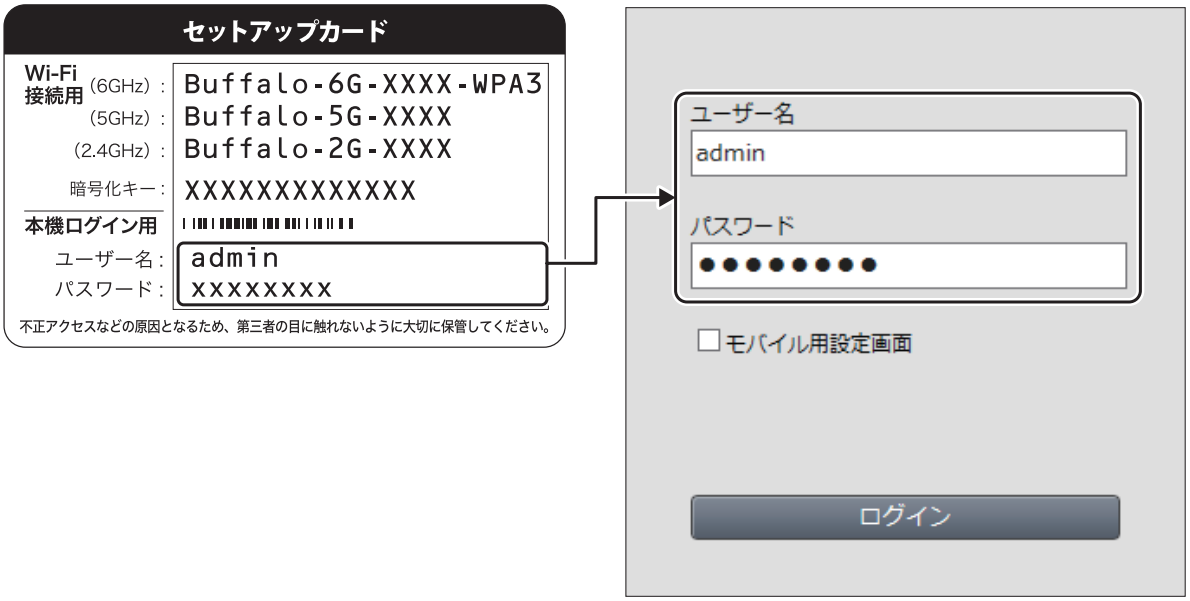
4 本製品と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.39）を参照してください。

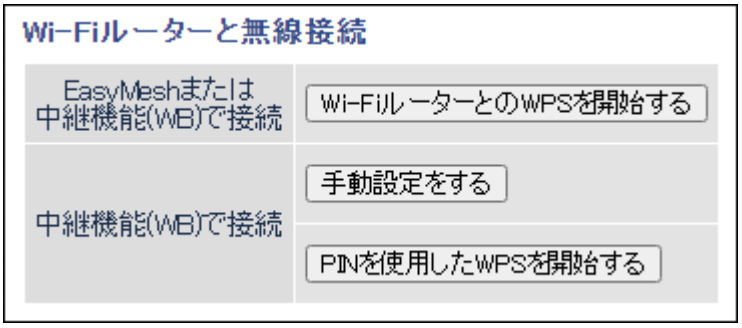
6 **本体ラベル･セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。**

メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。



7 **「詳細設定」－「無線設定」－「EasyMesh/中継機能(WB)」をクリックします。**

8 **「PINを使用したWPSを開始する」をクリックします。**



9 **画面上部に表示されている「PINコード」を控え、接続先のWi-Fiルーターを選択し、[PIN実行]をクリックします。**



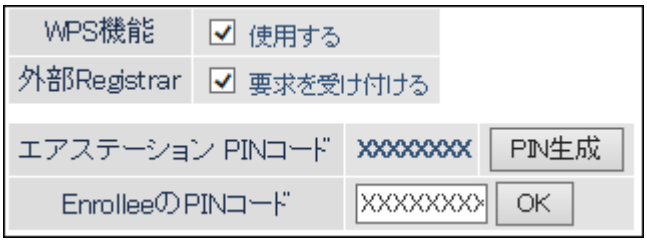
メモ: [PIN実行]をクリックすると、「WPSを実施しています。」と表示されますので、2分以内に手順10～12を完了させてください。

10 **別のパソコンなどを使って、接続先のWi-Fiルーターの設定画面を表示します。**

11 **WPS設定の画面を表示します。**

メモ: 接続先のWi-Fiルーターが当社エアステーションシリーズの場合は、無線設定ページにあるWPSの画面を表示します。

12 **手順9で控えたPINコードを登録します。**



メモ: 接続先のWi-Fiルーターが当社エアステーションシリーズの場合は、「EnrolleeのPINコード」にPINコードを入力し、[OK]をクリックしてください。

13 **手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを変更前の状態に戻します。**

以上で本製品の設定は完了です。

Wi-Fi機器を追加する場合

「本製品を中継機として使用する方法」(P.20)に記載の手順で設定した環境にWi-Fi機器を追加する場合は、お使いのWi-Fiルーターの取扱説明書を参照し、Wi-Fiルーターと各Wi-Fi機器を接続してください。

メモ:

- パソコンなどの各Wi-Fi機器は、Wi-Fiルーターと接続設定を行うことで、本製品にも接続できるようになります(本製品と各Wi-Fi機器間では、接続設定を行うことはできません)。
- 下記の場合、本製品はWi-FiルーターのSSIDとは別のSSIDが表示されます。Wi-FiルーターのSSID・本製品のSSIDと各Wi-Fi機器間で接続設定をしてください。
    - [無線設定]－[EasyMesh/中継機能(WB)]－[Wi-Fiルーター設定]で「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れていない場合
    - Wi-Fiルーターのプロファイルを受け取ることができなかった場合

MACアクセス制限を使用している環境で本製品を中継機として使用する

MACアクセス制限を使用している環境で、本製品を中継機として設置する方法を説明します。

MACアクセス制限下での注意事項

通常、MACアクセス制限を行う場合は、お使いの機器のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録し、制限をかけます。
一方、本製品を中継機として、本製品を経由した通信にMACアクセス制限を行う場合は、本製品の無線MACアドレスをWi-Fiルーターに登録し、本製品に接続する機器のMACアドレスを登録する必要があります（Wi-Fi機器がWi-Fiルーターに直接接続する可能性がある場合は、Wi-Fiルーターにも登録します）。
本製品の無線MACアドレスがWi-Fiルーターに登録されていない場合、本製品からWi-Fiルーターへの通信が制限されてしまい、本製品に接続しているWi-Fi機器からは、本製品を経由した通信ができません。
以下の手順に従って、設定を行ってください。

設定のながれ

設定は以下のながれで行います。
ステップ1　本製品、Wi-Fi機器のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録する
ステップ2　Wi-Fi機器のMACアドレスを本製品に登録する
ステップ3　本製品をWi-Fiルーターに接続する
それぞれのステップにおける手順は、以下の「設定手順」（P.29）を参照してください。

設定手順

ステップ1　本製品、Wi-Fi機器のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録する

メモ: MACアクセス制限後は、ここで登録していないWi-Fi機器は、本製品およびWi-Fiルーターに Wi-Fi接続できなくなりますので注意してください。

1 **Wi-FiルーターにMACアクセス制限が設定されている場合は、一時的にWi-FiルーターのMACアクセス制限を無効にします。**

2 **通信を許可したいWi-Fi機器すべてをWi-Fiルーターに接続します。**
接続方法は、各機器の取扱説明書を参照してください。

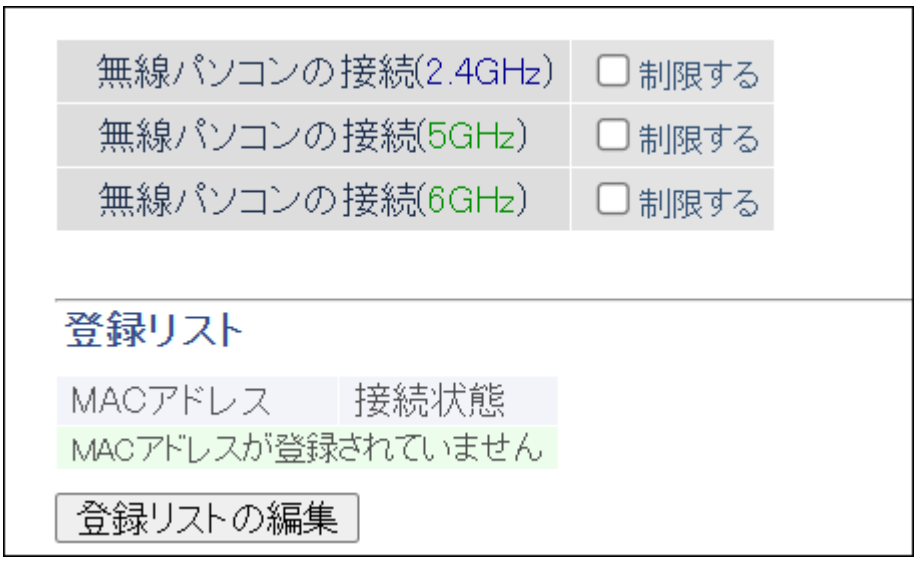
3 **「本製品を中継機として使用する方法」（P.20）を参照して、本製品をWi-Fiルーターに接続します。**

4 **Wi-Fiルーターの設定画面を表示します。Wi-FiルーターがWXR-11000XE12の場合は、「本製品の設定を変更するには」（P.39）を参照してください。**

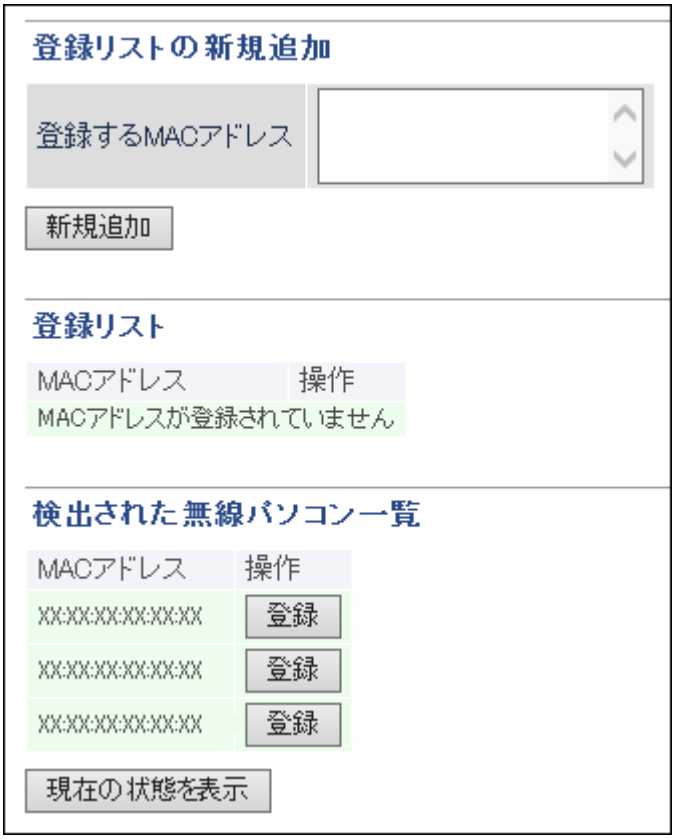
以下の手順・画面は、Wi-FiルーターがWXR-11000XE12の場合の例です。異なるWi-Fiルーターをご利用の場合は、Wi-Fiルーターの取扱説明書に従ってください。

5 **「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。**

6「登録リストの編集」をクリックします。



7「検出された無線パソコン一覧」欄で［登録］をクリックし、表示されているMACアドレスをすべて登録します。



8「編集を終了して前の画面へ戻る」をクリックします。

9 **「無線パソコンの接続」を「制限する」に設定し、[設定]をクリックします。**



メモ: 2.4 GHz、5 GHz、6 GHzすべてを「制限する」に設定してください。

10 **画面右上の「ログアウト」アイコンをクリックします。**

以上でステップ1は完了です。
続いてステップ2へ進みます。

ステップ2　Wi-Fi機器のMACアドレスを本製品に登録する

1 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「ROUTER」に設定して、電源をONにします。

2 通信を許可したいWi-Fi機器すべてを本製品にWi-Fi接続します。

接続方法は、各機器の取扱説明書を参照してください。

3 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

4 上記ステップ1の手順5～10を行います。

以上でステップ2は完了です。
続いてステップ3へ進みます。

ステップ3　本製品をWi-Fiルーターに接続する

1 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に設定して、電源をONにします。

2 上記ステップ1の手順3ですでに本製品とWi-Fiルーターとの接続設定を行っているため、自動的にWi-Fiルーターに接続されます。本製品のWIRELESSランプが白色に点灯したら、接続完了です。

メモ:

- 本製品のWIRELESSランプが橙色に点滅している場合は、「本製品を中継機として使用する方法」(P.20)を参照して、本製品をWi-Fiルーターに接続してください。
- ここで設定した環境にパソコンやスマートフォンなどの機器を追加する場合は、Wi-Fiルーターと本製品両方にMACアドレスを登録してください。

以上で設定は完了です。

機器をWi-Fi接続するには

WPA3で接続する方法

本製品はWPA3(Wi-Fiの新しい暗号化設定)に対応しています。
WPA3に対応した機器をお使いで、WPA3を使って本製品に接続したい場合は、以下の手順で設定してください。

メモ:

- 「AOSSで接続する方法」(P.36)と「WPSで接続する方法」(P.38)は、WPA3に対応していません。
- お使いの機器やOS、ドライバーによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。

1 本製品に設定されているSSIDや暗号化キーを確認します。

本製品ご購入時のSSIDや暗号化キーは、セットアップカードで確認できます。

メモ:

- 本製品ご購入時のWPA3用のSSIDは、本体ラベル・セットアップカードに記載の6 GHzのSSIDおよび5 GHz、2.4 GHzのSSID末尾に「-WPA3」を加えたものです(例:Buffalo-6G-XXXX-WPA3、Buffalo-5G-XXXX-WPA3、Buffalo-2G-XXXX-WPA3など)。
- 本製品ご購入時のWPA3用の暗号化キーは、本体ラベル・セットアップカードに記載の暗号化キーと同一です。

2 お使いの機器から本製品を検索します。

お使いの機器でWi-Fiの設定画面を表示し、手順1で確認したWPA3用のSSIDを選択してください。

3 本製品の暗号化キーを入力します。

入力画面が表示されたら、手順1で確認したWPA3用の暗号化キーを入力してください。

メモ: 暗号化キーは、お使いの機器によっては、「パスワード」や「ネットワークセキュリティキー」と表示されます。

4 しばらくして、お使いの機器の画面にWi-Fiアイコンが表示されたら、接続は完了です。

Wi-Fiアイコンが表示されない場合は、手順1からやり直してください。

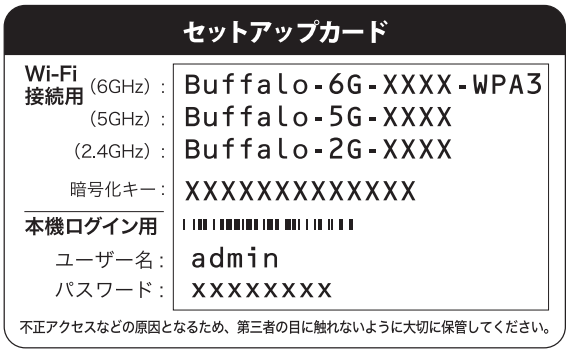
メモ: Wi-Fiアイコンは、お使いの機器によって異なります(例:  、  、  、 )。

暗号化キーを使って接続する方法(手動設定)

本製品に設定されている暗号化キー(機器によっては､｢パスワード｣や｢ネットワークセキュリティキー｣と表示されます)を使って接続する方法です。
設定は以下のながれで行います。

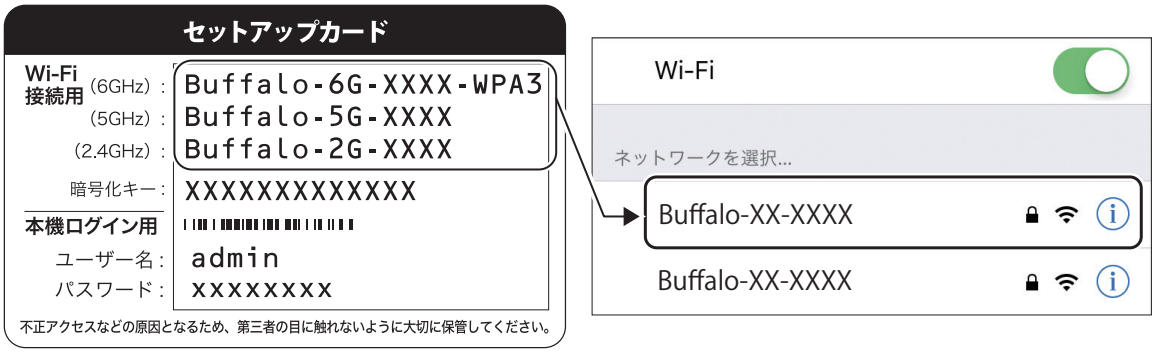
1 本製品に設定されているSSIDや暗号化キーを確認します。

本製品ご購入時のSSIDや暗号化キーは､本体ラベル･セットアップカードで確認できます。



2 お使いの機器から本製品を検索します。

お使いの機器でWi-Fiの設定画面を表示し､手順1で確認した本製品のSSIDを選択してください。

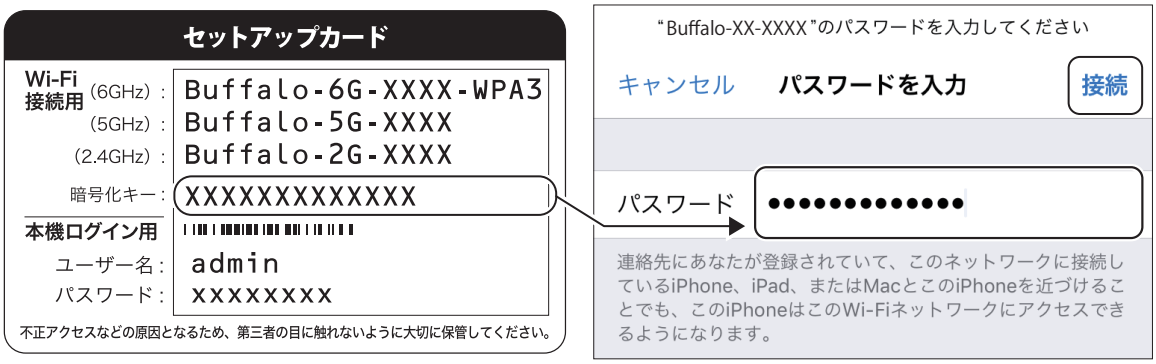


メモ:

- WPA3対応の機器の場合､本体ラベル･セットアップカードに記載のSSIDの末尾に｢-WPA3｣の文字が追加されたSSIDも表示されます。｢-WPA3｣の文字が追加されたSSIDは､通常のSSIDを選択したときよりも強固なセキュリティーで接続ができます。
- ｢SSID(6 GHz)｣は､機器が6 GHz対応の場合のみ接続できます。

3 本製品の暗号化キーを入力します。

入力画面が表示されたら､手順1で確認した暗号化キーを入力してください。



メモ: 上の画面は一例です。お使いの機器によって異なります。

4 画面に従って設定を行います。

しばらくして、お使いの機器の画面にWi-Fiアイコンが表示されたら、接続は完了です。
Wi-Fiアイコンが表示されない場合は、手順1からやり直してください。

メモ: Wi-Fiアイコンは、お使いの機器によって異なります(例:  、  、  、 )。

QRコードを使って接続する方法(QRsetup)

QRsetup(専用アプリ)を使って接続する方法です。

重要: QRコードを使った6 GHzでの接続は、Wi-Fi 6Eに対応した下記の機器が必要です。

- **iOS/iPadOS 17以降に対応したiPhone/iPad**
- **Android機器**

それ以外の機器を6 GHzで接続したいときは、「WPA3で接続する方法」(P.33)で接続してください。
Wi-Fi 6Eに関するよくある質問・制限事項については下記URLを参照してください。
https://86886.jp/faq_wifi6e/

QRsetupが利用できる機器は以下のとおりです。

- QRsetupをインストールしたiPod touch/iPhone/iPad
- QRsetupをインストールしたAndroid機器

メモ: QRsetupは、App StoreまたはGoogle Playからダウンロードできます。

設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でQRsetup  を起動し、QRコードの読み取り画面を表示します。

カメラや位置情報へのアクセス許可を求める画面が表示された場合は、許可してください。

2 セットアップカードに記載されているQRコードを読み取ります。

3 以降は画面の指示に従って設定を進めます。

設定中にパスコードの入力画面が表示された場合は、お使いの機器に設定しているパスコードを入力してください。

AOSSで接続する方法

重要: AOSSを使っての接続は、6 GHzには対応していません。6 GHzで接続したいときは、「WPA3で接続する方法」(P.33)で接続してください。

お使いの機器のAOSS機能(AirStation One-Touch Secure System)を使って接続する方法です。
AOSSが利用できる機器は以下のとおりです。
- 「AOSS」アプリをインストールしたAndroid機器(機器単体でAOSSに対応している場合も含む)
- 「クライアントマネージャV」をインストールしたWindowsパソコン
- AOSSに対応した機器(プリンター、ゲーム機など)

メモ:
- Android用「AOSS」アプリは、下記からダウンロードできます。
  Android 9:Google Play
  Android 10以降:当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/support/download/detail/?dl_contents_id=2812)
  Android 10以降のアプリのインストール手順は、「https://www.buffalo.jp/support/faq/detail/124157018.html」を参照してください。
- 「クライアントマネージャV」は、下記当社ホームページからダウンロードできます。
  https://www.buffalo.jp/support/download/detail/?dl_contents_id=60661

設定は以下のながれで行います。

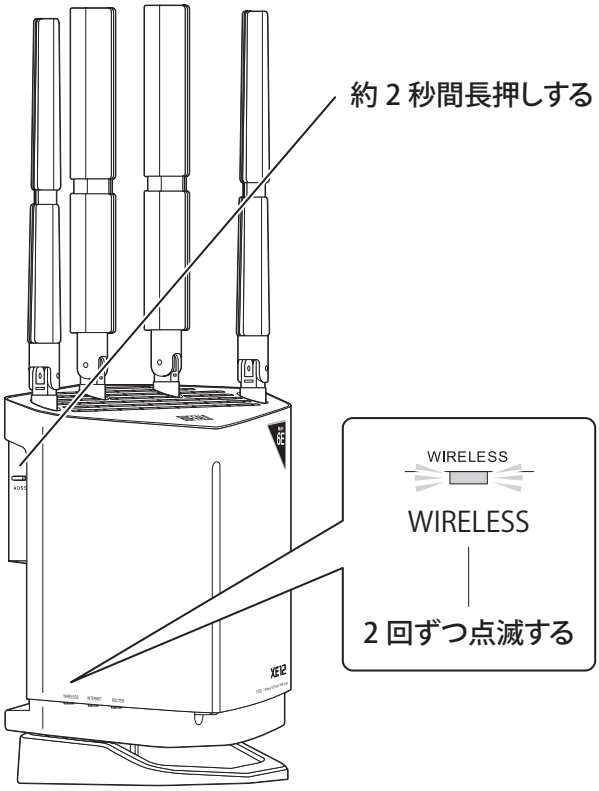
1 お使いの機器でAOSS接続を開始します。

AOSSボタンがある機器をお使いの場合は、AOSSボタンを押してください。
Android機器やWindowsパソコンの場合は、アプリからAOSSを実行してください。



2 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで（約2秒間）長押しします。

メモ: AOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ（橙）とINTERNETランプ（白）とROUTERランプ（橙）の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引っ越し機能が動作します。このような状態になったときは、電源ボタンを押して電源をOFFにしてください。もう一度電源ボタンを押して電源をONにし、手順1からやり直してください。



3 AOSSボタンを押してから約2分後、本製品のWIRELESSランプが点灯したら、接続は完了です。

高速で連続点滅（0.1秒間隔）している場合は、手順1からやり直してください。

WPSで接続する方法

重要: WPSを使っての接続は、6 GHzには対応していません。6 GHzで接続したいときは、「WPA3で接続する方法」(P.33)で接続してください。

お使いの機器のWPS機能(Wi-Fi Protected Setup)を使って接続する方法です。
WPSが利用できる機器は以下のとおりです。

- WPSに対応したAndroid機器
- WPSに対応したWindowsパソコン
- WPSに対応した機器(プリンター、ゲーム機など)

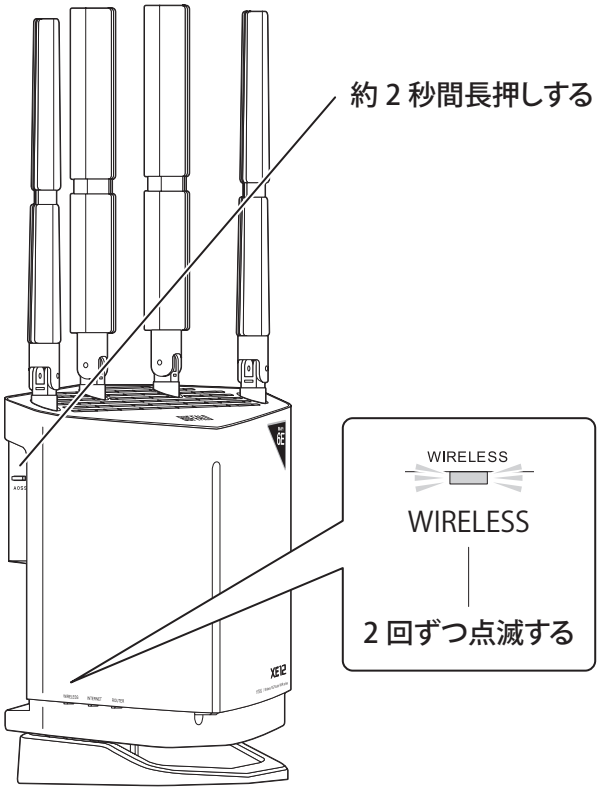
設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でWPS接続を開始します。

メモ: WPS接続の開始方法は、お使いの機器によって異なります。詳細はお使いの機器の取扱説明書を参照してください。

2 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。

メモ: AOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(白)とROUTERランプ(橙)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引っ越し機能が動作します。このような状態になったときは、電源ボタンを押して電源をOFFにしてください。もう一度電源ボタンを押して電源をONにし、手順1からやり直してください。



3 AOSSボタンを押してから約2分後、本製品のWIRELESSランプが点灯したら、接続は完了です。

高速で連続点滅(0.1秒間隔)している場合は、手順1からやり直してください。

第２章　本製品の各種設定

本章では、本製品の各種設定について説明します。

本製品の設定を変更するには

スマートフォン・タブレットをお使いの場合

「AirStationアプリ」を使って本製品を設定します。
AirStationアプリからの設定変更の方法については「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。
https://86886.jp/airstation_app_m/

メモ:

- AirStationアプリは、App StoreまたはGoogle Playでダウンロードできます。
- スマートフォンやタブレットを本製品に接続した状態で使用してください。

本製品の設定画面から設定を行いたい場合は、以下の手順を行ってください。

1 AirStationアプリ を起動します。

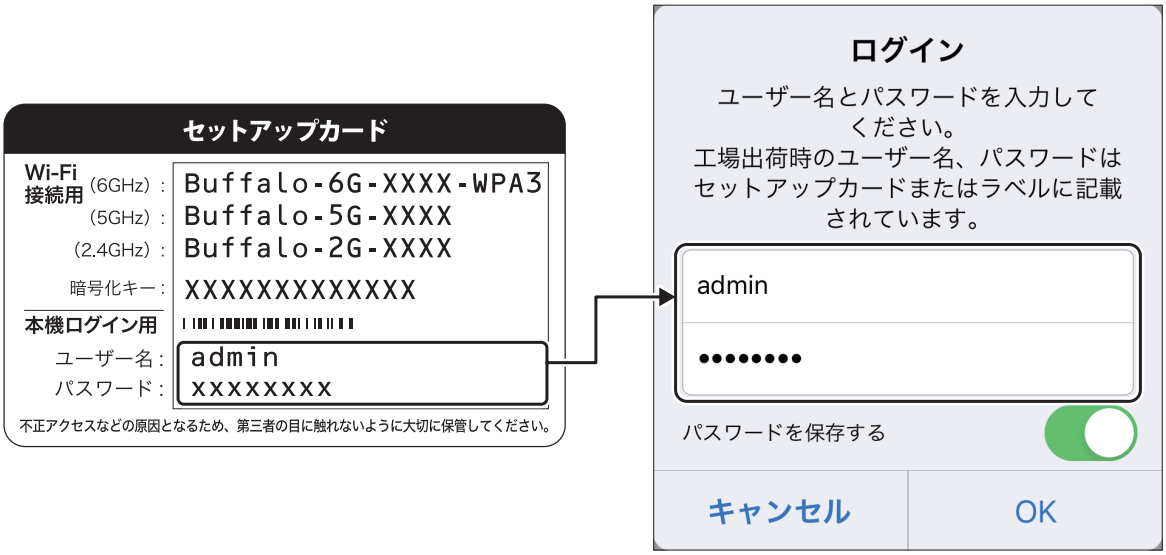
メモ: はじめて起動したときは、「このアプリでできること」が表示されます。このようなときは、[次へ]をタップして画面を進めてください。

2 AirStationアプリを起動すると、自動的に検索が始まります。本製品が見つかったら、本製品の製品名をタップします。

3 下記画面が表示されたら、セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をタップします。

メモ:

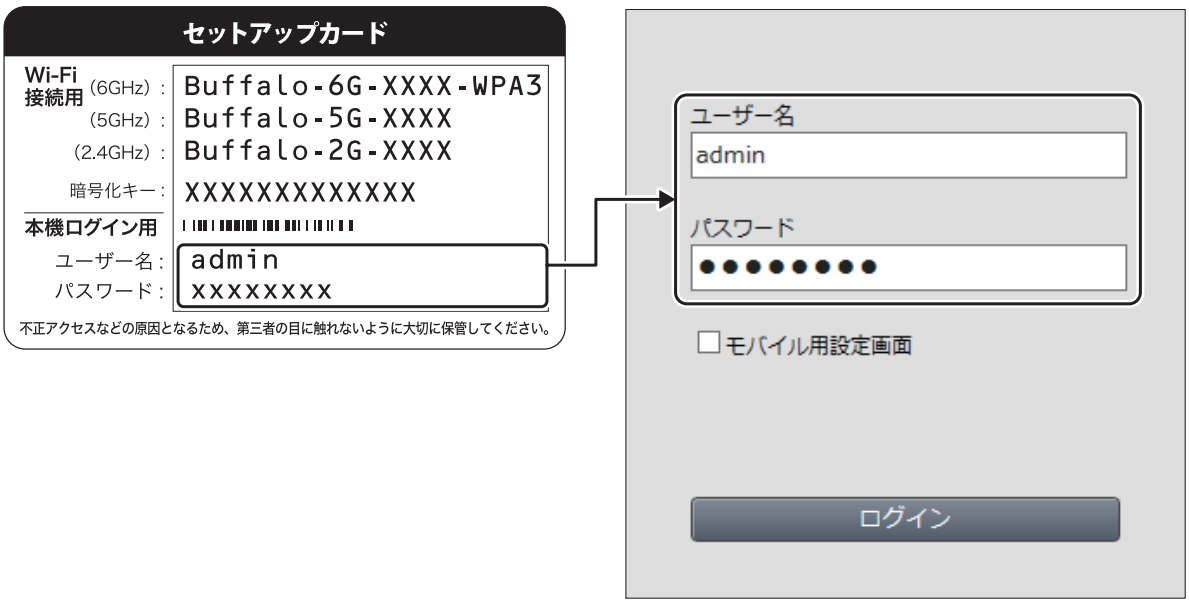
- 初回ログイン時のみ表示されます。
- パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。



4 **[設定画面を表示する]→[設定画面を開く]をタップします。**

メモ:

- 手順3で入力し、保存したユーザー名およびパスワードで認証を行い、本製品の設定画面へ自動的にログインします。
- 手順3で[キャンセル]をタップした場合、本製品のログイン画面が表示されます。このようなときは、本体ラベル・セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をタップしてください。



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

5 **本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。**

メモ: 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

Windowsをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

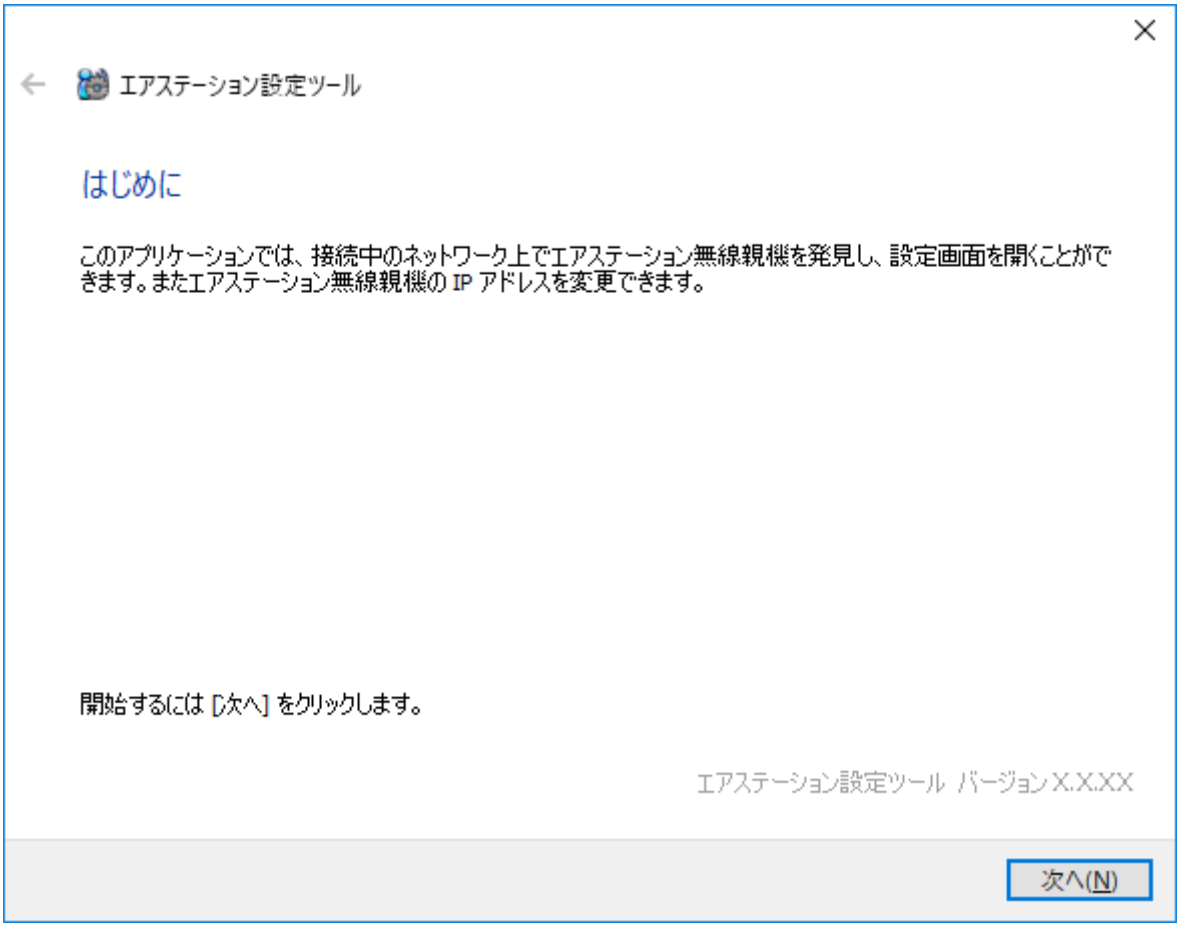
メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- パソコンを本製品に接続した状態で使用してください。

1 エアステーション設定ツール を起動します。

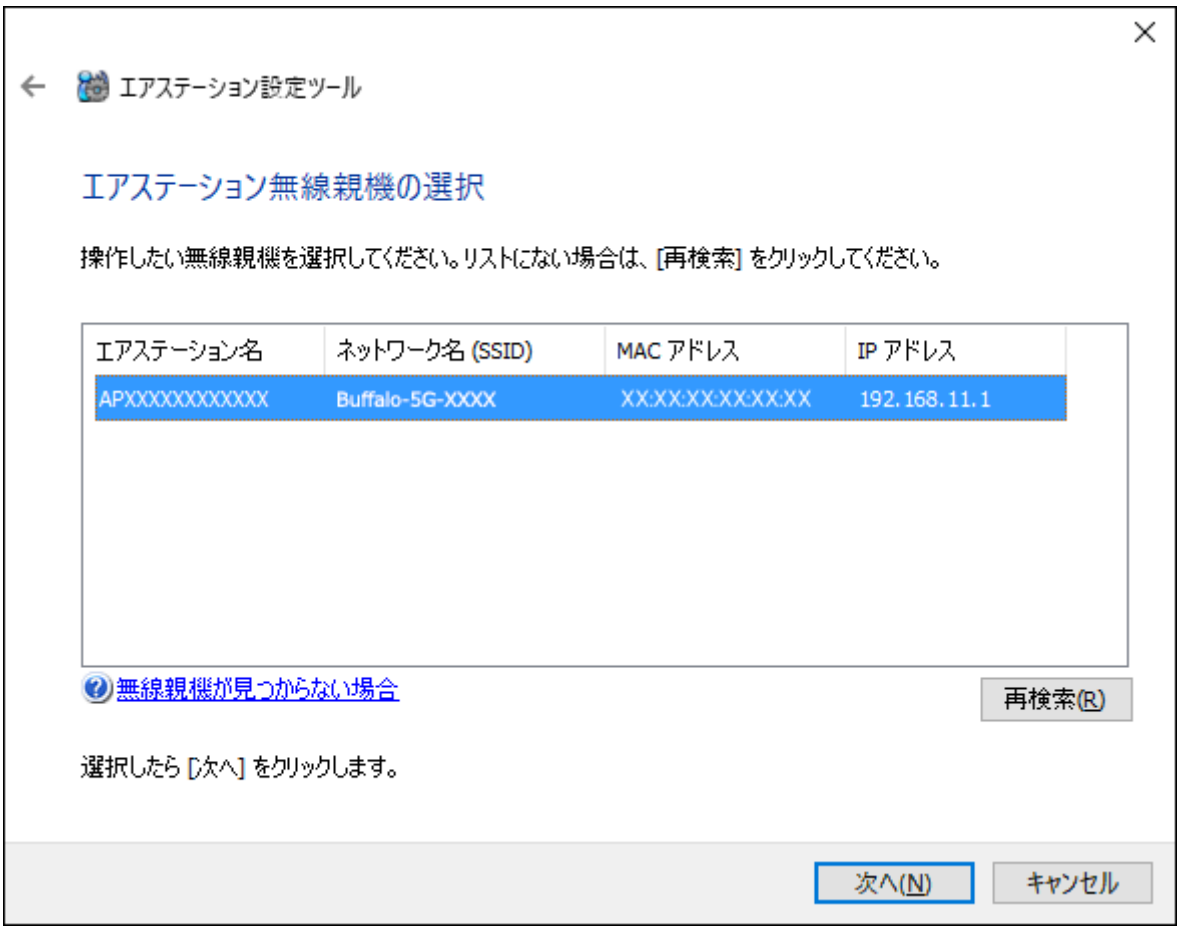
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

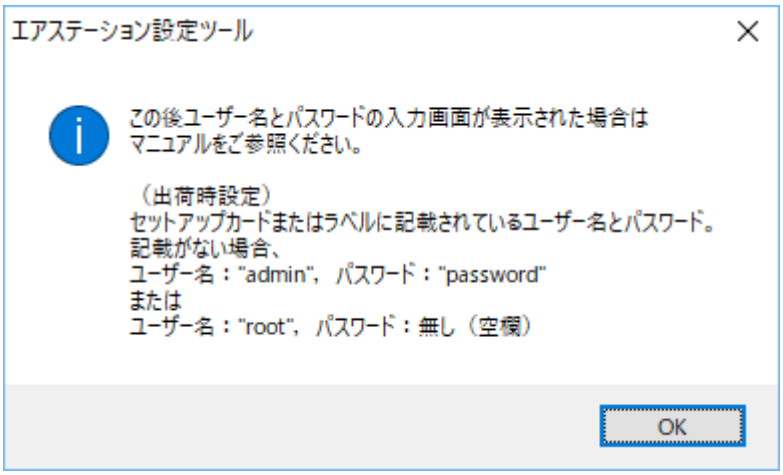


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。

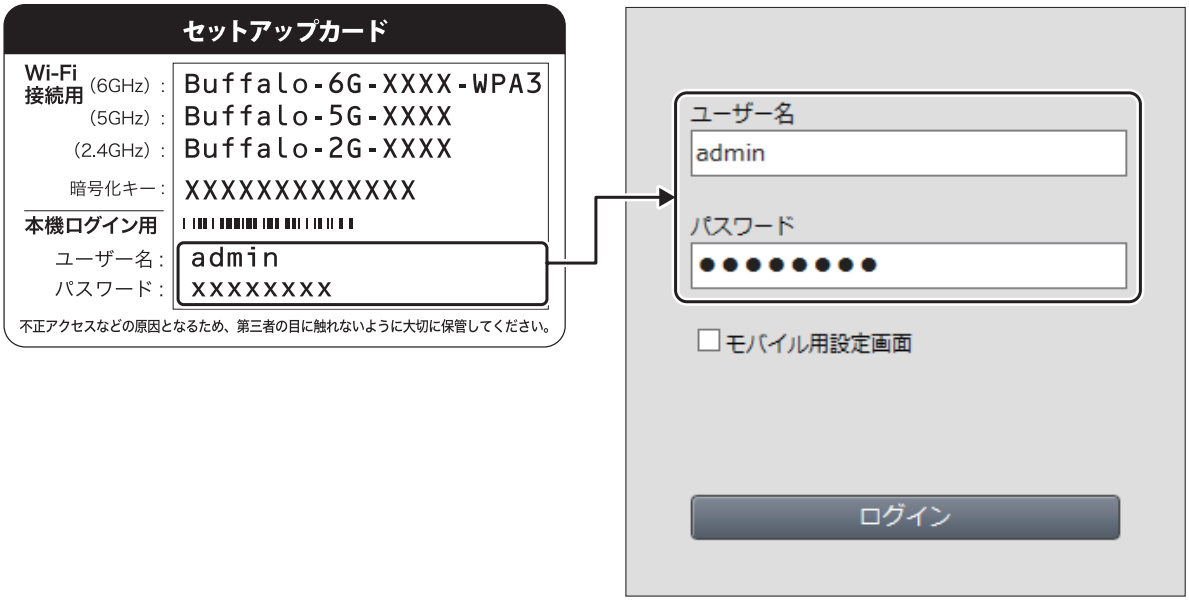


5 [OK]をクリックします。



本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。
その場合は、[このパソコンのIPアドレスを設定する]をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。しばらくすると、パソコンに新しいIPアドレスが設定され、手順6の画面が表示されます。「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたときは、「はい」をクリックしてください。

6 本体ラベル・セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。

メモ:

- 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。
- 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

Macをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- Macを本製品に接続した状態で使用してください。

1 **エアステーション設定ツール**  **を起動します。**

2 **[続ける]をクリックします。**



3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。

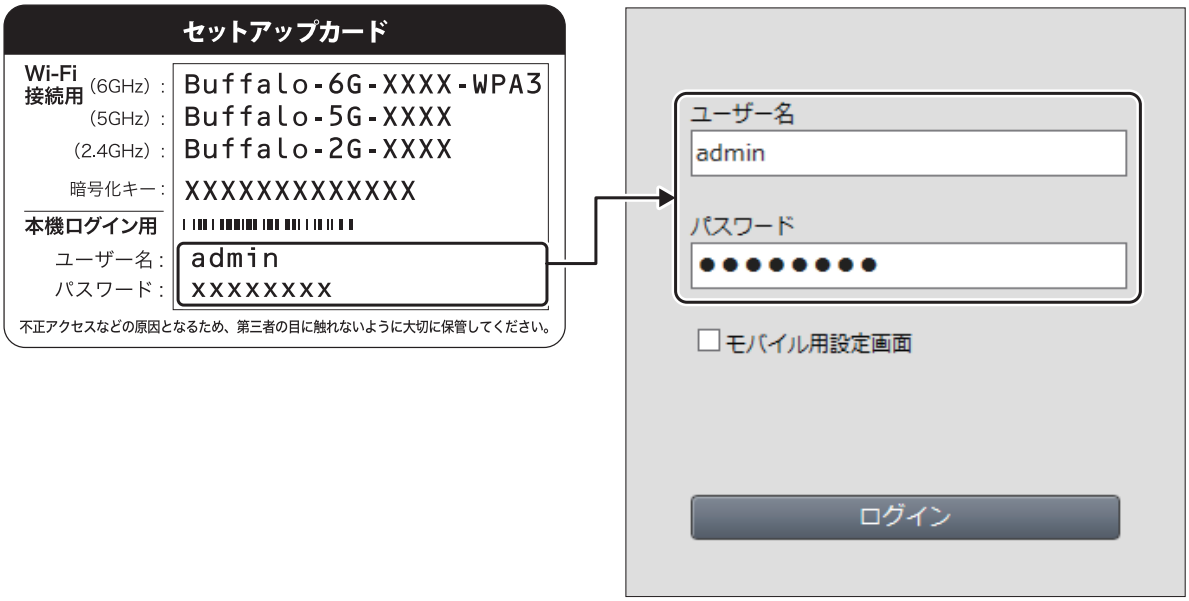


5 [OK]をクリックします。



本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「このMacのIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。Macのパスワードを要求された場合はパスワードを入力して[OK]をクリックします。しばらくするとMacに新しいIPアドレスが設定され、「設定完了」画面が表示されます。[親機選択画面に戻る]をクリックし、もう一度手順3から行ってください。

6 **本体ラベル・セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。**



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 **本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。**

メモ:

- 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。
- 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

2.4 GHz/5 GHzのWPA2を無効にして、WPA3（Wi-Fiの新しい暗号化設定）だけを使用する

本製品ご購入時は、2.4 GHz/5 GHzはWPA2を使用するSSIDとWPA3を使用するSSIDの2つが有効になっています。
ここでは例として、WPA2用のSSID（SSID1）を無効にして、WPA3専用で動作させる方法を説明します。

メモ:

- 「AOSSで接続する方法」(P.36)と「WPSで接続する方法」(P.38)は、WPA3に対応していません。
- お使いの機器やOS、ドライバーによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、下記の設定は行わずWPA2で接続してください。
- 6 GHzは、WPA3のみ対応しています。

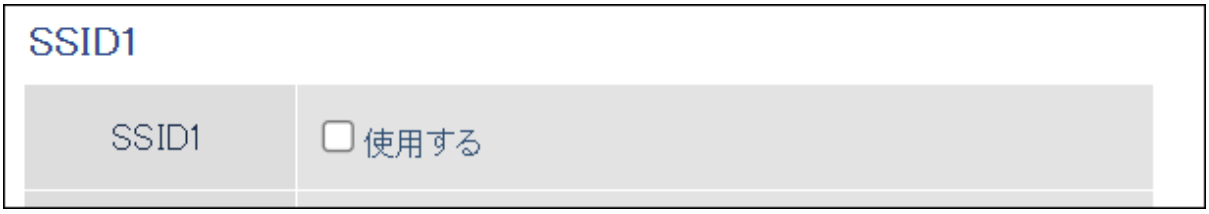
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

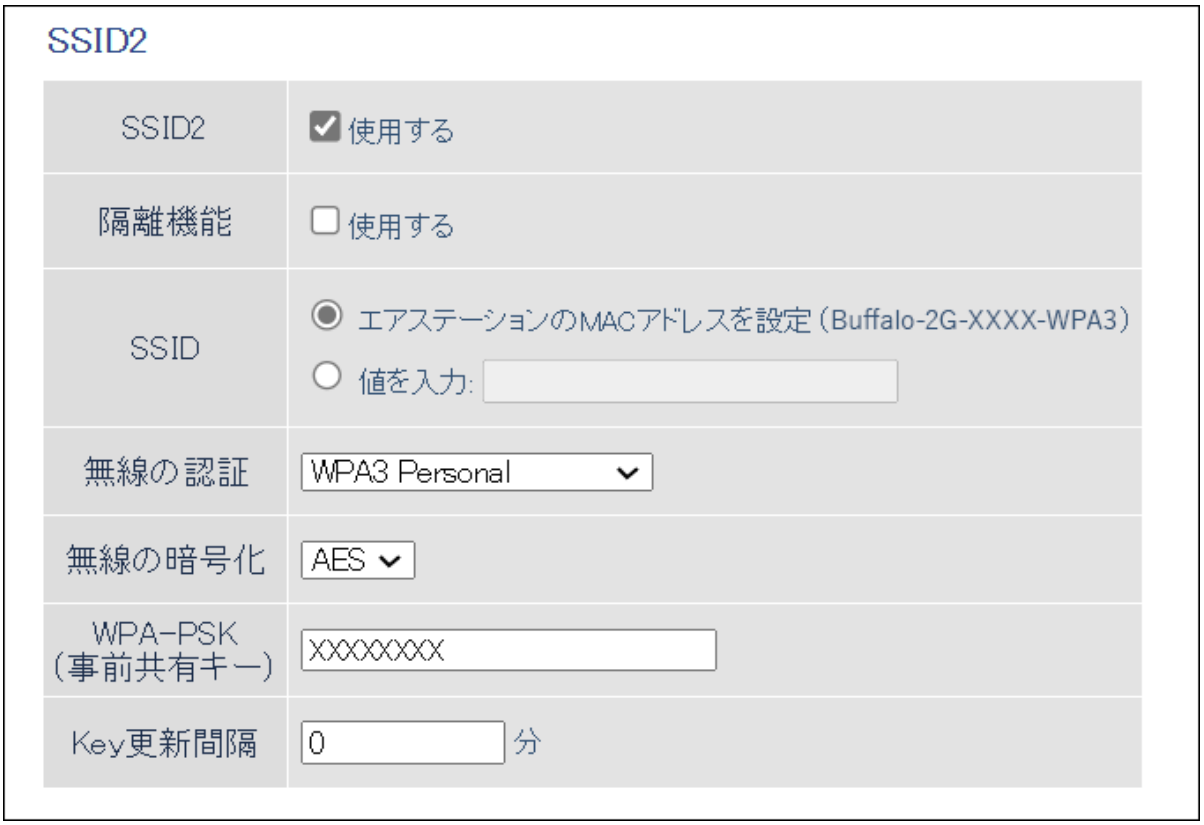
2 お使いになる周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」－「無線設定」－「2.4 GHz(11ax/n/g/b)」をクリックします。
5 GHz:　「詳細設定」－「無線設定」－「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。

3 SSID1の「使用する」のチェックを外します。



4 SSID2の「使用する」にチェックが付いており、無線の認証が「WPA3 Personal」になっていることを確認して［設定］をクリックします。



以上で設定は完了です。

インターネットに接続する機器を脅威から守る(ネット脅威ブロッカー2)

ネット脅威ブロッカー2とは

本製品は、ファームウェアバージョン1.10以降で、「ネット脅威ブロッカー2プレミアム」(本書では「ネット脅威ブロッカー2」と記載します)に対応しています。

- 「本製品のファームウェアバージョンを確認する」(P.60)
- 「本製品のファームウェアを更新する」(P.61)

本製品にバンドルされているライセンスを有効にすることで、次の機能を使用できます。

メモ:

- ライセンス認証後、ライセンスカードに記載の有効期間内は無料で使用できます。有効期間後も継続して使用する場合は、ライセンスの更新(有料)が必要です。
- 初回のライセンス認証方法は、「スマートフォンやタブレットでライセンス認証する」(P.51)および「パソコンでライセンス認証する」(P.53)を参照してください。
- ライセンスの更新方法は、「ライセンスを更新する」(P.55)を参照してください。
- 本製品の設定画面を使って設定できる機能は一部だけです。すべての機能を使用する場合は、AirStationアプリ(スマートフォン用アプリ)が必要です。
- 完全なセキュリティーを保証するものではありません。

機能名	詳細	AirStationアプリで設定できる機能	設定画面で設定できる機能
悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック	本製品が通信内容を常に監視し、危険な通信と判断した場合は、自動的に通信をブロックする機能です。	○	○
危険UPnPブロック	UPnPによるポート開放要求を常に監視し、危険なポートが開放されようとした場合は、自動的にブロックする機能です。	○	×
インターネット通信ブロック	指定したMACアドレスの機器をインターネットに接続できなくする機能です。	○	×
コンテンツフィルターPlus	お子様などに見せたくない内容や与えたくない情報を含む有害サイトなどを閲覧できないようにする機能です。	○	○
閲覧許可申請	コンテンツフィルターPlusにより閲覧を禁止されたサイトを、一時的に閲覧できるように管理者に許可申請する機能です。	○	×
利用時間統計	ユーザーが閲覧したサイトについて、カテゴリー別の統計情報を確認できる機能です。	○	×
イベントログ取得	本製品に蓄積されたイベントログを取得する機能です。	○	×
プッシュ通知	重要なイベントが発生した際に、管理者のスマートフォンやタブレットに通知する機能です。	○	×

機能名	詳細	AirStationアプリで設定できる機能	設定画面で設定できる機能
リモートアクセス	外出先でプッシュ通知を受け取ったり、外出先から上記の設定を行う機能です。	○	×

スマートフォンやタブレットでライセンス認証する

あらかじめスマートフォンやタブレットにAirStationアプリをインストールしてから以下の手順を行ってください。

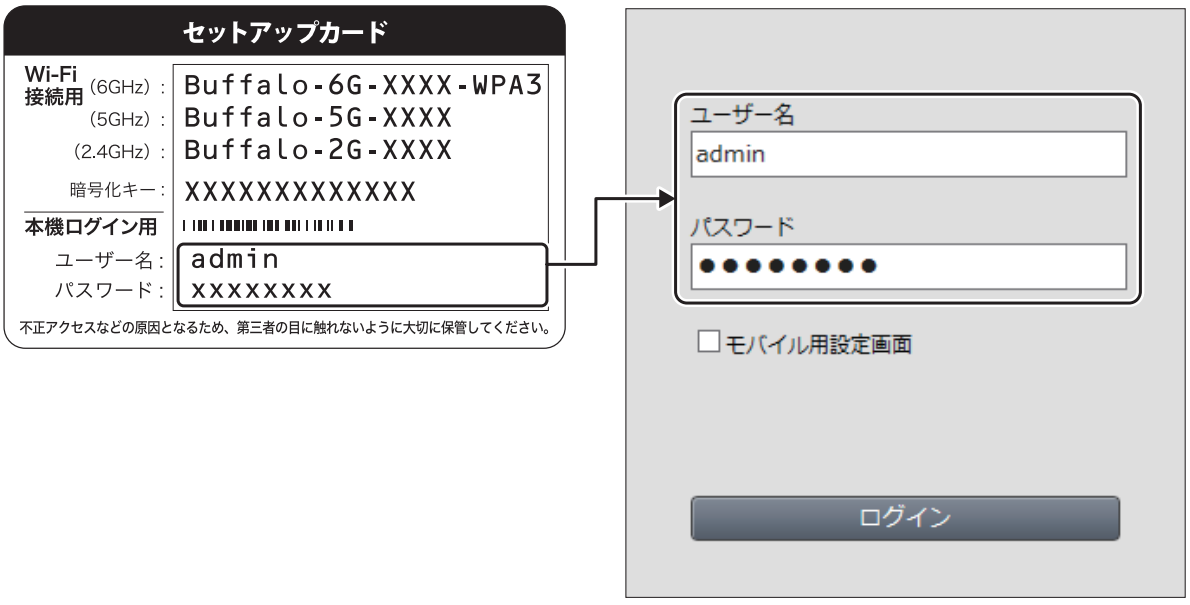
1 **AirStationアプリは、App StoreまたはGoogle Playでダウンロードできます。AirStationアプリをインストールしたスマートフォンやタブレットを本製品に接続します。**

2 **AirStationアプリ** **を起動します。**

メモ: はじめて起動したときは、「このアプリでできること」が表示されます。このようなときは、[次へ]をタップして画面を進めてください。画面に従って本製品をセットアップした場合、セットアップ中にネット脅威ブロッカー2のライセンスを有効に設定できます。その場合は、再設定の必要はありません。

3 **一覧に表示された「WXR-11000XE12」をタップします。**

4 **本体ラベル・セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をタップします。**



5 **以下の画面が表示されたら、[はい]をタップします。**



メモ:

- 上記の画面が表示されない場合は、手順4でログイン後、AirStationアプリ画面下部の[セキュリティー]をタップし、「ライセンスの有効化はこちら」をタップしてください。
- ネット脅威ブロッカー2の機能を無効にしている場合、ライセンスの有効化ができません。AirStationアプリ画面下部の[設定]をタップし、「悪質サイト・情報漏洩防御」を有効にしてください。その後、AirStationアプリ画面下部の[セキュリティー]をタップし、「ライセンスの有効化はこちら」をタップしてください。

6 **利用規約が表示されたら、内容を確認して同意できる場合は[同意する]をタップします。**

メモ: 本機能を使用するには、利用規約に同意する必要があります。

7 **「ライセンスを有効化しました」と表示された後、自動的にライセンス有効化画面が終了します。**

メモ: 「通知を送信します。よろしいですか？」と表示された場合は、[許可]をタップしてください。

以上でライセンス認証は完了です。

パソコンでライセンス認証する

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

3 「ネット脅威ブロッカー2」－「セキュリティー基本設定　コンテンツフィルターPlus」をクリックします。

4 [ライセンスの有効化]をクリックします。

メモ: ネット脅威ブロッカー2の機能を無効にしている場合、ライセンスの有効化ができません。「悪質サイト・情報漏洩ブロック」の「使用する」にチェックを入れて有効にしてください。

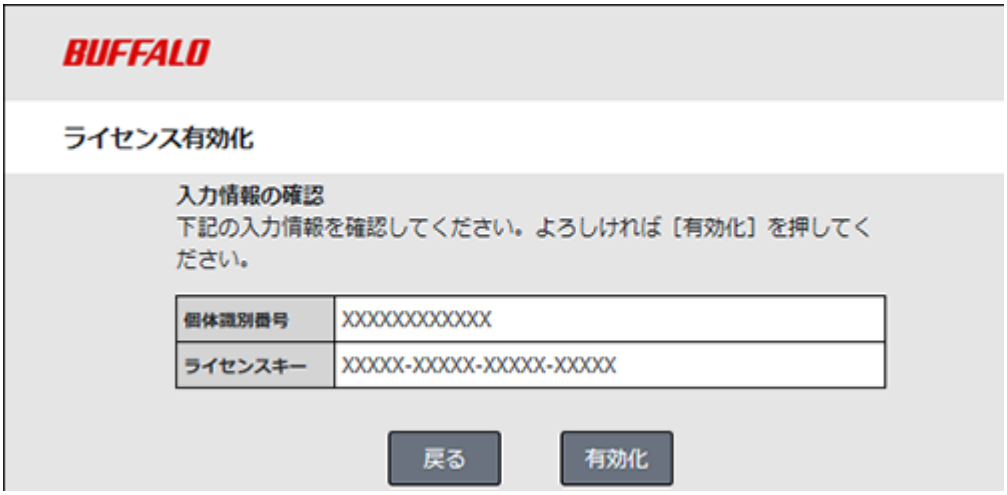
5 利用規約を確認して同意できる場合は、本製品のライセンスカードに記載されているライセンスキーを入力して、[同意して次へ]をクリックします。



メモ:

- 本機能を使用するには、利用規約に同意する必要があります。
- 個体識別情報は、本製品から取得した値が入力されますので、ライセンスキーだけを入力してください。

6 内容を確認して、[有効化]をクリックします。



7 「有効化完了」画面が表示されたら、内容を確認して、画面を閉じます。



以上でライセンス認証は完了です。

詳細な設定を行う

コンテンツフィルターPlusやプッシュ通知の設定を行う場合は、当社ホームページに掲載の「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。
https://86886.jp/airstation_app_m/

メモ: 設定方法は、AirStationアプリのバージョンアップなどにより予告なく変更になることがあります。必ず最新版の「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。

ライセンスを更新する

ライセンスの有効期限は、ライセンスカードに記載されています。ライセンスを更新する場合は、以下のように行ってください。

AirStationアプリから更新する場合

ライセンスの有効期限が1か月未満になったり、有効期限を超えたりすると、AirStationアプリのセキュリティー画面にライセンス購入を促すメッセージが表示されます。メッセージの案内に従ってライセンスを購入してください。
詳細は、当社ホームページに掲載の「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。
https://86886.jp/airstation_app_m/

本製品の設定画面から更新する場合

「セキュリティー基本設定　コンテンツフィルターPlus」(P.170)の画面で、[ライセンスを追加購入する]をクリックし、画面の指示に従ってライセンスを購入してください。

インターネットに接続できる時間を制限する（キッズタイマー）

キッズタイマー機能を使用すると、本製品に接続できる時間を機器ごとに制限できます。

メモ: キッズタイマーとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

機器の登録と基本的な設定を行う

機器の登録と基本的な設定は以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「キッズタイマー」のパネルをクリックします。

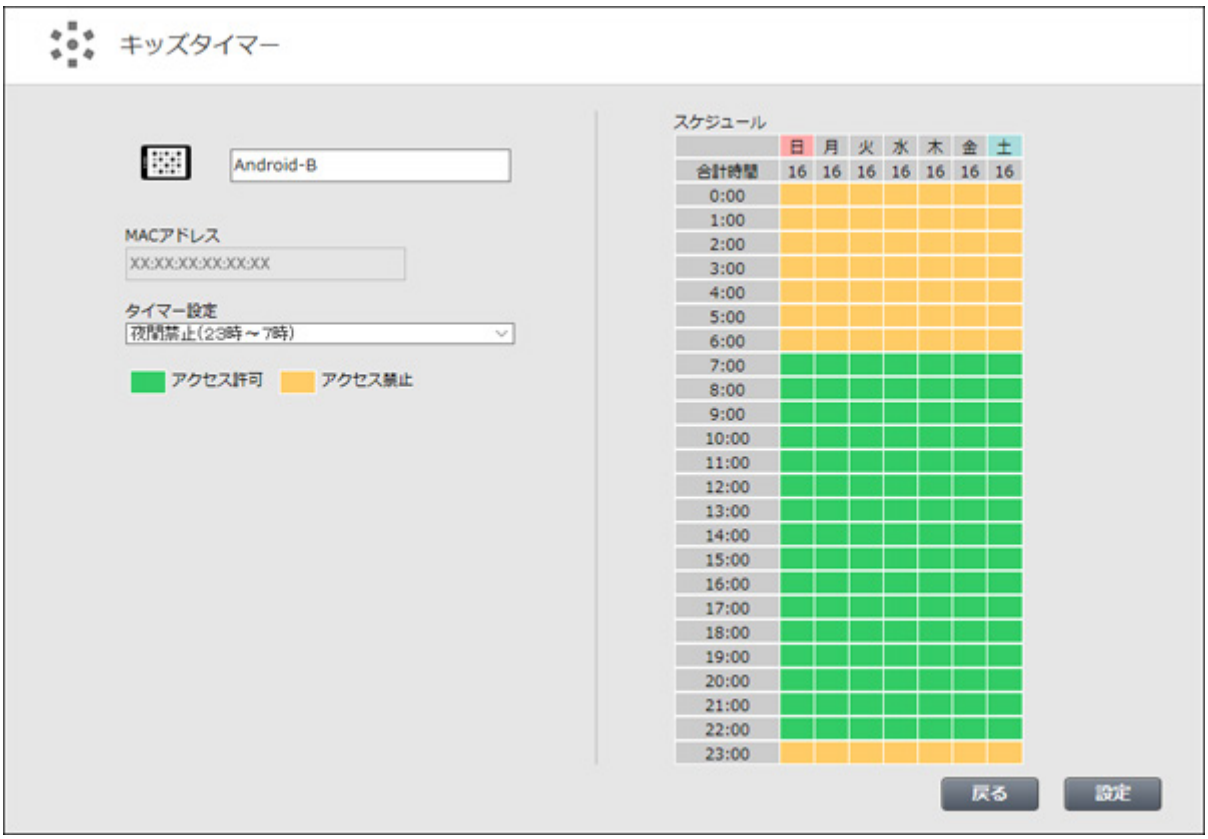
3 キッズタイマーの対象にする機器を登録します。

本製品に接続している機器を登録する場合は、「未設定端末」欄に表示されている機器をクリックします。

本製品に接続していない機器を登録する場合は、「新しい機器を追加する」をクリックします。



4 機器名、タイマー設定、スケジュールなどを設定し、[設定]をクリックします。



メモ:

- 機器名は半角英数字記号で64文字まで設定できます。
- MACアドレス欄には、キッズタイマーの対象にする機器のMACアドレスを入力します。手順3で「未設定端末」に表示されている機器を選択した場合は、その機器のMACアドレスが表示されます。
- タイマー設定の仕様は以下のとおりです。

項目	説明
制限しない	選択すると、スケジュールをすべてアクセス許可に設定します。
接続禁止	選択すると、スケジュールをすべてアクセス禁止に設定します。
夜間禁止（23時～7時）	選択すると、スケジュールの23:00～7:00をアクセス禁止、そのほかをアクセス許可に設定します。
手動設定	スケジュールを自由に設定したい場合に選択します。
＜機器名＞と同じ設定	選択すると、＜機器名＞に選んだ機器のスケジュールを反映します。

- 「＜機器名＞と同じ設定」に表示される機器名は、「手動設定」で設定した機器が対象です。
- スケジュールは、マウスのクリック/ドラッグ操作やスマートフォンのタップ操作で設定できます。

以上で設定は完了です。

機器の接続制限を一時的に解除する

キッズタイマーで「制限端末」に設定された機器の接続制限を一時的に解除したい場合は、以下の手順で設定します。

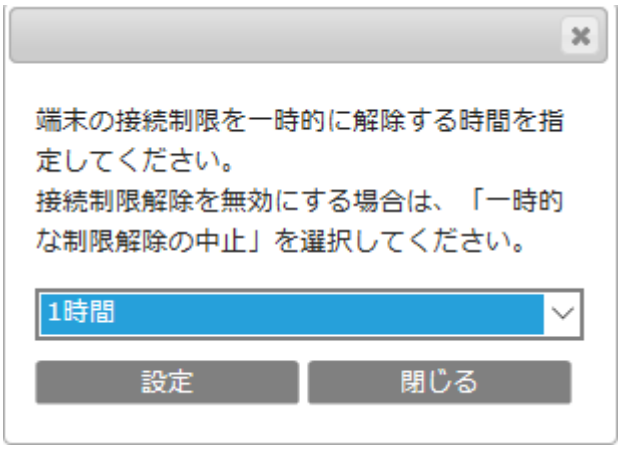
メモ: 以下の設定を行っても、「接続禁止端末」に設定されている機器の接続制限は継続されます。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「キッズタイマー」のパネルの［一時的な制限解除］をクリックします。

3 接続制限を解除する時間を選択して、［設定］をクリックします。



以上で設定は完了です。

管理パスワードを変更する

管理パスワード（設定画面のパスワード）は、出荷時設定では製品ごとに固有のパスワード（本体ラベル・セットアップカードに記載されている「本機ログイン用」の「パスワード」）が設定されています。
管理パスワードを変更したい場合は、以下の手順で設定してください。

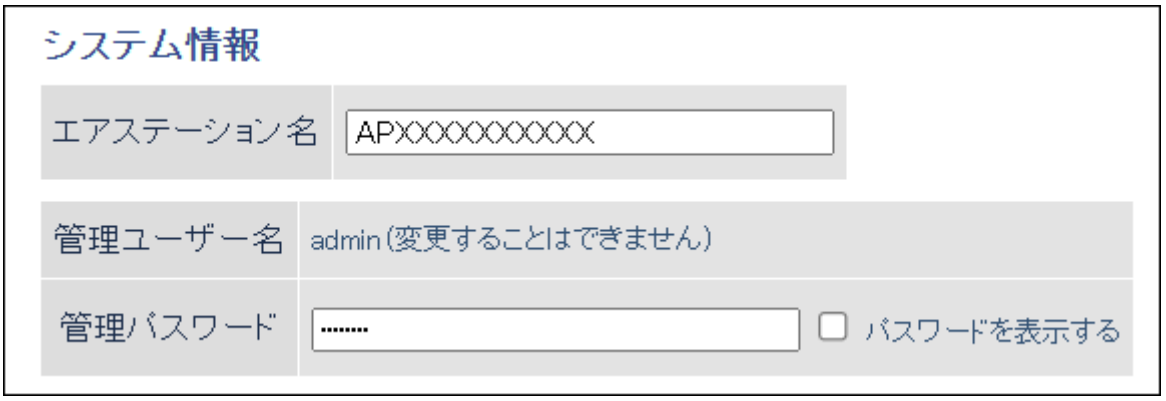
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「システム設定」をクリックします。

3 「管理パスワード」に新しいパスワードを入力し、画面を下にスクロールして［設定］をクリックします。

管理パスワードは、半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。
変更した管理パスワードを忘れると設定画面を表示できなくなりますので、必ず控えをとってください。



メモ:

- 生年月日や名前など、第三者から類推されやすい単語は管理パスワードに設定しないでください。
- 管理パスワードを忘れた場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが白色に点滅するまで先の細いもの（つまようじなど）で約3秒間長押しして、本製品を初期化してください。その場合、パスワード以外の設定（インターネット設定やWi-Fi接続設定など）も初期化されます。

以上で設定は完了です。

本製品のファームウェアバージョンを確認する

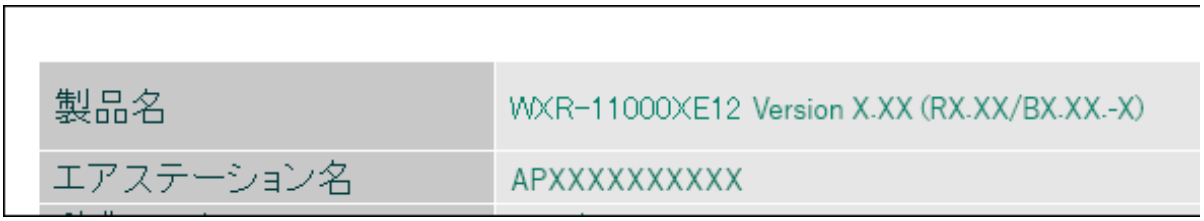
本製品のファームウェアのバージョンは、以下の手順で確認できます。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」をクリックします。

3 ファームウェアのバージョンを確認します。



メモ: 製品名欄の「Version X.XX」の部分がファームウェアのバージョンです。

本製品のファームウェアを更新する

自動的に更新する場合

新しいファームウェアが公開された際に自動的に更新する場合は、以下の手順で設定してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「管理」−「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェア自動更新機能で「常に最新版に更新する」と更新時刻を設定し、[設定]をクリックします。



メモ:

- 本製品の時刻設定が正しくない場合(画面に  が表示されている場合)は、「管理」−「システム設定」の画面で「NTP機能」の「使用する」にチェックを入れてください。
- ファームウェア更新中は、再起動などにより、本製品に接続している機器が一時的に切断されます。そのため、更新時刻は、本製品を使用していない時間帯に設定することをおすすめします。
- 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中(POWERランプが白色と橙色に交互に点滅中)は、本製品の電源をOFFにしないでください。

以上で設定は完了です。
設定後に新しいファームウェアがリリースされた場合、上記で設定した時間帯に更新が行われます。

手動で更新する場合

本製品をお使いの方が、お好みのタイミングでファームウェアを更新したい場合は、以下の手順で設定してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェアを更新します。

ファームウェアファイルがある場合は、[ファイルの選択]をクリックしてファームウェアファイルを選択し、[更新実行]をクリックします。
ファームウェアファイルがない場合は、「オンラインバージョンアップ」を選択し、[更新実行]をクリックして画面の指示に従ってください。



メモ: 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中(POWERランプが白色と橙色に交互に点滅中)は、本製品の電源をOFFにしないでください。

以上で設定は完了です。

スマートフォンから更新する場合

本製品はAirStationアプリによるファームウェアの更新に対応しています。実施方法は「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。
https://86886.jp/airstation_app_m/

通信サービスの種類に応じて帯域幅を制御する（アドバンスドQoS）

本製品は、通信の用途に応じて帯域幅を自動的に制御するアドバンスドQoS機能に対応しています。アドバンスドQoSの設定を有効にすることで、YouTubeなどのビデオストリーミングやFaceTimeなどのボイスチャット、オンラインゲームの通信を途切れにくくできます。
ここでは例として、FaceTimeなどによるボイスチャット（テレビ電話）がコマ落ちしないようにする設定例を紹介します。

メモ:

- アドバンスドQoSは、アプリやサービスの特性を自動的に認識して最適な制御を行いますが、すべてのアプリ、サービスに対応しているわけではありません。
- アドバンスドQoS設定は、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。
- アドバンスドQoS設定の、使用する／使用しないを切り替える際、Wi-Fi機器の接続が一度切断されます。

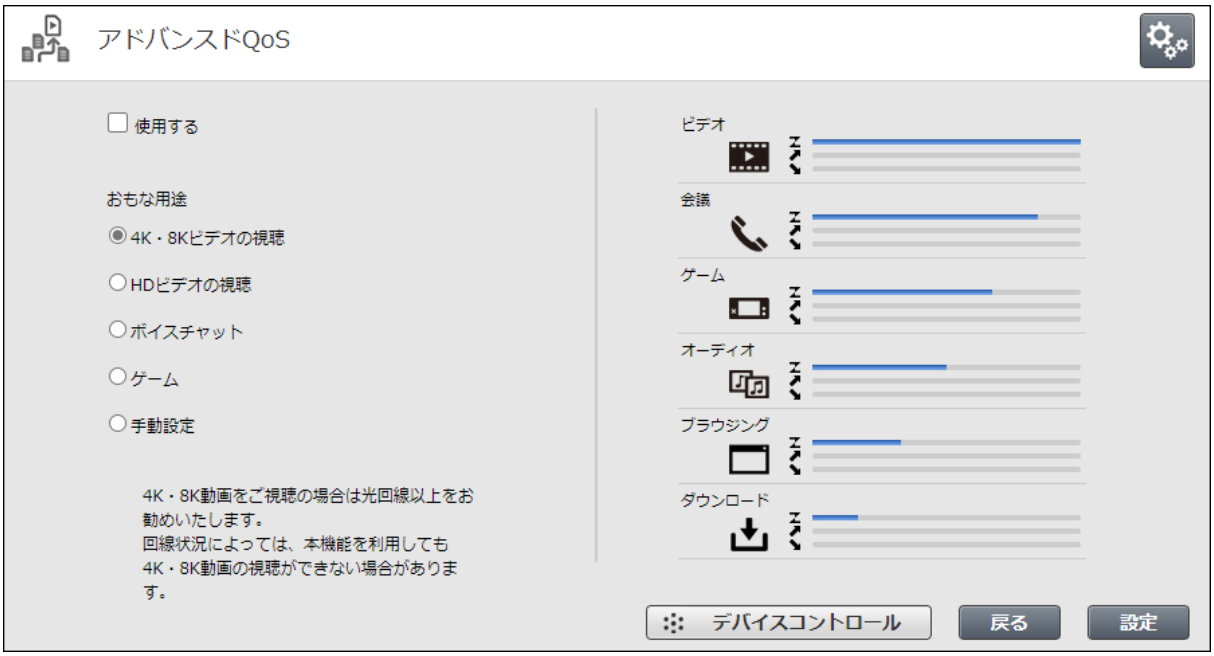
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「アドバンスドQoS」のパネルをクリックします。

3 「使用する」にチェックを入れます。

4 アドバンスドQoSの設定を行って、[設定]をクリックします。



ここでは以下のように設定します。
アドバンスドQoS-使用する
おもな用途-ボイスチャット

メモ:

- おもな用途の各項目は、具体的には以下のようなサービスを示します。
  4K・8Kビデオの視聴:
  4K・8Kビデオのストリーミング通信

  HDビデオの視聴:
  HDビデオのストリーミング通信

  ボイスチャット:
  ボイスチャット通信(例: FaceTimeなど)

  ゲーム:
  オンラインゲームに関する通信(例: PlayStation 4での通信など)

  手動設定:
  詳細設定画面で設定した内容に従います。
- 画面右のグラフで、実際の通信優先度がどのように制御されるかをイメージできます。
   :
  各カテゴリーの優先度を表します。

   :
  各カテゴリーのアップロード(上り方向)の速度を表します。

   :
  各カテゴリーのダウンロード(下り方向)の速度を表します。

  ビデオ:
  ビデオストリーミング通信を表します。

  会議:
  FaceTimeなどのボイスチャット通信を表します。
  ゲーム:
  PlayStation 4での通信などのオンラインゲームに関する通信を表します。

  オーディオ:
  SHOUTcastなどのオーディオストリーミング通信を表します。

  ブラウジング:
  インターネットブラウザーを使用したブラウジング全般に関する通信を表します。

  ダウンロード:
  P2Pアプリケーションなど、上記の5項目以外の全般的なダウンロードに関する通信を表します(HTTP、FTPサーバーからのダウンロードは、「ブラウジング」に分類されます)。

以上で設定は完了です。

来訪者向けWi-Fi設定を行う（ゲストポート設定）

本製品では、通常のネットワークから隔離された別のWi-Fiネットワーク（ゲストポート）を設定できます。このゲストポートを活用することで、すでに設定してある自宅のネットワークのセキュリティーを保ちつつ、来訪者に対してインターネット環境を提供できます。

メモ:

- ゲストポートは、インターネットにのみ接続できるネットワークです。ゲストポート側からほかのネットワークにアクセスできません。
- ゲストポートに接続した機器は、IPv6通信できません。
- EasyMeshでメッシュネットワークを構築している場合、コントローラのゲストポート設定は、エージェントに引き継がれません（エージェントをゲストポートとして使用できません）。コントローラとWi-Fi接続できる範囲で、コントローラのゲストポートに接続してお使いください。

来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合

ここでは例として、かんたんにゲストポートを有効にする手順を説明します。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「ゲストポート」を「On」に切り替えます。



ゲストポートを「On」に切り替えることで、以下の設定が行われます。
ユーザー認証-Off
利用可能時間-3時間
SSID-Guest-XXXX（MACアドレスの下4桁）
暗号化設定-なし

メモ:

- 暗号化設定や利用可能時間を変更する場合は、上記の画面で「ゲストポート」のパネルをクリックしてください。
- 高度な設定を行いたい場合は、「ゲストポートの高度な設定を行う場合」(P.66)を参照してください。

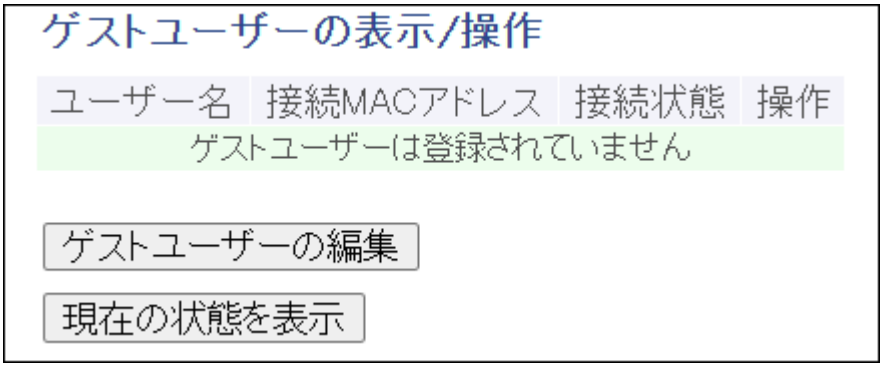
ゲストポートの高度な設定を行う場合

1 **本製品の設定画面を表示します。**

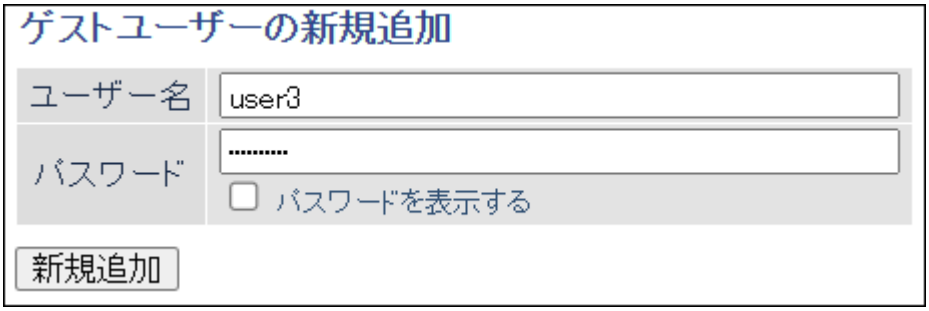
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 **「詳細設定」－「無線設定」－「ゲストポート」をクリックします。**

3 **[ゲストユーザーの編集]をクリックします。**



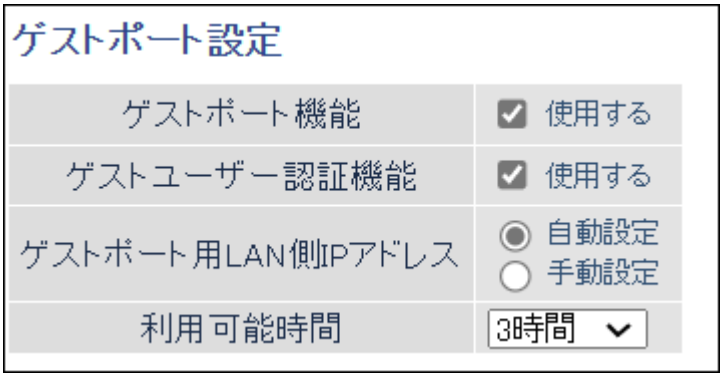
4 **ゲストユーザーを設定し、[新規追加]をクリックします。**



メモ: ゲストユーザーは5人まで登録できます。

5 **[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。**

6 **ゲストポート機能とゲストユーザー認証機能を「使用する」に設定し[設定]をクリックします。**



メモ: 来訪者がネットワークに接続すると、ユーザー名とパスワードが求められますので、手順4で設定したユーザー名とパスワードを入力してください。

以上で設定は完了です。

Wi-Fiチャンネルを変更する

本製品は、電波混雑防止機能により、ほかの機器が使用していないチャンネルを検索して自動的に割り当てるため、通常はWi-Fiチャンネルを設定する必要はありません。ただし、周囲に多くのWi-Fi機器がある場合、Wi-Fi機器から出るノイズの影響などにより、通信が途切れたり、通信速度が低下するなどの現象が発生することがあります。
その場合は、Wi-Fiチャンネルを変更することで改善できることがあります。

メモ: Wi-Fiで設定している場合、本製品との接続が一時的に切断されますが、しばらくすると自動的に本製品に再接続され通信できるようになります。

1 本製品の設定画面を表示します。

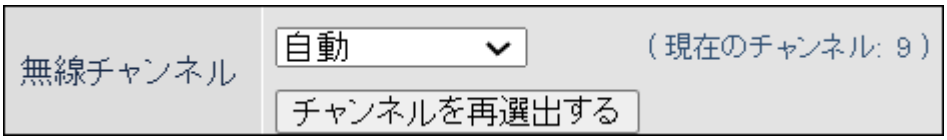
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 Wi-Fiチャンネルを変更する周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」−「無線設定」−「2.4 GHz(11ax/n/g/b)」をクリックします。
5 GHz:　「詳細設定」−「無線設定」−「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。
6 GHz:　「詳細設定」−「無線設定」−「6 GHz(11ax)」をクリックします。

3 「無線チャンネル」が「自動」の場合、[チャンネルを再選出する]をクリックすると、最適なWi-Fiチャンネルが再設定されます。

「無線チャンネル」を「自動」以外に設定するときは、任意のチャンネルを選択して[設定]をクリックしてください。

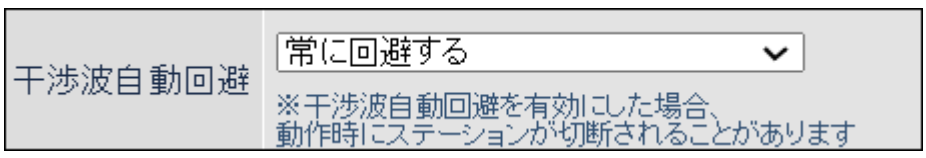


メモ: 「無線チャンネル」を「自動」以外に設定するときは、以下の点に注意してください。

- 設定するチャンネルによっては、ほかのWi-Fi機器と電波干渉を起こすことがあります。
- 隣接するWi-Fi機器に異なるチャンネルを設定するとき、近い周波数(隣りあったチャンネルなど)では、互いに干渉し転送速度が低下してしまうことがあります。
- 5 GHzのチャンネルで52チャンネル以上を設定した場合、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的にほかのWi-Fiチャンネルへ変更されます。その際、1分程度Wi-Fi通信ができなくなります。
- W52(36/40/44/48チャンネル)、W53(52/56/60/64チャンネル)、および6 GHz(191/195/199/203/207/211/215/219/223/227/231/235/239/243/247/251/255/259/263/267/271/275/279/283チャンネル)は、電波法により屋外での使用は禁止されています。
- 2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
- 本製品は191〜283チャンネルに対応していますが、一般的な6 GHz対応のWi-Fi機器は、195, 211, 227, 243, 259, 275チャンネル(推奨チャンネル)のみ使用できます。

以上で設定は完了です。

上記の設定を行っても、通信が途切れたり、通信速度が低下したりするなどの現象が頻繁に発生する場合は、上記の手順3の画面で干渉波自動回避を「常に回避する」に設定してください。



メモ: 干渉波自動回避は、6 GHzにはありません。

空いている帯域へ機器を誘導し、電波の混雑を回避する（バンドステアリング機能）

バンドステアリング機能を使用すると、本製品は帯域（2.4 GHz、5 GHz、6 GHz）の混み具合を確認し、空いている帯域に接続できるよう機器を誘導します。

メモ:

- 2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯のいずれかにしか対応していない機器で本機能を使用すると、機器の対応バンドでのみ通信を行います（機器が対応していないバンドには切り替わりません）。
- EasyMesh機能とバンドステアリング機能を同時に使用することできません。

バンドステアリング機能を設定する

以下の手順でバンドステアリング機能を設定します。

1 本製品の設定画面を表示します。

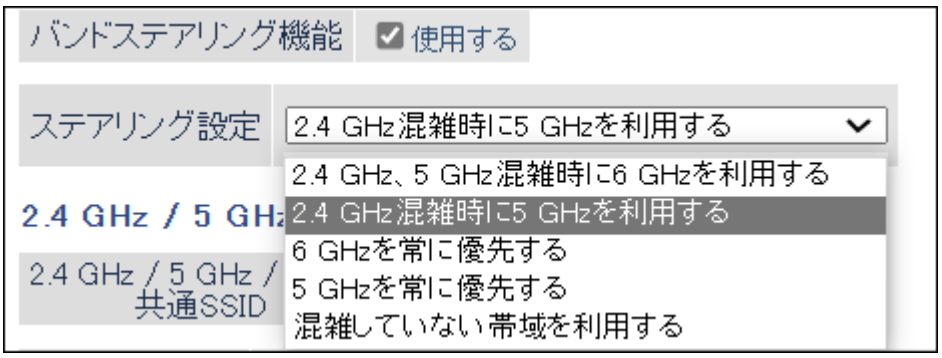
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 [詳細設定] – [無線設定] – [バンドステアリング]をクリックします。

3 「バンドステアリング機能」の「使用する」にチェックを入れます。



4「ステアリング設定」を選択します。



動作	内容
2.4 GHz、5 GHz混雑時に6 GHzを利用する	6 GHz対応機器で、安定した通信を行いたい場合におすすめの設定です。機器が2.4 GHzまたは5 GHz帯に接続している場合は、2.4 GHzまたは5 GHz帯が混雑すると自動的に機器を6 GHzに再接続させます。機器が6 GHz帯に接続している場合は、接続先を変更しません。
2.4 GHz混雑時に5 GHzを利用する	安定した通信を行いたい場合におすすめの設定です。機器が2.4 GHz帯に接続している場合は、2.4 GHz帯が混雑すると自動的に機器を5 GHzに再接続させます。機器が5 GHz帯に接続している場合は、接続先を変更しません。
6 GHzを常に優先する	電波の混雑状況にかかわらず、必ず6 GHz帯に機器を接続させます。機器のWi-Fi機能をONにしたとき、自動的に6 GHz帯につながらずお困りの方におすすめの設定です。
5 GHzを常に優先する	電波の混雑状況にかかわらず、必ず5 GHz帯に機器を接続させます。機器のWi-Fi機能をONにしたとき、自動的に5 GHz帯につながらずお困りの方におすすめの設定です。
混雑していない帯域を利用する	2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯を比較して、より混雑していない帯域に機器を接続させます。混雑状況に差がない場合、2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯の接続変更が頻繁に発生する場合があります。

5［設定］をクリックすると、設定が保存されます。

以上で設定は完了です。

メモ:

- 帯域が切り替わると、機器が一時的に本製品から切断されます。しばらくすると、本製品に再接続されます。
- 帯域の切り替え後、約10分間は次の切り替えを行いません。
- 通信中の機器に対しては、帯域の切り替えを行いません。通信が終了してから帯域の切り替えを行います。

2.4 GHz/5 GHz/6 GHz共通SSIDを設定する

バンドステアリング機能を利用するには、機器が2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯で本製品に接続できる状態にしておく必要があります。本製品では2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯で共通のSSIDを設定できます。このSSIDに接続することで、バンドステアリング機能の動作に従って適切な帯域に切り替えられます。
以下の手順に従って、共通SSIDを設定してください。

メモ:

- 一部の機器では、AOSSボタンを押して接続設定した場合や、2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯で別々のSSIDを設定している場合、バンドステアリング機能が正しく動作しないことがあります。そのような場合も、以下の手順で接続設定を行ってください。
- EasyMesh機能を有効にしている場合、2.4 GHz/5 GHz/6 GHz共通SSIDを使用できません。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

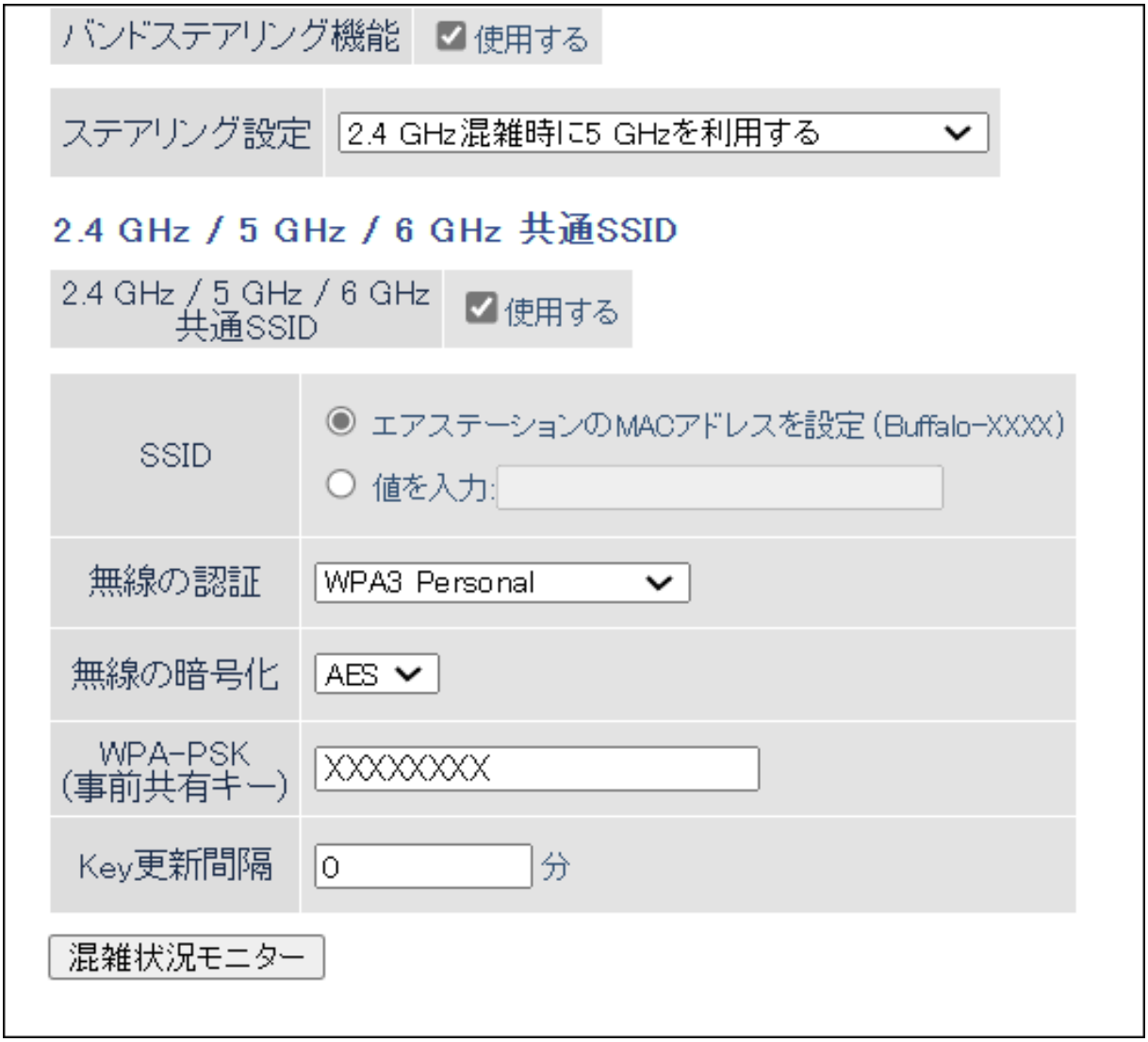
2 [詳細設定] – [無線設定] – [バンドステアリング]をクリックします。

3 「2.4 GHz/5 GHz/6 GHz共通SSID」の「使用する」にチェックを入れます。

4 「エアステーションのMACアドレスを設定」または「値を入力」を選択し、SSIDを設定します。

5 「無線の認証」「無線の暗号化」でそれぞれ任意の項目を選択します。ここでは例として、無線の認証を「WPA3 Personal」、無線の暗号化を「AES」に設定します。

6 「WPA-PSK（事前共有キー）」に任意のパスワードを入力します。



7 ［設定］をクリックすると、設定が保存されます。

8 「第１章　本製品の概要と使い方」（P.9）を参照して、上記で設定したSSIDに接続します。

以上で設定は完了です。

機器ごとに異なる設定を割り当てる

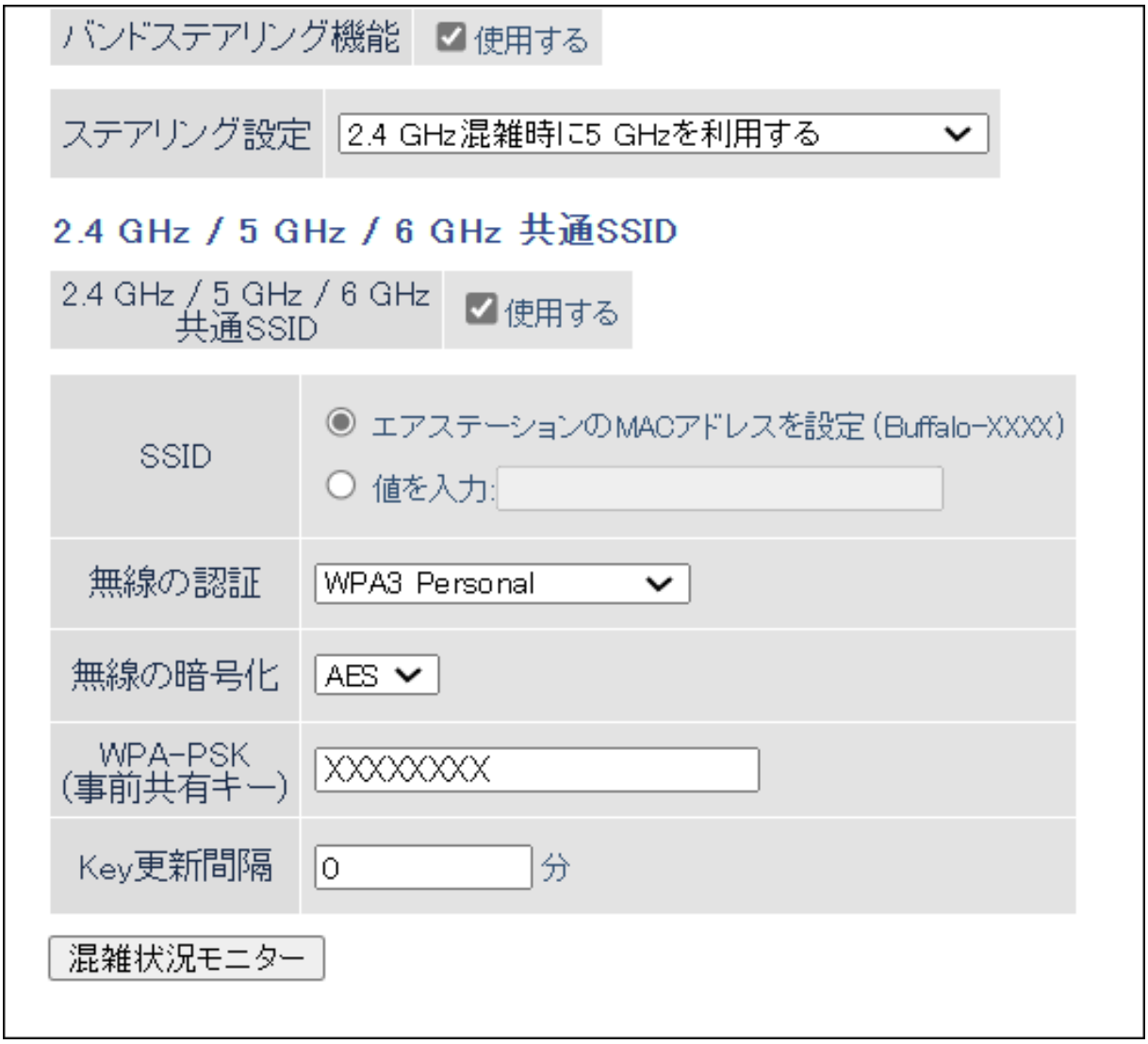
本製品に接続している機器それぞれに、異なる設定を割り当てることができます。
これにより、本製品の近くが混雑している場合は、6 GHz帯を優先したり、本製品の近くで通信する機器は5 GHz帯を優先したり、本製品から離れた、2.4 GHz帯でしか届かない場所で通信する機器はバンドステアリングを無効にしたりするなどの設定を行うことができます。

1 本製品の設定画面を表示します。

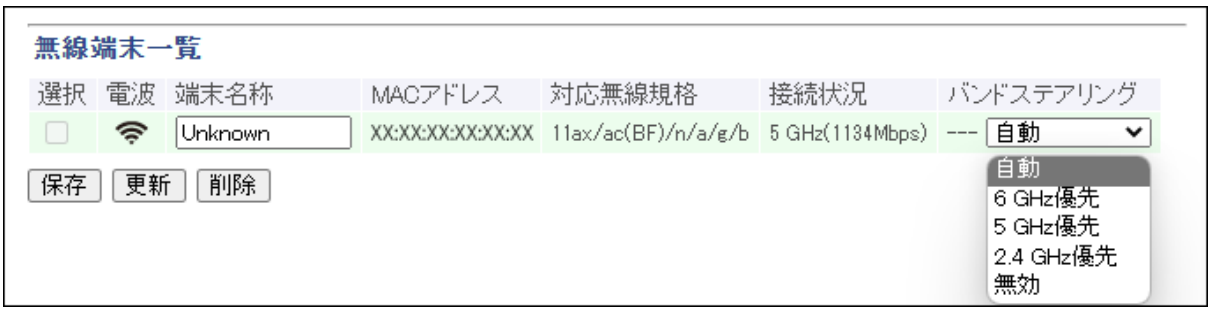
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 [詳細設定]－[無線設定]－[バンドステアリング]をクリックします。

3 [混雑状況モニター]をクリックします。



4「無線端末一覧」で設定を変更したい機器の「バンドステアリング」の項目を変更します。



動作	内容
自動	「バンドステアリング設定」で設定した動作を行います。
6 GHz優先	混雑状況に関わらず、必ず6 GHz帯に接続します。
5 GHz優先	混雑状況に関わらず、必ず5 GHz帯に接続します。
2.4 GHz優先	混雑状況に関わらず、必ず2.4 GHz帯に接続します。
無効	バンドステアリング機能を無効にします。

5［保存］をクリックし、［戻る］をクリックします。

6「バンドステアリング機能」の「使用する」にチェックを入れます。



7［設定］をクリックすると、設定が保存されます。

以上で設定は完了です。

AOSS接続を解除する

ANY接続拒否設定やMACアクセス制限の設定を行うには、一度AOSS接続を以下の手順で解除する必要があります。
AOSS接続を解除すると、本製品のSSIDや暗号化キーは、AOSS接続を行う前の値に戻るとともに、本製品に接続していたすべてのWi-Fi機器が本製品から切断されます。各機器の取扱説明書を参照して、もう一度Wi-Fi機器を本製品に接続してください。

1 **本製品の設定画面を表示します。**

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 **「詳細設定」－「無線設定」－「AOSS」をクリックします。**

3 **AOSS接続解除ボタン**  **をクリックします。**



以上で設定は完了です。

ほかの機器から本製品を検索できなくする（ANY接続拒否設定）

本製品にWi-Fi接続するには、SSIDと暗号化キーが必要です。ANY接続拒否設定を行うと、本製品のSSIDが隠蔽されて、ほかのWi-Fi機器から本製品を検索できなくなるため、外部からの不正アクセスを受けにくくできます。
設定は、以下の手順で行います。

メモ:

- AOSS接続を使用しているとANY接続拒否設定はできません。以下の設定を行う前に、「AOSS接続を解除する」(P.74)を参照してあらかじめ設定を変更してください（以下の設定を行った後にAOSSを使ってWi-Fi接続すると、ANY接続の拒否設定が解除され、「許可する」に戻ります）。
- 以下の設定を行って本製品のSSIDを隠蔽しても、暗号化設定がされていないと外部からの不正アクセスを受けることがあります。暗号化設定を解除しないでください。
- ANY接続を無効にした周波数帯では、WPS接続を実行できません。
- EasyMeshでメッシュネットワークを構築している場合、ANY接続拒否設定は使用できません（コントローラ側で設定は可能ですが、エージェントには引き継ぎされません）。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 お使いになる周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」－「無線設定」－「2.4 GHz(11ax/n/g/b)」をクリックします。
5 GHz:　「詳細設定」－「無線設定」－「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。
6 GHz:　「詳細設定」－「無線設定」－「6 GHz(11ax)」をクリックします。

3 ANY接続の「許可する」のチェックを外して［設定］をクリックします。



以上で設定は完了です。

アクセスできる機器を制限する（MACアクセス制限）

本製品に接続するWi-Fi機器のMACアドレスをあらかじめ登録しておき、その機器のみ本製品へのアクセスを許可できます。設定は以下の手順で行います。

メモ:

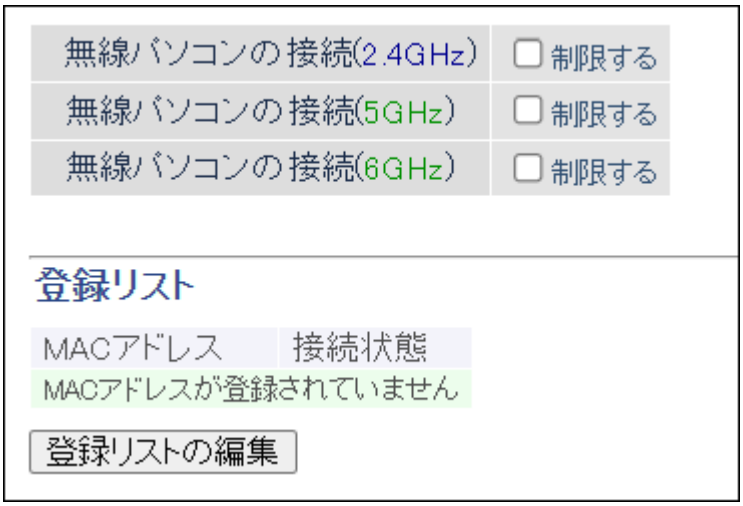
- AOSSとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を設定する場合は、「AOSS接続を解除する」(P.74)を参照して本製品の設定を変更してください。
- キッズタイマー動作中は、MACアクセス制限は行われません。

1 本製品の設定画面を表示します。

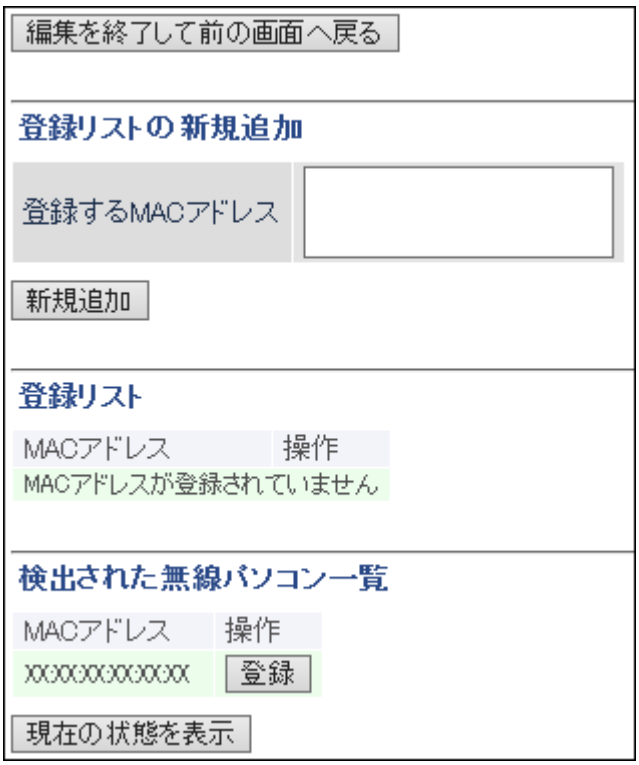
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

3 [登録リストの編集]をクリックします。

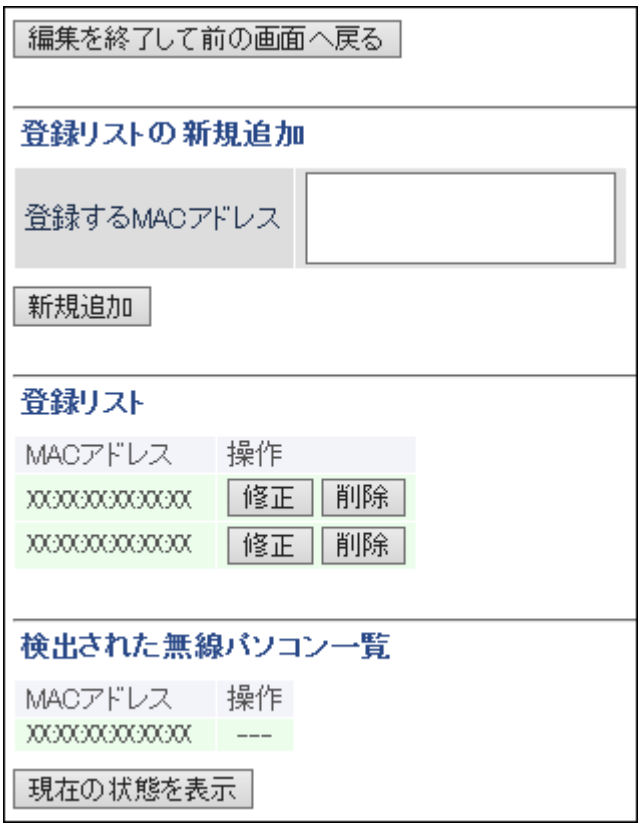


4 Wi-Fiで接続できる機器を指定します。「検出された無線パソコン一覧」には、現在接続されている機器のMACアドレスが表示されています。接続できるようにする機器のMACアドレスのみを、[登録]をクリックして登録します。



「検出された無線パソコン一覧」に表示されていない機器を登録する場合は、「登録するMACアドレス」欄に接続する機器のMACアドレスを入力し、[新規追加]をクリックします。MACアドレスを入力するときは、2桁ずつコロン(:)で区切って入力します。登録できるMACアドレスは64個までです。
例)12:34:56:78:90:AB

5 登録が終わったら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。



6 「制限する」にチェックを入れ、[設定]をクリックします。



メモ: 本設定はWi-Fiの周波数帯ごとに設定できます。

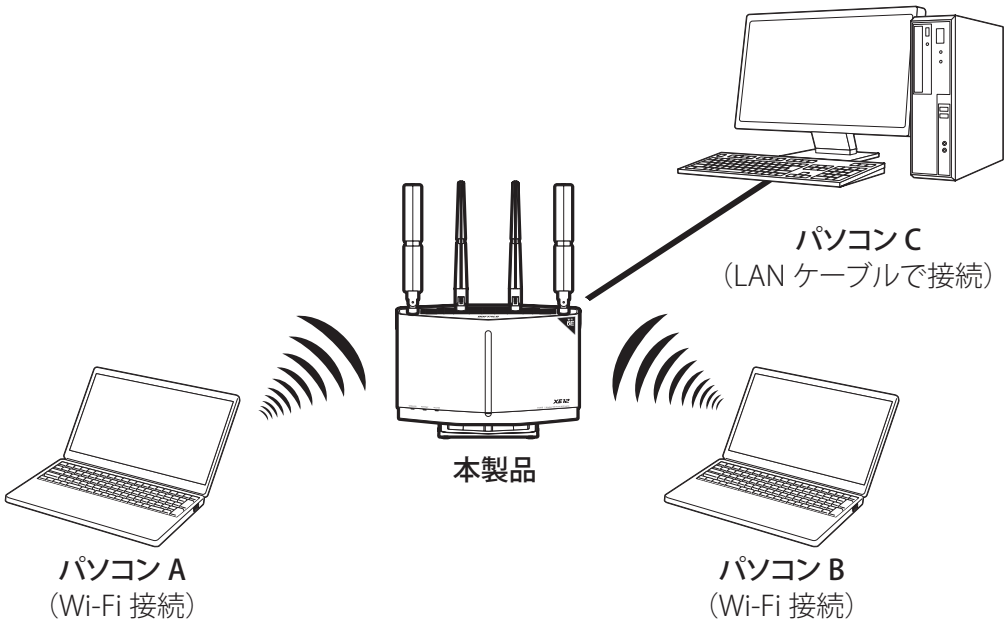
7 「無線パソコンのMACアクセス制限を有効にします」と表示されたら、[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

機器同士のWi-Fi通信を禁止する（プライバシーセパレーター）

プライバシーセパレーター機能を使用すると、本製品にWi-Fi接続している機器同士の通信（共有フォルダーなどへのアクセス）を禁止できます。

メモ: 本製品にLANケーブルを使って接続している機器がある場合は、プライバシーセパレーターを有効にしても、アクセスを禁止できません。たとえば、以下の図のような接続の場合、プライバシーセパレーターを有効にすることで、パソコンA－B間で共有フォルダーへのアクセスはできなくなりますが、パソコンA－C間やパソコンB－C間はアクセスできます。



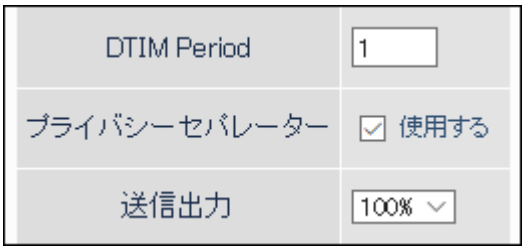
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 お使いになる周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」－「無線設定」－「2.4 GHz(11ax/n/g/b)」をクリックします。
5 GHz:　「詳細設定」－「無線設定」－「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。
6 GHz:　「詳細設定」－「無線設定」－「6 GHz(11ax)」をクリックします。

3 「プライバシーセパレーター」欄の「使用する」をクリックしてチェックを入れ、[設定]をクリックします。



以上で設定は完了です。

ポートを開放する（ポート変換設定）

ポート変換設定を行うと、インターネットゲームを楽しんだり各種サーバーを公開したりできます。

メモ:

- サーバーを公開する場合、固定グローバルIPアドレスの取得およびプロバイダーと別途契約が必要な場合があります。
- 手順はお使いの環境によって異なります。

  ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合は、下記手順を参照してください。
  利用するポート番号が不明な場合は、「利用するポート番号が不明な場合」(P.83)を参照してください。
- ルーター機能を停止している場合(「ルーター機能を停止する」(P.109))は、下記手順は設定できません。

ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

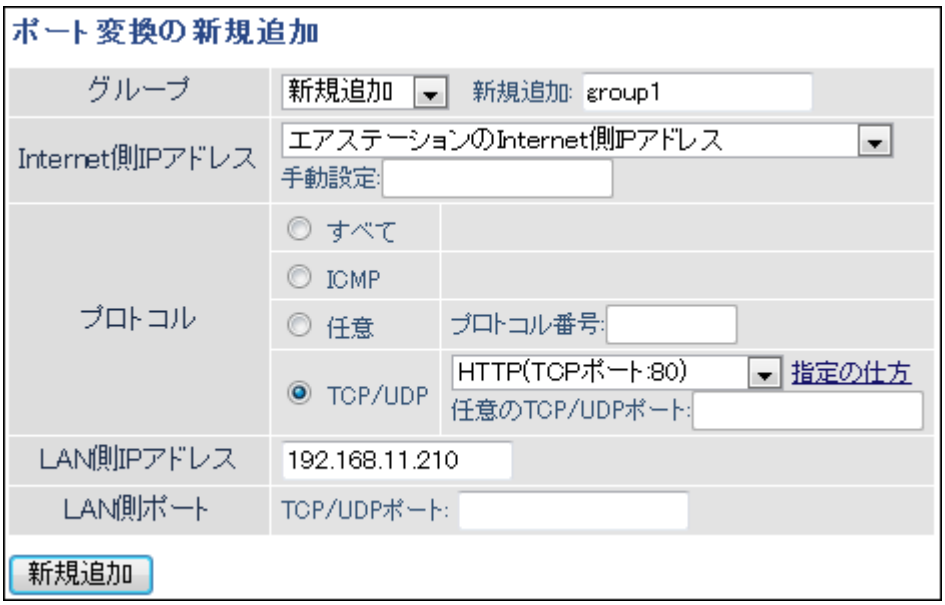
- 「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「ルーターセキュリティー」−「ポート変換」をクリックします。

3 各項目を設定し、[新規追加]をクリックします。



項目	説明
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択すると、新たなグループを作成し、そのグループに追加されます。新規追加時には半角英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。
Internet側IPアドレス	公開する各種サーバーの固定グローバルIPアドレスを設定します。インターネット側IPアドレスをPPPoEサーバーから取得している場合は各PPPoE接続先のインターネット側IPアドレスを設定します。手動設定を選択したときは、手動設定欄にIPアドレスを指定する必要があります。プロバイダーから複数の固定グローバルIPアドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で本製品のインターネット側IPアドレスに設定してあるアドレス以外のグローバルIPアドレスを設定できます。
プロトコル	アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。[TCP/UDP]を選択したときは、ポートを設定します。
LAN側IPアドレス	インターネットからのアクセスの宛先となるプライベートIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	変換プロトコルでTCP/UDPを指定し、単独のポート番号を指定したときは、LAN側のポート番号を変更できます。

以上の設定の組み合わせにより、最大32種類の組み合わせを設定できます。

メモ: WWW(HTTP)サーバーを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意のLAN側のWWWサーバーIPアドレスに転送できます。
グループ:任意の名称(例:group1)を入力します。
Internet側IPアドレス:[エアステーションのInternet側IPアドレス]を選択します。
プロトコル:TCP/UDPを選択し、[HTTP(TCPポート:80)]を選択します(任意のTCP/UDPポートは空欄)。
LAN側IPアドレス/LAN側ポート:LAN側IPアドレスは、サーバーIPアドレス(例:192.168.11.210)を入力します。LAN側ポートは、空欄にします。

4 設定内容が登録されていることを確認します。



以上で設定は完了です。

利用するポート番号が不明な場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「ルーターセキュリティー」−「DMZ」をクリックします。

3 DMZのアドレスを設定し、[設定]をクリックします。



メモ:

- DMZのアドレスは、インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送されるLAN上のIPアドレスです。ここで設定されたIPアドレスの機器でのみ、ネットワークゲームなどを利用できます。
- ポート変換の設定で[LAN側IPアドレス]を設定した場合は、そちらの設定が優先されます。
- DMZを使用する場合は、機器側のIPアドレスをここで設定した値に固定する必要があります。
- 使用するソフトや契約しているプロバイダーによっては、DMZを設定してもソフトウェアが動作しない場合があります。
- DMZに設定した機器は、ほかのパソコンに比べてセキュリティーが低下するため、重要なデータなどをその機器に保存しないことをおすすめします。
- 安全のため、ファイアウォールの設定画面で、「NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する」を有効にしておくことをおすすめします。

以上で設定は完了です。

本製品のIPアドレスを変更する

エアステーション設定ツールを使用すると、本製品のIPアドレスを変更できます。ここでは、エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更方法について説明します。

Windowsをお使いの場合

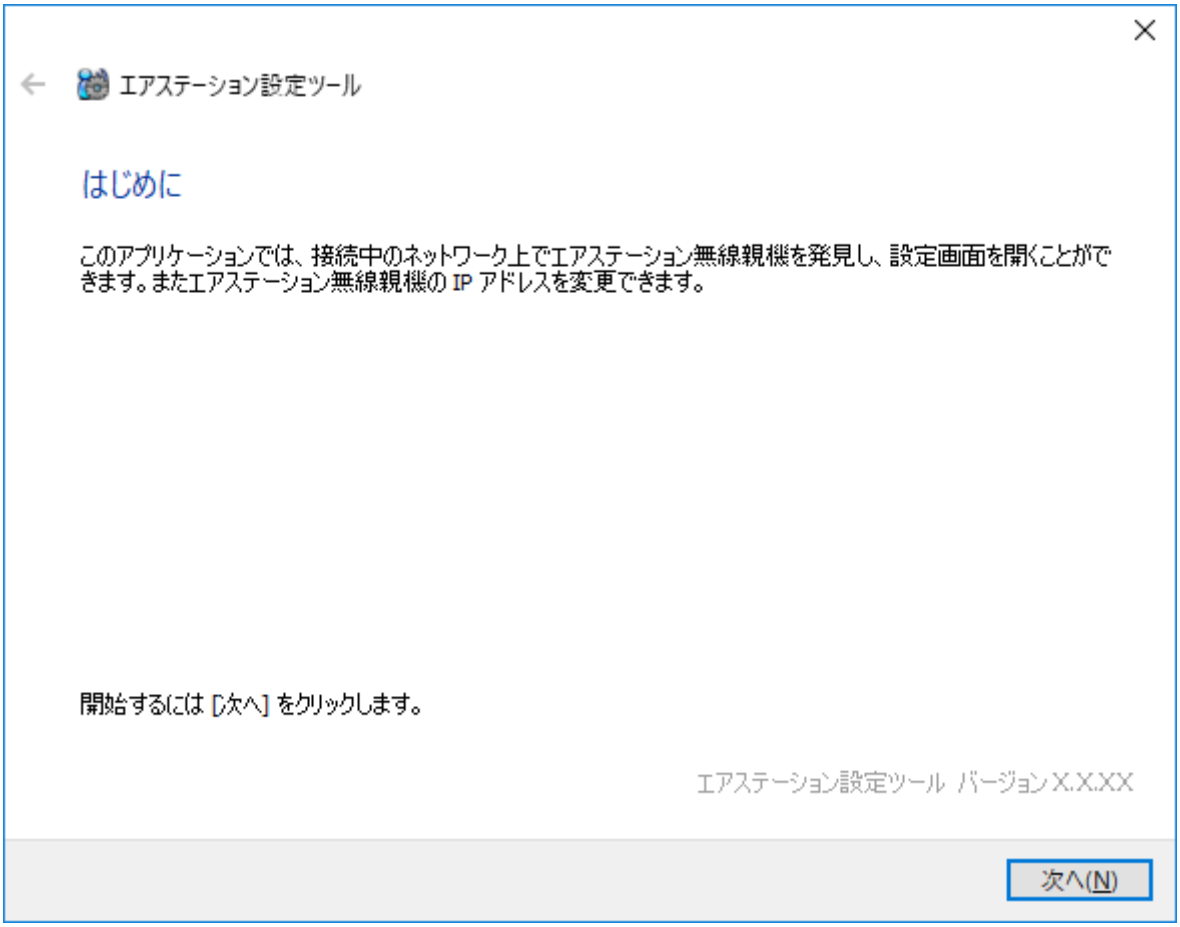
メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- パソコンを本製品に接続した状態で設定してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面の[詳細設定]－[LAN]－[LAN]からも変更できます。

1 エアステーション設定ツール を起動します。

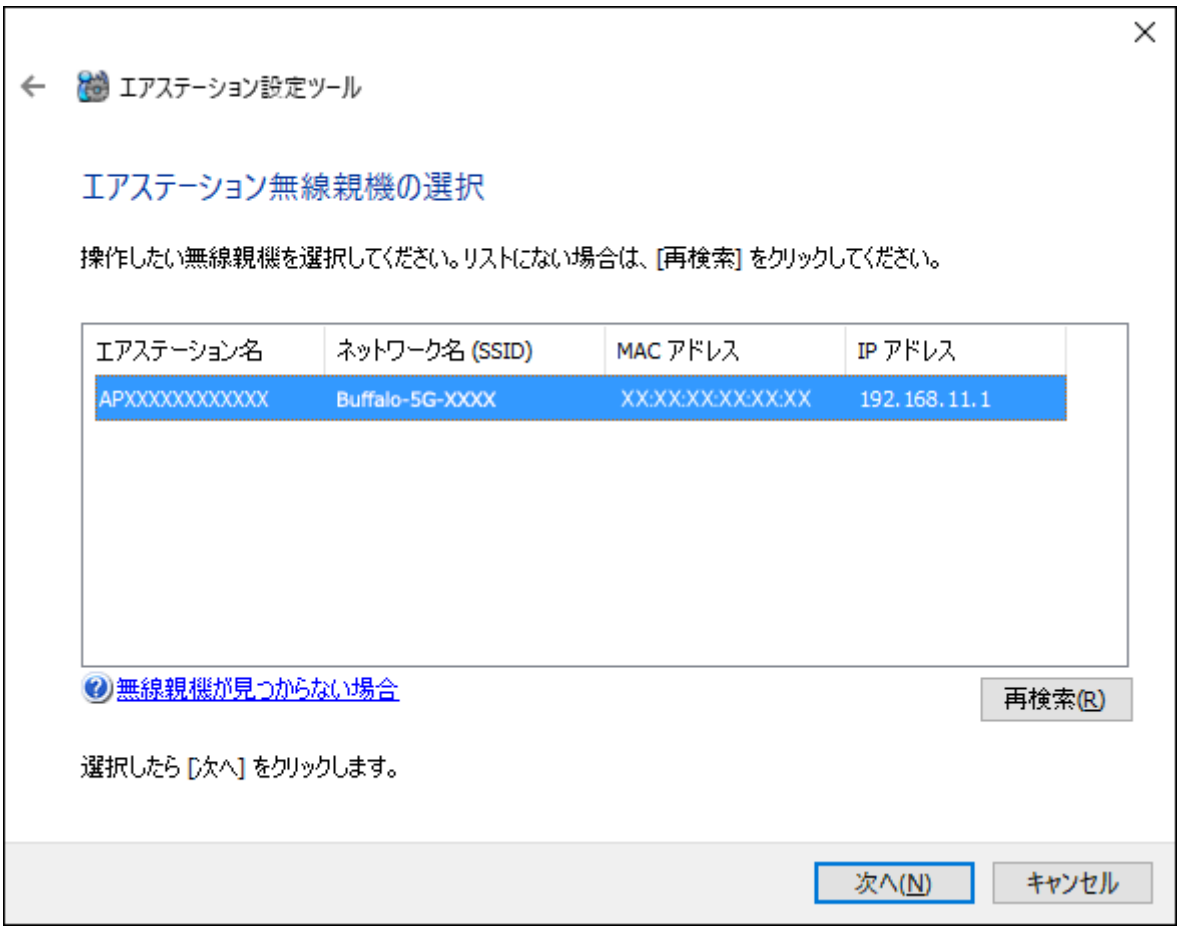
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

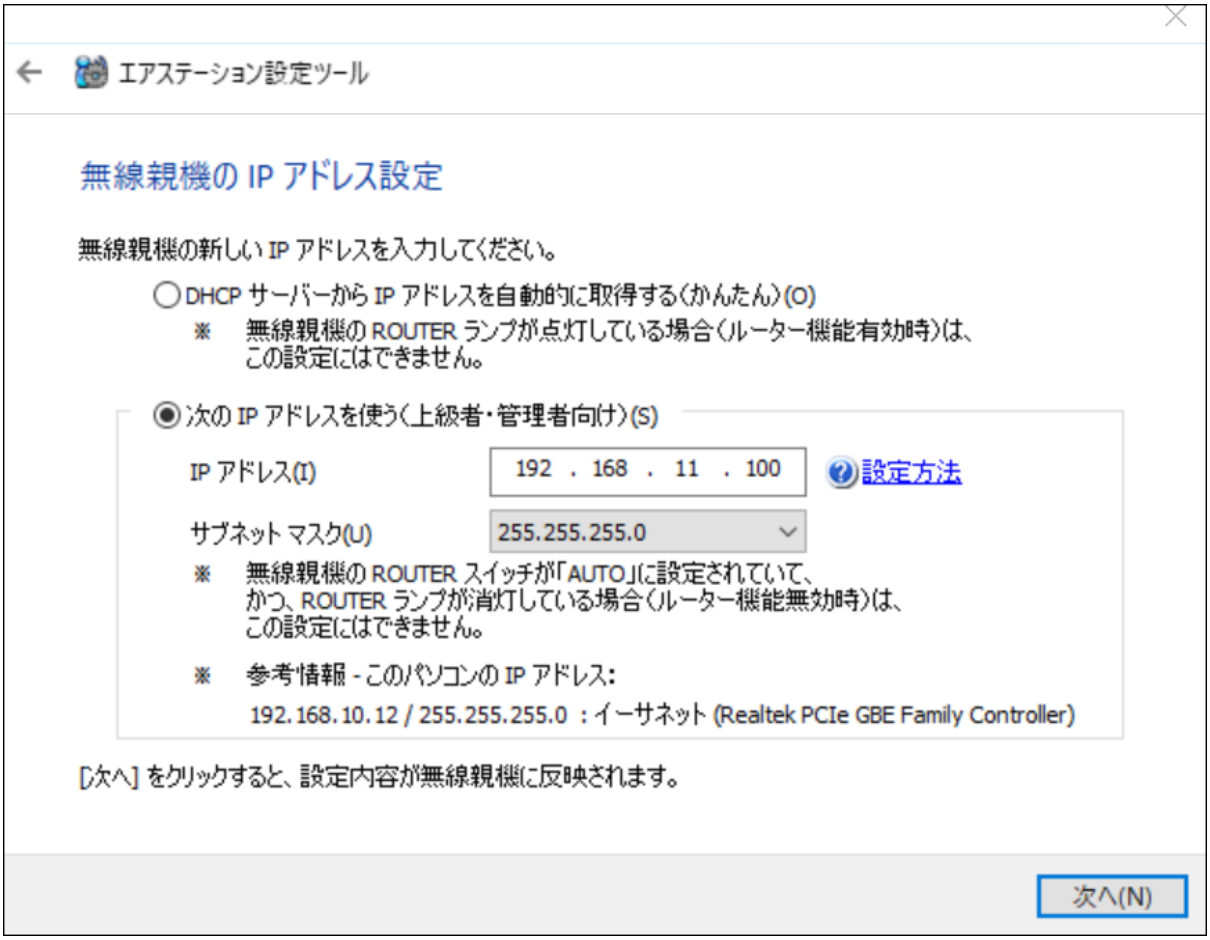


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。

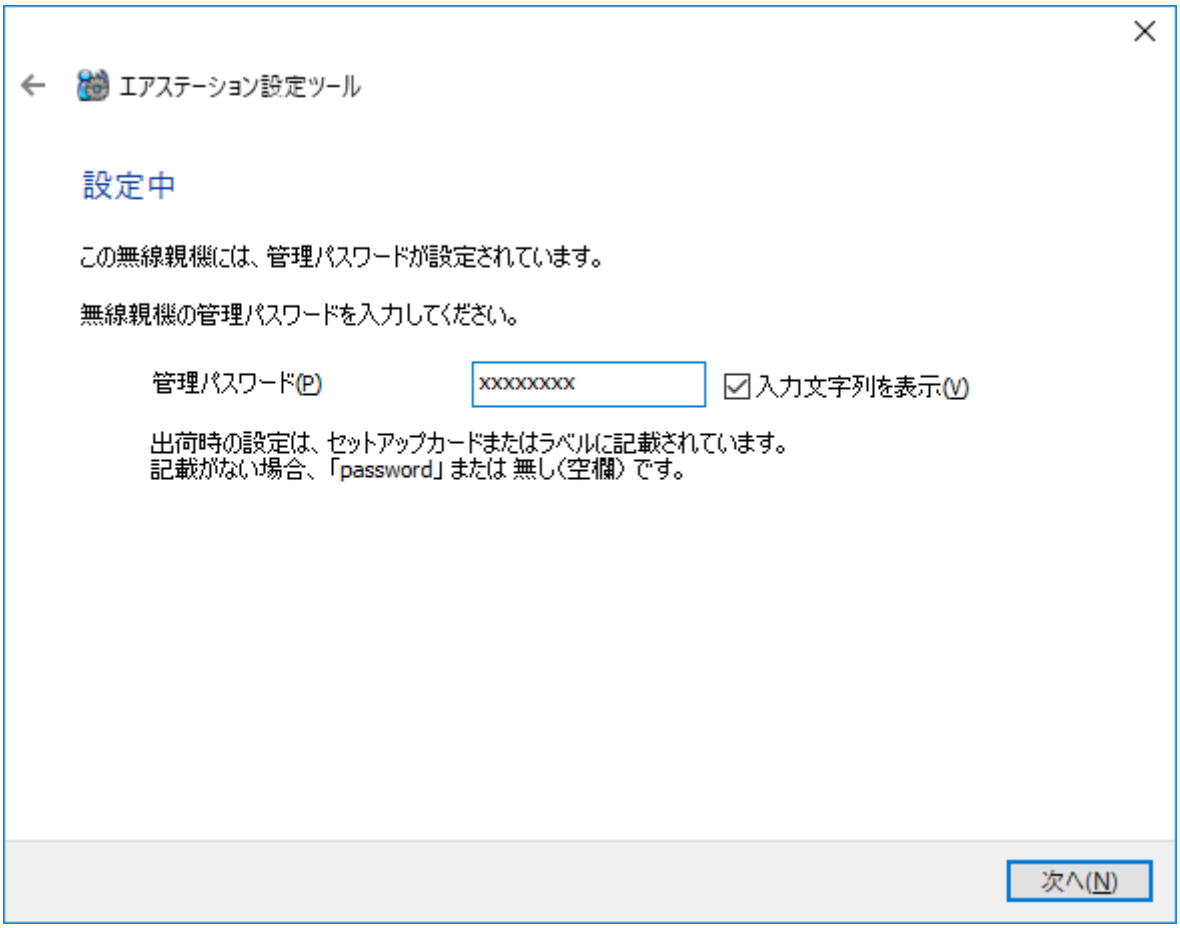


5 新しく設定するIPアドレスを入力して[次へ]をクリックします。

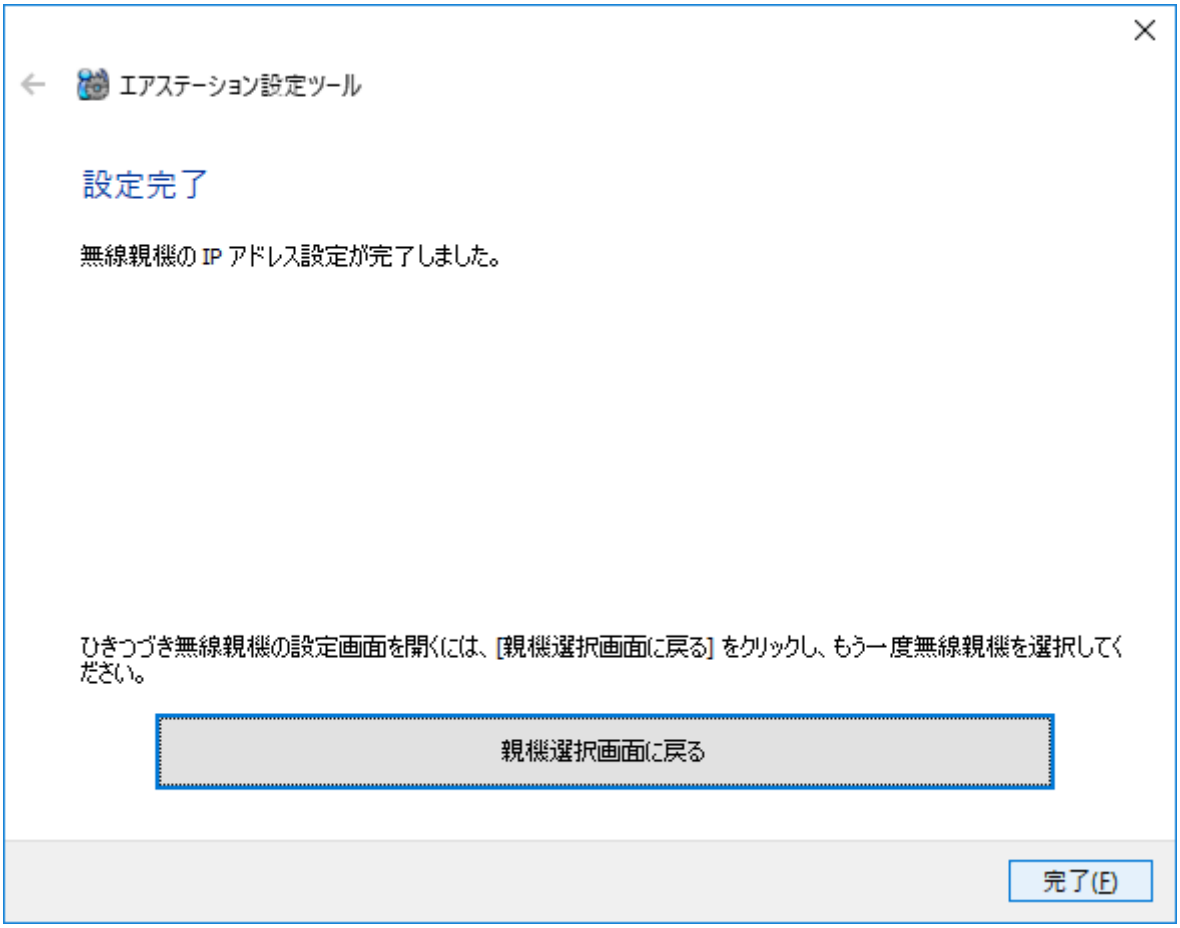


メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのパソコンと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[はい]をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード（出荷時状態では本体ラベル・セットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」）を入力し、[次へ]をクリックします。



7 [完了]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- Macを本製品に接続した状態で設定してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面の[詳細設定]－[LAN]－[LAN]からも変更できます。

1 エアステーション設定ツール  **を起動します。**

2 [続ける]をクリックします。



3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。



5 新しく設定するIPアドレスを入力して[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのMacと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[無視して続ける]をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード（出荷時状態では本体ラベル・セットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」）を入力し、[続ける]をクリックします。



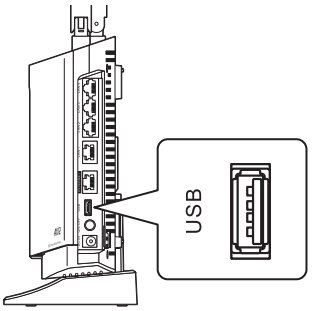
7 [終了]をクリックします。



以上で設定は完了です。

本製品にUSB機器を接続する

本製品のUSB端子には、USB機器を接続して使用できます。



USB端子に接続できるUSB機器

本製品のUSB端子に接続できる機器は、以下となります。

- USBメモリー
- USBカードリーダー（最大4ドライブ認識の製品）
- USBハードディスク（※1）（※2）
- USBハブ（セルフパワー型）（※3）（※4）

（**※1**）当社製ハードディスク以外のハードディスクは対応していません。
（**※2**）動作確認済み バッファロー製 USB用製品については、下記Webページを確認してください。
https://www.buffalo.jp/product/detail/taiou/wxr-11000xe12.html
（**※3**）USB3.2 Gen 1ハブには対応していません。
（**※4**）USBドライブへのデータ書き込み中やデータ読み出し中に、USBハブにUSB機器を接続すると、データの書き込み/読み出しが中断されます。

メモ:

- 上記以外のUSB機器（デジタルカメラ、CD/DVDドライブ、マウス、キーボードなど）は使用できません。
- 使用できるUSBドライブのフォーマット形式は、FAT12/FAT16/FAT32/XFSです。
- USBドライブの取り外しは、本製品の設定画面から行ってください。詳細は「USBドライブの取り外しかた」（P.99）を参照してください。
- 大切なデータはバックアップしてください。

USB端子に関する制限事項

- 本製品の出荷時はUSB 2.0で動作するよう設定されています。USB 3.2 Gen 1で動作させる場合は、設定画面から設定を変更してください。

- ハードウェア/ソフトウェアで暗号化されたUSBドライブは使用できません。

- 本製品のUSB端子に接続して使用できるUSBドライブは1台までです。

- AUTO電源機能を搭載したハードディスクを本製品に接続しても認識できないことがあります。そのようなときは、「AUTO電源機能切替スイッチ」を「MANUAL」に設定してください。

- USBドライブは第4パーティションまで認識できます。ファイルシステムはFAT12/FAT16/FAT32/XFSを認識できます。

- 全角文字（日本語など）のフォルダーやファイル名を作成するときは、80文字以内にしてください。80文字を越える名前のフォルダーやファイルは、コピー操作ができないことがあります。

- フォルダーやファイルに属性（隠し/読取専用）を設定できません。

- アクセス制限をかけて使用する場合、登録できるユーザー数は16名までです。

- 共有フォルダー名とワークグループ名に漢字を使用すると、使用した文字によっては共有フォルダーやワークグループが正常に表示されないことがあります。そのようなときは漢字以外の文字をお使いください。

- 本製品に登録するユーザー名に以下の文字は使用できません。
  adm、administrator、all、bin、daemon、disk、ftp、guest、halt、hdusers、kmen、lp、mail、man、news、nobody、nogroup、none、operator、root、shadow、shutdown、sshd、sync、sys、ttyusers、utmp、uucp、www
- 本製品に登録するユーザー名に以下の文字は使用できません。
  ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩ
  ⅰⅱⅲⅳⅴⅵⅶⅷⅸⅹ㎜㎝㎞㎎㎏㏄㎡№㏍℡㊤㊥㊦㊧㊨㈱㈲㈹㍾㍽㍼㍻㍉㌔㌢㍍㌘㌧㌃㌶㍑㍗㌍㌦㌣㌫㍊㌻￤＇＂〝〟∮∑∟⊿
  纊褜鍈銈蓜俉炻昱棈鋹曻彅丨仡仼伀伃伹佖侒侊侚侔俍偀倢俿倞偆偰偂傔僴僘兊兤冝冾凬刕劜劦勀勛匀匇
  匤卲厓厲叝﨎咜咊咩哿喆坙坥垬埈埇﨏塚增墲夋奓奛奝奣妤妺孖寀甯寘寬尞岦岺峵崧嵓﨑嵂嵭嶸嶹巐弡弴
  彧德忞恝悅悊惞惕愠惲愑愷愰憘戓抦揵摠撝擎敎昀昕昻昉昮昞昤晥晗晙晴晳暙暠暲暿曺朎朗杦枻桒柀栁桄
  棏﨓楨﨔榘槢樰橫橆橳橾櫢櫤毖氿汜沆汯泚洄涇浯涖涬淏淸淲淼渹湜渧渶溿澈澵濵瀅瀇瀨炅炫焏焄煜煆煇
  凞燁燾犱犾猤猪獷玽珉珖珣珒琇珵琦琪琩琮瑢璉璟甁畯皂皜皞皛皦益睆劯砡硎硤礰礼神祥禔福禛竑竧靖
  竫箞精絈絜綷綠緖繒罇羡羽茁荢荿菇菶葈蒴蕓蕙蕫﨟薰蘒﨡蠇裵訒訷詹誧誾諟諸諶譓譿賰賴贒赶﨣軏﨤逸
  遧郞都鄕鄧釚釗釞釭釮釤釥鈆鈐鈊鈺鉀鈼鉎鉙鉑鈹鉧銧鉷鉸鋧鋗鋙鋐﨧鋕鋠鋓錥錡鋻﨨錞鋿錝錂
  鏞鏸鐱鑅鑈閒隆﨩隝隯霳霻靃靍靏靑靕顗顥飯飼餧館馞驎髙髜魵魲鮏鮱鮻鰀鵰鵫鶴鸙黑畩秕緇臂蘊訃躱鐓
  饐鷭

- MacとWindowsでデータを共有する場合、以下の文字では、文字化けは発生しませんが、コードが異なります。
  − 〜 ∥ − ¢ £ ¬

- Macで作成したファイル名に下記の記号が含まれると、WindowsからはOSの制限により正常に表示できません。またMacでは、SMBを指定して接続するときに下記の記号を使用すると、ファイルをコピーできません（または正常に表示できません）。
  ? [ ] / ¥ = + < > ; :", | *

- ファイルのコピー中にキャンセルしたり、コピーを途中で終了（ネットワーク接続が切断した、USBケーブルが抜けた、停電など）したりすると、不完全なファイルがコピーされ、ファイルが削除できなくなること

があります。その場合は、本製品を再起動してからファイルを削除し、コピー操作をもう一度行ってください。

- 本製品で使用するユーザー名、パスワードはWindowsのネットワークログイン時のユーザー名、パスワードと同じユーザー名、パスワードにしてください。異なる場合、本製品のアクセス制限を設けた共有フォルダーにアクセスできないことがあります。

- 本製品に搭載されているOSの仕様上、接続したUSBドライブへ保存したファイルの日付情報は更新されることがあります(作成日時、更新アクセスなどの日付情報は保持されません)。

- ドライブの容量をブラウザーから確認したときと、Windowsのドライブのプロパティから確認したときで、値が異なる場合があります。

- Windows 11/10にguestアカウントでログインした場合、本製品に出荷時設定されているguestアカウントが存在するためアクセス制限が正常に動作しない場合があります。

- Macからアクセスされた共有フォルダーには、Mac用の情報ファイルが自動生成されることがあります。これらをWindowsから削除した場合、Macからアクセスできなくなることがありますので削除はしないでください。

USBドライブをネットワークで共有して使用する方法

本製品に接続されたUSBドライブは、ネットワーク対応HDD（NAS）のように、ネットワークで共有して使用できます。

USBドライブのフォーマット

本製品に接続されたUSBドライブをFAT/XFSにフォーマットする方法を説明します。
注意：フォーマットを行うことでUSBドライブの指定したパーティションまたはドライブのすべてのデータが削除されますのでご注意ください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「アプリケーション」−「ディスク管理」をクリックします。

3 パーティションを選択し、操作欄の［フォーマット］をクリックします。



4 「フォーマット形式」を選択して、[フォーマット実行]をクリックします。



メモ:

- FAT32の場合、32GBの容量までフォーマットできます。読取/書込どちらもできます。1ファイル4GB以上のデータはコピーできません。「:」などMacで使用する一部の文字が使用できません。
- XFSの場合、読取/書込どちらもできます。ジャーナリングファイルシステムに対応しています。1つのフォルダーにファイルの数が多くなってもアクセスが遅くなりません。Windows/Macに直接接続しても読み出しできません。

以上で設定は完了です。

USBドライブの取り外しかた

USBドライブを取り外す方法を説明します。

注意:USBドライブへアクセス中に取り外すとデータ破損などの原因になります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「アプリケーション」−「ディスク管理」をクリックします。

3 USBドライブを選択します。

4 操作の[取り外し]をクリックします。



5 USBドライブを取り外します。

以上で完了です。

USBドライブの接続と共有フォルダーへのアクセス方法

本製品に接続したUSBドライブにアクセスする方法を説明します。

1 USBドライブを本製品のUSB端子に接続します。

2 USBドライブの電源がOFFの場合は、電源を入れます。

共有フォルダーへアクセスするには

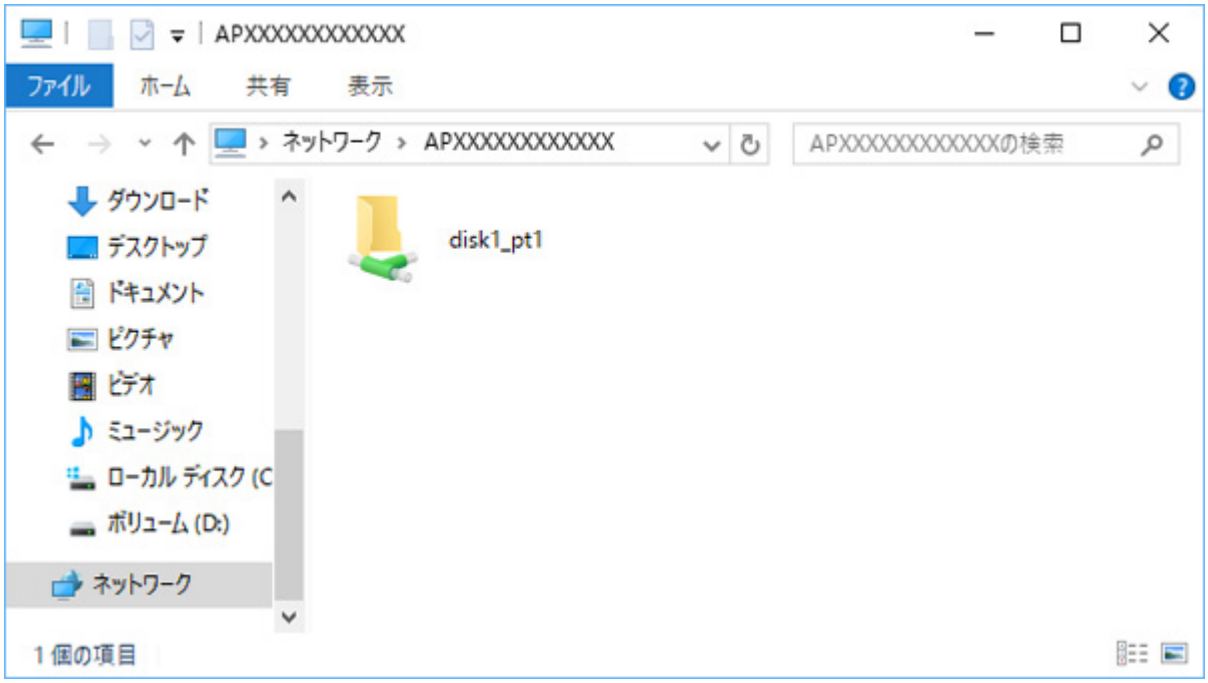
Windowsの場合は、ブラウザーのアドレス欄で「¥¥(本製品のIPアドレス)」を指定します。
Macの場合は、メニューより、[移動]－[サーバへ接続]をクリックし、「smb://(本製品のIPアドレス)」を指定して共有フォルダーをマウントします。
共有フォルダーが表示されない場合は、本製品の設定画面で「詳細設定」－「アプリケーション」－「共有サービス」－「共有フォルダー機能」の「使用する」にチェックが入っているか確認してください。

メモ: Windows 11/10をお使いの方でSMB 1.0が無効になっている場合は、以下の手順でSMB 1.0を有効にしてご利用ください。

(1) [コントロールパネル]を表示します。
(2) [プログラムと機能]をダブルクリックします。
(3) 「Windowsの機能の有効化または無効化」をクリックします。
(4) 「SMB 1.0/CIFSファイル共有のサポート」の「SMB 1.0/CIFSクライアント」にチェックを付けます。

共有フォルダー名について

共有フォルダー名は「disk*_pt*」です(*にはディスク番号、パーティション番号が入ります)。



以上で設定は完了です。

USBドライブが認識されない、アクセスできないなど問題がある場合は、「USBドライブにアクセスできないときは」(P.215)を参照してください。

USBドライブの節電設定

本製品に接続されたUSBドライブがハードディスクの場合、HDD節電機能を使用すると、ハードディスクの回転を一定時間停止して節電できます。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「アプリケーション」−「ディスク管理」をクリックします。

3 拡張機能の「表示する」にチェックを入れます。

4 HDD節電機能の「使用する」にチェックを入れ、「HDD停止時間」を入力して［設定］をクリックします。



メモ: ご使用の環境により、本機能が動作しない場合があります。

注意:HDD節電機能でUSBドライブの回転が停止しない場合は、HDD節電機能を使用しないでください。回転が停止しない状態でHDD節電機能を「使用する」にして使用し続けるとデータを破損する恐れがあります。

メモ:

- 停止しているハードディスクのデータにアクセスできますが、回転をしてデータにアクセスできるようになるまで時間がかかります。
- USBドライブの電源をOFFからONにした際、USBドライブが認識できない場合は、HDD節電機能を無効にした後、［取り外し］をクリックし、USBドライブを一度取り外してから、もう一度接続してください。

以上で設定は完了です。

USBドライブのアクセス制限設定

USBドライブにアクセス制限を設定する方法を説明します。

メモ:

- USBドライブの自動割当有効時は、USBドライブ単位にアクセス制限を設定します。
- USBドライブに複数の共有フォルダーがある場合は、すべての共有フォルダーに設定が適用されます。
- USBドライブの自動割当を無効にすると、共有フォルダー単位にアクセス制限を設定できます。

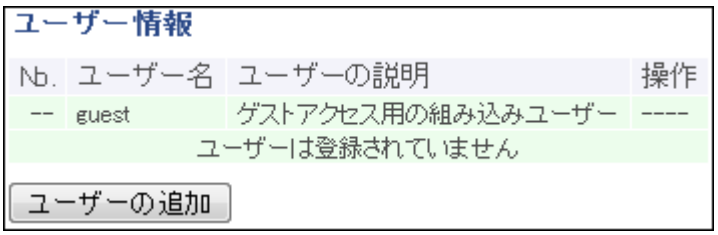
ここでは、USBドライブの自動割当有効時（USBドライブ単位のアクセス制限）の設定方法を紹介します。

1 本製品の設定画面を表示します。

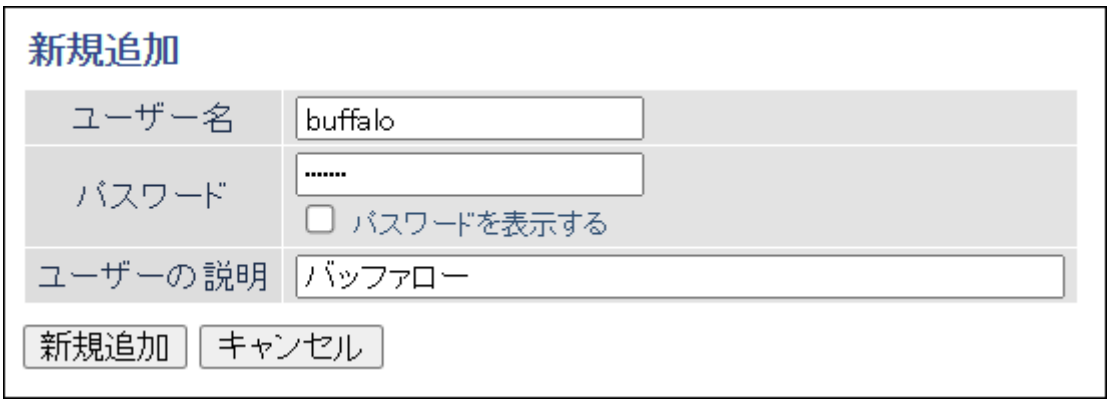
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「アプリケーション」−「ディスク管理」をクリックします。

3 [ユーザーの追加]をクリックします。



4 「ユーザー名」と「パスワード」および「ユーザーの説明」(任意)を入力して、[新規追加]をクリックします。



メモ:

- ユーザー名/パスワードは、各パソコンがログインする際に使用するユーザー名/パスワードを入力します。
- 16ユーザーまで登録できます。

5 「詳細設定」−「アプリケーション」−「ディスク管理」の画面に戻ります。

6 USBドライブのパーティションを選択し、共有欄の[設定変更]をクリックします。



7 **「アクセス制限機能」の「アクセス制限あり」を選択します。**



8 **ユーザー名を選択し、[←][→]ボタンを使用して「読取/書込可能」「読取専用」「アクセス不可」へ移動し、[修正保存]をクリックします。**



以上で設定は完了です。

節電機能を使って節電する

節電機能は、あらかじめ登録したスケジュールに従って、本製品を省電力状態にすることで、消費電力を抑える機能です。設定は以下の手順で行います。

メモ:

- 節電機能は、ランプの通常動作/オフ、有線LANの通常動作/低速動作/オフ、無線LAN(Wi-Fi)の通常動作/オフの動作を切り替えることにより電力消費を抑えます。ただし、ランプを「オフ」に設定しても、POWERランプは消灯しません(点灯したままとなります)。
- 本製品の状態が切り替わる際、通信が一時的に切断されます。また、ユーザー定義で有線LANや無線LAN(Wi-Fi)のどちらかを有効(または低速動作)に設定していても、通信が一時的に切断されますので、通信中の場合は注意してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「管理」−「システム設定」をクリックします。

3 NTP機能に「使用する」、サーバー名に「ntp.jst.mfeed.ad.jp」と表示されていることを確認します。



メモ:

- NTP(Network Time Protocol)とは、正しい時刻に時計を修正・同期する仕組みです。任意のNTPサーバーを設定することもできますが、特に問題ない限りは初期設定(ntp.jst.mfeed.ad.jp)をご使用ください。
- 節電機能の設定を行うには、NTP設定を有効にする必要があります(出荷時設定では有効になっています)。
- 本製品をブリッジ(ルーター機能OFF)としてお使いの場合は、本製品の設定画面の「詳細設定」−「LAN」−「LAN」画面でデフォルトゲートウェイとDNS(ネーム)サーバーアドレスの設定※が必要です。
  ※ご使用中のルーター(ルーター内蔵モデムを含む)やCTUのIPアドレスと同じ値を設定してください。

4 「詳細設定」−「アプリケーション」−「スケジュール」をクリックします。

5 **省電力で「使用する」にチェックを入れ、ユーザー定義モードを設定して［設定］をクリックします。**

メモ: ここでは例として、以下のように設定します。
設定例:
ランプ-オフ　※「オフ」に設定しても、POWERランプは消灯しません（点灯したままとなります）。
有線LAN － エコ（低速動作）
無線LAN（Wi-Fi） － オフ



6 **スケジュールを登録して［追加］をクリックします。**

メモ: ここでは例として、以下のように設定します。
設定例:
動作モード-ユーザー定義
開始時間-0:00
終了時間-6:00
曜日-月、火、水、木、金
※登録済みのスケジュールを変更すると、今までのスケジュールは上書きされます。



7 **［設定］をクリックします。**

以上で設定は完了です。

フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）

本製品のPPPoEマルチセッション機能を使用して、1つの回線契約でプロバイダーとフレッツ回線向けサービス情報サイトに同時に接続するには、以下の設定をしてください。

メモ:

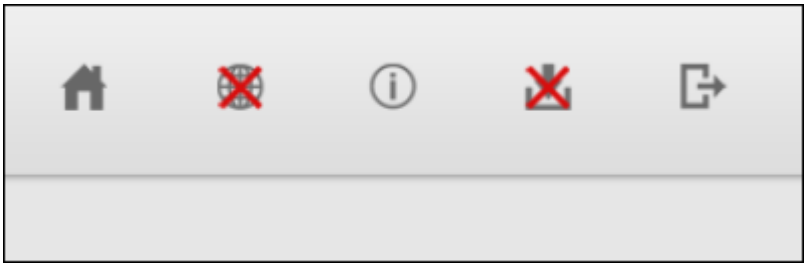
- NTT東日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年6月1日より、「サービス情報サイト」に名称が変更されました。
- NTT西日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年12月28日をもってサービス終了となりました。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

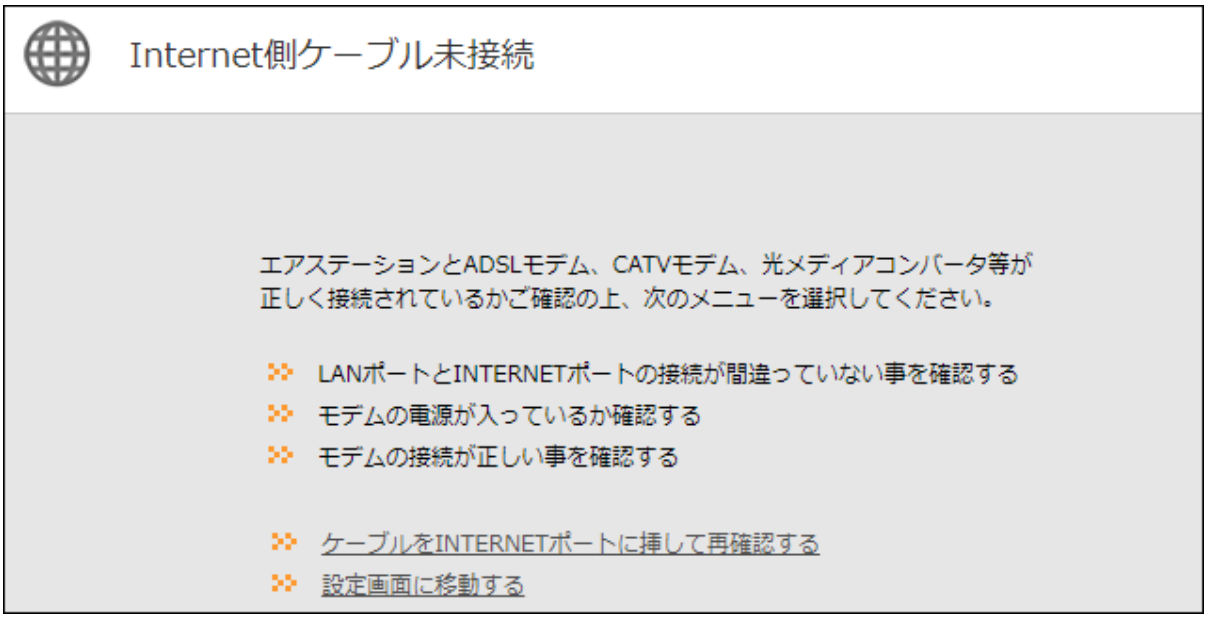
2 本製品のINTERNET端子からLANケーブルを取り外します。

3 設定画面右上の  に×マークが付くことを確認します。

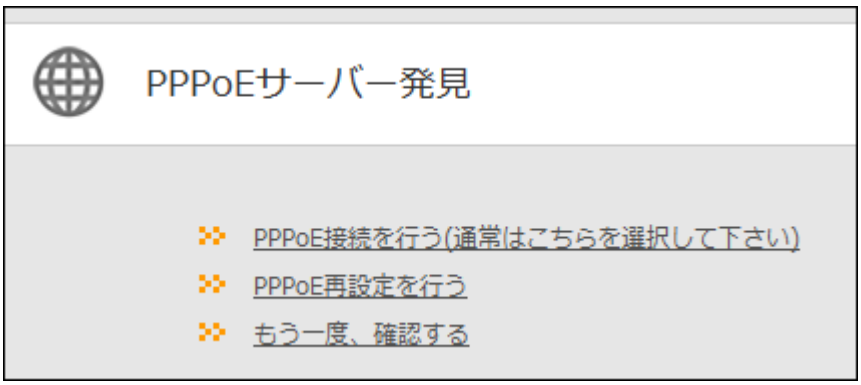


4  をクリックします。

5 手順2で抜いたLANケーブルを、もう一度本製品のINTERNET端子に接続し、「ケーブルをINTERNETポートに挿して再確認する」をクリックします。

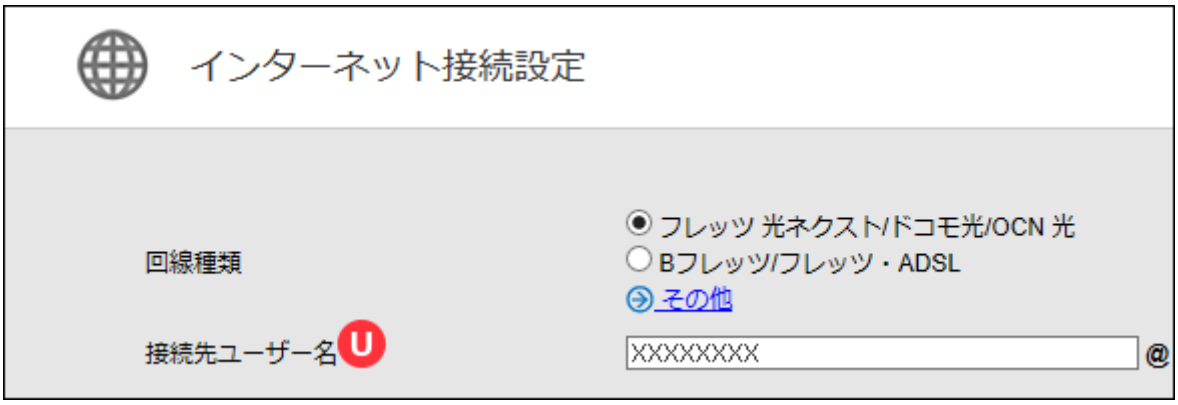


6「PPPoE再設定を行う」をクリックします。



7 お使いの回線の種別に合わせて「回線種類」を選択します。

フレッツ 光ネクストをお使いの方は「フレッツ 光ネクスト/ドコモ光/OCN 光」を、それ以外の回線をお使いの方は、「Bフレッツ/フレッツ・ADSL」を選択してください。



8 「フレッツ 光ネクストサービス情報サイト」欄（フレッツ 光ネクスト用）または「サービス情報サイト」欄（Bフレッツ/フレッツ・ADSL用）で、「NTT東日本」を選択し、［進む］をクリックします。



メモ: NTT西日本のサービスが終了しているため、「サービス情報サイト」欄では、「NTT西日本」は選択できません。

9 「接続成功です」と表示されたら、［設定完了］をクリックします。



10 ブラウザーを起動します。

11 Bフレッツ/フレッツ・ADSLをご契約の方は、アドレス欄に「www.flets」と入力して、Enterキーを押します。フレッツ 光ライト/フレッツ 光ネクストをご契約の方は、アドレス欄に「v4flets-east.jp」（NTT東日本向け）と入力して、Enterキーを押します。



12 サービス情報サイトが表示されます。

以上で設定は完了です。

ルーター機能を停止する

本製品のルーター機能を使用しないで、アクセスポイントとして使用する場合は、以下の手順で行います。

メモ:

本製品のルーター機能をOFFにすると、本製品のIPアドレスは「DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得」に変更されます。また、以下の機能が無効になりますので注意してください。

- DHCPサーバー（IPアドレス自動割当）機能
- 静的IPマスカレード（アドレス変換）機能
- パケットフィルター機能
- PPPoEマルチセッション機能

1 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」に設定します。

2 本製品のROUTER/AP/WBスイッチを「AP」に設定し、ROUTERランプが消灯することを確認します。

3 本製品に接続している機器を再起動します。

以上で設定は完了です。

本製品の設定を保存する・復元する

設定の保存

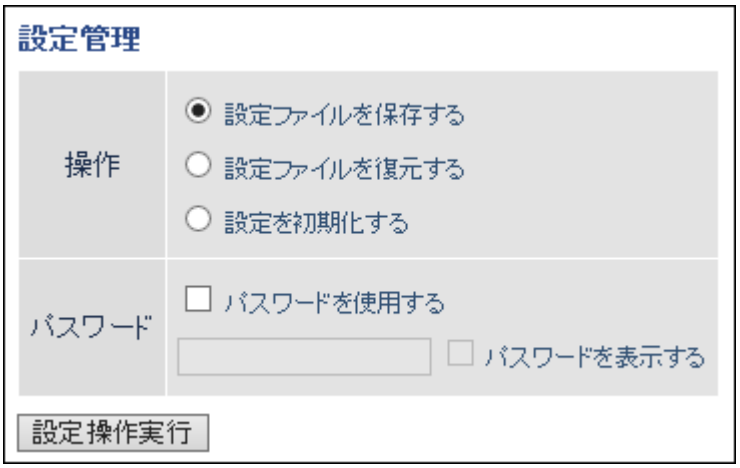
本製品の設定内容の保存は、以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「設定管理/再起動」をクリックします。

3 「設定ファイルを保存する」を選択し、[設定操作実行]をクリックします。



メモ: パスワードを使って設定ファイルを暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、パスワードを入力してから、[設定操作実行]をクリックしてください。

4 画面の表示に従って、設定ファイルを保存します。

設定の復元

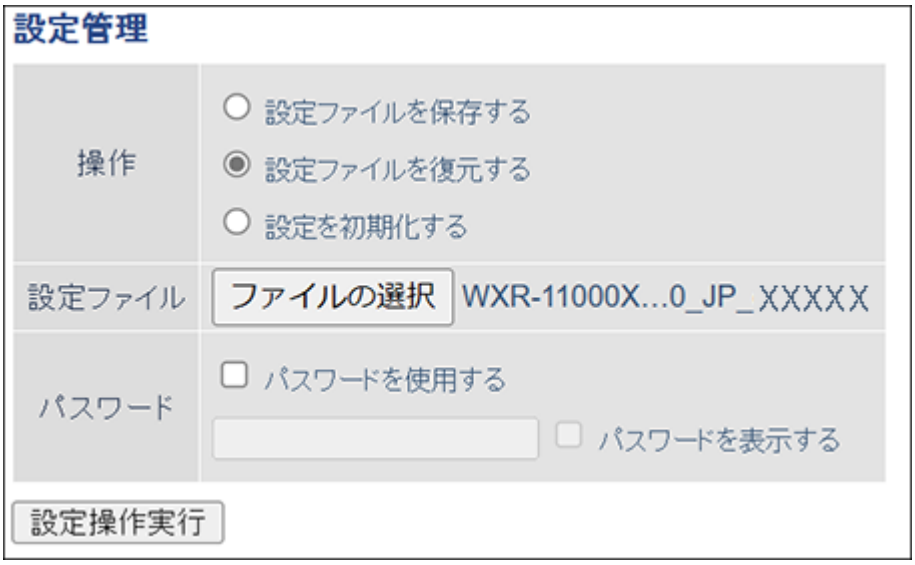
本製品の設定を復元する場合は、以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「設定管理/再起動」をクリックします。

3 「設定ファイルを復元する」を選択し、「設定ファイル」欄の［ファイルの選択］をクリックして設定ファイルを指定し、［設定操作実行］をクリックします。



メモ: 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、パスワードを入力してから、［設定操作実行］をクリックしてください。

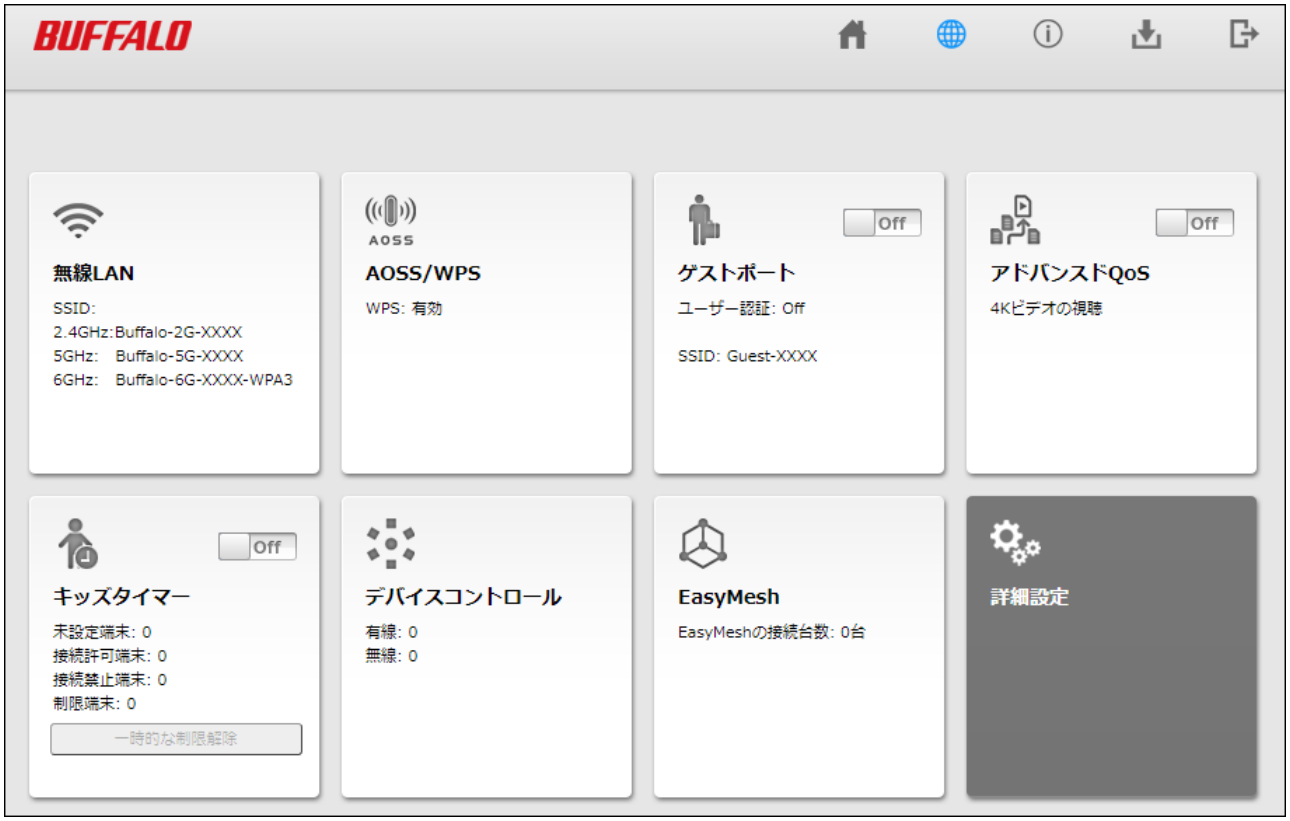
第３章　設定画面の詳細情報

本章では、本製品の設定画面について説明します。

メモ: 設定画面の操作が5分間ない場合、設定画面から自動的にログアウトします。

トップ画面

本製品の設定画面にログインした際、最初に表示される画面です。画面の内容は、本製品の動作モードによって異なります。ここでは、ルーターモード時の画面を例に説明します。

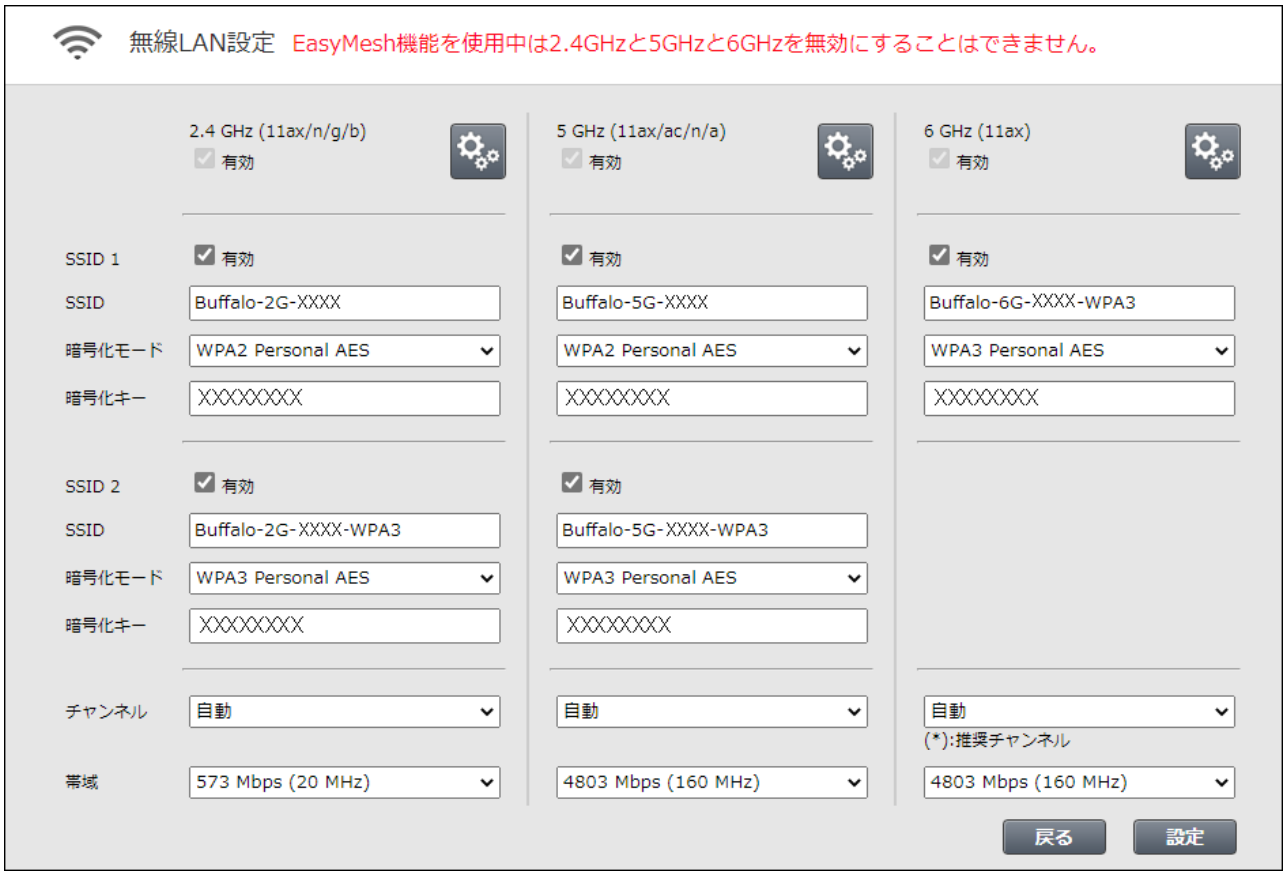


項目	内容
無線LAN	現在のWi-Fiの状態が表示されます。 クリックすると、Wi-Fiの設定画面が表示されます。
AOSS/WPS	現在のAOSS/WPS設定の状態が表示されます。 クリックすると、「簡単設定を開始します(AOSS/WPSプッシュボタン式)」という画面が表示され、[OK]をクリックすると本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
ゲストポート	来訪者用の一時的な接続先(ゲストポート)の状態が表示されます。 ゲストポート機能の有効/無効を切り替えられます。 クリックすると、ゲストポートの設定画面が表示されます。
アドバンスドQoS	通信の用途に応じて帯域幅を自動的に制御するアドバンスドQoSの状態が表示されます。 アドバンスドQoSの有効/無効を切り替えられます。 クリックすると、アドバンスドQoSの設定画面が表示されます。

項目	内容
キッズタイマー	特定の機器に対して、接続できる時間を制限するサービスの状態が表示されます。 クリックすると、キッズタイマーの設定画面が表示されます。
デバイスコントロール	ネットワークに接続されている機器の台数が表示されます。 クリックすると、機器の状態を確認できます。
EasyMesh	クリックすると、EasyMeshの設定画面が表示されます。
詳細設定	クリックすると、詳細設定画面が表示されます。
	クリックすると、トップ画面が表示されます。
	ルーターモード時のみ表示されます。インターネットへの接続状況を表示します。インターネットに接続できていないとき( が表示されているとき)にクリックすると、インターネット接続の初期設定画面が表示されます。
	中継機モード時のみ表示されます。Wi-Fiルーターとの接続状況を表示します。Wi-Fiルーターに未接続のとき( が表示されているとき)にクリックすると、Wi-Fiルーターとの接続設定画面が表示されます。
	ファームウェアの更新がある場合などに点滅してお知らせします。クリックすると、本製品の動作モードが表示されます。
	インターネットに接続しているときにクリックすると、取扱説明書やソフトウェアなどのダウンロードページが表示されます。
	クリックすると、設定画面からログアウトします。

無線LAN(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

Wi-Fiの基本設定を行う画面です。



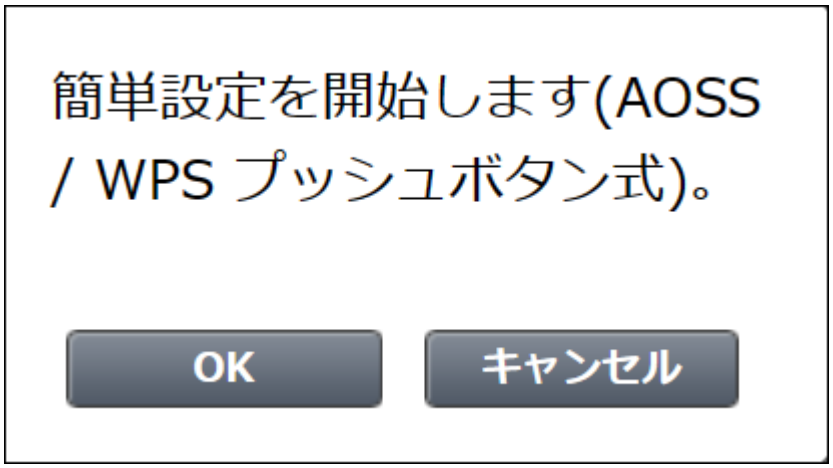
項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
2.4 GHz(11ax/n/g/b) **5 GHz(11ax/ac/n/a)** **6 GHz(11ax)**	Wi-Fiの有効/無効を設定します。
SSID 1、SSID 2	**SSID 1** 2.4 GHz、5 GHz：WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わないWi-Fi用のSSIDです。 6 GHz：WPA3 Personal用のSSIDです。 **SSID 2**(「6 GHz(11ax)」では、SSID 2は使用しません。) WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。

項目	内容
暗号化モード	機器とのWi-Fi接続時の暗号化モードを以下から選択します。 **WPA2 Personal AES** WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA/WPA2 Personal AES** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA3 Personal AES** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA2/WPA3 Personal AES** WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴されますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
暗号化キー	機器との認証で使用する暗号化キーを入力します。入力できる暗号化キーは、SSIDごとに異なります。 **SSID1の暗号化キー** 文字列入力の場合、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字（6 GHzの場合、1～64文字）で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。 **SSID2の暗号化キー** 無線の認証が「WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を1～64文字で入力します。 無線の認証が「WPA2/WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、暗号化キーは次のように設定することをおすすめします。 • SSID1とSSID2で、別々の暗号化キーを設定する。 • 暗号化キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
チャンネル	Wi-Fiで使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。 **メモ:** • 本製品は191～283チャンネルに対応しておりますが、一般的な6 GHz対応のWi-Fi機器は195, 211, 227, 243, 259, 275チャンネル（推奨チャンネル）のみ使用できます。 • 次のいずれかの条件で使用した場合、Wi-Fi機器によっては6 GHzで接続できないことがあります。 -本製品で2.4 GHzまたは5 GHzを使用していない（電波を出していない）場合 -6 GHzのANY接続の［許可する］のチェックを外して使用（「6 GHz（11ax）」（P.150）を参照してください） -推奨チャンネル以外を使用

項目	内容
帯域	Wi-Fiで使用する帯域幅を設定します。帯域幅を大きくすると、通信速度の向上が見込めますが、周囲の電波状況が悪い場合は、効果が得られないことがあります。

AOSS/WPS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

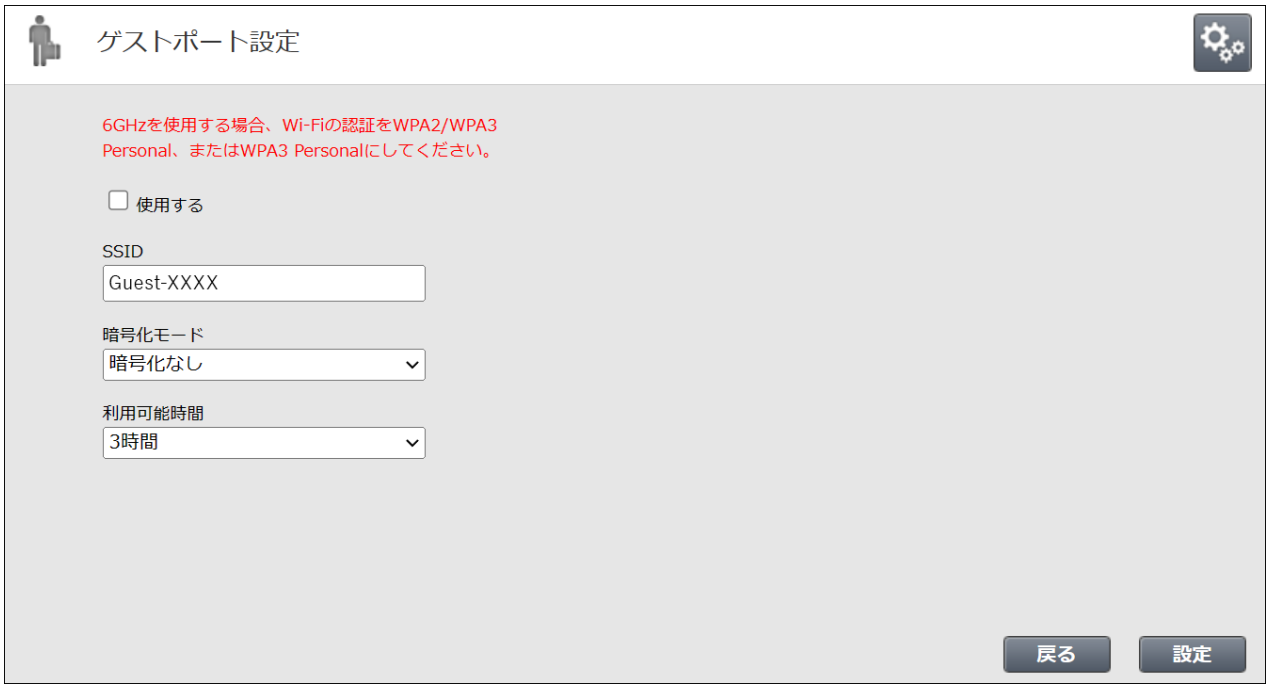
[OK]をクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
[キャンセル]をクリックすると、トップ画面に戻ります。



ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の設定を行います。

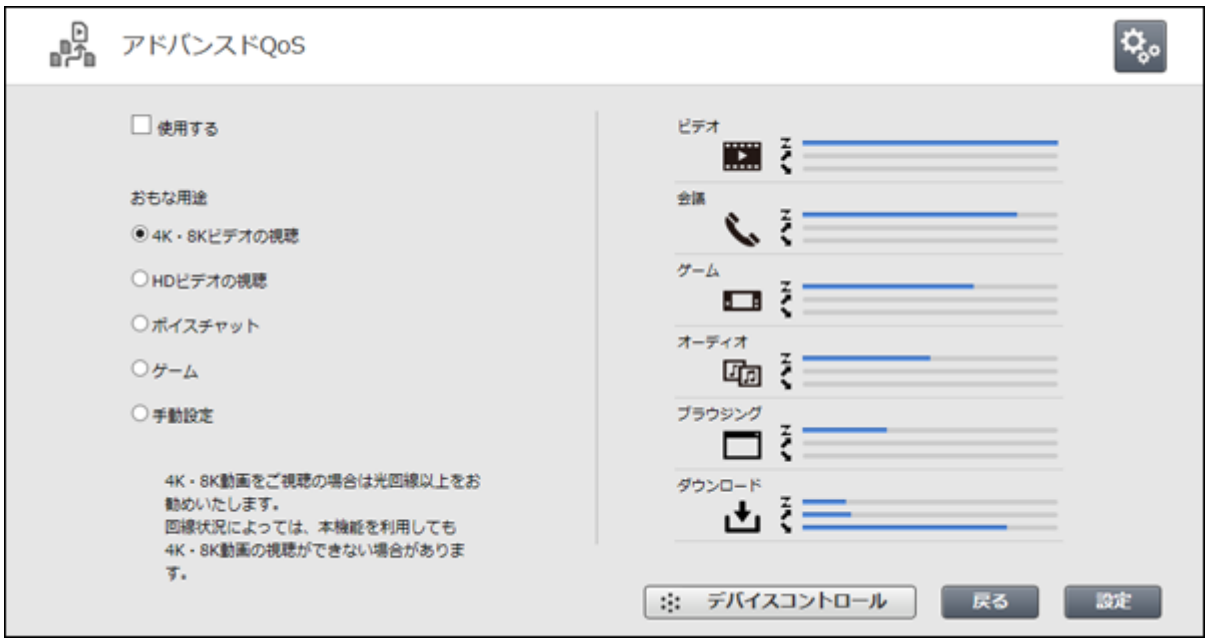
メモ: ゲストポートに接続した機器は、IPv6通信できません。



項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
使用する	チェックを入れると、ゲストポート機能が有効になります。
SSID	来訪者用のSSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
暗号化モード	来訪者用の暗号化モードを設定します。 **メモ:** 6 GHzを使用する場合は、暗号化モードを「WPA2/WPA3 Personal」または「WPA3 Personal」にしてください。
利用可能時間	来訪者がゲストポートを利用できる時間を設定します。

アドバンスドQoS（ルーターモード時のみ）

アドバンスドQoSは、ネットワークの帯域をより効果的に利用するための設定です。ルーターモード時のみ設定できます。



項目	内容
使用する	アドバンスドQoSを使用するかどうかを設定します。 **メモ:** アドバンスドQoS設定の、使用する／使用しないを切り替える際、Wi-Fi機器の接続が一度切断されます。
おもな用途	通信の主な用途を選択します。 ネットワークの帯域は、ここで選択した項目に最適化されます。
トラフィックモニター	各カテゴリー別の通信状況を確認できます。 :選択した用途における、各カテゴリーの優先度を表します。 :選択した用途における、上り速度を表します。 :選択した用途における、下り速度を表します。

キッズタイマー

本製品に接続できる時間を機器ごとに制限する「キッズタイマー」の設定画面です。

メモ: キッズタイマーとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

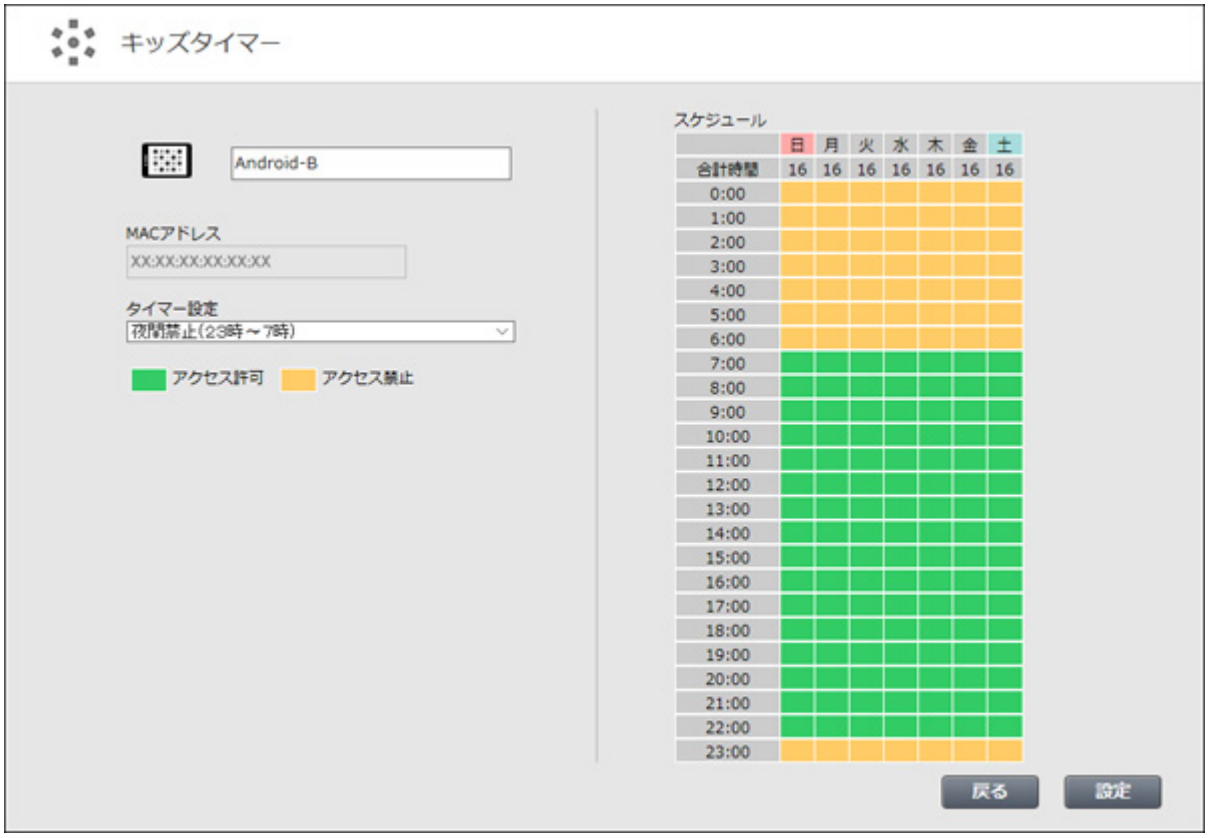
一覧画面



項目	内容
未設定端末	本製品に接続している機器のうち、本機能の設定を行っていない機器を表示します。 「新しい機器を追加する」をクリックすると、「スケジュール登録画面」(P.120)が表示されます。
接続許可端末	本機能のタイマー設定で「制限しない」に設定されている機器を表示します。
接続禁止端末	本機能のタイマー設定で「接続禁止」に設定されている機器を表示します。
制限端末	本機能のタイマー設定で「夜間禁止(23時～7時)」または「手動設定」に設定されている機器を表示します。
	スケジュールが未設定の機器に表示されます。
	接続が許可されている機器に表示されます。
	接続が禁止されている機器に表示されます。
	接続が制限されている機器に表示されます。

メモ: 画面に表示されている機器をクリックすると、「スケジュール登録画面」(P.120)が表示されます。

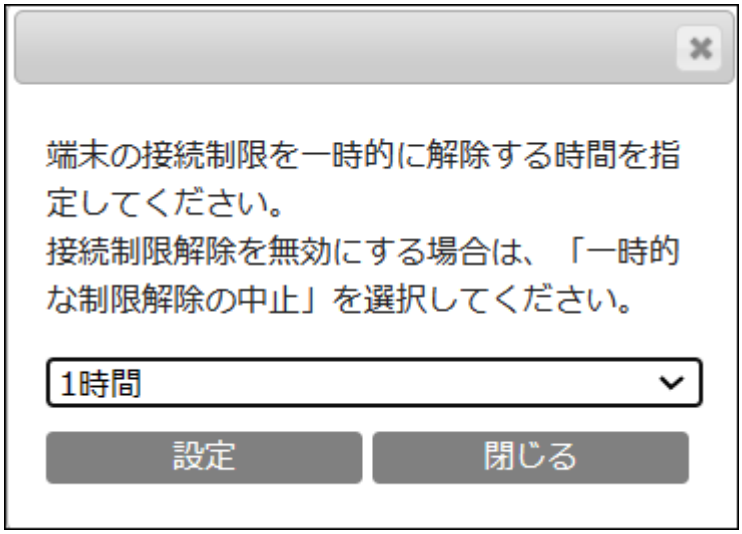
スケジュール登録画面



項目	内容
機器名	「一覧画面」(P.119)でクリックした機器名が表示されます。「新しい機器を追加する」をクリックした場合は、本機能の対象とする機器の名称を入力してください。 機器名は、半角英数字記号で64文字まで設定できます。
MACアドレス	「一覧画面」(P.119)でクリックした機器のMACアドレスが表示されます。 「新しい機器を追加する」をクリックした場合は、本機能の対象とする機器のMACアドレスを入力してください。
タイマー設定	本機能のプリセット値を選択します。 **制限しない** 選択すると、スケジュールをすべてアクセス許可に設定します。 **接続禁止** 選択すると、スケジュールをすべてアクセス禁止に設定します。 **夜間禁止（23時～7時）** 選択すると、スケジュールの23:00～7:00をアクセス禁止、そのほかをアクセス許可に設定します。 **手動設定** スケジュールを自由に設定したい場合に選択します。 **＜機器名＞と同じ設定** 選択すると、＜機器名＞に選んだ機器のスケジュールを反映します。
スケジュール	マウスのクリック/ドラッグ操作やスマートフォンのタップ操作でスケジュールを設定します。 緑色が「アクセス許可」を、橙色が「アクセス禁止」を示しています。

一時的な制限解除画面

トップ画面の「キッズタイマー」のパネルで、[一時的な制限解除]をクリックすると、「制限端末」に設定している機器のアクセス制限を一時的に解除できます。



デバイスコントロール(ルーターモード時のみ)

ネットワークに接続されている機器の状態を確認する画面です。

項目	内容
	現在設定画面にアクセスしている機器のアイコン上に表示されます。
	本製品にWi-Fi接続している機器のアイコン上に表示されます。
	「この端末は未検出でも表示する」にチェックが入っている機器のアイコン上に表示されます。この機器は本製品に接続されていなくても表示されます。

IPアドレス確認画面



本製品に接続している機器のIPアドレスが表示されます。
機器のアイコンをクリックすると、機器の個別設定が表示されます。

リンクレート確認画面



本製品に接続している機器のアップ速度とダウン速度のリンクレートが表示されます。
機器のアイコンをクリックすると、機器の個別設定が表示されます。

キッズタイマー



本製品に接続が許可･禁止されている機器や制限動作中の機器が表示されます。

機器設定画面へのアクセス画面



本製品に接続している機器が設定画面のインターフェースを利用できる場合、アイコンをクリックするとその機器の設定画面を開きます。設定画面のインターフェースを利用できない場合は、グレー表示されているか、クリックしても表示されません。

Wake-on-LAN実行画面



本製品に接続している機器のアイコンをクリックすると、その機器にWake-on-LANパケットを送信します。その機器がすでに動作している場合、またはWake-on-LANに対応していない場合は、パケットを送信しても何も起こりません。

機器の個別設定画面

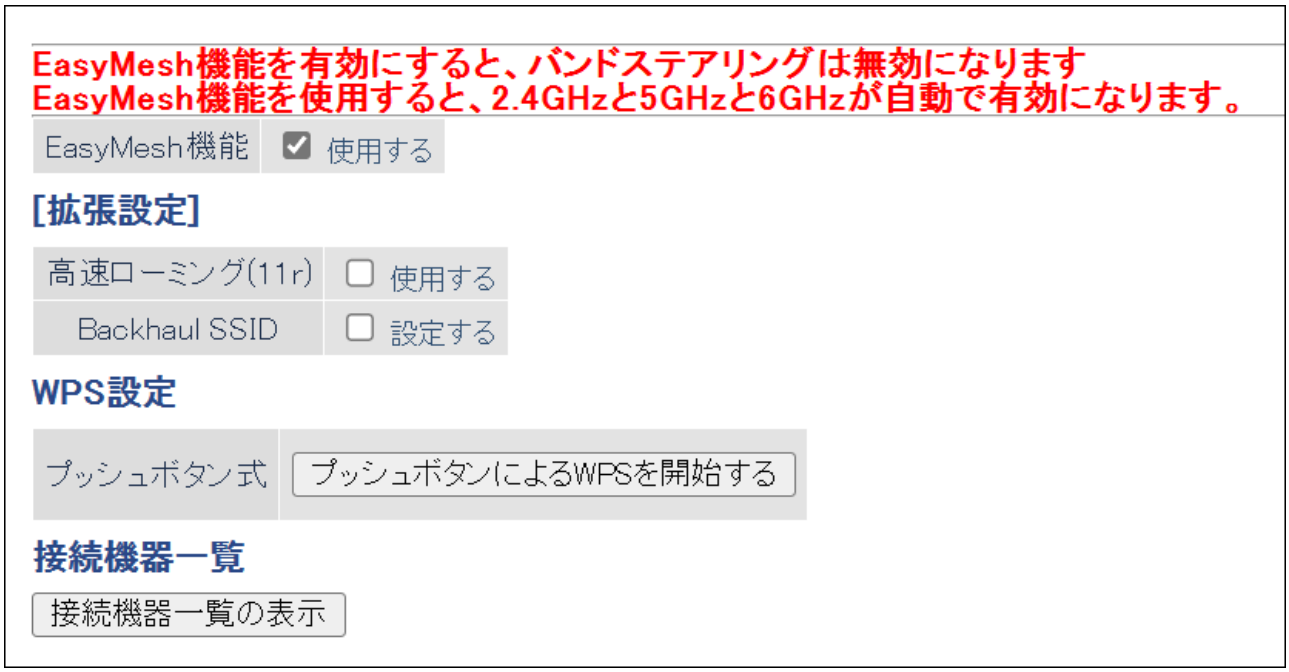


項目	内容
デバイス設定	機器の名称やアイコンを変更できます。名称は、半角英数字記号で64文字まで入力できます。
IPアドレス	機器のIPアドレスが表示されます。
MACアドレス	機器のMACアドレスが表示されます。
アドバンスドQoS	機器ごとに通信の優先度を設定できます。「全体設定に従う」を選択すると、「アドバンスドQoS」画面で設定した内容をこの機器にも適用します。
デバイス検出	「この端末は未検出でも表示する」にチェックを入れると、本製品はこの機器の情報を記憶し、この機器が本製品に接続されていない状態でもこの機器をデバイスコントロール画面に表示します。

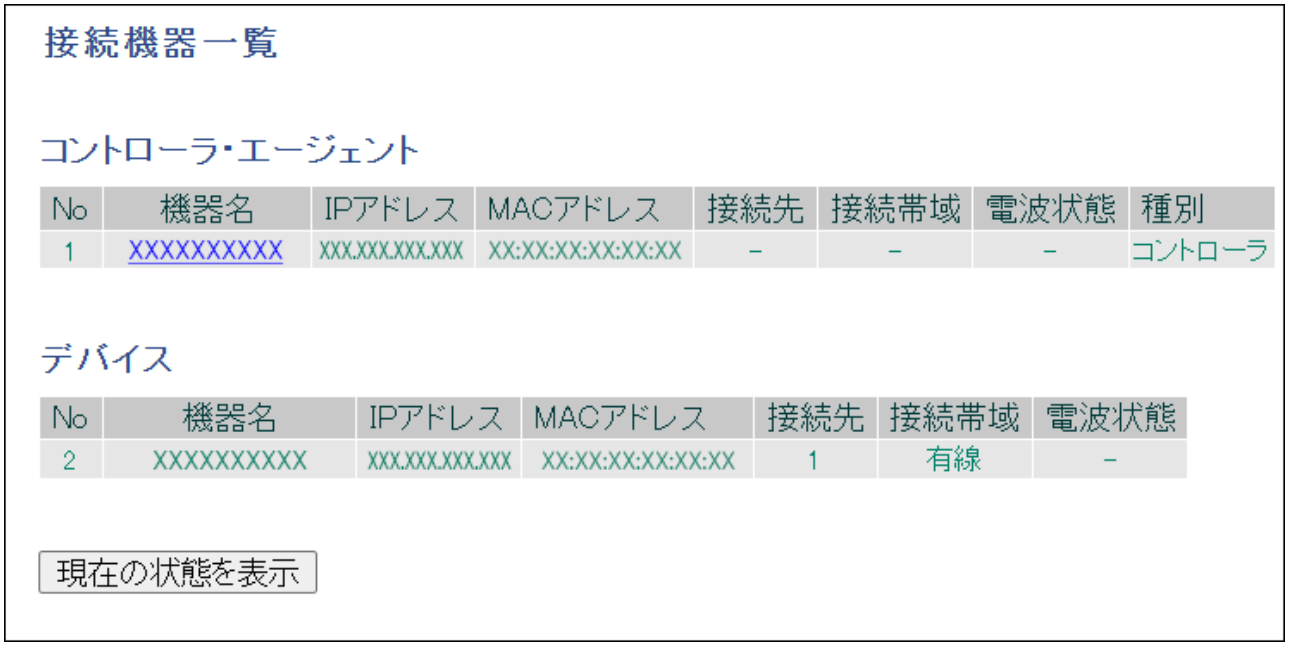
EasyMesh/中継機能(WB)

EasyMeshまたは中継機能(WB)の設定画面です。
詳細は、「EasyMesh/中継機能(WB)」(P.157)を参照してください。

●ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面



●接続機器一覧の画面

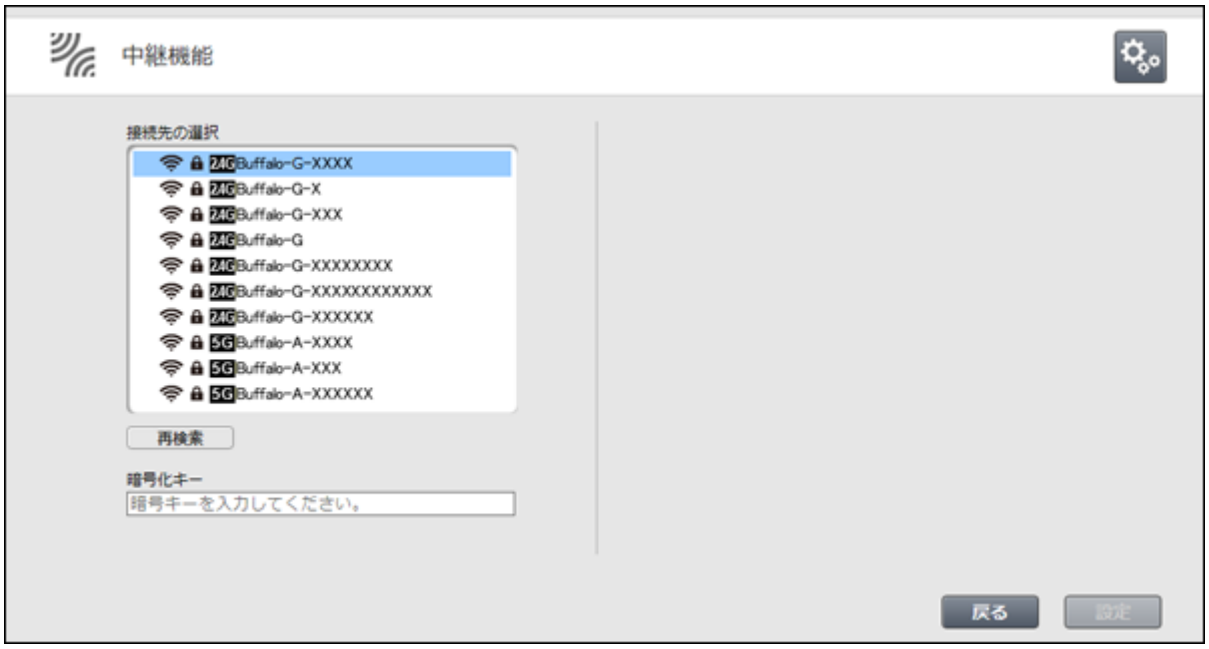


●中継機モード時の画面


接続情報
接続状態
無線接続中(中継機能(WB)-WPS接続)
2.4 GHz (11ax/n/g/b)
SSID
BUFFALO-XXXXXX_G
セキュリティー
WPA2 Personal AES
MACアドレス
XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK (事前共有キー)
XXXXXXXX
5 GHz (11ax/ac/n/a)
SSID
BUFFALO-XXXXXX_A
セキュリティー
WPA2 Personal AES
MACアドレス
XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK (事前共有キー)
XXXXXXXX
6 GHz (11ax)
SSID
-
セキュリティー
-
MACアドレス
XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK (事前共有キー)
-
EasyMesh対応Wi-Fiルーターと接続する場合は、「Wi-Fiルーターとの WPSを開始する」を実行してください。
Wi-Fiルーターと無線接続
EasyMeshまたは 中継機能(WB)で接続
Wi-Fiルーターとの WPSを開始する
中継機能(WB)で接続
手動設定をする
PINを使用したWPSを開始する
端末と無線接続
WPS
端末との WPSを開始する
拡張設定
EasyMesh
高速ローミング(11r)
使用する
6GHz SSID・事前共有キー自動作成
使用する
中継機能
6GHz/5GHz/2.4GHz 選択
自動
Wi-Fiルーター設定
接続時に中継機能の設定で動作する
[本機のWi-Fiルーター機能を停止する場合は 2.4GHz 及び 5GHz 及び 6GHz から無線機能を停止してください]
設定

中継機モードでWi-Fiルーターとの接続失敗時の表示

本製品側面のスイッチを「WB」にした状態で、Wi-Fiルーターとの接続ができていない場合、 をクリックすると、接続先Wi-Fiルーターの一覧が表示されます。
自動的にWi-FiルーターのSSIDが検索されるので、接続するSSIDを選択して暗号化キーを入力し、[設定]をクリックしてください。



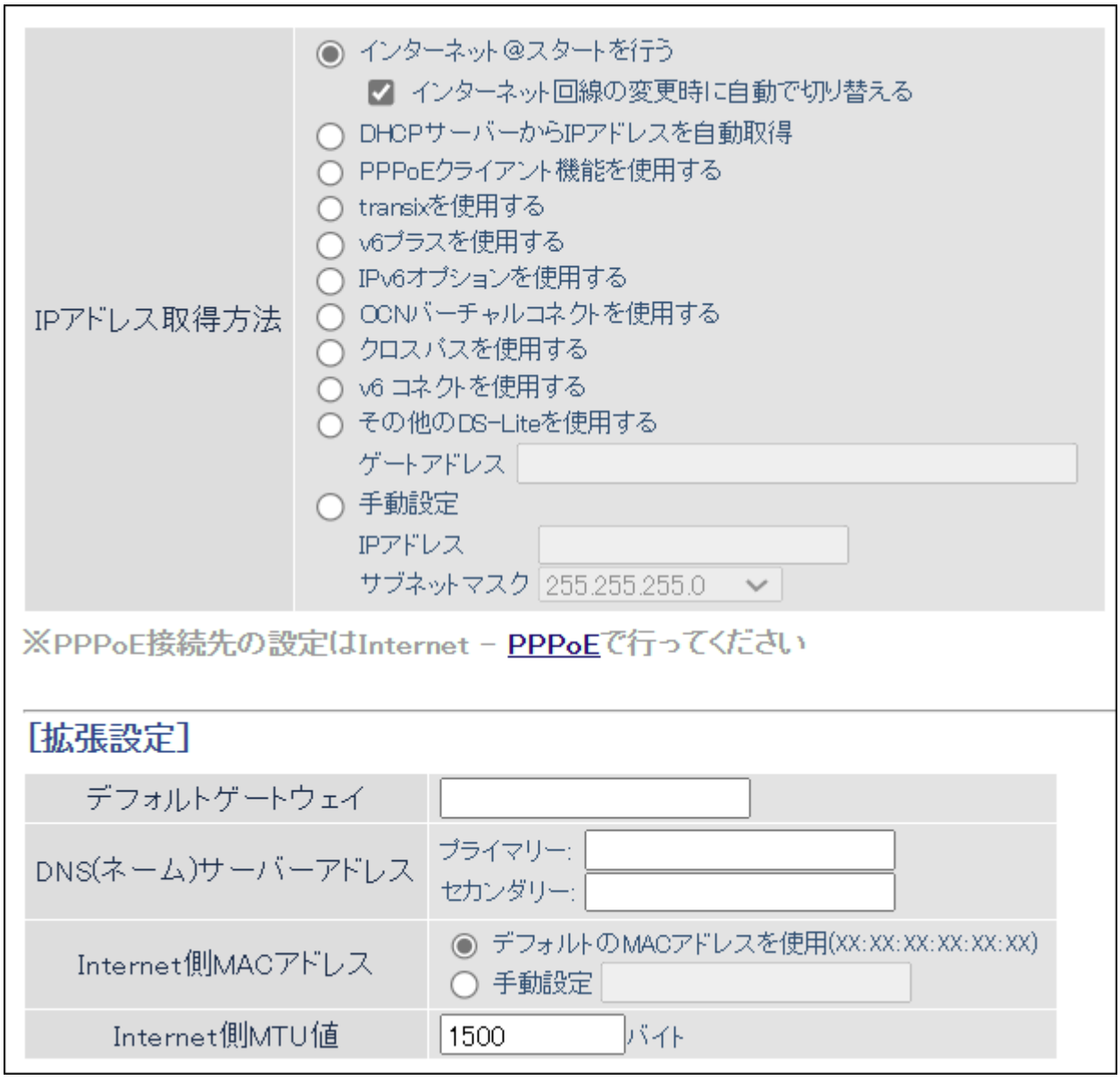
項目	内容
	[接続先の選択]で選択されているWi-Fiルーターの詳細設定画面を表示します。
再検索	Wi-FiルーターのSSIDをもう一度検索します。
暗号化キー	接続先のWi-Fiルーターに設定されている暗号化キーを入力します。
設定	[接続先の選択]で選択されている Wi-Fiルーターに接続します。

詳細設定画面

Internet

インターネット側の設定画面です。

Internet　＞　Internet（ルーターモード時のみ）



項目	内容
IPアドレス取得方法	インターネット側(IPv4)のIPアドレスの取得方法を指定します。 本製品のAUTO/MANUALスイッチが「AUTO」の場合は、「インターネット@スタートを行う」で動作します。 本製品のAUTO/MANUALスイッチが「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチが「ROUTER」の組み合わせの場合は、お使いの環境にあった設定を選択してください。 IPv4 over IPv6通信サービスをお使いの方は、当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html)を参照してください。 **インターネット@スタートを行う** インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行いたい場合に選択します。 通常はこの設定を選択してください。 「インターネット回線の変更時に自動で切り替える」にチェックを入れると、インターネット使用中も回線の自動判別を行い、変更があった場合は自動的に回線を切り替えます。その際、数分間通信ができなくなる場合があります。頻繁に回線が切り替わる場合は、チェックを外して使用してください。 **DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得** インターネット側(IPv4)のIPアドレスをDHCPサーバーから自動取得する場合に選択します。 **PPPoEクライアント機能を使用する** PPPoE機能を使用して、プロバイダーからIPアドレスを自動取得する場合に選択します。 **transixを使用する** 「transix」をお使いの場合に選択します。 **v6プラスを使用する** 「v6プラス」をお使いの場合に選択します。 **IPv6オプションを使用する** 「IPv6オプション」をお使いの場合に選択します。 **OCNバーチャルコネクトを使用する** 「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合に選択します。 **クロスパスを使用する** 「クロスパス」をお使いの場合に選択します。 **v6 コネクトを使用する** 「v6 コネクト」をお使いの場合に選択します。 **その他のDS-Liteを使用する** その他のDS-Lite方式(「transix」とは異なるゲートアドレスの設定が必要な回線)をお使いの場合に選択して、ゲートアドレスを入力します。 **手動設定** インターネット側(IPv4)のIPアドレスを手動で設定したい場合に選択します。 **メモ:** 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合で、本設定を選択しても接続できない場合は、「IPv6」(P.135)で「NDプロキシを使用する」に設定してください。 それでも接続できない場合は、「IPv6」(P.135)で「IPv6ブリッジを使用する」に設定してください。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNS(ネーム)サーバーアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。

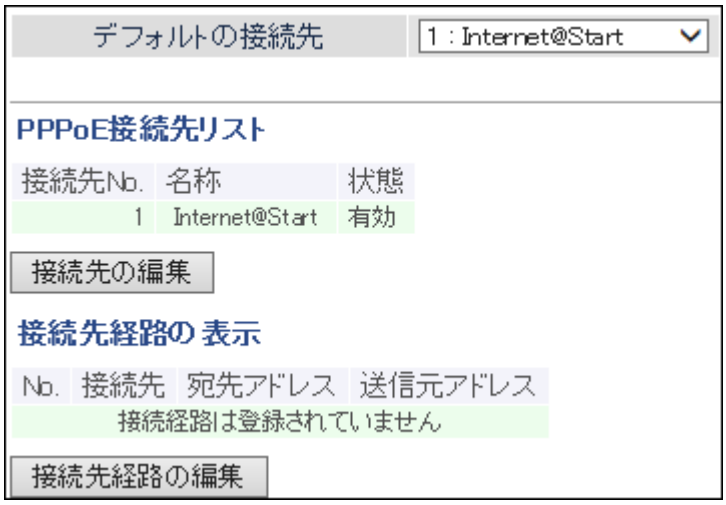
項目	内容
Internet側MACアドレス	インターネット側のMACアドレスを設定します。 **メモ:** 不適切なMACアドレスを設定すると、本製品だけでなく、ネットワーク上のほかの機器も使用できなくなります。この設定は、お客様の責任において行ってください。
Internet側MTU値	INTERNET端子で通信を行うときに使用するMTU値を578～1500バイトの範囲で設定します。 通常は、初期値(1500)のままお使いください。PPPoE接続時は、「PPPoE」(P.130)の「PPPoE接続先リスト」の「MTU値」が使われます。

※「transix」は、インターネットマルチフィード株式会社の登録商標です。
※「v6プラス」は、株式会社JPIXの登録商標です。
※「OCNバーチャルコネクト」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
※「クロスパス」は、アルテリア・ネットワークス株式会社の商標または登録商標です。
※「v6 コネクト」は、株式会社朝日ネットの商標です。

PPPoE

PPPoEに関する設定画面です。

Internet　＞　PPPoE(ルーターモード時のみ)



項目	内容
デフォルトの接続先	PPPoE接続先リストで複数の接続先を登録している場合、ここで選択した接続先が優先されます。デフォルト以外の接続先を用いるときは、PPPoEの接続先経路設定を別途行う必要があります。
PPPoE接続先リスト	PPPoEの接続先の編集ができます。最大5セッションまで登録可能です。
接続先の編集	クリックすると、接続先の設定を編集する画面が表示されます。

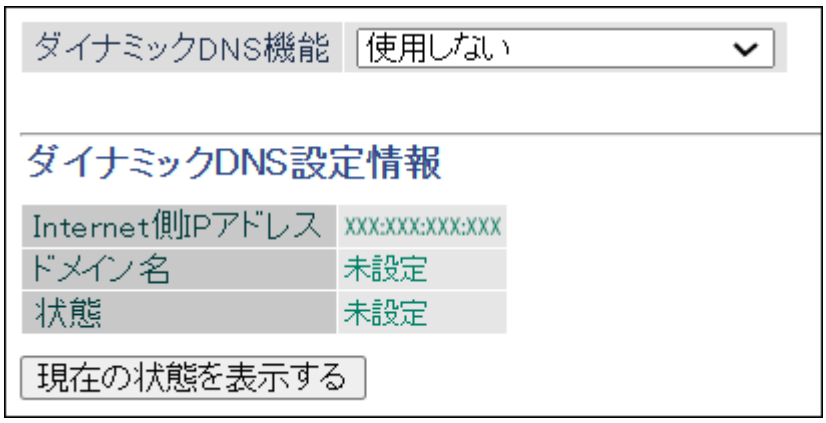
項目	内容
PPPoE接続先リスト	[接続先の編集]をクリックすると表示されます。 **接続先名称** 接続先を識別するための名称を32文字までの半角英数字記号で入力します。 **接続先ユーザー名** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のユーザー名を64文字までの半角英数字記号で設定します。 **接続先パスワード** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のパスワードを64文字までの半角英数字記号で設定します。 **サービス名** プロバイダーからサービス名の指定がある場合のみ64文字までの半角英数字記号で設定します。 プロバイダーから指定されなければ、空欄のままにします。 **接続方法** 本製品がプロバイダーに接続するタイミングを指定します。 **自動切断** 接続方法が「オンデマンド接続」または「手動接続」のときに、通信が停止してから、回線の使用を停止するまでの時間を0～1440分の範囲で設定します。 **認証方法** プロバイダーとの認証方法を設定します。 **MTU値** PPPoEで通信を行うときに使用するMTU値を、578～1492バイトの範囲で設定します。 **MRU値** PPPoEで通信を行うときに使用するMRU値を、578～1492バイトの範囲で設定します。 **キープアライブ** 有効にすると、本製品はPPPoEサーバーとの接続を維持するために、LCPエコーリクエストを1分に1度発行します。このとき、6分以上サーバーの応答がない場合は、回線が切断されたものと判断し、接続をいったん切断します。頻繁にPPPoE接続が切断される場合は、キープアライブに応答を返さないサーバーである可能性があるため、無効に設定してください。
接続先経路の表示	接続先経路を設定すると、設定した情報が表示されます。
接続先経路の編集	クリックすると、接続先経路を編集する画面が表示されます。
接続先経路の新規追加	[接続先経路の編集]をクリックすると表示されます。 **接続先** 「宛先アドレス」や「送信元アドレス」が一致する通信の場合にPPPoE接続を行う接続先です。PPPoE接続先リストに登録されている接続先から選択します。 **宛先アドレス** 通信の宛先アドレスです。このアドレス宛へ通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。 **送信元アドレス** 通信の送信元アドレスです。この送信元アドレスから通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。

DDNS

DDNS(ダイナミックDNS)に関する設定画面です。

メモ:「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのサービスをお使いの場合、ダイナミックDNSは使用できません。

Internet　＞　DDNS(ルーターモード時のみ)



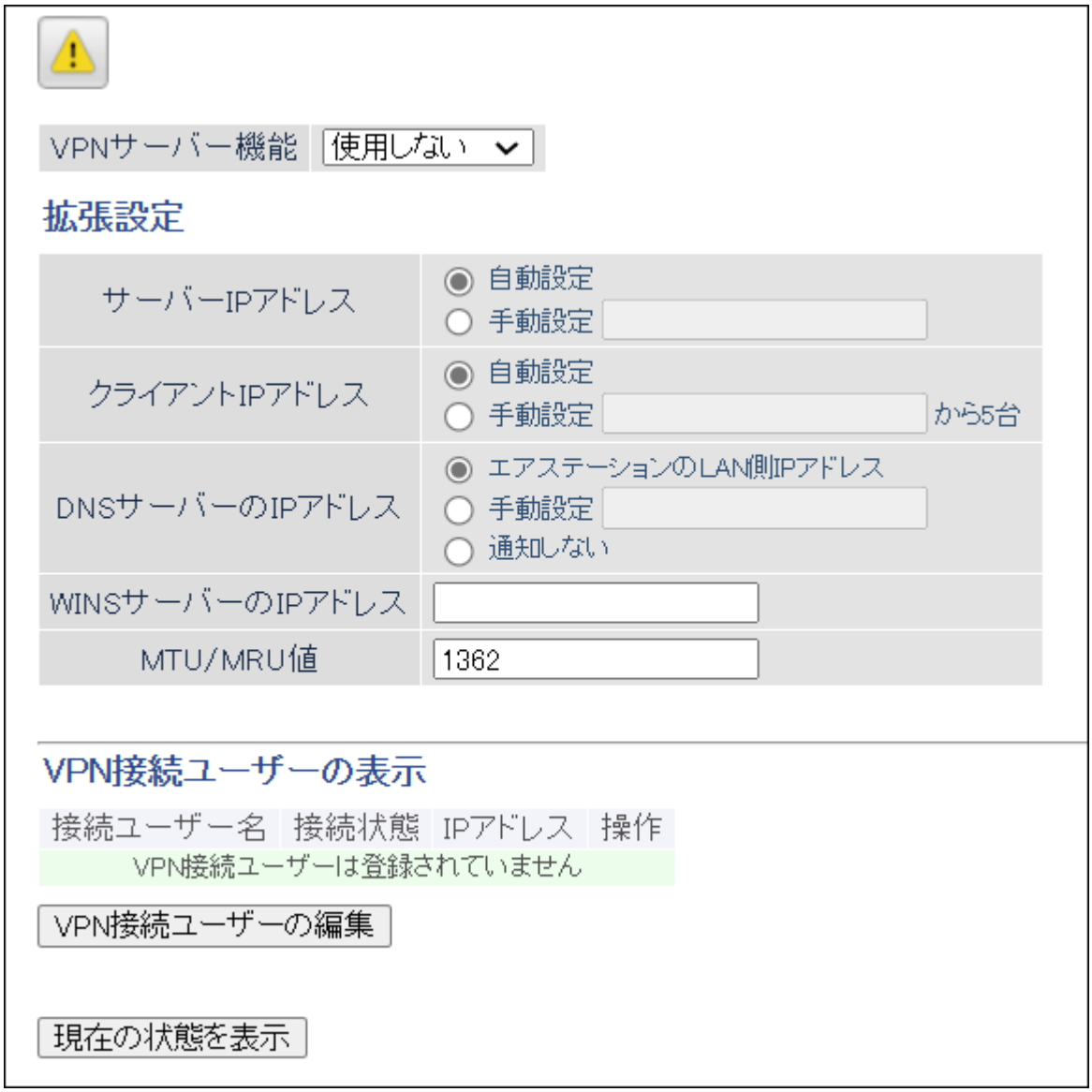
項目	内容
ダイナミックDNS機能	ダイナミックDNSサービスプロバイダーを「BUFFALOダイナミックDNS」、「DynDNS」、「No-IP」から選択します。
登録/変更設定 (BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ)	[登録/設定変更を行う]をクリックすると、バッファローサイトに接続します。画面上の手続きに従って、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録をしてください。
登録ユーザーID (BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ)	BUFFALOダイナミックDNSサービスに登録されているユーザーIDが表示されます。
登録情報の削除 (BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ)	[登録情報を削除する]をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。
ユーザー名 (DynDNS選択時のみ)	DynDNSに登録したユーザー名を入力します。
パスワード (DynDNS/No-IP選択時のみ)	DynDNSまたはNo-IPに登録したパスワードを入力します。
ホスト名 (DynDNS/No-IP選択時のみ)	DynDNSまたはNo-IPに登録したホスト名を入力します。
Emailアドレス (No-IP選択時のみ)	No-IPに登録したEmailアドレスを入力します。
IPアドレス更新周期 (DynDNS/No-IP選択時のみ)	IPアドレスを通知する周期を指定します。
強制更新を行う (No-IP選択時のみ)	有効にすると、IPアドレスが変更されていなくても通知を行います。
Internet側IPアドレス	インターネット側のIPアドレスが表示されます。
ドメイン名	ダイナミックDNSサービスプロバイダーから割り当てられたドメイン名が表示されます。

項目	内容
状態	ダイナミックDNSサービスの状態が表示されます。

VPNサーバー

VPNサーバーに関する設定画面です。

Internet　＞　VPNサーバー（ルーターモード時のみ）



項目	内容
VPNサーバー機能	VPNサーバー機能を使用する場合は、「L2TP/IPsec」を選択します。
事前共有キー	L2TP/IPsecで使用する事前共有キーを入力します。
サーバーIPアドレス	VPNクライアントが接続した際、クライアントに通知するサーバー側のIPアドレスを設定します。
クライアントIPアドレス	VPNクライアントが接続した際、クライアントに割り当てるIPアドレスの範囲を設定します。

項目	内容
DNSサーバーのIPアドレス	VPNクライアントに通知するDNSサーバーアドレスを設定します。
WINSサーバーのIPアドレス	VPNクライアントに通知するWINSサーバーアドレスを設定します。
MTU/MRU値	VPN上で通信を行う際に使用するMTU/MRU値を578～1500バイトの範囲で設定します。
[VPN接続ユーザーの編集]	クリックすると、VPN接続ユーザー情報を編集する画面が表示されます。
VPN接続ユーザーの新規追加	[VPN接続ユーザーの編集]をクリックすると表示されます。 **ユーザー名** VPNクライアントから本製品に接続する際に使用するユーザー名を半角英数字、および「"」、「'」、「/」、スペースを除く半角記号を16文字までで入力します。 **パスワード** VPNクライアントから本製品に接続する際に使用するパスワードを半角英数字、および「"」、「'」、「/」、スペースを除く半角記号を16文字までで入力します。 **IPアドレス割り当て方法** VPNクライアントから本製品に接続した際に、VPNクライアントに割り当てるIPアドレスの割り当て方法を指定します。
VPN接続ユーザーの表示/操作	登録したVPN接続ユーザー情報の確認と編集ができます。

アドレス変換

アドレス変換の設定画面です。

Internet　＞　アドレス変換（ルーターモード時のみ）

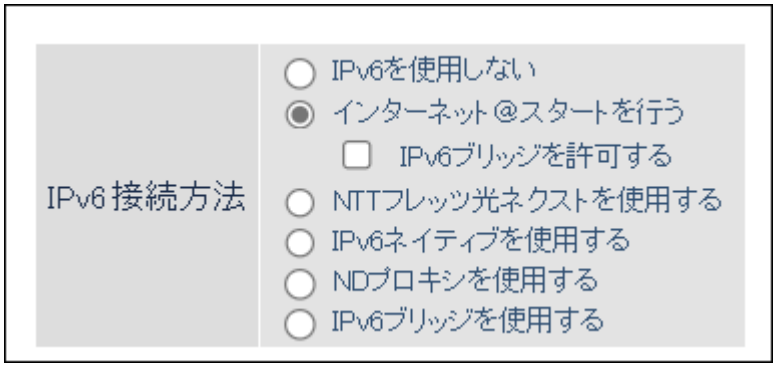


項目	内容
アドレス変換	アドレス変換機能を使用するかどうかを設定します。

IPv6

IPv6の接続方法を設定する画面です。

Internet　＞　IPv6（ルーターモード時のみ）



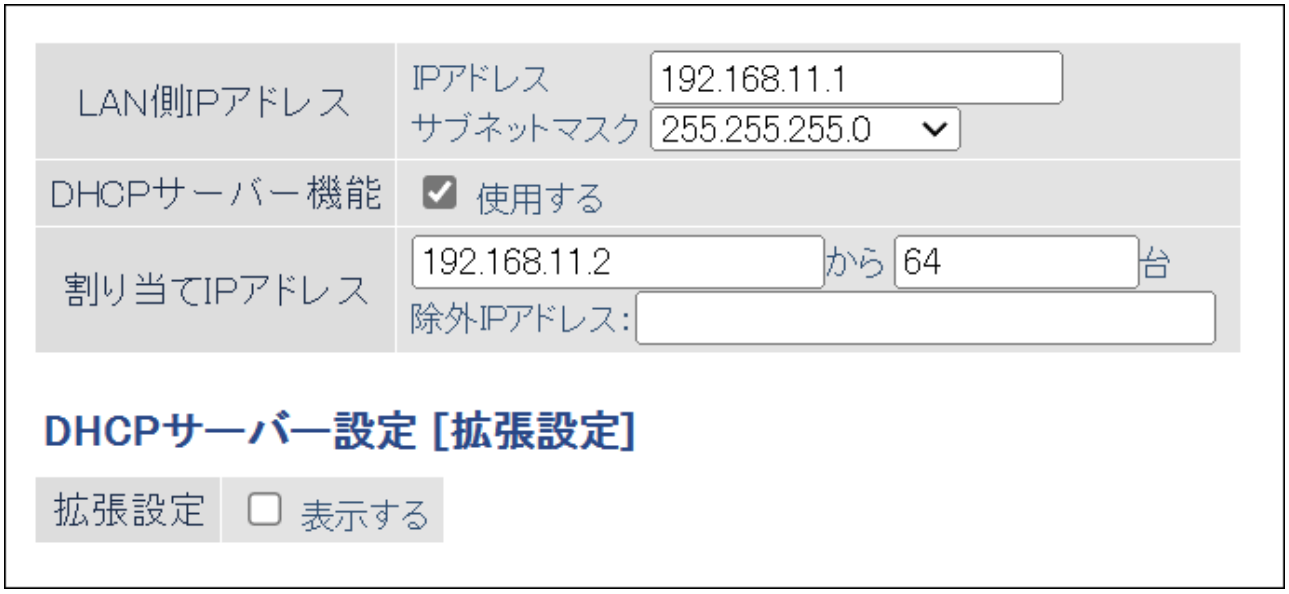
項目	内容
IPv6接続方法	IPv6での接続方法を指定します。ご利用の回線がどの接続方法を採用しているかは、お使いのプロバイダーへ確認してください。 **IPv6を使用しない** インターネット回線がIPv6に対応していないときに選択します。 **インターネット@スタートを行う** インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行います。 IPv6 PPPoEには対応していません。 「IPv6ブリッジを許可する」にチェックを入れると、インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジを使用する」が選択される場合があります。 **NTTフレッツ光ネクストを使用する** プレフィックス長が64ビットより短いNTTフレッツ 光ネクスト回線をお使いの場合に選択します（本設定は、通常は使用しません）。 **IPv6ネイティブを使用する** 後述の「IPv6プレフィックス取得方法」を設定する必要がある場合に選択します。 **NDプロキシを使用する** 下記の「IPv6ブリッジを使用する」よりもセキュリティーを高めた動作モードで、インターネット側とLAN側の間のIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを適用します。 IPv6サービスを利用する場合に選択します。 **IPv6ブリッジを使用する** インターネット側とLAN側の間のIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを使用できない場合に選択します。 **メモ:** IPv6ブリッジを使用すると、インターネット側から本製品に接続している機器にアクセスできる場合があります。本製品に接続している機器のセキュリティー設定を確認した上で使用してください。
IPv6ブリッジを許可する	この項目にチェックが入っていると、「インターネット@スタートを行う」を選択している際、インターネットとLANの間でIPv6パケットが通過できる「IPv6ブリッジ」が選択されることがあります。

項目	内容
IPv6プレフィックス取得方法	「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスのプレフィックスを取得する方法を以下から選択します。 **自動取得（DHCPv6-PD）** DHCPv6サーバーから自動的にIPv6プレフィックスを取得します。 **手動設定** IPv6プレフィックスを手動で入力します。グローバルプレフィックスを入力し、プレフィックス長を選択します。 **メモ:** IPv6プレフィックス取得方法を「手動設定」にした場合は、必ずIPv6デフォルトゲートウェイを設定してください。
LAN側IPv6アドレス自動配布方法	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークにIPv6アドレスを配布する方法を指定します。 **ステートレスアドレス自動設定で配布** Router Advertiseプロトコルを用いて、各ホストにアドレスを自動で配布します。 **DHCPv6サーバーで配布** DHCPv6サーバー機能を利用して、各ホストにアドレスを自動で配布します。この方法を選択する場合は、DHCPv6サーバーがアドレスを配布する時間、配布するアドレスの範囲を「リース期間」「リース範囲」にそれぞれ設定します。
IPv6デフォルトゲートウェイ	「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 デフォルトゲートウェイとなるIPv6アドレスを入力します。 **メモ:** IPv6プレフィックス取得方法を「自動取得」にしている場合は設定する必要はありません。「手動設定」にしている場合は、正しく入力しないとIPv6ネットワークと正しく接続できなくなります。
LAN側サブネットID	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークのサブネットIDを16進数で入力します。
LAN側インターフェースID	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 本製品のグローバルアドレスのインターフェースIDを設定します。
DNSサーバーの通知	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスがリースされた機器に対して通知するDNSサーバーのIPv6アドレスを設定します。

LAN

LAN側ポートの設定画面です。

LAN　＞　LAN

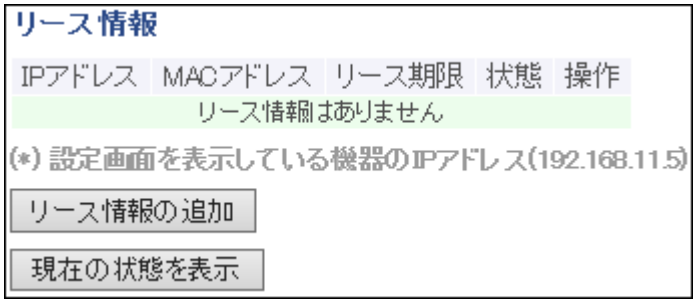


項目	内容
LAN側IPアドレス	LAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
DHCPサーバー機能	DHCPサーバー(IPアドレス自動割り当て)機能を使用するかどうかを設定します。
割り当てIPアドレス	DHCPサーバー機能で割り当てるIPアドレスの範囲とその範囲から除外するIPアドレスを設定します。
拡張設定	「表示する」を選択すると、DHCPサーバーの拡張設定項目が表示されます。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。
デフォルトゲートウェイの通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
WINSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するWINSサーバーのIPアドレスを設定します。
ドメイン名の通知	DHCPサーバー機能で通知するドメイン名を設定します。

DHCPリース

DHCPリースの設定画面です。

LAN　＞　DHCPリース（ルーターモード時のみ）

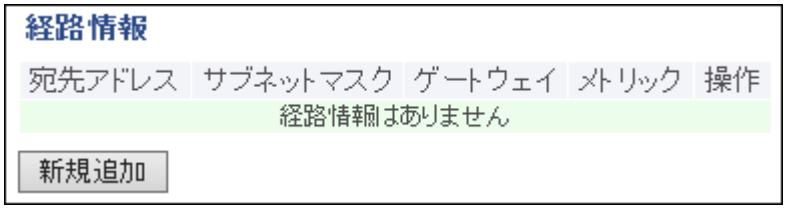


項目	内容
リース情報	現在のリース情報が表示されます。 自動リースされたIPアドレスは、[手動割当に変更]をクリックすると、手動リースに変更できます。
[リース情報の追加]	クリックすると、リース情報の追加画面が表示されます。
リース情報の新規追加	[リース情報の追加]をクリックすると表示されます。 **IPアドレス** 手動リースするIPアドレスを入力します。本製品のLAN側のネットワークアドレスに含まれないIPアドレスは設定できません。 **MACアドレス** 機器を識別するMACアドレスを入力します。

経路情報

本製品が行う通信のIP経路の設定画面です。

LAN　＞　経路情報



項目	内容
経路情報	手動で追加したルーティングテーブルを確認できます。 **宛先アドレス** ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスを表示します。 **サブネットマスク** ルーティングテーブルに追加するサブネットマスクを表示します。 **ゲートウェイ** ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを表示します。 **メトリック** ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を表示します。 **操作** [修正]をクリックすると、経路情報を修正できます。 [削除]をクリックすると、経路情報が削除されます。
[新規追加]	クリックすると、経路情報の追加画面が表示されます。
経路の新規追加	[新規追加]をクリックすると表示されます。 **宛先アドレス** ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。 **ゲートウェイ** ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。 **メトリック** ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を設定します。

2.4 GHz(11ax/n/g/b)

2.4 GHz(11ax/n/g/b)のWi-Fiの設定画面です。

無線設定　＞　2.4 GHz(11ax/n/g/b)





項目	内容
無線機能	Wi-Fi機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	Wi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」に設定すると、電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。 また、「自動」に設定している場合に、[チャンネルを再選出する]をクリックすると、本製品は最適なWi-Fiチャンネルを選び直します。 手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

項目	内容
干渉波自動回避	Wi-Fiチャンネルが「自動」に設定されている場合に、ほかのWi-Fi機器や電子レンジなどのWi-Fi以外の機器から発生するノイズを検知して、Wi-Fiチャンネルを変更するかどうかを設定します。 **無効** 干渉波自動回避機能を無効にします。無効に設定した場合、ノイズが検出されても、Wi-Fiチャンネルの変更は行いません。 **強い干渉を受けた時のみ回避する** 通信ができないほどの強いノイズを検出した場合に限り、Wi-Fiチャンネルを変更します。 **常に回避する** ノイズを検出すると、Wi-Fiチャンネルを変更します。
倍速モード	Wi-Fi通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を1147Mbps（40MHz）に設定します。
ANY接続	チェックを外すと、Wi-Fi機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 ～ SSID 5	**SSID 1** WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わないWi-Fi用のSSIDです。 **SSID 2** WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。 **SSID 3** WEP専用のSSIDです。 **SSID 4、SSID 5** 無線引っ越し機能を使用してWi-Fi設定を引き継いでいる場合に表示されます。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
隔離機能	「使用する」に設定すると、本製品に有線で接続している機器または異なるSSIDに接続している機器との通信ができなくなります。 同じSSIDに接続している機器同士は通信できます。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。

項目	内容
無線の認証	各SSIDの認証方式を以下から選択します。 **WPA2 Personal** WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA/WPA2 Personal** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA3 Personal** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA2/WPA3 Personal** WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **認証を行わない** 機器とのWi-Fi接続の際に認証を行いません。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
無線の暗号化	Wi-Fi通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 **AES** 暗号化の方式にAESを使用します。 **TKIP/AES mixed mode** 暗号化の方式にTKIPとAESを使用します。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。
WPA-PSK（事前共有キー）	SSID1とSSID2において、機器との認証で使用する事前共有キー（暗号化キー）を入力します。入力できる事前共有キーは、SSIDごとに異なります。 **SSID1の事前共有キー** 文字列入力の場合、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。 **SSID2の事前共有キー** 無線の認証が「WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を1～64文字で入力します。 無線の認証が「WPA2/WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。 • SSID1とSSID2で、別々の事前共有キーを設定する。 • 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	Wi-Fiを暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。

項目	内容
802.11nプロテクション	従来規格(11g/11b)の機器が混在している環境でも、コリジョンなどによって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔(1～255)の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	機器間のWi-Fi通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、2.4 GHzの同じSSIDに接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器または異なるSSIDに接続している機器は通信できます。
送信出力	本製品がWi-Fi送信するときの電波送信出力を設定します。
ビームフォーミングEX	有効にすると、本製品にWi-Fi接続している機器の位置を自動的に判別し、電波を最適に届けるよう調整します。通常は有効にしたままご使用ください。
802.11ax MU-MIMO	複数の802.11ax対応機器が接続している場合に、802.11ax規格のMU-MIMOによる通信を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、複数の802.11ax対応機器と同時通信を行う場合に通信速度の向上や応答速度の改善が見込めます。 **メモ:** 「使用する」に設定後、802.11ax対応機器の同時通信時に通信速度が安定しない、通信速度が低下するなどの現象が発生した場合は、「使用する」のチェックを外してください。

5 GHz(11ax/ac/n/a)

5 GHz(11ax/ac/n/a)のWi-Fiの設定画面です。

無線設定　＞　5 GHz(11ax/ac/n/a)





項目	内容
無線機能	Wi-Fi機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	Wi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。DFSに対応したチャンネルを設定した場合は、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的にチャンネルが変更されます。 「自動」に設定すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。 また、「自動」に設定している場合に、[チャンネルを再選出する]をクリックすると、本製品は最適なWi-Fiチャンネルを選び直します。

項目	内容
干渉波自動回避	Wi-Fiチャンネルが「自動」に設定されている場合に、ほかのWi-Fi機器や電子レンジなどのWi-Fi以外の機器から発生するノイズを検知して、Wi-Fiチャンネルを変更するかどうかを設定します。 **無効** 干渉波自動回避機能を無効にします。無効に設定した場合、ノイズが検出されても、Wi-Fiチャンネルの変更は行いません。 **強い干渉を受けた時のみ回避する** 通信ができないほどの強いノイズを検出した場合に限り、Wi-Fiチャンネルを変更します。 **常に回避する** ノイズを検出すると、Wi-Fiチャンネルを変更します。
倍速モード	Wi-Fi通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を4803Mbps（160MHz）に設定してください。
ANY接続	チェックを外すと、Wi-Fi機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 ～ SSID 5	**SSID 1** WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わないWi-Fi用のSSIDです。 **SSID 2** WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。 **SSID 3** WEP専用のSSIDです。 **SSID 4、SSID 5** 無線引っ越し機能を使用してWi-Fi設定を引き継いでいる場合に表示されます。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
隔離機能	「使用する」に設定すると、本製品に有線で接続している機器または異なるSSIDに接続している機器との通信ができなくなります。 同じSSIDに接続している機器同士は通信できます。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。

項目	内容
無線の認証	各SSIDの認証方式を以下から選択します。 **WPA2 Personal** WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA/WPA2 Personal** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA3 Personal** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **WPA2/WPA3 Personal** WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。 **認証を行わない** 機器とのWi-Fi接続の際に認証を行いません。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
無線の暗号化	Wi-Fi通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 **AES** 暗号化の方式にAESを使用します。 **TKIP/AES mixed mode** 暗号化の方式にTKIPとAESを使用します。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。
WPA-PSK（事前共有キー）	SSID1とSSID2において、機器との認証で使用する事前共有キー（暗号化キー）を入力します。入力できる事前共有キーは、SSIDごとに異なります。 **SSID1の事前共有キー** 文字列入力の場合、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。 **SSID2の事前共有キー** 無線の認証が「WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を1～64文字で入力します。 無線の認証が「WPA2/WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。 • SSID1とSSID2で、別々の事前共有キーを設定する。 • 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	Wi-Fiを暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字記号（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。

項目	内容
802.11nプロテクション	従来規格の機器が混在している環境でも、コリジョンなどによって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔(1～255)の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	機器間のWi-Fi通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、5 GHzの同じSSIDに接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器または異なるSSIDに接続している機器は通信できます。
送信出力	本製品がWi-Fi送信するときの電波送信出力を設定します。
ビームフォーミングEX	有効にすると、本製品にWi-Fi接続している機器の位置を自動的に判別し、電波を最適に届けるよう調整します。通常は有効にしたままご使用ください。
802.11ax MU-MIMO	複数の802.11ax対応機器が接続している場合に、802.11ax規格のMU-MIMOによる通信を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、複数の802.11ax対応機器と同時通信を行う場合に通信速度の向上や応答速度の改善が見込めます。 **メモ:** 「使用する」に設定後、802.11ax対応機器の同時通信時に通信速度が安定しない、通信速度が低下するなどの現象が発生した場合は、「使用する」のチェックを外してください。

6 GHz(11ax)

6 GHz(11ax)のWi-Fiの設定画面です。

無線設定　＞　6 GHz(11ax)



項目	内容
無線機能	Wi-Fi機能を使用するかどうかを設定します。

項目	内容
無線チャンネル	Wi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」に設定すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。また、「自動」に設定している場合に、[チャンネルを再選出する]をクリックすると、本製品は最適なWi-Fiチャンネルを選び直します。 **メモ:** • 本製品は191～283チャンネルに対応しておりますが、一般的な6 GHz対応のWi-Fi機器は195, 211, 227, 243, 259, 275チャンネル(推奨チャンネル)のみ使用できます。 • 次のいずれかの条件で使用した場合、Wi-Fi機器によっては6 GHzで接続できないことがあります。 -本製品で2.4 GHzまたは5 GHzを使用していない(電波を出していない)場合 -ANY接続の[許可する]のチェックを外して使用 -推奨チャンネル以外を使用
倍速モード	Wi-Fi通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を4803Mbps(160MHz)に設定してください。
ANY接続	チェックを外すと、Wi-Fi機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。 **メモ:** チェックを外した場合、Wi-Fi機器によっては、6 GHzに接続できないものがあります。その場合、チェックを入れてください。
SSID1	WPA3 PersonalのSSIDです。
隔離機能	「使用する」に設定すると、本製品に有線で接続している機器または異なるSSIDに接続している機器との通信ができなくなります。 同じSSIDに接続している機器同士は通信できます。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	**WPA3 Personal** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。
無線の暗号化	**AES** 暗号化の方式にAESを使用します。
WPA-PSK(事前共有キー)	SSID1において、機器との認証で使用する事前共有キー(暗号化キー)を入力します。無線の認証が「WPA3 Personal」のとき、半角英数字記号(大文字/小文字の区別あり)を1～64文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。 • 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔(1～255)の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	機器間のWi-Fi通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、本製品にWi-Fi接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器と、ほかの機器は通信できます。
送信出力	本製品がWi-Fi送信するときの電波送信出力を設定します。

項目	内容
802.11ax MU-MIMO	複数の802.11ax対応機器が接続している場合に、802.11ax規格のMU-MIMOによる通信を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、複数の802.11ax対応機器と同時通信を行う場合に通信速度の向上や応答速度の改善が見込めます。 **メモ:** 「使用する」に設定後、802.11ax対応機器の同時通信時に通信速度が安定しない、通信速度が低下するなどの現象が発生した場合は、「使用する」のチェックを外してください。

バンドステアリング

「バンドステアリング機能」に関する設定画面です。
バンドステアリング機能は、Wi-Fiの混雑状況を確認し、混雑している帯域の機器を混雑していない帯域に自動で接続し直す機能です。

無線設定　＞　バンドステアリング（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）



項目	内容
バンドステアリング機能	バンドステアリング機能を使用するかどうかを設定します。バンドステアリング機能を使用しない場合でも、「混雑状況モニター」でWi-Fiの混雑状況を確認できます。
ステアリング設定	バンドステアリング機能をどのように動作させるかを設定します。 **2.4 GHz、5 GHz混雑時に6 GHzを利用する** 6 GHz対応機器で、安定した通信を行いたい場合におすすめの設定です。 機器が2.4 GHzまたは5 GHz帯に接続している場合は、2.4 GHzまたは5 GHz帯が混雑すると自動的に機器を6 GHzに再接続させます。機器が6 GHz帯に接続している場合は、接続先を変更しません。 **2.4 GHz混雑時に5 GHzを利用する** 安定した通信を行いたい場合におすすめの設定です。 機器が2.4 GHz帯に接続している場合は、2.4 GHz帯が混雑すると自動的に機器を5 GHzに再接続させます。機器が5 GHz帯に接続している場合は、接続先を変更しません。 **6 GHzを常に優先する** 電波の混雑状況にかかわらず、必ず6 GHz帯に機器を接続させます。 機器のWi-Fi機能をONにしたとき、自動的に6 GHz帯につながらずお困りの方におすすめの設定です。 **5 GHzを常に優先する** 電波の混雑状況にかかわらず、必ず5 GHz帯に機器を接続させます。 機器のWi-Fi機能をONにしたとき、自動的に5 GHz帯につながらずお困りの方におすすめの設定です。 **混雑していない帯域を利用する** 2.4 GHz帯と5 GHz帯、6 GHz帯を比較して、より混雑していない帯域に機器を接続させます。混雑状況に差がない場合、2.4 GHz帯と5 GHz帯、6 GHz帯の接続変更が頻繁に発生する場合があります。
2.4 GHz/5 GHz/6 GHz共通SSID	チェックを付けると、2.4 GHz、5 GHz、6 GHzで共通のSSIDを作成できます。 バンドステアリング機能を利用するには、機器が2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯で本製品に接続できる状態にしておく必要がありますが、機器を共通SSIDに接続することで、2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯でそれぞれのSSIDとの接続設定を行わなくてもバンドステアリング機能を利用できます。

項目	内容
SSID	2.4GHz/5GHz/6GHzの共通SSIDを作成します（半角英数字または記号で32文字までです）。
無線の認証	共通SSIDで使用する認証方式を選択します。
無線の暗号化	共通SSIDで使用する暗号化方式を選択します。
WPA-PSK（事前共有キー）	共通SSIDで使用する事前共有キー（暗号化キー）を入力します。
Key更新間隔	事前共有キーが更新されるまでの時間を指定します。0～1440分（24時間）の間で指定してください。「0」を設定した場合、事前共有キーは更新されません。
混雑状況モニター	本製品周囲における2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯それぞれの混雑状況を表示したり、機器それぞれにバンドステアリング機能を設定したりする画面に移動します。

混雑状況モニター画面



項目	内容
表示範囲	混雑状況モニターのグラフが表示する範囲を選択します。 **5分間** 5分前から現在までの状況を表示します。 **1時間** 1時間前から現在までの状況を表示します。 **1日** 24時間前から現在までの状況を1時間ごとに表示します。本製品の電源を入れてから1時間以上経過していなければ表示されません。 **1週間** 7日前から現在までの状況を1日ごとに表示します。本製品の電源を入れてから1週間以上経過していなければ表示されません。

項目	内容
混雑状況グラフ	本製品周囲における2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯それぞれの混雑状況をグラフで表示します。グラフの位置が高いほど混雑していることを表します。
無線端末一覧	本製品にWi-Fi接続している機器、および過去に本製品にWi-Fi接続した機器を一覧表示します。 **選択** 過去に接続したことがある機器にチェックを入れ、[削除]をクリックすると、その機器の情報を削除できます。現在接続中の機器は選択できません。 **電波** 接続している機器からの電波強度を3段階で表示します。 **端末名称** 「デバイスコントロール」画面で設定している機器の名称を表示します。名称を変更した場合は、[保存]をクリックして変更内容を保存します。 **MACアドレス** 機器のMACアドレスを表示します。 **対応無線規格** 機器が対応しているWi-Fi規格を表示します。「BF」はビームフォーミングに対応していることを表します。 **接続状況** 機器が2.4 GHz帯、5 GHz帯、6 GHz帯のどちらに接続しているかを表示します。また、本製品との現在の通信レートを表示します。 **バンドステアリング** 機器がバンドステアリング機能を利用できるかどうかを表示します。また、機器個別でステアリングの設定を行うことができます。ここで設定した内容は、「バンドステアリング」画面の「ステアリング設定」で設定した条件よりも優先されます。設定を変更した場合は[保存]をクリックして設定を保存します。 **自動** バンドステアリング設定に従って動作します。 **6 GHz優先** 帯域の混雑状況に関わらず、常に6 GHzに接続します。 **5 GHz優先** 帯域の混雑状況に関わらず、常に5 GHzに接続します。 **2.4 GHz優先** 帯域の混雑状況に関わらず、常に2.4 GHzに接続します。 **無効** 選択した機器のみ、バンドステアリング機能を無効にします。 **メモ:** 接続中の機器および過去に接続したことがある機器で合計64台まで表示します。機器の合計が65台を超えた場合、すべての機器は表示できません。使用していない機器の情報は削除することをおすすめします。

EasyMesh/中継機能(WB)

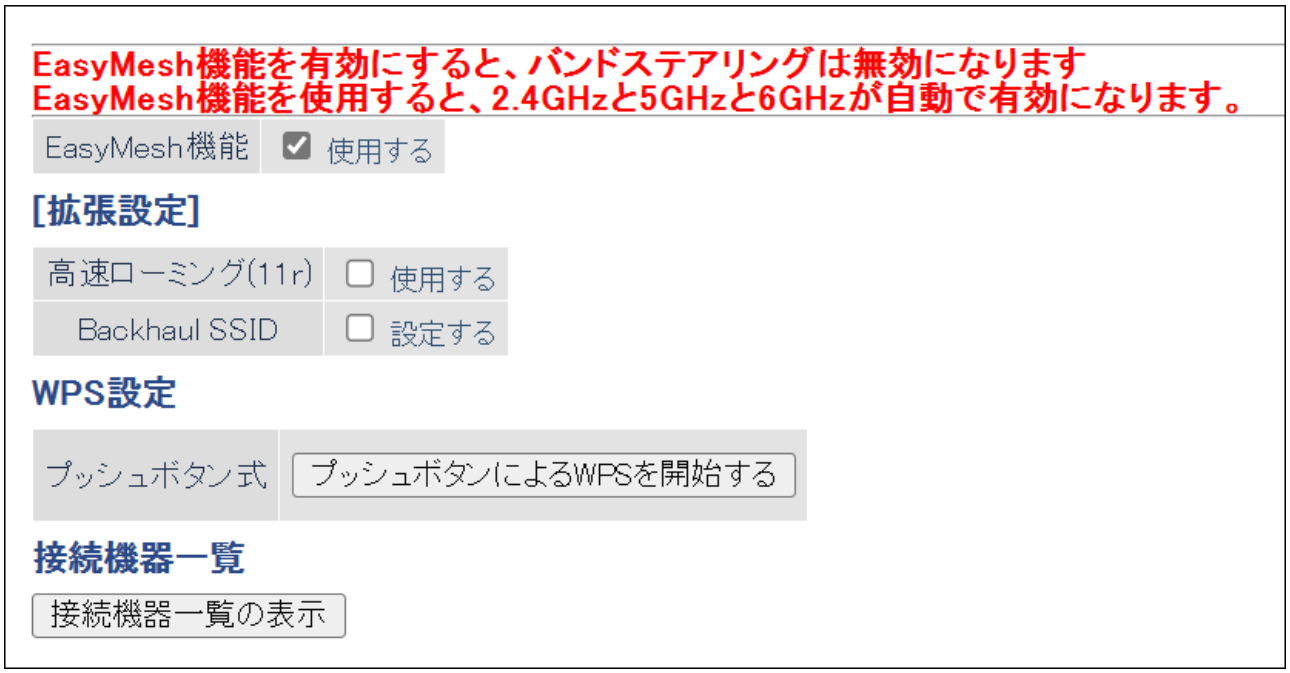
EasyMeshを利用するネットワークで本製品をコントローラまたはエージェントとして使用する場合や、EasyMeshを利用しないネットワークで本製品を中継機として使用する場合の設定画面です。
本製品の動作モードにより、以下の画面のどちらかが表示されます。

- ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面
  例)EasyMeshを利用するネットワークで本製品をコントローラとする場合
  例)EasyMeshを利用しないネットワークで本製品をほかの中継機と中継機接続している場合
- 中継機モード時の画面
  例)EasyMeshを利用するネットワークで本製品をエージェントとする場合
  例)EasyMeshを利用しないネットワークで本製品をほかのWi-Fiルーターと中継機接続している場合

無線設定　＞　EasyMesh(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

●ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面

EasyMeshを利用するネットワークで本製品がコントローラとして動作している場合や、EasyMeshを利用しないネットワークで本製品がほかの中継機と中継機接続している場合、以下の画面が表示されます。



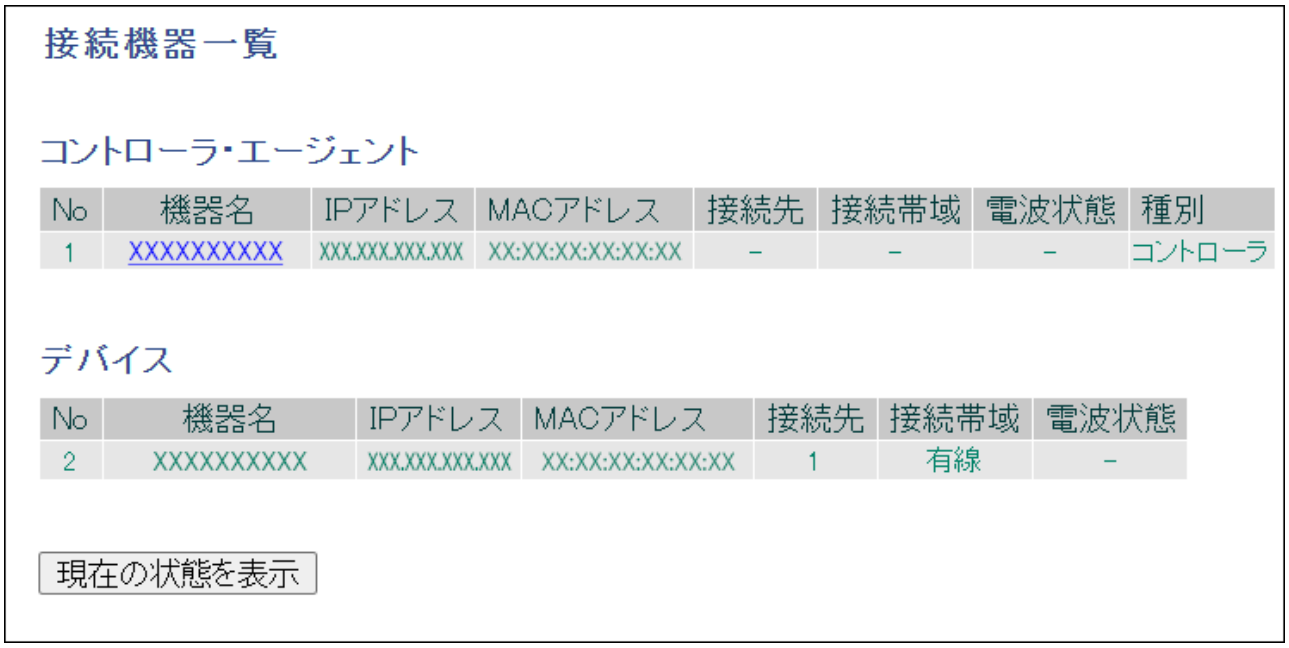
項目	内容
EasyMesh機能	「EasyMesh機能」を使用するかどうかを設定します。
高速ローミング(11r)	「高速ローミング(11r)」を使用するかどうかを設定します。 **メモ:** 通信中に移動した場合でも電波を途切れにくくしたいときは、[使用する]に設定してください。お使いの機器によっては、[使用する]に設定すると、接続が失敗する場合や、接続が不安定になることがあります。そのようなときは、[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックしてください。
Backhaul SSID	[設定する]をチェックして[設定]をクリックすることで、メッシュネットワークで主にコントローラとエージェントの接続に使用されるSSID(Backhaul SSID)を設定します。 ・WPA-PSK(事前共有キー)以外は変更できません。
プッシュボタンによるWPSを開始する	このボタンをクリックすると、WPS待ち受け状態になります。 **メモ:** 本製品とエージェントを接続する場合や、本製品に中継機を接続する場合にクリックしてください。

項目	内容
接続機器一覧の表示	メッシュネットワーク内にある、コントローラとエージェント、Wi-Fi機器の情報を一覧表示します。

●接続機器一覧

本製品と同じネットワークに接続されている機器およびデバイスを表示します。

メモ: メッシュネットワークに接続されていない機器も表示されます。



●コントローラ・エージェント

項目	内容
No	接続されている機器のリスト管理上の番号を表示します。
機器名	当社のEasyMesh対応機器の場合は型番を、他社のEasyMesh対応機器の場合は、“other”を表示します（表示は変更できません）。 機器名をクリックすると、その機器に接続しているデバイスの一覧が以下に表示されます。
IPアドレス	現在のIPアドレスを表示します。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。
接続先	エージェントには、接続先のコントローラ、またはエージェントのNoを表示します。 **メモ:** コントローラには、“-”を表示します。
接続帯域	各エージェントとコントローラとの接続している形式を表示します。 **メモ:** バンドステアリング機能が有効の場合でも、実際に接続している通信規格を表示します。
電波状態	各エージェントの、コントローラとの電波の受信レベルを表示します。
種別	EasyMesh対応機器の場合は、コントローラとして使用しているのか、エージェントとして使用しているのかを表示します。

●デバイス

ネットワークに接続されている機器および、EasyMeshに非対応のWi-Fi機器が表示されます。

メモ: 電源がOFFとなっている機器は表示されません（リストを更新すると表示されなくなります）。

項目	内容
No	接続されている機器のリスト管理上の番号を表示します。
機器名	デバイスから取得した名称を表示します。 デバイスから情報を取得できなかった場合は、"Unknown"と表示されます。 変更したい場合は、デバイス側の名称を変更してください。 IPアドレス情報を取得できなかったデバイスは、“-”と表示されます。

項目	内容
IPアドレス	デバイスの現在のIPアドレスを表示します。 **メモ:** IPアドレス情報を取得できなかったデバイスは、“-”と表示されます。
MACアドレス	デバイスのMACアドレスを表示します。 **メモ:** MACアドレス情報を取得できなかったデバイスは、“-”と表示されます。
接続先	メッシュネットワークに接続している場合、接続先のコントローラまたは、エージェントのNoを表示します。 **メモ:** EasyMesh非対応機器へ接続しているデバイスの場合は、そのEasyMesh非対応機器が接続しているEasyMesh対応機器のNoが表示されます。
接続帯域	各デバイスが接続している機器との接続形式を表示します。 EasyMesh非対応機器へ接続しているデバイスの場合は、そのEasyMesh非対応機器が接続しているEasyMesh対応機器との接続形式が表示されます。 **メモ:** バンドステアリング機能が有効の場合でも、実際に接続している通信規格を表示します。
電波状態	各デバイスがWi-Fi接続している場合、電波受信レベルを表示します。 EasyMesh非対応機器へ接続しているデバイスの場合は、そのEasyMesh非対応機器が接続しているEasyMesh対応機器との電波受信レベルが表示されます。 **メモ:** 有線接続している場合は、“-”が表示されます。

無線設定　＞　EasyMesh/中継機能(WB)(中継機モード時のみ)

●中継機モード時の画面

EasyMeshを利用するネットワークで、本製品がエージェントとして動作している場合や、EasyMeshを利用しないネットワークで、本製品が中継機として動作している場合は以下が表示されます。



項目	内容
接続状態	中継機能の状態を表示します。

項目	内容
SSID	本製品の接続先のSSIDが表示されます。
セキュリティー	接続先との接続で使用しているセキュリティーの種類が表示されます。
MACアドレス	Wi-Fiルーターに接続する際の2.4 GHzと5 GHz、6 GHzのMACアドレスが表示されます。MACアクセス制限を使用する場合、こちらのMACアドレスをWi-Fiルーターに登録します。
WPA-PSK（事前共有キー）	本製品の接続先の事前共有キー（暗号化キー）が表示されます。
Wi-FiルーターとのWPSを開始する	Wi-FiルーターのWPSボタンを押してからこのボタンをクリックすると、Wi-FiルーターとのWPS接続を行います。
手動設定をする	ボタンをクリックすると、本製品周辺のWi-Fiルーターが検索されます。接続したいWi-Fiルーターを選択し、暗号化キーを入力すると、接続処理が完了します。
PINを使用したWPSを開始する	接続に必要なPINコードが発行され、本製品周辺のWi-Fiルーターが検索されます。接続したいWi-Fiルーターを選択して[PIN実行]をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。 接続先のWi-Fiルーターに対して、2分以内にPINコードを登録すると、接続処理が完了します。
端末とのWPSを開始する	本製品に接続する機器でWPS接続を開始してからこのボタンをクリックすると、機器とのWPS接続を行います。
高速ローミング（11r）	EasyMeshでの接続において、高速ローミング（11r）を使用するかどうかを設定します。 **メモ:** 通信中に移動した場合でも電波を途切れにくくしたいときは、[使用する]に設定してください。お使いの機器によっては、[使用する]に設定すると、接続が失敗する場合や、接続が不安定になることがあります。そのようなときは、[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックしてください。
6 GHz SSID・事前共有キー自動作成	コントローラの5 GHzのWPA3用またはWPA2/3用のSSIDの設定を元にし、6 GHzのSSIDと事前共有キーを自動で作成します。 **メモ:** • コントローラの5 GHzのWPA3用またはWPA2/3用のSSIDが無効、または存在しない場合は、6 GHzのSSIDと事前共有キーは、自動で作成されません。 • コントローラの5 GHzのWPA3用またはWPA2/3用のSSID、または6 GHzのSSIDの設定が変更されている場合は、コントローラとエージェント（本製品）で6 GHzのSSID設定が異なることがあります。そのようなときは、「使用する」のチェックを外して、[設定]をクリックしてください。その後、[無線設定] – [6 GHz(ax)]から6 GHzのSSIDを設定してください。
6 GHz/5 GHz/2.4 GHz選択	接続先と接続する際の優先順位を設定します。
Wi-Fiルーター設定	EasyMeshを利用しないネットワークで、接続先のWi-FiルーターのSSIDと暗号化設定を本製品に引き継ぐ場合は、「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れてください。 **メモ:** • EasyMesh使用時は、本設定を使用できません。 • チェックを入れた場合、Wi-Fi機器ではWi-Fiルーターと本製品が同じ1つのSSIDとして表示され、チェックを入れない場合、Wi-Fi機器ではWi-Fiルーターと本製品が別のSSIDとして表示されます。

WPS

WPSの設定や状況を確認する画面です。

無線設定　＞　WPS(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

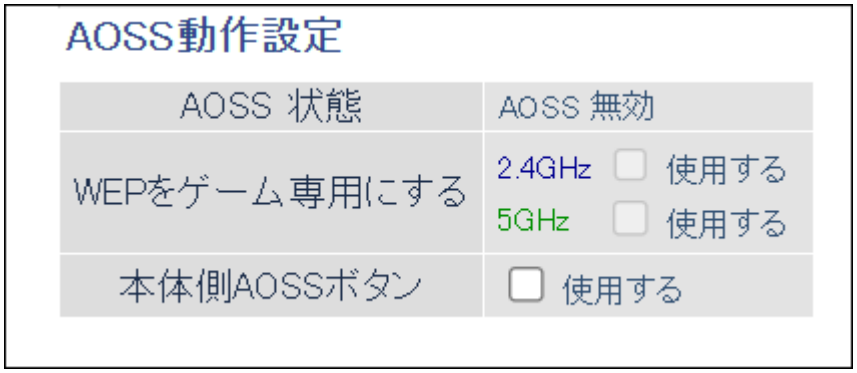


項目	内容
WPS機能	WPS機能を使用するかどうかを設定します。 **メモ:**「ANY接続」を無効にしている周波数帯では、WPSを実行できません。
外部Registrar	WPS機能を使用する際に、外部Registrarからのconfigure要求を受け付けるかどうかを設定します。 AOSS接続を行うと、外部Registrarの要求を受け付けなくなります。
エアステーション PINコード	本製品のPINコードが表示されます。[PIN生成]をクリックすると、新しいPINコードが生成されます。
EnrolleeのPINコード	機器のPINコードを入力して[OK]をクリックすると、本製品の内部Registrarが、そのPINコードを持つ機器からの接続要求を受け付ける状態になります。
WPS用無線セキュリティー設定	本製品のWPS状態と現在設定されているSSID、セキュリティー、暗号鍵が表示されます。

AOSS

AOSSの設定や状況を確認する画面です。

無線設定　＞　AOSS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）



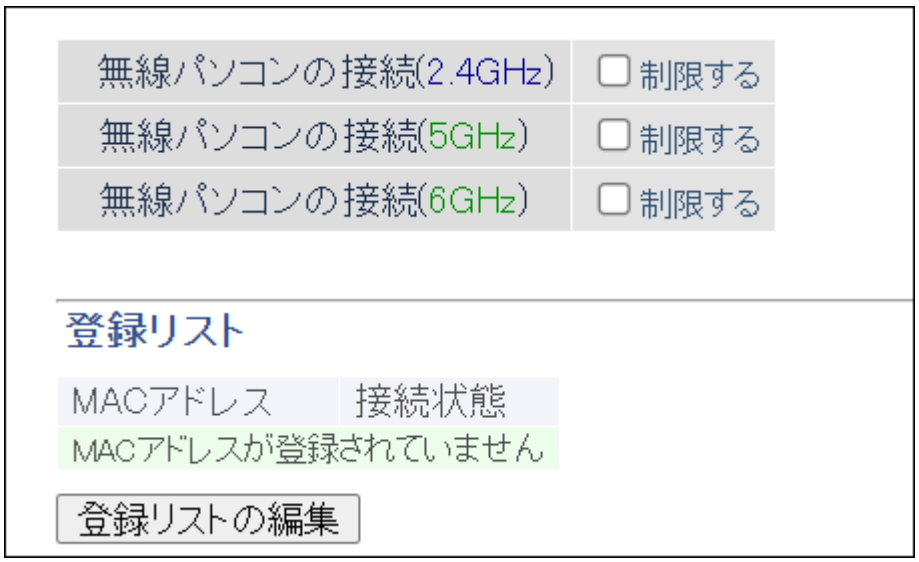
項目	内容
AOSS状態	現在のAOSSの状態を表示します。AOSS有効時に、  をクリックすると、AOSS接続が解除されます（その際、SSIDや暗号化キーもAOSSを使用する前の値に戻ります）。
WEPをゲーム専用にする	設定を有効にすると、本製品にWEPで接続できる機器は、WEPのみをサポートした機器となり、WPA（またはWPA2）とWEPの両方に対応した機器は、WEPでは接続できなくなります。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外した場合は、本製品のAOSSボタンを押してもAOSS接続は実行されず、WPS接続のみが実行されます。
AOSS接続先情報	本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器の情報が表示されます。 **接続先情報** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器の名称が表示されます。 **MACアドレス** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器のMACアドレスが表示されます。 **対応暗号化方式** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器の対応可能な暗号化の種類が表示されます。 **無線** 現在接続しているWi-Fi方式が表示されます。 **AOSS** AOSSで接続している機器かどうかが表示されます。
AOSS接続先情報の編集	AOSSで接続している接続先を削除できます。

MACアクセス制限

機器からのアクセスを制限する設定画面です。

メモ: MACアクセス制限と「キッズタイマー」(P.171)は同時に使用できません。キッズタイマーを使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

無線設定　＞　MACアクセス制限



項目	内容
無線パソコンの接続	機器からのWi-Fi接続を制限するかどうかを設定します。
登録リスト	MACアクセス制限で、接続を許可する機器のMACアドレスが表示されます。 MACアドレスの登録は、[登録リストの編集]をクリックして行います。 **MACアドレス** MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスの一覧が表示されます。 **接続状態** リストに登録した機器が、現在接続しているかどうかを表示します。接続中であれば「○」、未接続であれば「×」が表示されます。
登録リストの編集	登録したMACアドレスを編集できます。 **MACアドレス** リストに登録した機器のMACアドレスが表示されます。 **操作** [修正]をクリックすると、登録したMACアドレスを修正できます。 [削除]をクリックすると、登録したMACアドレスが削除されます。
登録するMACアドレス	接続を許可する機器のMACアドレスを入力します。 [新規追加]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。
検出された無線パソコン一覧	本製品にWi-Fi接続している機器のMACアドレスをリストに登録できます。 **MACアドレス** 本製品にWi-Fi接続している機器のMACアドレスが表示されます。 **操作** [登録]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。[現在の状態を表示]をクリックすると、現在の状態が表示されます。

マルチキャスト制御

無線LAN(Wi-Fi)ポートに不必要なマルチキャストパケットが転送されないように制限する設定画面です。

メモ: 中継機モードで動作時にSnooping機能の設定を変更した場合は、もう一度Wi-Fiルーターと接続する必要があります。

無線設定　＞　マルチキャスト制御



項目	内容
Snooping機能	IGMPなどのマルチキャスト管理パケットを監視し、不必要な有線・無線(Wi-Fi)のマルチキャストの転送を抑制できる、マルチキャストSnooping(スヌーピング)機能を使用するかどうかを設定します。
マルチキャストAging Time	マルチキャストSnooping機能によって学習した情報を保持する時間を1～3600(秒)の範囲で設定します。IGMP/MLDクエリー間隔よりも十分に大きな値を入力する必要があります。

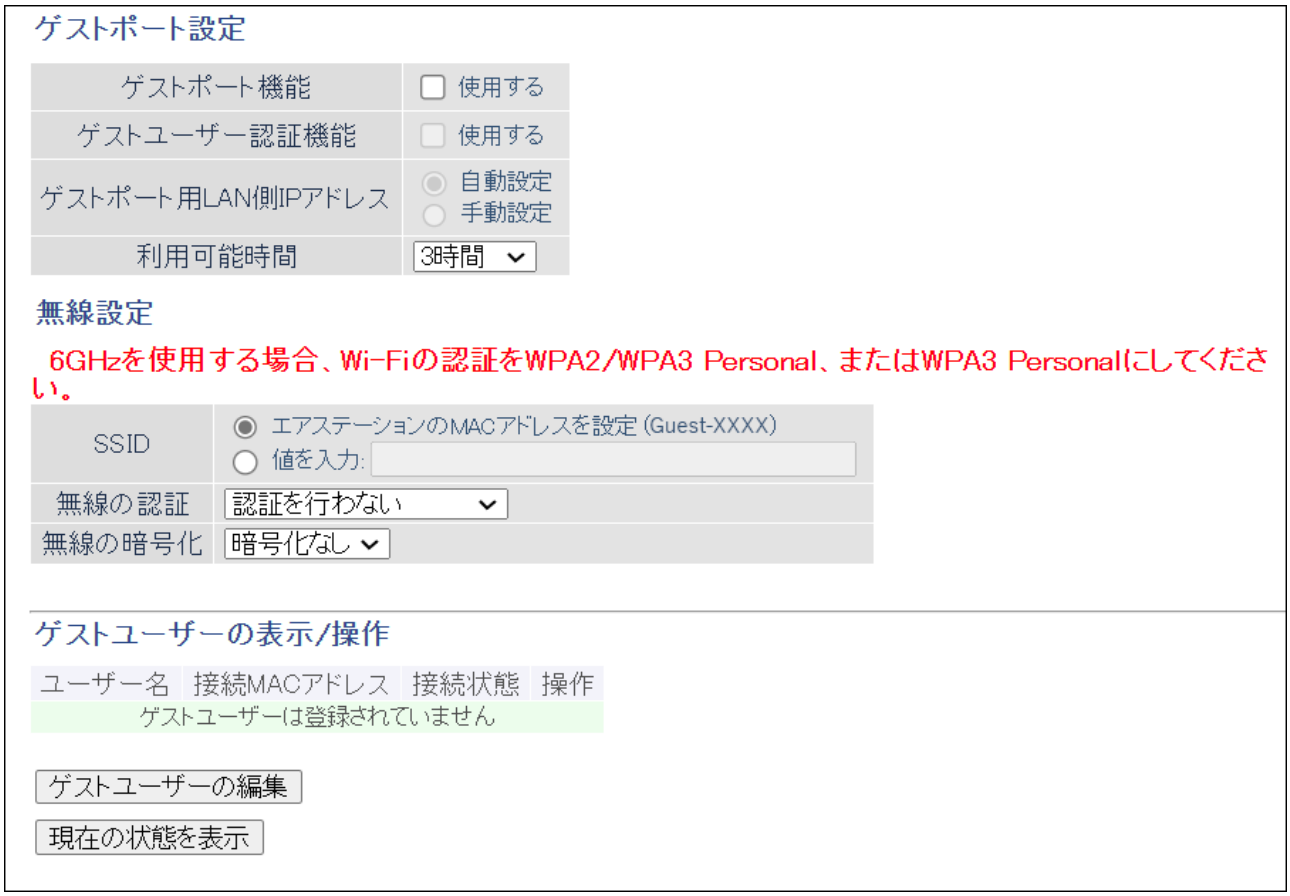
ゲストポート

来訪者用のWi-Fi接続ポート（ゲストポート）の設定画面です。

メモ:

- ゲストポートは、インターネットにのみ接続できるネットワークです。ゲストポート側からほかのネットワークにアクセスできません。
- ゲストポートに接続した機器は、IPv6通信できません。
- EasyMeshでメッシュネットワークを構築している場合、コントローラのゲストポート設定は、エージェントに引き継がれません（エージェントをゲストポートとして使用できません）。コントローラとWi-Fi接続できる範囲で、コントローラのゲストポートに接続してお使いください。

無線設定　＞　ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）



項目	内容
ゲストポート機能	来訪者用にインターネット回線を提供するための「ゲストポート機能」の有効/無効を設定します。
ゲストユーザー認証機能	ゲストとして登録したユーザーだけが通信できるように認証を行うかどうかを設定します。
ゲストポート用LAN側IPアドレス	ゲストユーザーに提供するLAN側IPアドレスを設定します。手動設定の場合、[推奨値を設定する]をクリックすると、ゲストポート用LAN側IPアドレスの推奨値が入力されます。
ゲストポート用DHCPサーバー機能	ゲストユーザー用にDHCPサーバー（IPアドレス自動割り当て）機能を使用するかどうかを設定します。
利用可能時間	ゲストポート機能を有効にしてから無効になるまでの時間を、1時間単位で設定します。 指定した時間が経過すると自動的にゲストポート機能が無効になります。

項目	内容
SSID	ゲストユーザー用のSSIDを、半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	ゲストユーザーが接続の際に使用する認証方式を、「WPA3 Personal」「WPA2/WPA3 Personal」「WPA2 Personal」「WPA/WPA2 Personal」「認証を行わない」から指定します。 **メモ:** 6 GHzを使用する場合は、認証方式を「WPA2/WPA3 Personal」または「WPA3 Personal」にしてください。
無線の暗号化	ゲストユーザーが接続の際に使用する暗号化方式を、「WPA/WPA2 Personal」では「TKIP/AES mixed mode」、「WPA/WPA2 Personal」以外の認証方式では「AES」を指定します。
WPA-PSK（事前共有キー）	ゲストユーザーが接続の際に使用する事前共有キーを指定します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーの更新間隔を設定します。
ゲストユーザーの表示/操作	ゲストユーザーの状態を表示します。[OFFにする]をクリックするとそのゲストユーザーを無効に、[ONにする]をクリックすると有効にします。
ゲストユーザーの編集	ゲストユーザーの編集を行うことができます。 **ユーザー名** ゲストユーザーの認証に使用するユーザー名を半角英数字記号64文字以内で登録します。 **パスワード** ゲストユーザーの認証に使用するパスワードを半角英数字記号64文字以内で登録します。

無線引っ越し機能

無線引っ越し機能を使用した際のWi-Fi設定の引き継ぎ状況を表示する画面です。

無線設定　＞　無線引っ越し機能



項目	内容
無線引っ越し状態	無線引っ越し機能を使用したかどうかを表示します。
無線引っ越し機能用セキュリティー設定	無線引っ越し機能を使用して引き継いだWi-Fi設定情報を表示します。
引っ越しした設定を全削除	クリックすると、無線引っ越し機能で引き継いだWi-Fi設定をすべて削除します。

メモ:

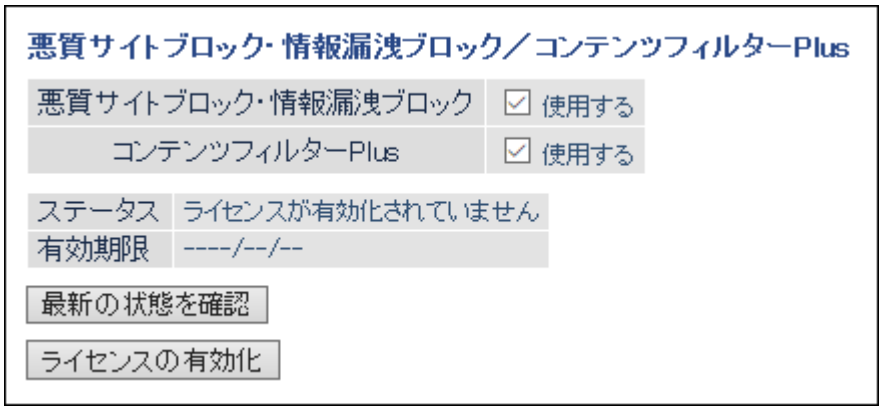
- 無線引っ越し機能の使用方法は、本製品に付属している 1 セットアップガイドおよび 2-A 引っ越しガイドを参照してください。

- 一度無線引っ越し機能を使用した状態で、もう一度無線引っ越し機能を使用する場合は、[引っ越しした設定を全削除]をクリックして設定を削除してから使用してください。

セキュリティー基本設定　コンテンツフィルターPlus

ウイルスやマルウェアの通信を検知して遮断し、LAN側に接続された機器を保護する「悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック」や、有害サイトを閲覧できないように制限する「コンテンツフィルターPlus」に関する設定画面です。

ネット脅威ブロッカー2　＞　セキュリティー基本設定　コンテンツフィルターPlus



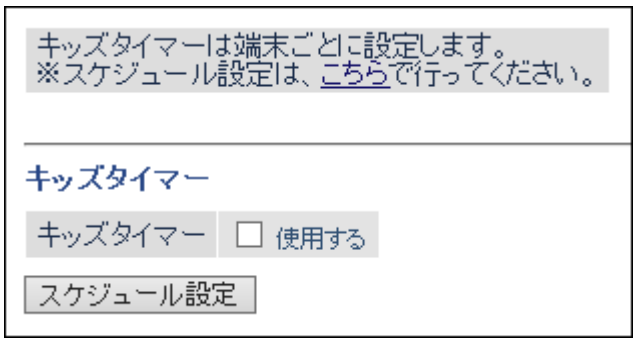
項目	内容
悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック	有効にすると、ウイルスやマルウェアの通信を遮断します。
コンテンツフィルターPlus	有効にすると、スマートフォンやタブレット用のAirStationアプリで設定した内容に応じて、ホームページの閲覧を制限します。閲覧を制限するカテゴリーを設定したり変更したりする場合は、AirStationアプリで設定してください。
ステータス	悪質サイトブロック・情報漏洩ブロックやコンテンツフィルターPlusのライセンスの状態を表示します。
有効期限	悪質サイトブロック・情報漏洩ブロックやコンテンツフィルターPlusのライセンスの有効期限を表示します。有効期限が切れると本機能を利用できません。利用を継続する場合は、ライセンスを追加購入してください。
[最新の状態を確認]	クリックすると、画面を最新の状態に更新します。
[ライセンスの有効化]	ライセンスを有効化するための外部ページを表示します。ライセンスを有効化したら、[最新の状態を確認]をクリックして、ステータス欄でライセンスの状態を確認してください。
[ライセンスを追加購入する]	ライセンスを購入するための外部ページを表示します。ライセンスを購入したら、[最新の状態を確認]をクリックして、ステータス欄でライセンスの状態を確認してください。

キッズタイマー

本製品に接続できる時間を機器ごとに制限する「キッズタイマー」の設定画面です。

メモ: キッズタイマーと「MACアクセス制限」(P.165)は同時に使用できません。MACアクセス制限を使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

ネット脅威ブロッカー2　＞　キッズタイマー



項目	内容
キッズタイマー	キッズタイマー機能を使用するかどうかを設定します。
スケジュール設定	クリックすると、キッズタイマーの設定画面を表示します。

ファイアウォール

ファイアウォールの設定画面です。

ルーターセキュリティー　＞　ファイアウォール(ルーターモード時のみ)



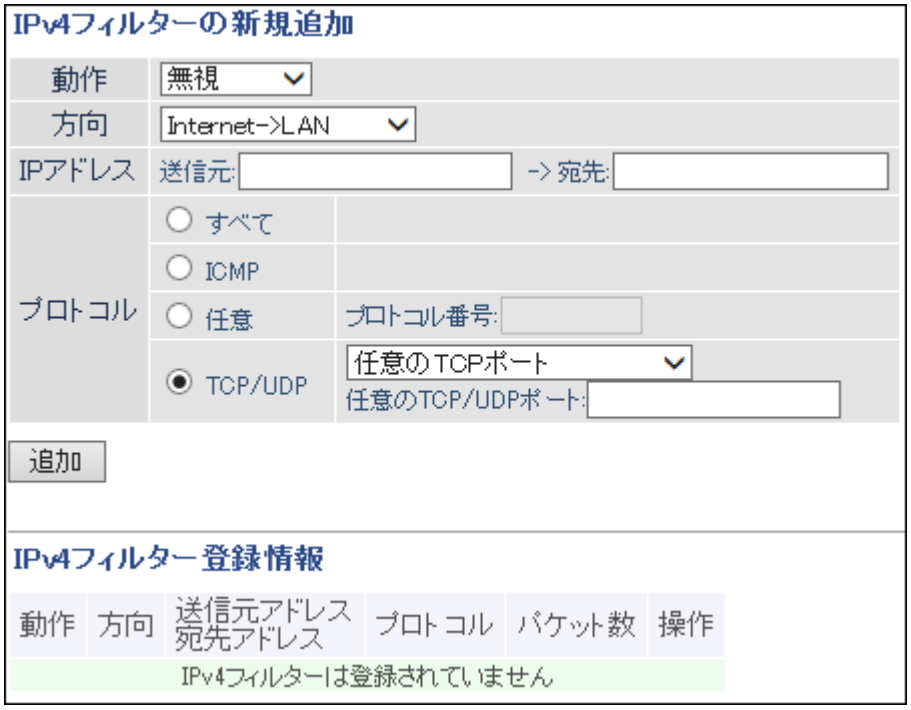
項目	内容
ファイアウォール設定-IPv4	IPv4接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下のとおりです。 **NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する** 有効にすると、インターネット側からLAN側およびLAN側からインターネット側へのMicrosoftネットワーク共有機能は使用できなくなります。 **IDENTの要求を拒否する** 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザーなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定(DMZまたはTCPポート:113)になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 **Internet側からのPINGに応答しない** 有効にすると、インターネット側からのPINGに応答しなくなります。 **メモ:**「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのサービスをお使いの場合 • 本項目は設定変更できません。 • 本項目の回線側を含めた動作は、本項目の表示に関わらず回線仕様に従います。

項目	内容
ファイアウォール設定-IPv6	IPv6接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下のとおりです。 **Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する** 有効にすると、外部のWindowsパソコンとのIPv6を利用したWindowsファイル共有機能によるファイル共有を遮断します。 **IDENTの要求を拒否する** 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザーなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定（DMZまたはTCPポート：113）になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 **Internet側からのPINGに応答しない** 有効にすると、インターネット側からのPINGに応答しなくなります。 **Internet側からの接続要求を転送しない** 有効にすると、インターネット側からの接続要求を遮断します。 **メモ:** 以下の場合は、ファイアウォールは動作しません。 • 「IPv6」（P.135）で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合 • インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

IPフィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関するIPフィルターを編集する画面です。
IPv4接続の場合はこの画面で設定してください。

ルーターセキュリティー　＞　IPフィルター(ルーターモード時のみ)



項目	内容
動作	対象となる通信パケットの処理方法を指定します。
方向	対象となる通信パケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となる通信パケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPv4フィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

IPv6フィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関するIPフィルターを編集する画面です。
IPv6接続の場合はこの画面で設定してください。

メモ: 以下の場合は、IPv6フィルターは動作しません。

- 「IPv6」(P.135)で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合
- インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

ルーターセキュリティー　＞　IPv6フィルター(ルーターモード時のみ)



項目	内容
動作	対象となる通信パケットの処理方法を指定します。
方向	対象となる通信パケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となる通信パケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPv6フィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

パススルー

PPPoEパススルー、PPTPパススルーに関する設定画面です。

ルーターセキュリティー　＞　パススルー（ルーターモード時のみ）



項目	内容
PPPoEパススルー機能	PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを設定します。 PPPoEブリッジ機能を使用すると、PPPoEパケットがインターネット側 − LAN間ですべて通過可能となり、LAN側に接続した機器でPPPoEプロトコルを使用してプロバイダーからIPアドレスを自動取得できるようになります。
PPTPパススルー	アドレス変換において、PPTPパススルー機能を使用するかどうかを設定します。 **メモ:** 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのサービスをお使いの場合、PPTPパススルーは使用できません。

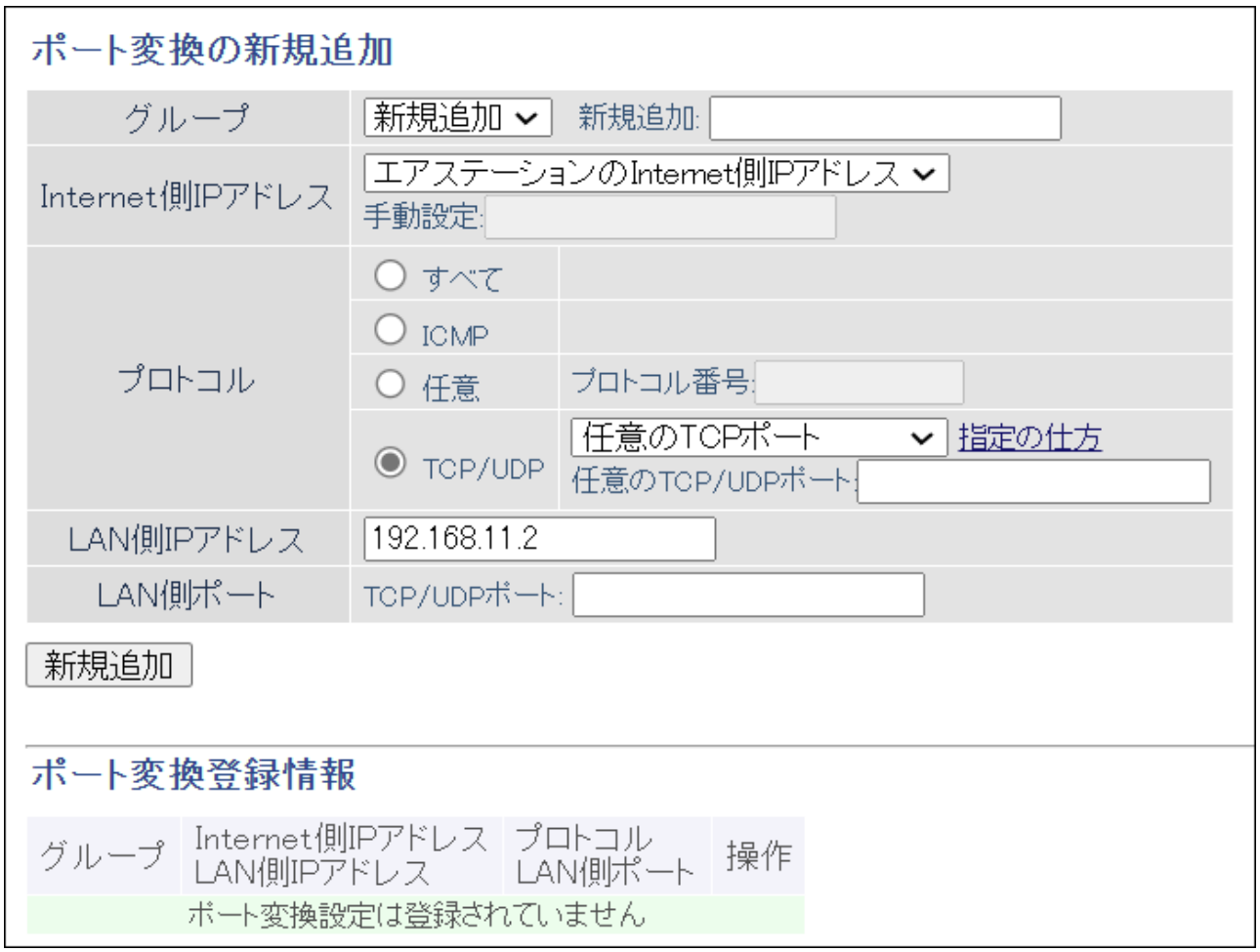
ポート変換

ポート変換に関する設定画面です。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。
- インターネットへの接続方法によって利用できるポートが制限される場合、利用可能なポート番号が表示されます。

ルーターセキュリティー　＞　ポート変換(ルーターモード時のみ)



項目	内容
利用可能ポート	「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、利用可能なポート番号が表示されます。
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択して新規グループ名を入力すると、新たなグループを作成します。半角英数字で16文字までのグループ名を付けられます。
Internet側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するインターネット側(変換前)のIPアドレスを設定します。
プロトコル	ポート変換テーブルに追加するインターネット側(変換前)のプロトコルを設定します。
LAN側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するLAN側(変換後)のIPアドレスを設定します。

項目	内容
LAN側ポート	ポート変換テーブルに追加するLAN側(変換後)のポート番号(1～65535)を設定します。
ポート変換登録情報	現在設定されているポート変換テーブルの有効/無効の指定を行います。

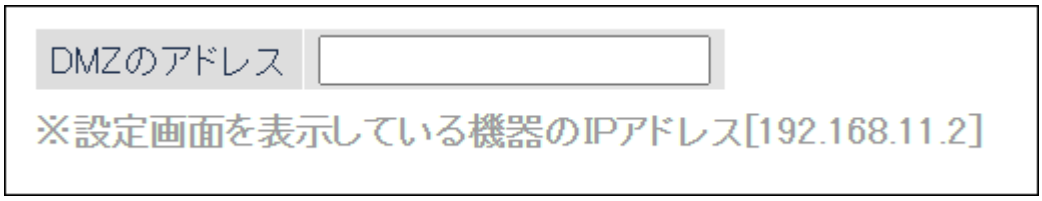
DMZ

LAN側からの通信と無関係な通信パケットの転送先を設定する画面です。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

ルーターセキュリティー　＞　DMZ(ルーターモード時のみ)



項目	内容
DMZのアドレス	ポート変換テーブルに設定されていないパケットの転送先IPアドレスを設定します(RIPプロトコル(UDPポート番号520)のパケットは、転送されません)。

UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)の設定画面です。

ルーターセキュリティー　＞　UPnP(ルーターモード時のみ)



項目	内容
UPnP機能	Universal Plug and Play(UPnP)機能を使用するかどうかを設定します。

ディスク管理

本製品に接続したUSBドライブに関する情報表示や管理を行う画面です。

アプリケーション　＞　ディスク管理



項目	内容
USB動作モード	「USB 3.2 Gen1で動作させる」にチェックを入れると、本製品のUSB端子に接続した機器がUSB 3.2 Gen 1で動作します。 **メモ:** USB 3.2 Gen1の高周波ノイズは、電波干渉を発生させ、2.4 GHzがつながりにくくなることがあります。そのような場合はこのチェックを外し、USB 2.0機器として動作させてください。
USBディスクの自動割当	USBドライブの番号を自動的に割り当てるかどうかを設定します。

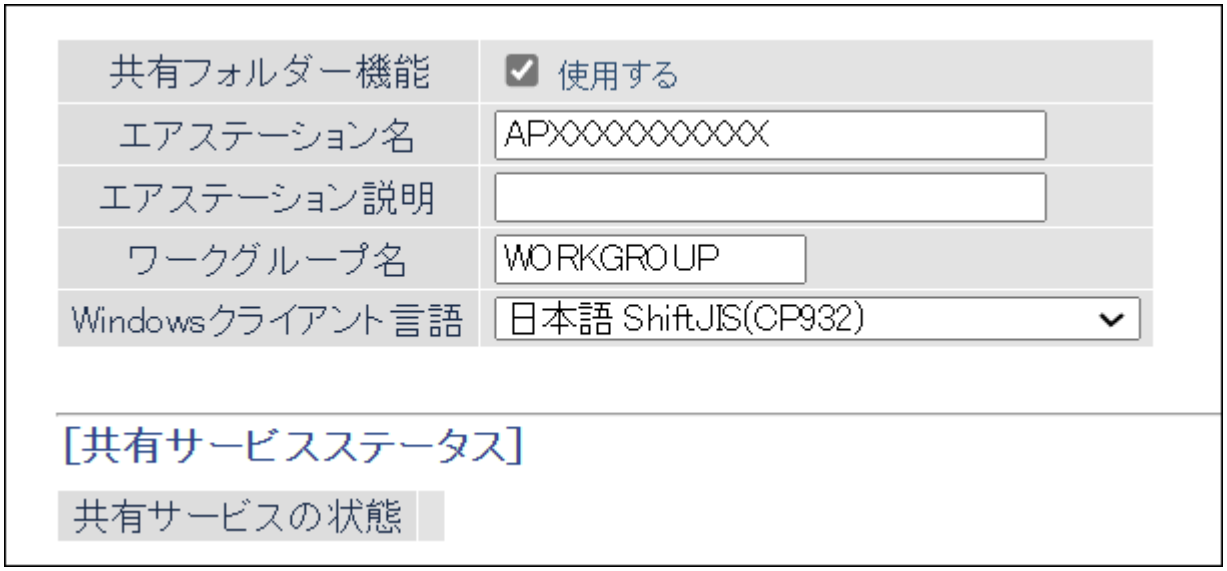
項目	内容
拡張機能	クリックすると、拡張機能の項目が表示されます。
FATフォーマットファイル名文字コード	FATフォーマットでのファイル名の文字コードを指定します。
HDD節電機能	USBドライブの節電機能を使用するかどうかを設定します。
HDD停止時間	USBドライブが指定した時間未使用だった場合、ハードディスクの電源をOFFにします。指定できる時間は1～300分です。
デバイス情報	認識したUSBドライブの「製造者」「製品名」「ユニット名」を表示します。
ディスク割当	USBディスクの自動割当を使用していないとき、ディスク番号または「割当しない」を選択します。
パーティション情報	パーティション情報を表示します。
USBデバイスの再認識	USB機器を再認識します。
共有フォルダー設定	パーティションを選択し、共有欄の[設定変更]をクリックすると表示されます。USBドライブへのアクセス制限を行います。
共有フォルダー名	共有時に公開するフォルダー名を半角18文字または全角6文字までで設定します。文字には、半角英数字のほかに各国の文字と「-」「_」が入力可能です。先頭文字に数字と記号は入力できません。 **メモ:** USBディスクの自動割当を使用しない時に設定できます。
共有フォルダーの説明	共有時に公開するフォルダーの説明を半角75文字または全角25文字までで設定します。半角英数字のほかに各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。 **メモ:** USBディスクの自動割当を使用しない時に設定できます。
ディスクパーティション領域	ディスクパーティションの「共有」「フォーマット」「状態」「使用/容量(使用率)」「操作」を表示します。
公開先	登録した共有フォルダーで使用する機能(Win/MacOS(Samba))を選択します。 **メモ:** USBディスクの自動割当を使用しない時に設定できます。
アクセス制限機能	ユーザー名によるアクセス制限を設定します。
ユーザー情報	登録しているユーザー情報が表示されます。
[**ユーザーの追加**]	クリックすると、ユーザー登録の画面が表示されます。
ユーザー名	共有フォルダーのアクセスに必要なユーザー名を半角英数字および「-」「_」「.」で1～20文字までで設定します。記号は先頭文字には入力不可です。
パスワード	共有フォルダーのアクセスに必要なパスワードを半角英数字および「-」「_」で1～20文字までで設定します。先頭文字に「-」は入力不可です。
ユーザーの説明	ユーザー名の説明を半角75文字または全角25文字までで設定します。半角英数字のほかに各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。

メモ: 「共有フォルダー設定」「共有フォルダー名」「共有フォルダーの説明」「ディスクパーティション領域」「公開先」は、「USBディスクの自動割り当て」を使用していない場合のみ表示されます。

共有サービス

共有サービスの有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

アプリケーション　＞　共有サービス

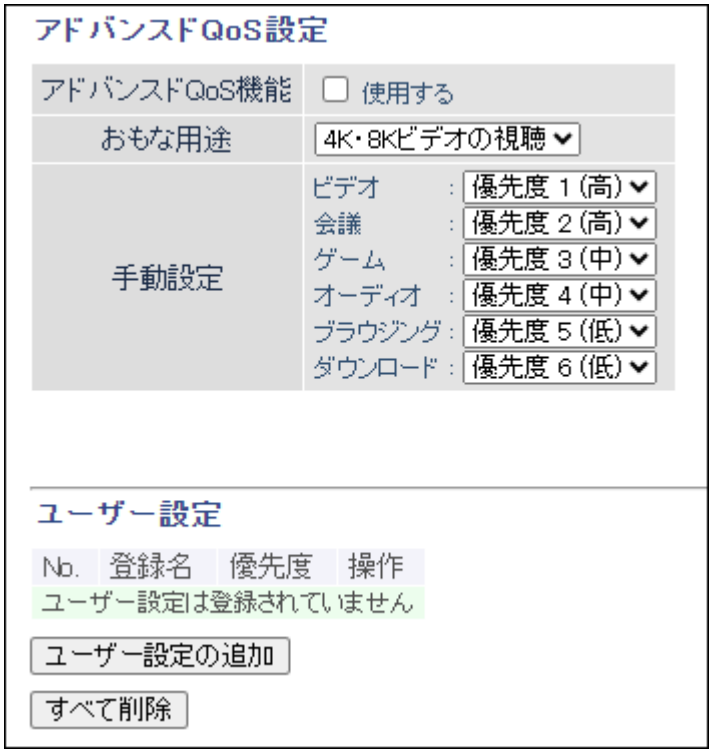


項目	内容
共有フォルダー機能	共有フォルダー機能を使用するかどうかを設定します。
エアステーション名	エアステーション名を設定します。 **メモ:** [管理]－[システム設定]－[エアステーション名]と同じです。共有サービスとして使用できるホスト名になります。
エアステーション説明	エアステーションの説明を半角48文字/全角16文字までで設定します。半角英数字のほかに各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。
ワークグループ名	ワークグループ名を半角15文字までで設定します。半角英数字のほかに各国の文字、「-」「_」「.」が入力可能です。
Windowsクライアント言語	Windowsクライアントで使用する言語を選択します。
共有サービスの状態	共有サービスで使用するUSBドライブの状態を表示します。 **メモ:** 使用不可の場合、USBドライブの状態を確認してください。

アドバンスドQoS

ネットワークの帯域をより効果的に利用するためのアドバンスドQoS機能の有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

アプリケーション　＞　アドバンスドQoS（ルーターモード時のみ）

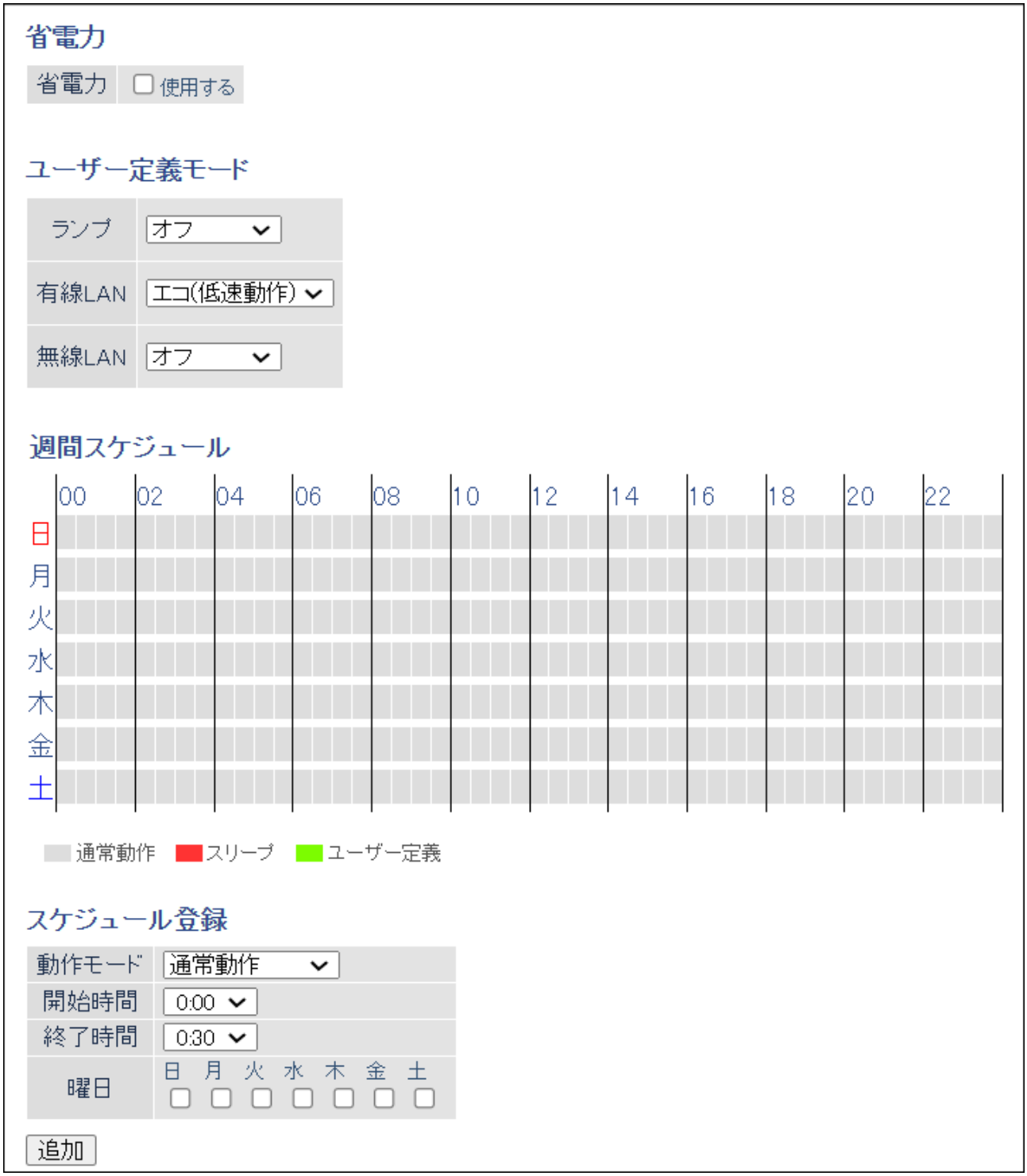


項目	内容
アドバンスドQoS機能	アドバンスドQoS機能を使用するかどうかを設定します。
おもな用途	通信の主な用途を選択します。
手動設定	「おもな用途」で「手動設定」にした場合に使用する動作ポリシーです。各カテゴリーの優先度を設定します。
ユーザー設定	登録されたユーザー定義ルールの情報が表示されます。
[ユーザー設定の追加]	クリックすると、ユーザーを登録できます。最大登録数は20です。
登録名	ユーザー設定の名称を入力します。
優先度	ユーザー設定の優先度を選択します。
プロトコル	対象となるプロトコルを選択します。
リモート設定	インターネット側サーバーの設定を指定します。
ローカル設定	LAN側のどの機器に対する設定かを指定します。

スケジュール

本製品の節電機能の設定画面です。

アプリケーション　＞　スケジュール



項目	内容
省電力	あらかじめ登録したスケジュールに従って、節電機能を使用するかどうかを設定します。
ユーザー定義モード	節電の内容について、「ランプ」、「有線LAN」、「無線LAN」を組み合わせて設定します。 **ランプ** 節電時のランプの動作を、「通常動作」「オフ」から選択します。 「通常動作」の場合、ランプが点灯します。 「オフ」の場合、ランプが消灯します。 **メモ:** 「オフ」に設定した場合でも、POWERランプは消灯しません（点灯したままとなります）。 **有線LAN** 節電時の有線LANの動作を、「通常動作」「エコ（低速動作）」「オフ」から選択します。 「通常動作」の場合、INTERNET端子とLAN1端子は最大10Gbpsで、LAN2～LAN4端子は最大1000Mbpsで通信を行います。 「エコ（低速動作）」の場合、INTERNET端子とLAN1端子は最大1000Mbpsで、LAN2～LAN4端子は100Mbps/10Mbps自動で動作します。 「オフ」の場合、有線LANが無効になります。 **無線LAN** 節電時のWi-Fiの動作を、「通常動作」「オフ」から選択します。 「通常動作」の場合、無線LAN（Wi-Fi）機能が利用できます。 「オフ」の場合、Wi-Fi機能が無効になります。
週間スケジュール	「スケジュール登録」で設定したスケジュールが表示されます。
スケジュール登録	節電の開始/終了スケジュールについて、「動作モード」、「開始時間」、「終了時間」、「曜日」を組み合わせて設定します。 **動作モード** 節電時の動作モードを、「通常動作」「スリープ」「ユーザー定義」から選択します。 通常動作の場合、省電力機能を使用せず動作します。 スリープの場合、POWERランプを除くすべてのランプが消灯し、インターネット、有線LAN、Wi-Fi機能が無効になります。スリープ中にAOSSボタンを押すと、一時的に（60～90分間）スリープ状態が解除されます。 ユーザー定義の場合、「ユーザー定義モード」で設定した動作を行います。 **開始時間** 開始時間を0:00～23:30まで30分単位で設定します。 **終了時間** 終了時間を0:30～24:00まで30分単位で設定します。 **曜日** スケジュールを実行する曜日を設定します。

システム設定

本製品のシステムに関する設定画面です。

管理　＞　システム設定



項目	内容
エアステーション名	本製品の名称を半角英数字と「-」で、64文字までで設定します。
管理ユーザー名	本製品の設定画面へログインするときのユーザー名です。「admin」以外に変更できません。
管理パスワード	本製品の設定画面へログインするときのパスワードです。半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。
無線LANからの設定を禁止する	本製品にWi-Fi接続した機器から、本製品を設定できないようにします。
有線LANからの設定を禁止する	本製品のLAN端子に接続した機器から、本製品を設定できないようにします。
Internet側リモートアクセス設定を許可する	インターネットに接続したネットワーク機器から本製品の設定画面へのアクセスを制限するかどうかを設定します。 アクセスを許可する場合は、許可IPアドレスと許可ポートを別途設定します。 **メモ:** 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのサービスをお使いの場合、インターネット側リモートアクセスは使用できません。
デバイスに対しポートスキャンを実行する	チェックを入れると、本製品は設定画面を持つ機器の検出を行います。 セキュリティーソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを外してください。
NTP機能	本製品の内部時計を、NTPサーバーを使って設定するかどうかを指定します。
サーバー名	NTPサーバーの名称をホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる周期（1～24時間ごと）を設定します。
日付	本製品の内部時計の日付を手動で設定します。
時刻	本製品の内部時計の時刻を手動で設定します。

ログ

syslogによる本製品のログ情報を転送するための設定画面です。

管理　＞　ログ



項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを設定します。
syslogサーバー	syslogサーバーのアドレスをホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
USBストレージへのログ保存機能	「使用する」にチェックを入れると、本製品に接続しているUSB機器にログ情報を書き込みます。
転送するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
詳細なログ取得	「アドレス変換」、「IPフィルター」、「ファイアウォール」、「アクセスフィルター」に関するログ情報を取得するかどうかを設定します。

設定管理/再起動

本製品の設定の保存、復元や初期化、再起動を行う画面です。

管理　＞　設定管理/再起動

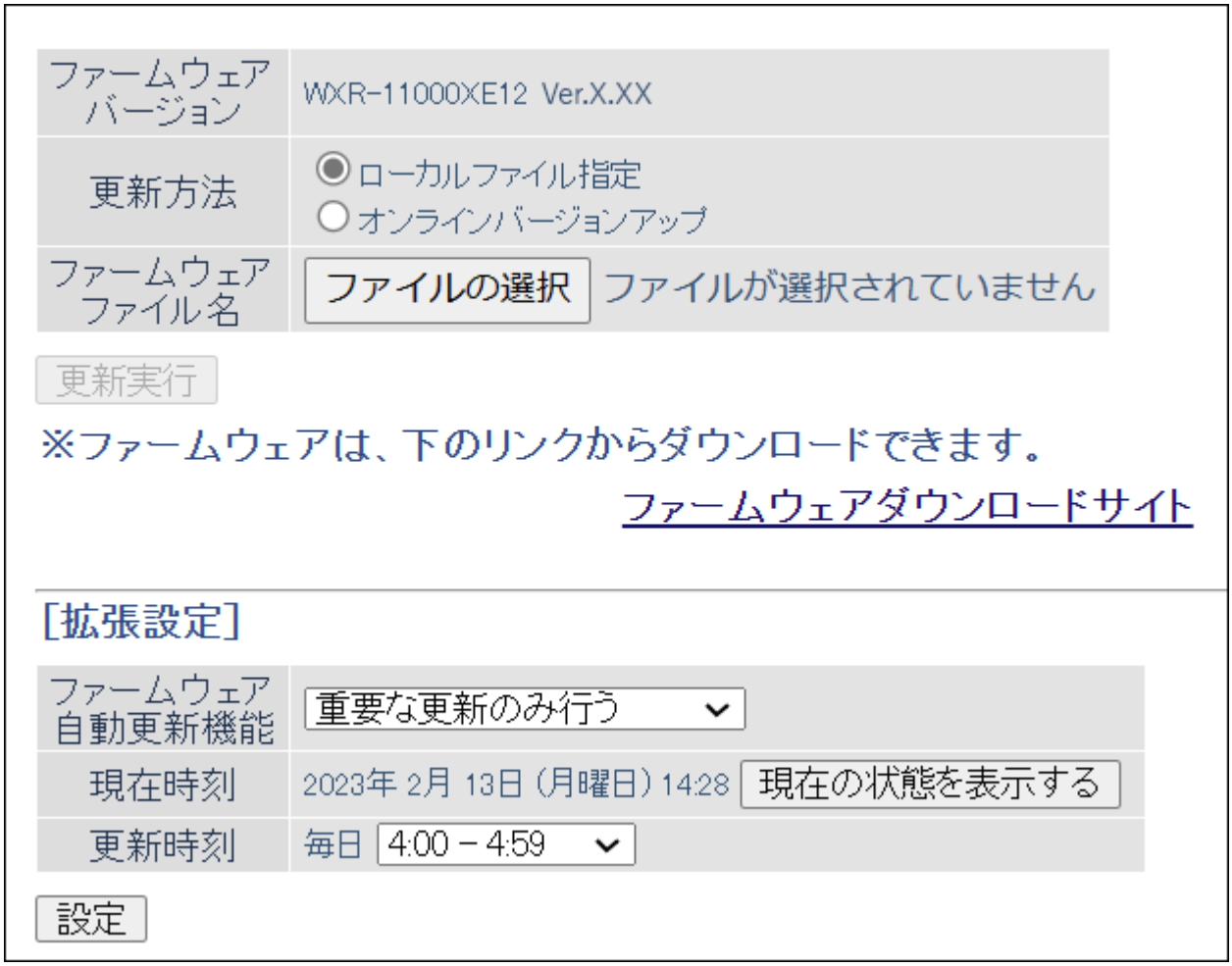


項目	内容
操作	操作内容を選択します。 **設定ファイルを保存する** 本製品の設定内容を設定ファイルに保存します。[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルをパスワードで暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 パスワードは、半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。 **設定ファイルを復元する** 本製品の設定を、設定ファイルから復元します。 「設定ファイル」欄の[参照]をクリックして設定ファイルを指定し、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 **設定を初期化する** 本製品の設定を初期化して、再起動します。[設定操作実行]をクリックしてください。
再起動	クリックすると、本製品が再起動します。

ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新するための画面です。

管理　＞　ファームウェア更新



項目	内容
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示します。
更新方法	ファームウェアの更新方法を設定します。 **ローカルファイル指定** パソコンに保存されているファームウェアファイルを使用して更新を行います。 **オンラインバージョンアップ** インターネットから自動的に最新のファームウェアファイルをダウンロードして更新を行います。
ファームウェアファイル名	「ローカルファイル指定」時にファームウェアファイル名を指定します。

項目	内容
ファームウェア自動更新機能	ファームウェアの自動更新方法を設定します。 **重要な更新のみ行う** セキュリティーに関わる脆弱性の対応など、重要な更新があった場合、ファームウェアを自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 **常に最新版に更新する** 本製品の新しいファームウェアがリリースされると、自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 **更新せずに通知のみ行う** 新しいファームウェアがリリースされたときに、設定画面に通知します。本製品への適用は行いません。 **更新しない** 新しいファームウェアがリリースされても、設定画面への通知や本製品へ適用は行いません。
現在時刻	現在の時刻が表示されます。
更新時刻	自動更新を行う時間帯を設定します。

システム

本製品の現在の状態が表示されます。

ステータス　＞　システム

製品名	WXR-11000XE12 Version X.XX (RX.XX/BX.XX-X)	
エアステーション名	APXXXXXXXXXX	
動作モード	ルーターモード	
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	接続方法	DHCP自動取得
	接続状態	通信中
	操作	解放　書き換え
	IPアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
	サブネットマスク	XXX.XXX.XXX.XXX
	デフォルトゲートウェイ	XXX.XXX.XX.XX(自動取得)
	DNS1(プライマリー)	XXX.XXX.XX.XX(自動取得)
	ホスト名	APXXXXXXXXXX (手動設定)
	ドメイン名	
	MTU値	1500
	DHCPサーバーアドレス	192.168.10.1
	リース取得時刻	2023/02/13 14:08:22
	リース期限	2023/02/14 14:08:22
	有線リンク	1000BASE-T (全二重)
	MACアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
LAN	IPアドレス	192.168.11.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	MACアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
IPv6	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
	IPv6接続状態	NDプロキシ
	グローバルアドレス	XXXX:XXXX:XXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX/XX
	Internet側LinkLocalアドレス	XXXX::XXXX:XXXX:XXXX:XXXX/XX
	IPv6デフォルトゲートウェイ	XXXX::XXXX:XXXX:XXXX:XXXX/XX
	DNS1(プライマリー)	XXXX:XXXX:XXXX:X::X
	DNS2(セカンダリー)	XXXX:XXXX:XXXX:X::X
	LAN側LinkLocalアドレス	XXXX::XXXX:XXXX:XXXX:XXXX/XX
	サブネットID	XXXX
	インターフェースID	XXXX:XXXX:XXXX:XXXX
	アドレス配布方法	ステートレスアドレスで自動配布
	アドレス配布状態	配布中

無線(2.4 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1 認証方式 暗号化	Buffalo-2G-XXXX WPA2 Personal AES
	SSID2 認証方式 暗号化	Buffalo-2G-XXXX-WPA3 WPA3 Personal AES
	ANY接続 プライバシーセパレーター 無線チャンネル 倍速モード MACアドレス	許可する 使用しない 10 (自動設定) 20 MHz XX:XX:XX:XX:XX:XX
無線(5 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1 認証方式 暗号化	Buffalo-5G-XXXX WPA2 Personal AES
	SSID2 認証方式 暗号化	Buffalo-5G-XXXX-WPA3 WPA3 Personal AES
	ANY接続 プライバシーセパレーター 無線チャンネル 倍速モード MACアドレス	許可する 使用しない 128 (自動設定) 160 MHz XX:XX:XX:XX:XX:XX
無線(6 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1 認証方式 暗号化	Buffalo-6G-XXXX-WPA3 WPA3 Personal AES
	ANY接続 プライバシーセパレーター 無線チャンネル 倍速モード MACアドレス	許可する 使用しない 191 (自動設定) 20 MHz XX:XX:XX:XX:XX:XX
EasyMesh機能	状態 Backhaul SSID 認証方式 暗号化	有効 Buffalo-XXXX WPA2/WPA3 Personal AES
ゲストポート機能	ゲストポート機能	使用しない
NAS	USBディスク 共有フォルダー機能	未接続 使用する
エコモード	状態	スケジュール機能無効

現在の状態を表示

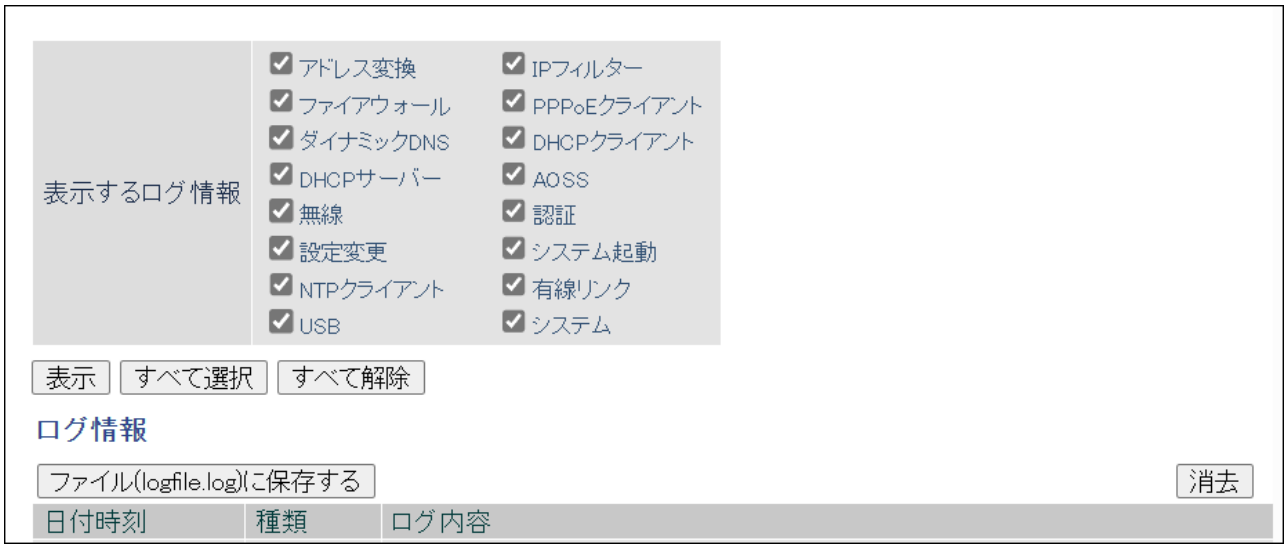
項目	内容
製品名	本製品の製品名とファームウェアのバージョンが表示されます。
エアステーション名	エアステーション名が表示されます。
動作モード	現在の動作モードが表示されます。
Internet	インターネット側の情報が表示されます。

項目	内容
LAN	LAN側の情報が表示されます。
IPv6	IPv6接続に関する情報が表示されます。
接続先	中継機モード時のみ、コントローラ(Wi-Fiルーター)の情報が表示されます。
無線(2.4 GHz)	2.4 GHz帯のWi-Fi情報が表示されます。
無線(5 GHz)	5 GHz帯のWi-Fi情報が表示されます。
無線(6 GHz)	6 GHz帯のWi-Fi情報が表示されます。
EasyMesh機能	本製品をコントローラとしてEasyMeshで接続している場合に、EasyMeshでの接続情報が表示されます。
ゲストポート機能	ゲストポートの情報が表示されます。
NAS	本製品のNAS機能に関する情報が表示されます。
エコモード	節電の状態が表示されます。

ログ

本製品に記録されているログ情報を確認する画面です。

ステータス　＞　ログ

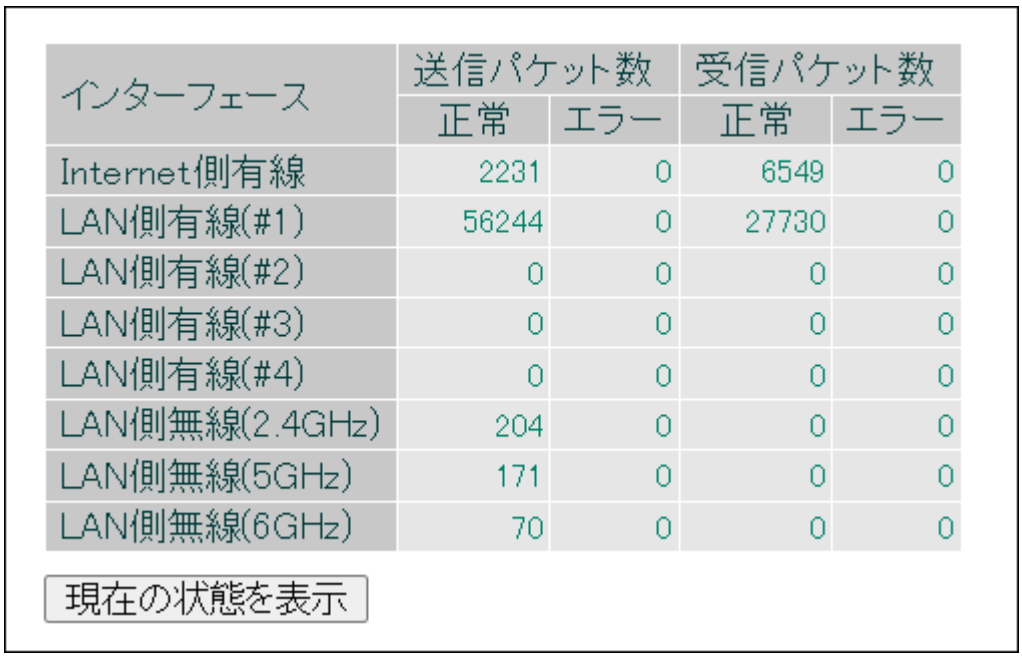


項目	内容
表示するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
ログ情報	本製品に記録されているログ情報が表示されます。

通信パケット

本製品が通信したパケットの合計を確認する画面です。

ステータス　＞　通信パケット



項目	内容
送信パケット数	Internet側有線、LAN側有線、LAN側無線、PPPoE、ゲストポート、中継機能に送信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。 **メモ:** PPPoE、ゲストポート、中継機能は、設定が有効の場合に表示されます。
受信パケット数	Internet側有線、LAN側有線、LAN側無線、PPPoE、ゲストポート、中継機能から受信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。 **メモ:** PPPoE、ゲストポート、中継機能は、設定が有効の場合に表示されます。

診断

本製品からネットワーク上のほかの機器との接続確認を行う画面です。

ステータス　＞　診断



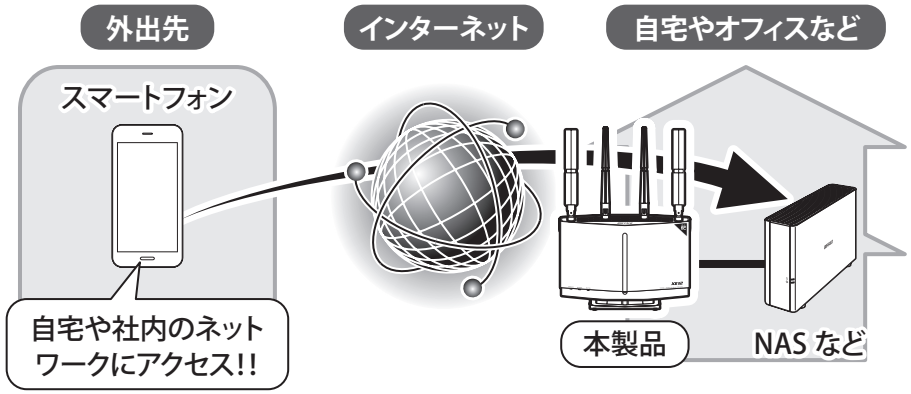
項目	内容
送信プロトコル	PINGテストを行うプロトコルを選択します。
宛先アドレス	接続確認を行う機器のIPアドレス、またはホスト名を入力し、[実行]をクリックすると、「実行結果」欄に結果が表示されます。

第４章　VPNサーバー機能

本章では、外出先から自宅や社内のネットワークにアクセスするためのVPNサーバー機能について説明します。以下に記載しているOSが表示する画面や文章については、OSのバージョンなどによって異なることがあります。

VPNサーバー機能とは

VPNサーバー機能を使用すると、外出先から自宅や社内のネットワークにアクセスできるようになります。



メモ:

(1) VPNサーバー機能を使用する際、ダイナミックDNSをご利用いただくことを推奨します。ダイナミックDNSの設定については、「外出先から接続するための準備をする」(P.197)を参照してください。

(2) 以下の環境ではVPNサーバー機能を使用できません。
- 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのIPv4 over IPv6通信サービスを使用している場合
- プロバイダーから割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合
- 本製品がアクセスポイントモード(ルーター機能OFF)で動作している場合
- ルーター機能を内蔵した光回線終端装置やモデムなどに本製品を接続して使用する場合※
  ※光回線終端装置やモデムなどのルーター機能を無効にするなど、設定を変更すると、VPNサーバー機能が使用できる場合があります。

本製品のVPNサーバー機能は、「L2TP/IPsec」のみご利用いただけます。対応しているOSは以下のとおりです。

	Windows	Mac	iOS	Android
L2TP/IPsec	×	×	○	△(※)

メモ: Android 12以降は、IKEv2のみサポートのため、対応していません。

外出先から接続するための準備をする

外出先から接続するための準備をします。
ここでは「BUFFALOダイナミックDNSサービス」(有料)を使った方法を例に説明します。

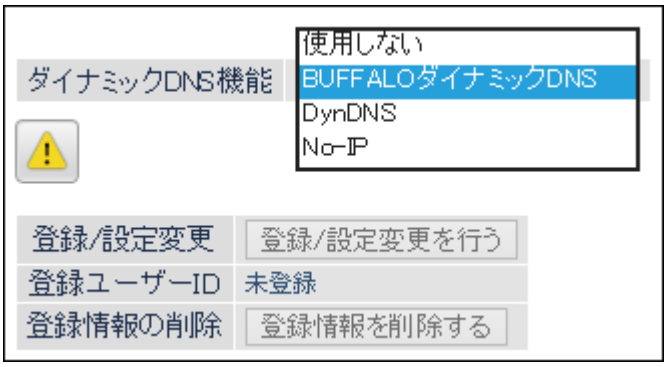
メモ: 本製品では、「BUFFALOダイナミックDNSサービス」以外に、「DynDNS」、「No-IP」がご利用いただけます。「DynDNS」、「No-IP」をご利用いただく場合は、以下の設定を行う前に、これらのサービスへの登録を完了させておいてください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」－「Internet」－「DDNS」をクリックします。

3 ダイナミックDNS機能で「BUFFALOダイナミックDNS」を選択します。



4 [登録/設定変更を行う]をクリックし、画面に従って登録/設定変更を行います。

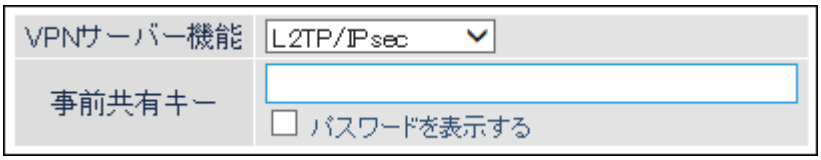


メモ:

- BUFFALOダイナミックDNSサービスは、1か月間の無料トライアル期間があります。
- 登録後、[登録情報を削除する]をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。もう一度登録するには、登録ユーザーIDとパスワードが必要です。

5 「詳細設定」－「Internet」－「VPNサーバー」をクリックします。

6 VPNサーバー機能で「L2TP/IPsec」を選択し、「事前共有キー」を入力して[設定]をクリックします。

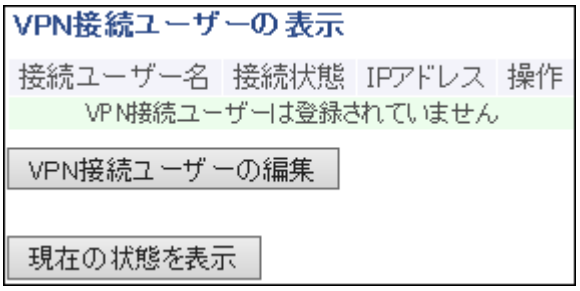


メモ:

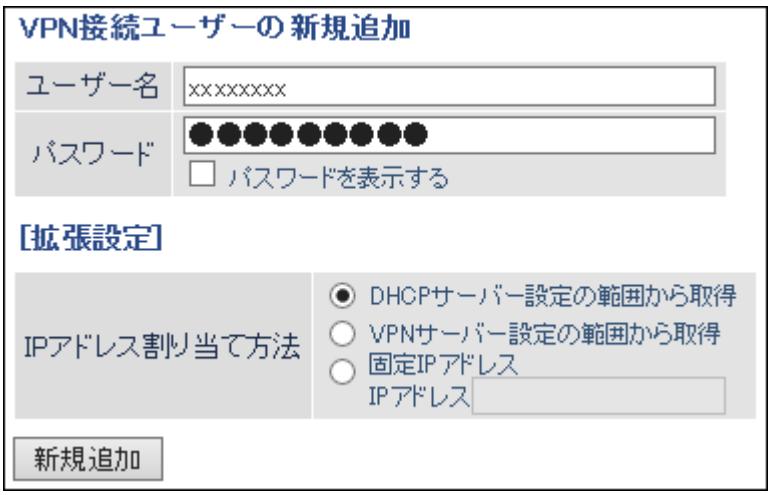
- 設定した事前共有キーは、外出先から接続する際に使用します。
- LAN側IPアドレスが192.168.11.Xに設定されていて、外出先でのIPアドレスも192.168.11.Xに設定されていると、IPアドレスが重複して自宅や社内のネットワークにアクセスできないことがあります。

このような場合は、「詳細設定」－「LAN」－「LAN」画面で、本製品のLAN側IPアドレスを変更してください。

7 **[VPN接続ユーザーの編集]をクリックします。**



8 **ユーザー名とパスワードを入力して、[新規追加]をクリックします。**



メモ: 設定したユーザー名、パスワードは外出先から接続する際に使用します。

9 **ユーザー名とパスワードが追加されたら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。**

以上で設定は完了です。

外出先で使用する機器の設定をする

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合

ここでは、iOS 16の画面を例に説明します。

メモ: L2TP/IPsecは、iOS 5以降でお使いいただけます。

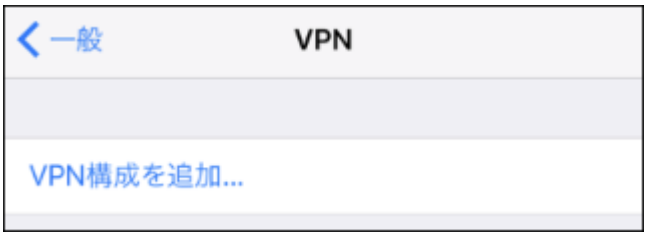
1 [設定]をタップします。



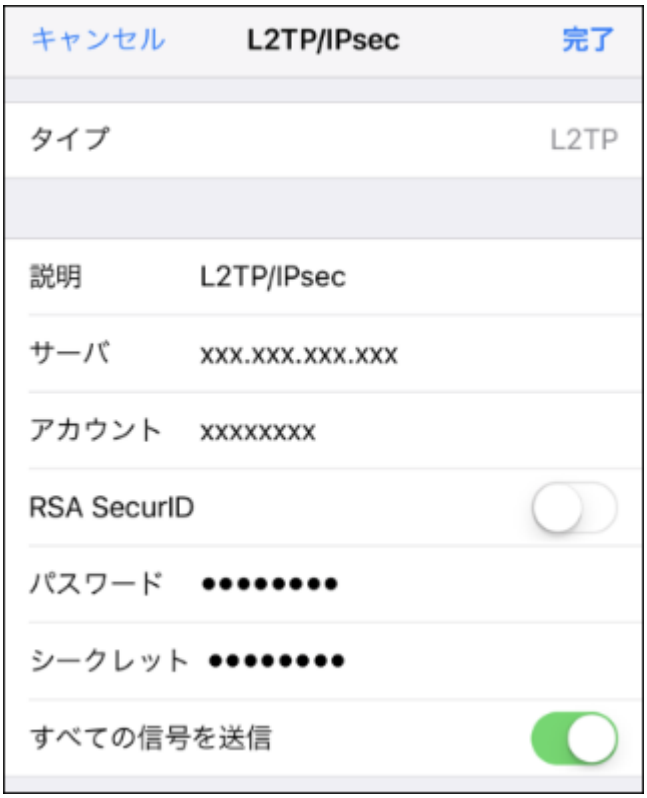
2 [一般] > [VPNとデバイス管理] > [VPN]の順にタップします。



3 [VPN構成を追加...]をタップします。



4 タイプに「L2TP」を選択し、説明、サーバ、アカウント、パスワード、シークレットを設定して［完了］をタップします。



説明：
任意の説明を設定します。

サーバ：
ダイナミックDNSサービスで取得したURLを設定します。

アカウント：
「外出先から接続するための準備をする」(P.197)の手順8で設定したユーザー名を設定します。

パスワード：
「外出先から接続するための準備をする」(P.197)の手順8で設定したパスワードを設定します。

シークレット：
「外出先から接続するための準備をする」(P.197)の手順6で設定した事前共有キーを設定します。

以上で設定は完了です。

Android機器をお使いの場合

ここでは、Android 11の画面を例に説明します。

メモ: お使いの機器やOSによっては、できないことがあります。

1 **Android機器の設定画面を表示します。**

2 **「ネットワークとインターネット」をタップします。**



3 **[詳細設定]をタップします。**



4 **[VPN]をタップします。**



5 [+]をタップします。



6 以下を参照して設定を行い、[保存]をタップします。



名前:
　任意の名称を入力します。

タイプ:
　L2TP/IPSec PSKを選択します。

サーバーアドレス:

ダイナミックDNSサービスで取得したホスト名を設定します。

L2TPセキュリティ保護:
空欄にします。

IPSec ID:
空欄にします。

IPSec事前共有鍵:
「外出先から接続するための準備をする」(P.197)の手順6で設定した事前共有キーを入力します。

ユーザー名:
「外出先から接続するための準備をする」(P.197)の手順8で設定したユーザー名を設定します。

パスワード:
「外出先から接続するための準備をする」(P.197)の手順8で設定したパスワードを設定します。

以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社のネットワークに接続する

メモ: ここでの操作は外出先から行います。自宅(LAN内)からは接続できません。

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合

ここでは、iOS 16の画面を例に説明します。

1 **[設定]をタップします。**



2 **[VPN]をONにします。**



以上で設定は完了です。

Android機器をお使いの場合

ここでは、Android 11の画面を例に説明します。

1 **Android機器の設定画面を表示します。**

2 **「ネットワークとインターネット」をタップします。**



3 **[詳細設定]をタップします。**



4 **[VPN]をタップします。**



5 登録した接続先をタップします。



6 [接続]をタップします。



以上で設定は完了です。

第５章　困ったときは

IPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない

原因1　IPアドレス取得方法が異なっている

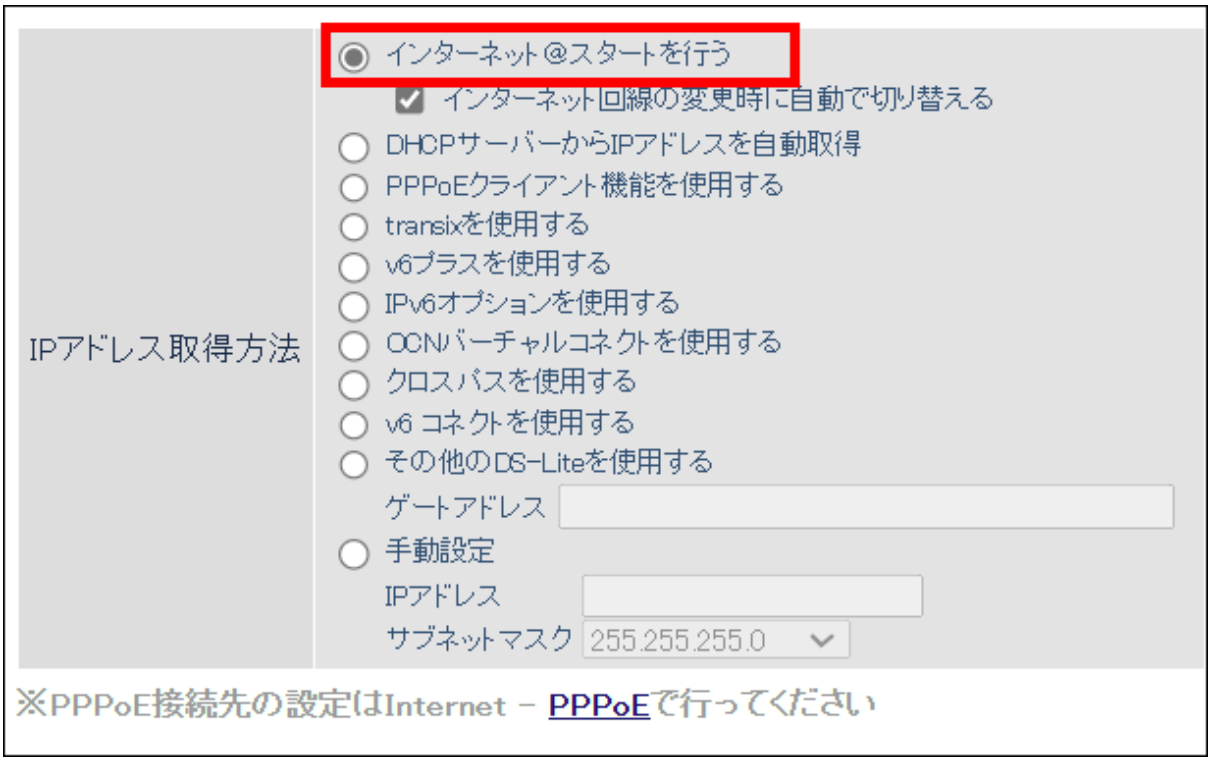
IPアドレス取得方法が「DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得」、「PPPoEクライアント機能を使用する」、「手動設定」の場合、「インターネット@スタート」を選択してください。

1 **本製品の設定画面を表示します。**

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 **[詳細設定]－[Internet]－[Internet]をクリックします。**

3 **[インターネット@スタートを行う]を選択します。**



原因2　本製品にPPPoE接続設定が残っている

本製品にPPPoE接続設定が残っている場合、新しいサービス（IPv4 over IPv6通信サービス）を検出する前に、今までのサービス（PPPoE）でつながる場合があります。
以下の手順で、PPPoE接続設定をOFFにしてください。

1 **本製品の設定画面を表示します。**

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 **［詳細設定］－［Internet］－［PPPoE］をクリックします。**

3 **PPPoE接続リストの［接続先の編集］をクリックします。**



4 **PPPoE接続先リストの表示/操作で、操作欄にある［OFF］をクリックします。**



5 **手順4でOFFにした設定の状態が「無効」になったことを確認します。**



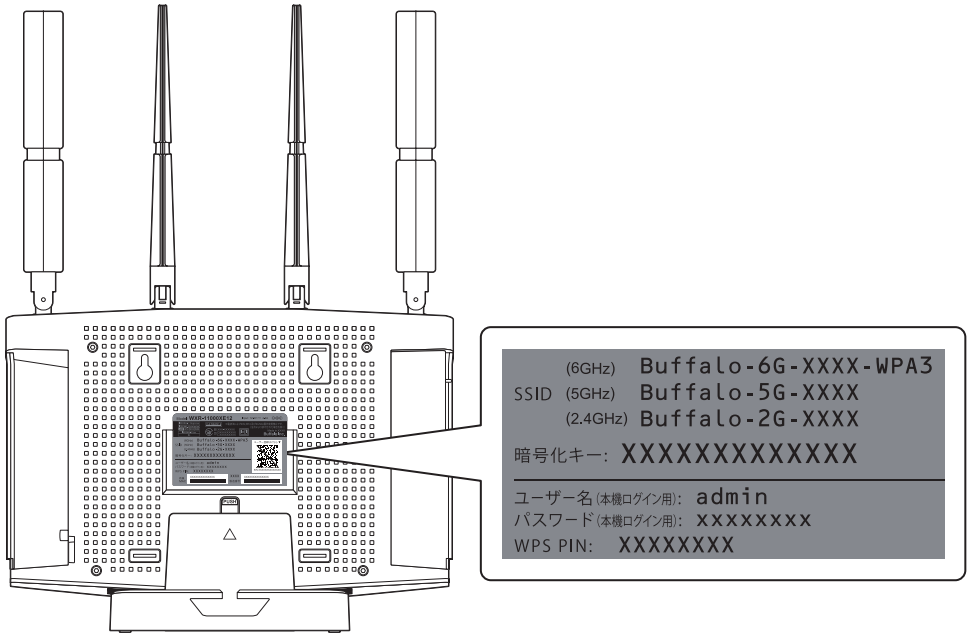
以上でPPPoE接続設定がOFFになりました。

原因3　IPv4 over IPv6通信サービスへ切り替わるまでに時間がかかっている

申し込み後、サービスが切り替わるまでに時間がかかる場合があります。
切り替え状況については、プロバイダーに確認してください。

セットアップカード(付属品)を紛失した

セットアップカードを紛失した場合、セットアップカードを再発行できません。
セットアップカードに記載されている出荷時のSSIDや暗号化キーの情報は、本製品本体に貼られているラベルにも記載されています。SSIDや暗号化キーの情報を確認するときは、ラベルを確認してください。



インターネットにつながらない

原因1　動作モードの設定が間違っている

動作モードの設定が間違っていることが考えられます。
本製品をルーターとして動作させる場合は、AUTO/MANUALスイッチを「AUTO」にして、ROUTERランプが白色に点灯するのを確認してください。

原因2　プロバイダーから提供された機器の電源が入っていない

プロバイダーから提供された機器と本製品がLANケーブルで正しく接続されているにもかかわらずインターネットに接続できない場合は、電源が入っているか確認してください。

原因3　インターネットに接続しようとする機器が本製品に接続されていない

AirStationアプリやエアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。
リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたはWi-Fiで接続してください。

メモ: Wi-Fiでの接続方法は、お使いの機器の取扱説明書、または「機器をWi-Fi接続するには」(P.33)を参照してください。

原因4　インターネットの設定が間違っている

製品添付の 1 セットアップガイドを参照して、インターネットの設定をやり直してください。

Wi-Fi接続が切れる/不安定

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をOFFにして、もう一度ONにしてください。

原因2　本製品とWi-Fi機器の距離が遠い

本製品とWi-Fi機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。Wi-Fi機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、Wi-Fiによる通信が不安定になる場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品のWi-Fiチャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因4　本製品のファームウェアが古い

上記1～3の対策を行っても、本製品とのWi-Fi接続が切れたり不安定な状況が続いたりする場合は、本製品のファームウェアを最新版に更新してください。

原因5　Wi-Fi機器のドライバーが古い

上記1～4の対策を行っても、本製品とのWi-Fi接続が切れたり不安定な状況が続いたりする場合は、Wi-Fi機器のドライバー（ソフトウェア）を最新版に更新してください。

原因6　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、Wi-Fi接続が切れる場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、Wi-Fi接続が途切れないように設定してください。

Wi-Fiでつながらない

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をOFFにして、もう一度ONにしてください。

原因2　本製品とWi-Fi機器の距離が遠い

本製品とWi-Fi機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。Wi-Fi機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3　セキュリティーソフトが動作している

Wi-Fi機器にウイルス対策ソフトなどのセキュリティーソフトがインストールされている場合、Wi-Fi接続設定に失敗することがあります。いったんセキュリティーソフトを終了して、Wi-Fi接続設定を完了させてからセキュリティーソフトを起動してください。

原因4　Wi-Fi接続の設定が間違っている

Wi-Fi接続の設定が間違っていると、本製品にWi-Fiで接続できません。「機器をWi-Fi接続するには」(P.33)を参照して、接続してください。

原因5　本製品にANY接続拒否やMACアクセス制限の設定がされている

本製品にANY接続拒否の設定がされていると、Wi-Fi機器から検索しても本製品が表示されません。その場合は、ANY接続拒否を解除してから接続してください。
本製品にMACアクセス制限の設定がされていると、そのままでは本製品にWi-Fi接続できません。Wi-Fi機器のMACアドレスを本製品に登録してからWi-Fi接続してください。

原因6　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、Wi-Fi接続できない場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、Wi-Fi接続できるように設定してください。

原因7　WPA3の設定で動作している

お使いの機器やOS、ドライバーによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。

AOSSでWi-Fi接続できない

AOSSに対応した機器(テレビ、レコーダー、ゲーム機やスマートフォンなど)のうち、一部の機器では、AOSSで本製品にWi-Fi接続できないことがあります。
その場合は、WPS(プッシュボタン式)で接続するか、お使いの機器から本製品を検索してWi-Fi接続してください。

WPS(プッシュボタン式)で接続する場合

1 **お使いの機器のWi-Fi接続設定画面を表示します。**

2 **WPS(プッシュボタン式)を選択して、接続を開始します。**

3 **本製品のAOSSボタンをWIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。**

4 **しばらくすると、お使いの機器と本製品のWi-Fi接続が完了します。**

以上で完了です。

お使いの機器から本製品を検索して接続する場合

1 **お使いの機器のWi-Fi接続設定画面を表示します。**

2 **お使いの機器から接続先を検索し、本体ラベル・セットアップカードに記載のSSIDと同じ値を選択します。**

3 **パスワードの入力画面が表示されたら、本体ラベル・セットアップカードに記載の暗号化キーを入力します。**

4 **しばらくすると、お使いの機器と本製品のWi-Fi接続が完了します。**

以上で完了です。

設定画面が表示できない

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をOFFにして、もう一度ONにしてください。

原因2　設定用機器が本製品に接続されていない

AirStationアプリやエアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。
リストに本製品が表示されない場合は、設定用機器と本製品をLANケーブルまたはWi-Fiで接続してください。

メモ: Wi-Fiでの接続方法は、お使いの機器の取扱説明書、または「機器をWi-Fi接続するには」(P.33)を参照してください。

Wi-Fiでの通信が遅い

原因1　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、Wi-Fiによる通信が不安定になり、通信速度が低下する場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品のWi-Fiチャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因2　2.4 GHzの帯域が「573Mbps（20MHz）」になっている

本製品の2.4 GHz（11ax/n/g/b）の帯域は、出荷時の状態で「573Mbps（20MHz）」に設定されています。
「1147Mbps（40MHz）」に設定することで、Wi-Fiでの通信速度が速くなる場合があります。

メモ:

- 本製品の設定だけでなく、お使いの機器の設定も必要になる場合があります。
- 2.4 GHz帯を使用する機器が周囲に多くあり、電波環境が悪い場合は、設定を変更しても通信速度が向上しないことがあります。

IPv6サービスのサービスを受けられない

IPv6サービスなど、プロバイダーが提供している一部のサービスを受けるには、本製品で「IPv6ブリッジ」を設定する必要があります。以下の手順で設定してください。

メモ:

- IPv6ブリッジを使用すると、インターネット側から本製品に接続している機器にアクセスできる場合があります。本製品に接続している機器のセキュリティー設定を確認した上でご使用ください。
- IPv6サービスのセキュリティーについては、ご契約の回線事業者へお問い合わせください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 [詳細設定] – [Internet] – [IPv6]をクリックします。

3 IPv6接続方法で「IPv6ブリッジを使用する」を選択し、[設定]をクリックします。

以上で完了です。

設定を出荷時の状態に戻したい

本製品の設定を出荷時の状態に戻したい場合は、下記の手順を行ってください。

1 本製品の電源を入れた状態で、本製品左側面のRESETボタンをPOWERランプが白色に点滅するまで（約3秒間）、先の細いもの（つまようじなど）で長押しします。

2 本製品が再起動します。

3 本製品の再起動が完了すると、POWERランプが白色に点灯します。

以上で、設定の初期化は完了です。

USBドライブにアクセスできないときは

「USBドライブのアクセス制限設定」(P.101)を参照して、お使いの機器がアクセス制限されていないかを確認してください。

本製品に接続したUSBドライブにアクセスできないときは、以下の手順で設定を確認してください。

原因1:USBドライブが割り当てられていない

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」−「アプリケーション」−「ディスク管理」をクリックします。

3 ディスク番号が自動的に割り当てられることを確認します。



メモ:

- 「USBディスクの自動割当」の「使用する」にチェックが入っていない場合は、手動でディスク番号を割り当てます。
- フォーマットがFAT12/FAT16/FAT32/XFS以外の場合は、FAT12/FAT16/FAT32/XFSへのフォーマットが必要です(フォーマットを行うとデータは消去されます)。

原因2:アクセス制限が設定されている

「USBドライブのアクセス制限設定」(P.101)を参照して、お使いの機器がアクセス制限されていないかを確認してください。

6 GHzのSSIDに接続できない

6 GHzのSSIDに接続するためには機器も6 GHzに対応している必要があります。お使いの機器が6 GHzに対応しているか確認してください。

メモ: 6 GHzのSSIDが見つからない6 GHzのSSIDに接続ができないなど、設定ができないときは、https://86886.jp/faq_wifi6e/ を参照してください。

付録

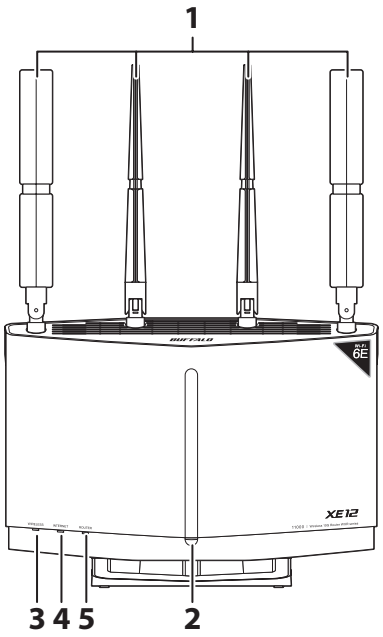
製品仕様

無線LAN(Wi-Fi)インターフェース	
準拠規格(最大転送速度)	**6 GHz:** IEEE802.11ax:4803Mbps(160MHz 4x4) IEEE802.11a:54Mbps **5 GHz:** IEEE 802.11ax:4803Mbps(160MHz 4x4) IEEE 802.11ac:3466Mbps(160MHz 4x4) IEEE 802.11n:600Mbps(40MHz 4x4) IEEE 802.11a:54Mbps **2.4 GHz:** IEEE 802.11ax:1147Mbps(40MHz 4x4) IEEE 802.11n:600Mbps(40MHz 4x4) IEEE 802.11g:54Mbps IEEE 802.11b:11Mbps 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多元変調(MIMO-OFDMA)方式 多入力多出力直交周波数分割多重変調(MIMO-OFDM)方式 直交周波数分割多重変調(OFDM)方式 直接拡散型スペクトラム拡散(DS-SS)方式 単信(半二重)
周波数範囲(中心周波数)	**6 GHz:** 191/195/199/203/207/211/215/219/223/227/231/235/239/243/247/251/255/259/263/267/271/275/279/283チャンネル(5955MHz～6415MHz) **5 GHz:** W52　36/40/44/48チャンネル(5180～5240MHz) W53　52/56/60/64チャンネル(5260～5320MHz) W56　100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144チャンネル(5500～5720MHz) **2.4 GHz:** 1～13チャンネル(2412～2472MHz) 本製品と同一の周波数帯を使用する機器がある場合、電波干渉により通信速度が遅くなるなどの障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード、中継機能

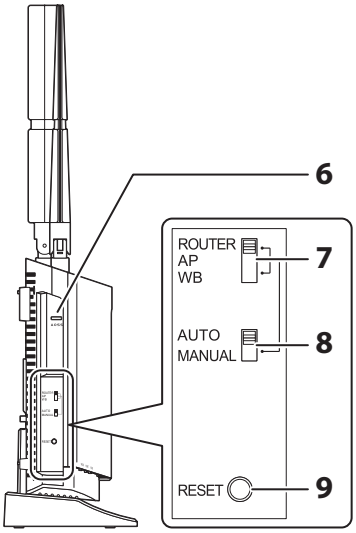
セキュリティー	WPA3 Personal、WPA2 Personal、WPA3/WPA2 Personal、WPA2/WPA Personal、WEP（128bit/64bit）、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否/SSIDステルス、MACアクセス制限
有線LANインターフェース	
準拠規格	**LAN1、INTERNET：** IEEE 802.3an（10GBASE-T）/IEEE 802.3bz（2.5GBASE-T、5GBASE-T）/IEEE 802.3ab（1000BASE-T）/IEEE 802.3u（100BASE-TX） **LAN2～LAN4：** IEEE 802.3ab（1000BASE-T）/IEEE 802.3u（100BASE-TX）/IEEE 802.3（10BASE-T）
データ転送速度	**LAN1、INTERNET：** 10Gbps、5Gbps、2.5Gbps、1000Mbps、100Mbps（自動認識） **LAN2～LAN4：** 1000Mbps、100Mbps、10Mbps（自動認識） 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
データ伝送モード	全二重
伝送路符号化方式	DSQ128（10GBASE-T）、PAM16（2.5GBASE-T、5GBASE-T）、8B1Q4/PAM5（1000BASE-T）、4B5B/MLT-3（100BASE-TX）、マンチェスターコーディング（10BASE-T）
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	**LAN1、INTERNET：** 10GBASE-T/5GBASE-T/2.5GBASE-T/1000BASE-T/100BASE-TX兼用端子（AUTO-MDIX） **LAN2～LAN4：** 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 兼用端子（AUTO-MDIX）
USBインターフェース	
準拠規格	USB 3.2 Gen 1
端子	USB Type-A×1
その他	
電源	AC 100V 50/60Hz
消費電力	43.0W（最大）
外形寸法	300（W）×195（H）×75（D）mm（アンテナおよび突起部除く）
質量	約1515g（本体のみ）
動作環境	0～40°C、10～85%（結露しないこと） 本製品は屋内使用に限ります。

各部の名称とはたらき

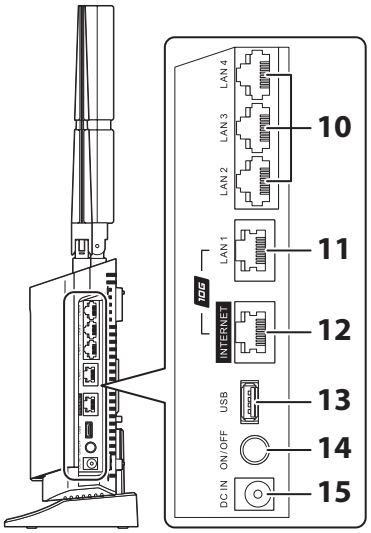
前面



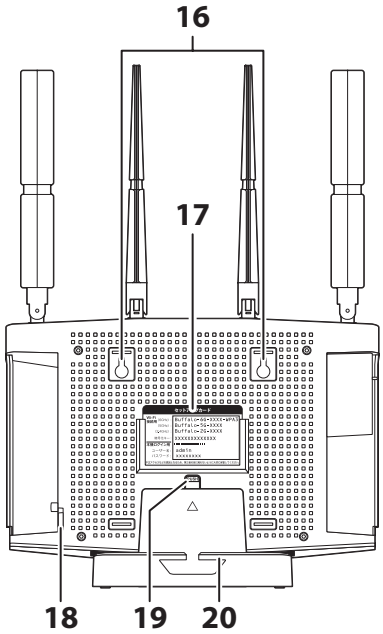
左側面



右側面



背面



1 アンテナ

アンテナの向きにより、電波の飛ぶ方向を調整できます。
詳細は、別紙の「アンテナ設定ガイド」を参照してください。

2 POWERランプ

点灯（白）	電源がONの状態、通常状態
点滅（白）	システムを起動中または終了中
点滅（白と橙の繰り返し）	ファームウェア更新中
消灯	電源がOFFの状態

点滅(橙)	エラー発生時

メモ:

- エラー発生時は、本製品の電源を入れ直してください。再びランプが同じように橙色に点滅している場合や、すべてのランプが橙色に点灯している場合は、当社サポートセンターにお問い合わせください(製品添付の 1 セットアップガイド参照)。
- 本製品の設定画面「詳細設定」−「アプリケーション」−「スケジュール」−「ユーザー定義モード」でランプを「オフ」に設定しても、POWERランプは消灯しません(点灯したままとなります)。

3 WIRELESSランプ

・ルーターモード時/アクセスポイントモード時

点灯(白)	Wi-Fi動作時/Wi-Fi通信時
2回点滅(白)	AOSS/WPS待ち受け時
高速点滅(白:0.1秒間隔)	AOSS/WPS失敗時
2回ずつ点滅(橙)	無線引っ越し待ち受け状態
点灯(橙)	無線引っ越し失敗時
消灯	Wi-Fi無効時

・中継機モード時

点灯(白)	Wi-Fiルーターまたはメッシュネットワークと接続時
点灯(橙)	Wi-Fiルーターまたはメッシュネットワークと接続が未設定
2回点滅(白)	WPS待ち受け時
高速点滅(白:0.1秒間隔)	WPS失敗時
高速点滅(橙:0.1秒間隔)	有線接続でメッシュネットワークとの接続設定に失敗時
点滅(白と橙の繰り返し)	メッシュネットワークとの接続設定が完了後に、メッシュネットワークに未接続時
点滅(橙)	Wi-Fiルーターとの接続設定が完了後に、Wi-Fiルーターに未接続時

4 INTERNETランプ

インターネット通信状態を表示します。

点灯(白)	インターネット通信が可能な状態
2回ずつ点滅(白)	無線引っ越し待ち受け状態
消灯	インターネット未接続

5 ROUTERランプ

点灯(白)	ルーターモードで動作時
消灯	アクセスポイントモード、中継機モードで動作時
2回ずつ点滅(橙)	無線引っ越し待ち受け状態
点灯(橙)	無線引っ越し失敗時

6 AOSSボタン

本製品の電源を入れた状態で、WIRELESSランプが白色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態、および中継機の接続待ち受け状態になります。
約10秒間長押しすると、無線引っ越し待ち受け状態になります(製品添付の 1 セットアップガイド参照)。

7 ROUTER/AP/WBスイッチ

AUTO/MANUALスイッチを「**MANUAL**」にすると、本製品のモードを指定できます。

ROUTER	本製品をルーターモードとして使用します。同じネットワーク内にルーターが無いときに指定します。
AP	本製品をアクセスポイントモードとして使用します。同じネットワークにすでにルーターがあるときに指定します。
WB	本製品を中継機モードとして使用します。EasyMeshでメッシュネットワークを構築する場合は、本製品をエージェントとして別のWi-Fiルーター(コントローラ)に接続して、電波の範囲を広げる時に指定します。メッシュネットワークを構築しない場合は、本製品を中継機として別のWi-Fiルーター(親機)に接続して、電波の範囲を広げる時に指定します。

8 AUTO/MANUALスイッチ

AUTO	自動でルーターモード、またはアクセスポイントモードに本製品を設定します。
MANUAL	ROUTER/AP/WBスイッチで、本製品のモードを指定する場合、「MANUAL」にします。

9 RESETボタン

本製品の電源を入れた状態で、POWERランプが白色に点滅するまで(約3秒間)ボタンを先の細いもの(つまようじなど)で長押しすると、本製品が出荷時設定に戻ります。

10 LAN端子(LAN2～LAN4:1000BASE-T対応)

パソコンやハブなどを接続します。

11 LAN端子(LAN1:10GBASE-T対応)

高速通信を必要とするパソコンやハブなどを接続します。

12 INTERNET端子(10GBASE-T対応)

プロバイダーから提供された機器(光回線終端装置やモデムなど)を接続します。

13 USB端子(USB 3.2 Gen1対応)

セルフパワー(コンセントからの電源供給)に対応したUSBドライブなどを接続します。

メモ: 工場出荷時はUSB 2.0として動作します。設定画面で動作を切り替えることができます。

14 電源ボタン

本製品の電源のON/OFFを行うボタンです。電源をOFFにしたときは、内部処理を行うため、実際に電源が切れるまで数十秒程度かかります。

15 DC端子

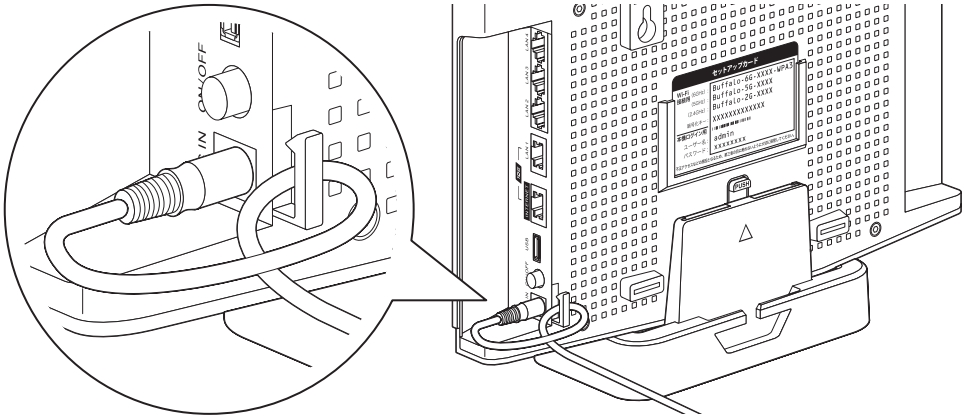
付属のACアダプターを接続します。

16 壁掛けホール

17 セットアップカード

18 ACアダプター用フック

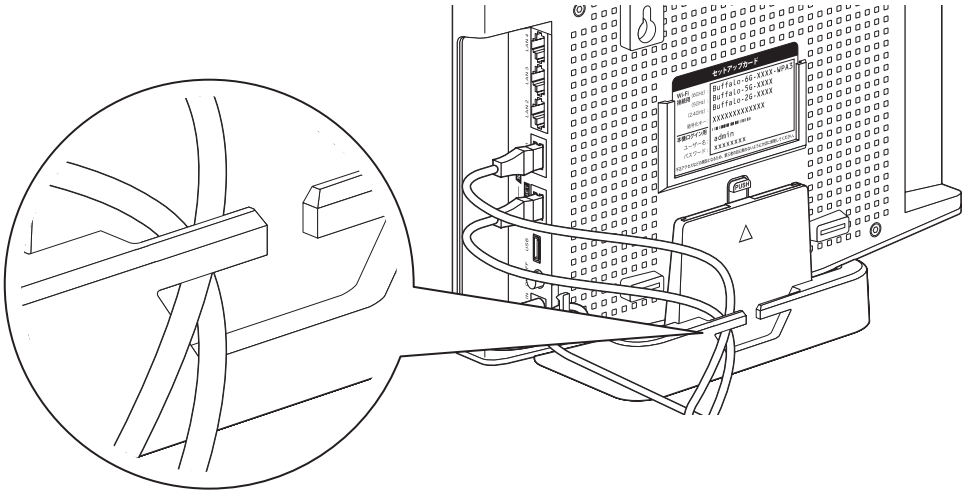
ACアダプターのケーブルが抜けないよう、下図のようにケーブルをフックに引っ掛けて配線します。



19 スタンド取り外しボタン

20 ケーブルフック

LANケーブルが抜けないよう、下図のようにフックに引っかけて配線します。
固く曲げにくいケーブルは、このフックを使用しないでください。無理にケーブルを曲げると断線したり通信不良の原因になります。



初期設定一覧

機能	設定項目	出荷時設定
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う インターネット回線の変更時に自動で切り替える
	デフォルトゲートウェイ	−
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	−
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	デフォルトの接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
DDNS	ダイナミックDNS機能	使用しない
VPNサーバー	VPNサーバー機能	使用しない
	サーバーIPアドレス	自動設定
	クライアントIPアドレス	自動設定
	DNSサーバーのIPアドレス	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーのIPアドレス	未設定
	MTU/MRU値	1362
	VPN接続ユーザー	未設定
アドレス変換	アドレス変換	使用する
IPv6	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
LAN(ルーターモード時)	LAN側IPアドレス	IPアドレス： 192.168.11.1 サブネットマスク： 255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
LAN(アクセスポイントモード時/中継機モード時)	LAN側IPアドレス	DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得(DHCPサーバーがない場合、192.168.11.100)
	デフォルトゲートウェイ	−
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	−
DHCPリース	リース情報	未設定
経路情報	経路情報	−

機能	設定項目	出荷時設定
2.4 GHz(11ax/n/g/b) 5 GHz(11ax/ac/n/a) 6 GHz(11ax)	**基本設定**	
	無線機能	使用する
	無線チャンネル	自動
	干渉波自動回避 (6 GHzでは非対応です)	強い干渉を受けた時のみ回避する
	倍速モード	2.4 GHz:573Mbps(20MHz)、拡張チャンネルは自動設定 5 GHz:4803Mbps(160MHz) 6 GHz:4803Mbps(160MHz)
	ANY接続	許可する
	SSID 1	
	SSID 1	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	2.4 GHz、5 GHz:WPA2 Personal 6 GHz:WPA3 Personal
	無線の暗号化	2.4 GHz、5 GHz、6 GHz:AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	本体ラベル・製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 2　※6 GHz(11ax)では表示されません。	
	SSID 2	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA3 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	本体ラベル・製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 3　※6 GHz(11ax)では表示されません。	
	SSID 3	使用しない
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	WEP暗号化キー設定	未設定

機能	設定項目	出荷時設定
2.4 GHz(11ax/n/g/b) 5 GHz(11ax/ac/n/a) 6 GHz(11ax)	**拡張設定**	
	Multicast Rate	2.4 GHz： 1Mbps 5 GHz： 6Mbps 6 GHz： 6Mbps
	802.11nプロテクション (6 GHzでは非対応です)	使用しない
	DTIM Period	1
	プライバシーセパレーター	使用しない
	送信出力	100%
	ビームフォーミングEX (6 GHzでは非対応です)	使用する
	802.11ax MU-MIMO	使用する
バンドステアリング	バンドステアリング機能	使用しない
	ステアリング設定	混雑していない帯域を利用する
	2.4 GHz/5 GHz/6 GHz共通SSID	使用しない
	表示範囲	5分間
EasyMesh	EasyMesh機能	使用する
	高速ローミング(11r)	使用しない
	Backhaul SSID	設定しない
EasyMesh/中継機能(WB)	高速ローミング(11r)	設定しない
	6 GHz SSID･事前共有キー自動作成	使用する
	6GHz/5GHz/2.4GHz選択	自動
	Wi-Fiルーター設定	接続時に中継機能の設定で動作する
WPS	WPS機能	使用する
	外部Registrar	要求を受け付ける
	エアステーションPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み
	EnrolleeのPINコード	空欄
	WPS用無線セキュリティー設定	WPSステータス： configured セキュリティー： WPA2 Personal AES SSID/暗号鍵： 本体ラベル･製品付属のセットアップカードに記載の値
AOSS	AOSS状態	AOSS 無効
	WEPをゲーム専用にする	使用しない
	本体側AOSSボタン	使用する
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない
	登録リスト	未登録
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する
	マルチキャストAging Time	300秒

機能	設定項目	出荷時設定
ゲストポート	ゲストポート機能	使用しない
	ゲストユーザー認証機能	使用しない
	ゲストポート用LAN側IPアドレス	自動設定
	利用可能時間	3時間
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	認証を行わない
	無線の暗号化	暗号化なし
	ゲストユーザー	未登録
無線引っ越し機能	無線引っ越し状態	未実施
セキュリティー基本設定 コンテンツフィルターPlus	悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック	使用する
	コンテンツフィルターPlus	使用する
キッズタイマー	キッズタイマー	使用しない
ファイアウォール	ファイアウォール設定-IPv4	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する　無効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　有効
	ファイアウォール設定-IPv6	Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する　有効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　無効 Internet側からの接続要求を転送しない　有効
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定
IPv6フィルター	IPv6フィルター登録情報	未設定
パススルー	PPPoEパススルー機能	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP機能	使用する
ディスク管理	USB動作モード	USB 2.0で動作させる
	USBディスクの自動割当	使用する
	拡張機能	表示しない
	FATフォーマット　ファイル名文字コード	日本語 ShiftJIS(CP932)
	HDD節電機能	使用しない
	ユーザー情報	未登録

機能	設定項目	出荷時設定
共有サービス	共有フォルダー機能	使用する
	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	エアステーション説明	未設定
	ワークグループ名	WORKGROUP
	Windowsクライアント言語	日本語 Shift JIS (CP932)
アドバンスドQoS	アドバンスドQoS機能	使用しない
	おもな用途	4K・8Kビデオの視聴
	手動設定	ビデオ:　優先度 1(高) 会議:　優先度 2(高) ゲーム:　優先度 3(中) オーディオ:　優先度 4(中) ブラウジング:　優先度 5(低) ダウンロード:　優先度 6(低)
	ユーザー設定	未登録
スケジュール	省電力	使用しない
	ランプ	オフ
	有線LAN	エコ(低速動作)
	無線LAN	オフ
	週間スケジュール	未登録
	動作モード	通常動作
	開始時間	0:00
	終了時間	0:30
	曜日	未登録
システム設定	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin(変更することはできません)
	管理パスワード	本体ラベル・製品付属のセットアップカードに記載の値
	無線LANからの設定を禁止する	無効
	有線LANからの設定を禁止する	無効
	Internet側リモートアクセス設定を許可する	無効
	デバイスに対しポートスキャンを実行する	無効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間毎

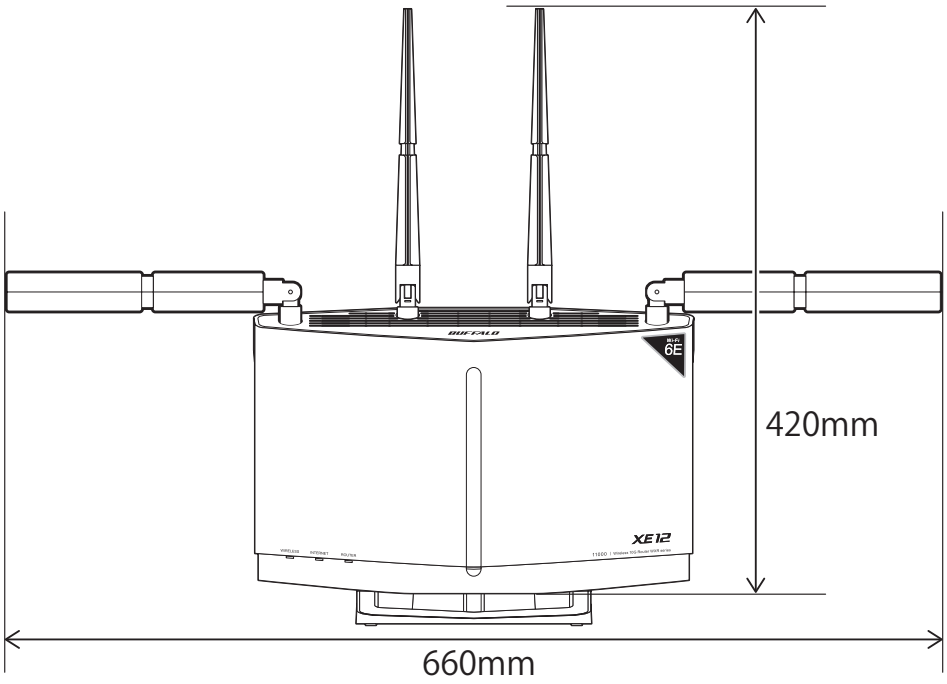
機能	設定項目	出荷時設定
ログ	**ログ情報転送機能**	使用しない
	syslogサーバー	未設定
	USBストレージへのログ保存機能	使用しない
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルター、ファイアウォール、PPPoEクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク、USB、システム
	詳細なログ取得	取得しない
ファームウェア更新	**更新方法**	ローカルファイル指定
	ファームウェア自動更新機能	重要な更新のみ行う
	更新時刻	毎日4:00～4:59

壁面への取り付けについて

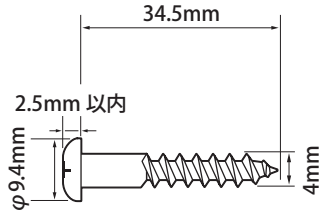
市販のねじを使用すると、本製品を壁面へ取り付けできます。
壁面への取り付け手順は、以下を参照してください。

取り付け時のご注意

- 本製品添付の 1 セットアップガイドに記載の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」に従って設置してください。
- 取り付けは確実に行ってください。不十分な場合、落下などにより事故が発生する恐れがあります。
- 壁面の強度が十分であるかをあらかじめ確認して設置してください。
  ベニヤ板などの柔らかい壁には設置しないでください。
- 取り付け場所には最大で以下のスペースが必要です。

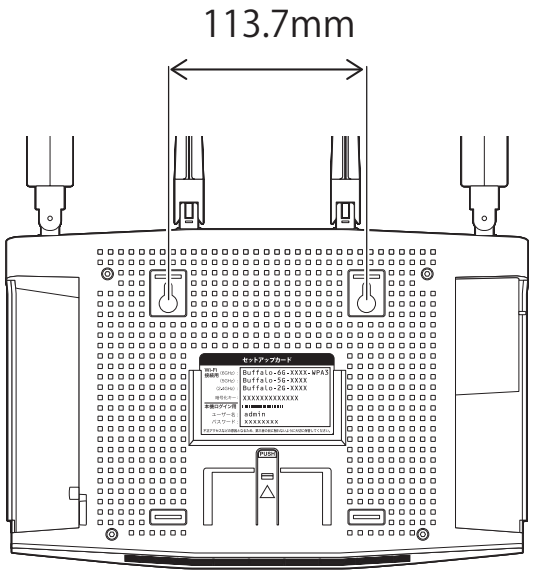


- ねじは、以下に示した仕様の丸頭木ねじ(丸木ねじ)を目安にして、壁の材質などに応じて調整してください(丸頭木ねじの代わりにタッピンねじを使用することもできますが、本製品に傷がつく恐れがあります)。

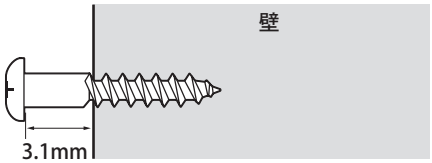


取り付け方

1 **水平に113.7mmの間隔で、壁の2箇所にねじを留めます。**

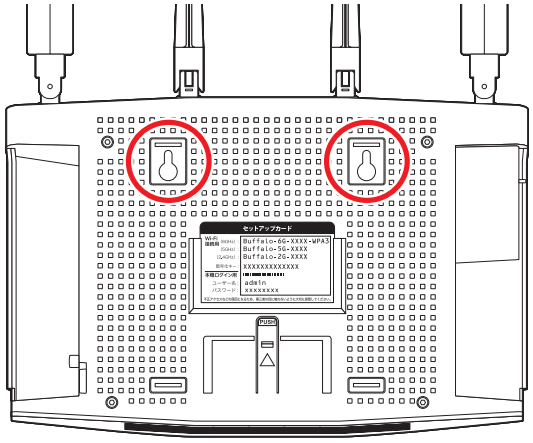


2 **ねじ頭が壁から3.1mm飛び出した状態にしておきます。**



メモ: 上記は目安です。壁の材質などに応じて調整してください。

3 **本製品背面の壁掛けホールにねじを掛けて固定します。**



メモ: 同じ場所に長時間設置した場合、壁紙などが変色(色あせ)することがあります。

以上で完了です。

参考情報　パソコンのIPアドレスを一時的に固定する

以下は、本製品を中継機として使用する設定を行うために、パソコンのIPアドレスを一時的に固定する設定手順です。
本製品の設定完了後、パソコンのIPアドレスを元の設定に戻す際は、各手順で控えたメモを参照してください。

Windows 11の場合の設定

1 タスクバー上のWindowsロゴ（スタート）をクリックして表示される画面から、[すべてのアプリ] – [Windowsツール] – [コントロールパネル]を選択します。

2 「ネットワークの状態とタスクの表示」–「アダプター設定の変更」をクリックします。

3 Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 現在の設定内容をメモしてください（本製品の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります）。

6 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

7 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 10の場合の設定

1 タスクバー上のWindowsロゴ（スタート）をクリックして表示されるメニューから、[Windowsシステムツール] – [コントロールパネル]を選択します。

2 「ネットワークの状態とタスクの表示」–「アダプター設定の変更」をクリックします。

3 Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 現在の設定内容をメモしてください（本製品の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります）。

6 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

7 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Macの場合の設定

1 システム環境設定を表示します。

2 ネットワークをクリックします。

3 Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「Ethernet」を選択します。

4 IPv4の設定で「手入力」を選択します。

「Wi-Fi」を選択した場合は[詳細...]をクリックし、「TCP/IP」を選択します。

5 現在の設定内容をメモしてください（本製品の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります）。

6 以下のように設定して、[適用]をクリックします。

- IPアドレスまたはIPv4アドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- ルーターは空欄

以上で設定は完了です。

電波に関する注意

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解/改造すること
  - 本製品に貼ってある証明ラベルをはがすこと
- 電波法により、W52、W53、および6 GHzは屋外利用禁止です(法令により許可された場合を除く)。
- 本製品は、次の場所で使用しないでください。
  電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4 GHz付近の電波を使用しているものの近く(環境により電波が届かない場合があります。)
- 本製品の使用するWi-Fiチャンネル(2.4 GHz帯の1～13チャンネル)は、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の無線局

    (1) 構内無線局(免許を要する無線局)

    (2) 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)
- 本製品を使用する際は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
  - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
  - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4 GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

- 「新4K8K 衛星放送」と本製品は、相互に電波干渉を引き起こすことがあります。
  シールド性能の高い衛星放送用受信設備を使用してください。
  詳しくは、総務省のホームページ「4K 放送・8K 放送　情報サイト」(https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/housou_suishin/4k8k_suishin/radio-frequency-interference.html)を参照してください。

Wi-Fi(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意

Wi-Fi(無線LAN)では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどとWi-Fiアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される
- 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。
本来、Wi-Fi製品は、セキュリティーに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人　電子情報技術産業協会(JEITA)
「無線LANのセキュリティに関する注意事項」より

本製品は、工場出荷時にWi-Fi通信を暗号化するための暗号化キーを設定済みのため、通常はこのままご利用いただけます。
本製品の設定画面より下記の設定を有効にすると、より強固なセキュリティーを設定できます。本製品の用途にあわせてご利用ください。

- 「インターネットに接続する機器を脅威から守る(ネット脅威ブロッカー2)」(P.50)
- 「来訪者向けWi-Fi設定を行う(ゲストポート設定)」(P.65)
- 「ほかの機器から本製品を検索できなくする(ANY接続拒否設定)」(P.75)
- 「アクセスできる機器を制限する(MACアクセス制限)」(P.76)
- 「機器同士のWi-Fi通信を禁止する(プライバシーセパレーター)」(P.79)

免責事項

- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、当社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計・製造されています。日本国外での使用における故障・不具合についての責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に契約の不適合があった場合、無償にて当該契約不適合を修補し、または契約不適合のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該契約不適合に基づく損害賠償の責に任じません。
- 本書に記載された責任は、日本国内においてのみ有効です。

商標・登録商標

AirStation™、AOSS™は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では一部を除き、™、Ⓡ、Ⓒなどのマークは記載していません。